

更新日時	2026/03/31 15:21:01
年度	2026
講義コード	62200001
講義名称	研究と倫理
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	集中講義
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 杉原 俊二	社会福祉学科

履修における注意	博士前期課程1年次で履修することが望ましい。
ディプロマ・ポリシーとの関連性	共通DP3を修得するために特に重要な科目。共通DP1,2を修得するために重要な科目。
授業の概要	研究倫理とは何かから始まり、自らの研究のための研究倫理を学ぶ。さらに、科学史の中から様々な研究倫理の問題を事例を通して学ぶ。それらによって、自分の研究計画書を書けるだけでなく、他者の研究計画（書）も研究倫理上の評価ができるようにする。
達成目標（達成水準）	（1）調査研究のための研究倫理を理解して、正しい研究計画を立てることができる（必須）。 （2）研究倫理上問題がないような研究方法を建てるように、自分が指導する学生に説明できる。 （3）自分の領域だけでなく、様々な領域での研究倫理について説明できる。 （4）他者の研究計画書を研究倫理上評価できる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	オリエンテーション：研究倫理とは何か	杉原俊二
第2回	責任ある研究活動とは	杉原俊二
第3回	研究計画を立てる	杉原俊二
第4回	研究を進める	杉原俊二
第5回	研究成果を発表する	杉原俊二
第6回	研究費を適切に使用する	杉原俊二
第7回	科学研究の質の向上に寄与するために	杉原俊二
第8回	再び研究倫理を考える	杉原俊二

成績評価（基準と方法）	授業の参加・態度（40%） 試験orレポート（60%）
教科書・参考書	事前に指定します。
授業外学習課題	1～15 事前に指定されているテキスト・プリントを読んで受講すること。また、自分の受講後に自分の考えをまとめて、リアクションペーパーにまとめること。
オフィスアワー	授業直後の1時間。後は学部学生と同じ（前期開始後に公表）。
備考	関連するSDGs：1・5。

更新日時	2026/04/04 18:24:05
年度	2026
講義コード	62200003
講義名称	心理学特論
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	講義
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 杉原 俊二	社会福祉学科

授業の概要	ウェルビーイングについて心理学の研究論文でどう説明されているかを学ぶ。また、自らの幸福感について考え、それを他者に説明することを学ぶ。さらに、自分や他人の自分史を書くことをおこなう。それらを通して、人々の幸福とは何かを考える。
達成目標 (達成水準)	(1) ウェルビーイングについて心理学でどう言っているかについて説明できる。 (2) 自らの幸福感について考え、それを他者に説明できる。 (3) 自分史を書くことが出来る。あるいは1人以上の自分史を聞き文章化できる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	はじめに：オリエンテーション	授業開始前にテキスト・文献を示す。
第2回	ウェルビーイングと心理学①	授業開始前にテキスト・文献を示す。
第3回	ウェルビーイングと心理学②	授業開始前にテキスト・文献を示す。
第4回	ウェルビーイングと心理学③	授業開始前にテキスト・文献を示す。
第5回	自分史分析研究① 人に話していない自分史を書く	授業開始前にテキスト・文献を示す。
第6回	自分史分析研究② 幸せについて語ってもらう	授業開始前にテキスト・文献を示す。
第7回	自分史分析研究③ レジリエンスの発揮	授業開始前にテキスト・文献を示す。
第8回	おわりに	授業開始前にテキスト・文献を示す。

成績評価（基準と方法）	(1) 出席 (40%)。 (2) 授業態度 (20%)。 (3) 試験（もしくはレポート） (40%)
教科書・参考書	授業前に適宜指示をする。
授業外学習課題	(1) 授業前のレポート提出（これまでの心理学的な知識の整理をおこなう）。 (2) 2～7回、指定された文献をあらかじめ読んでおく。 (3) 授業アンケートへの記入。授業内容の振り返りをおこなう。
オフィスアワー	4月に通知。あらかじめメールで予約を取るように。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200004
講義名称	ウェルビーイング スタディ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ ヨース・ジョエル	文化学科

履修における注意点	英語を使うことがあります。
授業の概要	ウェルビーイングについて、広く世界の研究者と議論することで、ウェルビーイングの現在地を考える。オンラインを中心に、海外にある本学の交流校の教員とのディスカッションを行う。本学でなければ学ぶことができない科目。使用言語は、日本語を主とする。英語の資料を読んだり英語で交流をすることがあるが、通訳などコミュニケーションが成立するための工夫は行う。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>ウェルビーイングについて、自分の地域と国の特性を意識し、国際的な視点を得る</li><li>ウェルビーイングについて、議論を通して知識を深め、あらたな知見に触れる</li><li>ウェルビーイングについて、日本と外国との理解の共通点、相違点について把握し、新たな課題を模索する</li></ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	授業の概要と目標
第2回	ウェルビーイングと国際的な視点—資料講読と基礎考察（1）
第3回	ウェルビーイングと国際的な視点—資料講読と基礎考察（2）
第4回	ウェルビーイングと国際的な視点—資料講読と基礎考察（3）
第5回	ウェルビーイングと国際的な視点—資料講読と基礎考察（4）
第6回	ウェルビーイングと国際的な視点—オンラインワークショップ—ディスカッション（1）
第7回	ウェルビーイングと国際的な視点—オンラインワークショップ—ディスカッション（2）
第8回	ウェルビーイングと国際的な視点—オンラインワークショップ—ディスカッション（3）
第9回	ウェルビーイングと国際的な視点—オンラインワークショップ—ディスカッション（4）
第10回	ウェルビーイングと国際的な視点—オンラインワークショップ—ディスカッション（5）
第11回	ウェルビーイングと国際的な視点—新たな視点の模索（ワークショップの成果：検討、議論）（1）
第12回	ウェルビーイングと国際的な視点—新たな視点の模索（ワークショップの成果：検討、議論）（2）
第13回	ウェルビーイングと国際的な視点—新たな視点の模索（ワークショップの成果：検討、議論）（3）
第14回	ウェルビーイングと国際的な視点—新たな視点の模索（ワークショップの成果：検討、議論）（4）
第15回	ウェルビーイングと国際的な視点—新たな視点の模索（ワークショップの成果：検討、議論）（5）

成績評価（基準と方法）	1 国際的な視点について認識することが出来る、資料と考察（30%） 2 ワークショップ、ディスカッション参加（30%） 3 ワークショップの成果を検討→レポート（40%）
教科書・参考書	適宜プリントを配布する
授業外学習課題	各回、指定された資料を予習、準備
オフィスアワー	水曜日、13～14時（要予約）

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200006
講義名称	臨床倫理
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 有田 直子	看護学科

履修における注意点	現在の講義内容の予定は、R8.4.1.現在です。 履修希望の状況により、第1回前までに改めて提示いたします。
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2,4を修得するために重要な科目
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理に関する原則的な理論を学び、実践における倫理課題について理解する。</li> <li>2. 倫理に関する理論や概念を基に、実践において遭遇する倫理的問題や葛藤について、関係者それぞれの立場から検討し、倫理的感受性を高めると共に、解決における看護者の役割を探究する。</li> <li>3. 看護研究における倫理的課題について学び、倫理的配慮が行える。</li> <li>4. 実践における倫理的諸問題、関係者と協力して解決する方略について、看護の視点から探究する。</li> </ol>
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理に関する基本的な知識、臨床倫理のコアとなる知識を習得する。</li> <li>2. 実践において遭遇する倫理的問題や葛藤に気づき、看護の視点で分析することを通して、関係者と協力して解決する方略が立案できる。</li> <li>3. 実践や研究等、看護のあらゆる場面において倫理的判断を行い、判断に基づいた態度と行動をとることができる。</li> </ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	Introduction 倫理的判断に必要な知識と倫理的課題の考え方
第2回	医療・保健・教育現場における倫理的ジレンマと対応方法
第3回	医療・保健・教育現場における倫理的ジレンマと対応方法
第4回	組織・社会における倫理的課題への取り組み
第5回	組織・社会における倫理的課題への取り組み
第6回	研究をめぐる倫理的課題への取り組み
第7回	研究をめぐる倫理的課題への取り組み

成績評価（基準と方法）	クラス討議への参加度および貢献度(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)などによって総合的に評価する。
	①サラフライ著；片田範子・山本あい子 訳：看護実践の倫理 第2版，日本看護協会出版,2006 ②アンダービス他編；看護倫理を教える・学ぶ倫理教育の視

<b>教科書・参考書</b>	<p>点と方法, 日本看護協会出版会, 2008 ③ジョイス・E. トンプソン、ヘンリー・O. トンプソン著：看護倫理のための意思決定10のステップ, 日本看護協会出版, 2004 ④Albert R.Jonsen 他著；赤林朗他監訳：臨床倫理学 第5版 臨床医学における倫理的意志決定のための実践的なアプローチ, 新興医学出版社, 2006 ⑤石井トク・野口恭子編著：看護倫理の資料集 第2版, 丸善株式会社, 2007 ⑥勝原裕美子ほか：焦点 看護研究における倫理を再考する, 看護研究, 40(5), 2-60, 2007 ⑦日本看護協会「看護研究における倫理指針」⑧尾藤誠司, 福原俊一：いざ、倫理審査委員会へ, NPO法人健康医療評価研究機構, 2008 ⑨日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会：科学の健全な発展のために 誠実な科学者の心得, 丸善出版, 2015.</p> <p>その他、講義の中で資料の配布および文献の紹介などを適宜行う。</p>
<b>授業外学習課題</b>	<p>第2・3回 事前に各自が実践現場で直面した対人的な関わりに関する倫理的課題についてまとめ、講義前日までに受講生・教員に共有しておく</p> <p>第4・5回 事前に各自が実践現場で直面した組織、制度、教育、等の観点から、感じた課題を倫理的に分析し、講義前日までに受講生・教員に共有しておく</p> <p>第6・7回 事前に各自の研究課題・対象・方法論に対して、行うべき倫理的配慮についてまとめ、講義前日までに受講生・教員に共有しておく</p>
<b>オフィスアワー</b>	<p>原則として講義後、適宜時間調整を行う</p>

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200007
講義名称	グローバルヘルス論
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 木下 真里	看護学科
ンガツランドゥ ロジャー	非常勤講師

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4,6を修得するために重要な科目。
授業の概要	健康課題の背景にあるグローバル化について、異なる背景をもつ2名の講師が、それぞれの経験の中で得た豊富な資料を用いて学習し、参加者と様々な視点から議論することで学びをふかめる。
達成目標（達成水準）	1) 現在に至るグローバルヘルスアジェンダの変遷と、それに対する様々な組織・専門職の取組みについて知る。 2) 健康に関する身近な事象と、社会・経済、教育や文化のグローバル化との関連について、根拠に基づいて論じることができる。 3) グローバルヘルスにおける自らの役割について意見を述べるができる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	オリエンテーション グローバルヘルス概論	木下
第2回	原因としての格差と結果としての格差	木下
第3回		外部講師
第4回		外部講師
第5回		外部講師
第6回	ディスカッション（1）身近な健康問題とグローバル化	木下
第7回	ディスカッション（2）世界の健康問題と自らの役割について	木下
第8回	まとめ	木下

成績評価（基準と方法）	授業コミットメント（50%）、レポート（50%）の総合評価とします。
教科書・参考書	資料は別途提示します。
授業外学習課題	最終レポート（詳細は前半授業で提示します）
オフィスアワー	appointment by email

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200008
講義名称	ケア論
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
池添 志乃	看護学科
◎ 内田 雅子	看護学科

履修における注意点	集中講義形式で開講します。
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3,4,5を修得するために重要な科目
授業の概要	ケアは、医療、福祉、教育など多分野で用いられ、多義的な含意をもち、倫理においても重要な意味をもつ。ケアに関する理論的背景やケアをめぐる問題を概観し、健康課題の解決に向けて関連学術分野とアイデアや理論、技術等を共有する。そして、ケアイノベーションを目指して、異分野融合研究によるケアの実現に求められること、多次的なケア開発のために必要なことを探求する。
達成目標（達成水準）	1.ケアの歴史を踏まえ、時代とともに変遷するケアの理論・概念と課題を説明できる。 2.多様な分野のケアサイエンスの現状と倫理的課題を説明できる。 3.自領域及び他領域におけるケアの概念・アプローチの共通点・相違点を説明できる。 4.異分野融合のケア開発に必要な視座とアプローチを説明できる。 5.多次的なケア開発に向けて自領域の課題・試案を説明できる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	コースオリエンテーション、ケアの歴史、ケアの用語法	内田
第2回	異分野融合によるケアの視座・アプローチ①	内田
第3回	ケアの理論・概念と実践的課題	池添
第4回	ケアサイエンスと倫理的課題	池添
第5回	多職種協働・連携におけるケアの概念・アプローチ②	池添
第6回	多職種協働・連携におけるケアの概念・アプローチ①	池添
第7回	異分野融合によるケアの視座・アプローチ②	内田
第8回	多次的なケア開発に向けての自領域の課題・試案（院生プレゼンテーション）	内田

成績評価（基準と方法）	クラス討議、プレゼンテーション、課題レポートにより総合的に評価する。
教科書・参考書	適宜、講義の中で提示する。
授業外学習課題	課題（予習・復習 各クラスの事前課題については、別途、説明する。

オフィスアワー	各教員の学部・研究科の講義時間、及びその前後の休憩時間以外。 上記時間においても、学生面談や会議、実習等に対応できない場合がありますので、メールでアポイントをとられることをお勧めします。
備考	本科目は、人間生活学研究科と看護学研究科の両研究科学生の履修登録がない場合は、開講しません。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200009
講義名称	看護マネジメント論
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 久保田 聡美	看護学科
嶋岡 暢希	看護学科
川上 理子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3,4を修得するために重要な科目
授業の概要	変化の激しい我が国の医療制度の影響を受けるヘルスケアシステムにおいて、看護の質と効率性のバランスを保ちながらヘルスケアサービスや看護サービスを提供していくための基盤となる理論と実践方略を学ぶ。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>国の医療制度の流れを踏まえながら、看護組織をヘルスケアシステム全体の視点から捉え、社会が看護に求めるヘルスケアサービスをミクロ的立場（自分自身が所属する組織の立場等）から創造することの必要性について理由を述べる。その際、マクロとミクロの視点の繋がりを関連付けることができる。</li><li>行動科学に基づく諸理論を活用し、「ヒト・モノ・カネ・情報」を最適化し、成果を上げるためのシステム創りの方略について記述することができる。</li><li>より良い看護サービスを目指して、PDCAのサイクルを回し、質保証していくためのTQMの実践方略を計画することができる。</li></ol>

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	イントロダクション、集団を理解し、集団・組織を動かす：同調行動、規範、組織文化（講義、ディスカッション）	久保田他
第2回	集団の成果を導く効果的な意思決定をする：集団の意思決定、ファシリテーション（講義、ディスカッション）	久保田他
第3回	チームを動かす：マネジメントとリーダーシップ、社会的影響力、チームワーク（プレゼン、ディスカッション、講義）	久保田他
第4回	組織の問題を解決する：コンフリクトマネジメント、協調的交渉、アサーション（プレゼン、ディスカッション、講義）	久保田他
第5回	ヘルスケアシステムにおける看護の価値創造：組織分析（講義）	久保田他
第6回	組織を改革する：組織変革（プレゼン、ディスカッション、講義）	
第7回	人的資源管理と組織の活性化、マネジメントの主要な概念（講義、ディスカッション）	久保田他
第8回	キャリア、キャリア発達とキャリア開発、専門職（講義、ディスカッション）	久保田他
第9回	医療の質の評価、サービス、PDCAサイクル（プレゼン、ディスカッション）	久保田他
第10回	ワークエンゲージメント、モチベーション、組織コミットメント（プレゼン、ディスカッション）	久保田他
第11回	多職種連携協働（IPW）における専門性と課題（プレゼン、ディスカッション）	久保田他
第12回	ヘルスケアサービスと看護サービスの組織化：診療報酬の仕組みと展望	久保田他
第13回	ヘルスケアシステムにおける看護サービスの価値創造：地域包括ケアシステムにおける看護サービスの組織化（プレゼン）	久保田他

第14回	ヘルスケアシステムにおける看護の価値創造：組織分析に基づく看護の専門性と展望1（プレゼン、ディスカッション）	久保田他
第15回	ヘルスケアシステムにおける看護の価値創造：組織分析に基づく看護の専門性と展望2（プレゼン、ディスカッション） 医療の質の評価、サービス、PDCAサイクル（プレゼン、ディスカッション）	久保田他

<b>成績評価（基準と方法）</b>	プレゼンテーション、ディスカッションへの取り組みと参加度（目標1～3）100%
<b>教科書・参考書</b>	適宜資料を配布する 参考書 ・久保田聡美他著：うまくいくマネジメントの教科書、照林社、2022 ・小池智子他著：看護サービス管理 第5版、医学書院、2018 ・井部俊子他監：看護管理学習テキスト 第3版、日本看護協会出版会、2024 ・ジョン・コッター他著：ジョンコッターの企業変革ノート、日経BP社、2003
<b>授業外学習課題</b>	1) 看護をマネジメントするとはどういうことか、看護の専門性とは何かについて考察する 2) 看護管理の主要な概念について、定義や実践方法、臨床実践への活用の視点でまとめ、当日にプレゼンテーションを行う 資料は講義の週の指定された日時までに事前に受講者全員に配布し、全員が資料を読んで講義に参加する。
<b>オフィスアワー</b>	事前にメール等で連絡をお願いします。日程調整の上、対応します。
<b>備考</b>	講義回はシラバスと異なる場合があります。 関連するSDGs：8・10

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200010
講義名称	看護理論と実践
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	火曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 池添 志乃	看護学科
青木 早苗	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4,5を修得するために重要な科目
授業の概要	看護現象を説明している理論の基本的な成り立ちや構造、理論を構成する概念について学習し、それぞれの理論や概念の特徴や限界を分析する。また、看護実践を支える哲学に関して概観し、哲学と科学と看護学との関係に関して洞察を深める。その上で、それぞれの理論や概念の実践の中での活用に関して、その現状を分析し、可能性を考察する。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"> <li>看護現象を説明している理論の基本的な成り立ちや構造を学習し、それぞれの理論の特徴や限界を説明できる。</li> <li>看護実践を支える哲学に関して概観し、哲学と科学と看護学との関係に関して洞察を深める。</li> <li>それぞれの理論の実践の中での活用に関して、その現状を分析し、可能性を考察する。</li> </ol>

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	コースオリエンテーション 理論とは	池添・青木
第2回	看護理論	池添
第3回	理論の分析と評価	池添
第4回	理論分析－文献の検討	池添
第5回	理論分析－理論の分析	池添
第6回	理論分析－理論の評価	池添
第7回	理論分析と評価 プレゼンテーション	池添・青木
第8回	看護理論の実践への応用	池添・青木
第9回	概念とは 理論と概念 看護現象と概念	青木
第10回	看護において重要な概念の分析とその方法	青木
第11回	看護において重要な概念の分析－文献の検討	青木
第12回	看護において重要な概念の分析－概念の構成要素などの抽出	青木

第13回	看護において重要な概念の分析－概念分析のまとめ	青木
第14回	概念分析 プレゼンテーション	池添・青木
第15回	概念の実践への応用	池添・青木

<b>成績評価（基準と方法）</b>	理論分析(40%)，概念分析(40%)，講義への参加度・発言内容(20%)
<b>教科書・参考書</b>	講義の中で、資料の配布および重要な文献の紹介を適宜行う。 【参考図書】 L.O.Walker and K.C.Avant著，中木高夫，川崎修一訳：看護における理論構築の方法，医学書院，東京，2008 J.Fawcett著，太田喜久子，筒井真優美監訳：看護理論の分析と評価，医学書院，東京，2008
<b>授業外学習課題</b>	事前課題 第2回3回、9回10回：提示した資料を読んで授業に参加する 個人ワーク 第4回5回6回：選択した理論の理論分析を行う 第11回12回13回：選択した概念の概念分析を行う * 4回から6回、および、11回から13回の期間中に必ず畦地・池添にメールでアポを取り、最低1回コンサルテーションを受ける 講義後課題 第7回14回 プレゼンの内容について復習し、理論、概念の実践への応用について考えてくる
<b>オフィスアワー</b>	適宜、学生と時間調整して対応する。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200011
講義名称	看護学基盤論
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 池添 志乃	看護学科
石川 麻衣	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4,5を修得するために重要な科目
授業の概要	看護現象・健康現象を説明する理論の基本的な成り立ちや構造を学習し、理論－実践－研究の関連性の中で、実践への活用について考察する。また、研究プロセス・研究方法に関する基本的な知識を基盤として、看護現象・健康現象を探求し、看護実践の質を向上させる研究を行う能力を修得する。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護現象を説明している理論の基本的な成り立ちや構造を学習する。</li> <li>2. 理論・概念を学び、実践における活用に関して、現状を分析し、可能性を考察する。</li> <li>3. 研究の過程、研究デザイン、批判的思考について学び、研究を実践する基本的な能力を修得する。</li> <li>4. 質的研究方法、量的研究方法について学び、研究を実践する基本的な能力を修得する。</li> </ol>

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	イントロダクション、理論－実践－研究の関連性と研究のデザイン理論・概念、モデルとは、メタパラダイム、理論と実践	池添
第2回	看護理論の概観	池添
第3回	理論分析、理論評価	池添
第4回	概念、概念分析	石川
第5回	概念分析の実際（プレゼンテーション）（1）	石川
第6回	概念分析の実際（プレゼンテーション）（2）	石川
第7回	理論分析の実際（プレゼンテーション）（1）	池添
第8回	理論分析の実際（プレゼンテーション）（2）	池添
第9回	質的研究：総論	池添
第10回	質的研究：質的研究方法デザイン	池添
第11回	質的研究：質的データ分析	池添
第12回	概念の操作化	石川
第13回	量的研究：総論	石川
第14回	量的研究：量的研究方法デザイン	石川
第15回	量的研究：質問紙の作成、量的研究の評価	石川

成績評価（基準と方法）	課題レポートとプレゼンテーション（80%）、授業中の活動（ディスカッション）への取り組み（20%）により総合的に評価する。
教科書・参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Fawcett,J：小島操子監訳；看護モデルの理解 分析と評価、医学書院</li> <li>2. Fawcett,J：太田喜久子、筒井真優美監訳；看護理論の分析と評価、廣川書店</li> <li>3. Marriner-Tomey：都留信子監訳；看護理論家とその集積、医学書院</li> <li>4. Riehi,J,P&amp;Roy：看護モデル その解説と応用、日本看護協会出版会</li> <li>5. George,B,J：看護理論集；日本看護協会出版会</li> <li>6. ポーリット、D.F.&amp;ハングレー,B.P.：看護研究－原理と方法－、医学書院</li> <li>7. 野嶋佐由美：看護学の概念と理論的基盤、日本看護協会出版会</li> </ol>
授業外学習課題	その他、各クラスの事前課題については、別途、説明する
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200012
講義名称	看護研究と実践
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 畦地 博子	看護学科
高谷 恭子	看護学科
村川 由加理	看護学科

資格・区分等	看護職に関する国家試験受験資格・資格取得に関連する
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4を修得するために重要な科目
授業の概要	看護研究の研究過程、基本的な方法に関する知識を基盤にして、既存の研究を批判的に分析し、実践の場における研究活動を実施していく能力を修得する。研究と実践との関係を理解し、両者の関係を促進していくリーダーシップの役割がとれる能力を修得する。CNSとしての研究能力、臨床看護研究のリーダーシップを育成する
達成目標（達成水準）	①看護研究の研究過程、基本的な分析方法に関する基礎知識を説明することができる。 ②既存の研究を批判的に分析することができる。 ③代表的な研究方法についての研究計画書を作成することができる。 ④研究と実践との関係を理解し、研究を実践に活用することができる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	Introduction 研究とは 研究デザインの理解
第2回	研究のプロセスの理解
第3回	システムティック・レビュー EB
第4回	概念とは
第5回	質的研究方法
第6回	質的データ収集方法
第7回	質的データの分析方法
第8回	質的研究のクリティーク
第9回	量的研究 分析方法
第10回	量的記述研究デザイン

第11回	仮説検証型研究デザイン
第12回	因果関係探索型研究デザイン
第13回	研究倫理・研究計画書
第14回	研究で遊ぼう！
第15回	研究で遊ぼう！

<b>成績評価（基準と方法）</b>	ディスカッションへの貢献(25%)・クリティークレポート(25%)・課題レポート(50%)により総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	教科書：ポーリット, D. F. & ハングラー, B.P.; 『看護研究－原理と方法』医学書院, 1994. 参考図書： ①J.コービン, A.L.ストラウス, 南裕子監訳; 質的研究の基礎 グラウンデッド・セオリーの技法と手順, 医学書院, 1999. ②B.G.グレイサー, A.L.ストラウス; データ対話型理論の発見, 新曜社,1996. ③ウヴェ・フリック著, 小田博志他訳; 質的研究入門春秋社,2002. ④I.ホロウェイ, S.ウィラー,野口美和子監訳, ナースのための質的研究入門, 医学書院, 2000. ⑤特集 「参加観察法トレーニング」 データの収集・分析の実践を通して, 看護研究, vol.38(1), 2005 ⑥ロバート・F・マーフィー, 辻信一訳, ボディ・サイレント病いと障害の人類学, 新宿書房,1992. その他、資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。
<b>授業外学習課題</b>	各講義の前に教科書の指定されたページを読んでおく 第1回 □『看護研究－原理と方法』 P3-13 □『看護研究－原理と方法』 P13-25 □『看護研究－原理と方法』 P65-68 第2回 □『看護研究－原理と方法』 P46-62 □『看護研究－原理と方法』 P89-114 □『看護研究－原理と方法』 P327-350 第3回 □『看護研究－原理と方法』 P115-139 第4回 □『看護研究－原理と方法』 P250-279 第5回 □『看護研究－原理と方法』 P351-386（インタビュー） □『看護研究－原理と方法』 PP387-410（観察法） 第6回 □『看護研究－原理と方法』 P582-614 第7回・第11回 □『看護研究－原理と方法』 P673-689 第8回 □『看護研究－原理と方法』 P427-443 第9回・第10回 □『看護研究－原理と方法』 P165-249（量的研究デザイン） □『看護研究－原理と方法』 P298-326（標本抽出のデザイン） □『看護研究－原理と方法』 P327-350（データ収集計画） □『看護研究－原理と方法』 P465-581（分析） 第12回 □『看護研究－原理と方法』 P690-720 第13回 □『看護研究－原理と方法』 P143-164（研究倫理） □『看護研究－原理と方法』 P647-669（研究計画書） 追加の事前課題、および事後課題については各クラスで別途説明する。
<b>オフィスワー</b>	適宜、学生と時間調整して対応する。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200013
講義名称	看護倫理
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	火曜日
代表時限	4 時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 島山 卓也	看護学科
高山 良子	看護学科

資格・区分等	高度実践看護師教育課程：共通科目認定科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,DP2,DP4,DP5を修得するために重要な科目
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>倫理学に関する原則的な理論を学び、看護における倫理規範や看護の道徳的基盤を探求する。</li> <li>倫理学に関する理論や概念を基に、看護や医療を取り巻く最新のトピックスやその動向について概観し、生命に関する倫理的課題を看護の視点から分析し、考察する。</li> <li>臨床の現場で遭遇する倫理的葛藤について、問題点を分析し、関係者間の関係やそれぞれの立場を考慮して解決策を検討し、看護者としての役割を理解する。</li> <li>看護や医療現場における倫理的ジレンマや研究、教育に関する倫理的課題を分析し、倫理的課題への対応や倫理コンサルテーションについて、看護の視点から考察する。</li> </ol>
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"> <li>倫理学に関する基本的な知識、看護倫理のコアとなる知識を修得する。</li> <li>臨床現場で遭遇する倫理的問題や葛藤について分析し、関係者間の倫理調整を行う計画を立案することができる。</li> <li>看護のあらゆる場面において高度実践看護師として倫理的判断を行い、判断に基づいた態度と行動をとることができる。</li> </ol>

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	Introduction 倫理とは 生命倫理とは 看護倫理とは 学生が今までに遭遇してきた倫理的課題	R8.4.14. (火) 島山
第2回	科学の発達と倫理的課題 倫理が問われ始めた歴史的背景 知の追求と倫理的視点 科学技術が生んだ新たな倫理的課題 看護の発展と倫理的課題	4.21. (火) 島山
第3回	倫理的判断に必要な知識 看護倫理のコアの知識 倫理的判断に必要な知識、判断の規準 医療者の責任と義務 看護職の倫理綱領など	4.23. (木) 振替火曜 島山

第4回	倫理的課題の考え方 看護や医療を取り巻く最新のトピックやその動向 倫理問題を考える過程 倫理的側面に関する看護者の役割 倫理的意思決定 倫理的課題への対応（関係者間の調整）	4.28.（火） 畠山
第5回	医療現場における倫理的ジレンマⅠ～Ⅳ 看護実践における倫理的問（葛藤・ジレンマ）を取り上げ、学修した知識を活用して分析し、対応方法や高度実践看護師としての役割について検討する。 事例1、事例2、事例3、事例4	5.12.（火） 畠山 （GWⅠ）
第6回	医療現場における倫理的ジレンマⅠ～Ⅳ 看護実践における倫理的問（葛藤・ジレンマ）を取り上げ、学修した知識を活用して分析し、対応方法や高度実践看護師としての役割について検討する。 事例1、事例2、事例3、事例4	5.19.（火） 高山 （GWⅡ）
第7回	医療現場における倫理的ジレンマⅠ～Ⅳ 看護実践における倫理的問（葛藤・ジレンマ）を取り上げ、学修した知識を活用して分析し、対応方法や高度実践看護師としての役割について検討する。 事例1、事例2、事例3、事例4	5.26.（火） 高山 （GWⅢ）
第8回	医療現場における倫理的ジレンマⅠ～Ⅳ 看護実践における倫理的問（葛藤・ジレンマ）を取り上げ、学修した知識を活用して分析し、対応方法や高度実践看護師としての役割について検討する。 事例1、事例2、事例3、事例4	6.2.（火） 高山（GWⅣ）
第9回	医療制度と倫理的課題 医療を受ける権利と社会的差別、医療の平等性と配分、医療経済と費用対効果など医療に関わる課題を倫理の視点から分析し、対応方法や高度実践看護師としての役割について検討する。	6.9.（火） 高山
第10回	組織と倫理的課題 医療施設における保障と権利、労働環境や雇用関係など看護者を取り巻く組織的な課題を倫理の視点から分析し、対応方法や高度実践看護師としての役割について検討する。	6.16.（火） 高山
第11回	教育に関わる倫理的課題 看護基礎教育あるいは現任教育（新人教育等）の方法に関する倫理的課題について分析し、学生や看護者の自主性や能力育成を目指した教育を実践するための、教員や高度実践看護師、看護管理者の役割について検討する。	6.23.（火） 高山
第12回	研究に関わる倫理的課題（1） 看護実践における研究の倫理的課題について分析する。臨床家と研究者という2つの立場から研究に関わる場合の倫理的課題や、様々な研究協力者の自由意思を尊重する方法について討議し、これらの課題についての対応方法や高度実践看護師としての役割について検討する。	6.30.（火） 畠山
第13回	研究に関わる倫理的課題（2） 研究の対象となる人々に対する倫理的配慮について課題を分析し、研究倫理審査の必要性やその方法、看護者としての権利擁護や高度実践看護師、看護管理者の役割について検討する。	7.7.（火） 畠山
第14回	倫理的コンサルテーション 倫理的コンサルテーションの考え方とその方法 コンサルテーションの原則、倫理的課題の取り上げ方 倫理的コンサルテーションと高度実践看護師の役割 看護者が行う倫理的コンサルテーションの意義と課題、倫理的課題への看護の視点からの働きかけ、組織に対する倫理的提言、などについて学ぶ。	7.14.（火） 高山
第15回	授業のまとめ 高度実践看護師と倫理調整について（各自）	7.21.（火） 畠山・高山

成績評価 （基準と 方法）	目標1、目標3：プレゼンテーション等（30%） 目標1、目標2：レポート（50%） 目標1、目標2、目標3：クラス討議への参加度および貢献度（20%）、によって総合的に評価する。
教科書・ 参考書	参考図書 ・サラフライ著；片田範子・山本あい子 訳：看護実践の倫理 第3版，日本看護協会出版，2010 ・アンダービース他編；看護倫理を教える・学ぶ倫理教育の視点と方法，日本看護協会出版会，2008 ・鶴若麻理，長瀬雅子編集；看護師の倫理調整力，日本看護協会出版会，2018 ・日本看護倫理学会臨床倫理ガイドライン検討委員会編集；看護倫理ガイドライン，看護の科学者，2018 ・ジョイス・E. トンプソン，ヘンリー・O. トンプソン著；看護倫理のための意思決定10のステップ，日本看護協会出版，2004 ・Albert R.Jonsen 他著；赤林朗他監訳：臨床倫理学 第5版 臨床医学における倫理的意志決定のための実践的なアプローチ，新興医学出版社，2006 ・尾藤誠司，福原俊一；いざ、倫理審査委員会へ，NPO法人健康医療評価研究機構，2008 ・日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会（編）：科学の健全な発展のために 誠実な科学者の心得，丸善出版，2015 テキスト版URL： <a href="https://www.jsps.go.jp/file/storage/general/j-kousei/data/rinri.pdf">https://www.jsps.go.jp/file/storage/general/j-kousei/data/rinri.pdf</a> ・適宜、文献等の紹介を行う。

<b>授業外学習課題</b>	<p>5回～8回 各回、3～4名のメンバーで、臨床で倫理的ジレンマを経験した事例について、ジレンマの背景や専門的知識を活用して多角的に理解を深める。そのうえで、事例を分析して、事例の倫理的問題や課題を倫理の専門的知識を活用して明確にし、問題や課題への対応（倫理調整）について看護の視点から考察し、クラス発表・討議をする。</p> <p>9回～13回 各回、3～4名のメンバーで、「個々人の倫理観」だけでは検討しきれない社会的な倫理課題について理解を深め、クラスで意見交換する現象について焦点化する。課題の背景にある社会課題や理論などを提示し、クラスでは看護職としての倫理的感受性を高めることができるようなディスカッションポイントを明確にし、当日の意見交換をファシリテートする。</p>
<b>オフィスアワー</b>	<p>随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。</p>
<b>備考</b>	<p>畠山 卓也(高知県立大学大学院看護学研究科) 高山 良子(高知県立大学大学院看護学研究科)</p>

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200014
講義名称	看護サービス管理論
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	火曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 久保田 聡美	看護学科

履修における注意 点	研究コースの「看護管理論」と並行して実施します。 学生の準備性に合わせてプレゼンの時期を変更する可能性があります。
ディプロマ・ポ リシーとの関連性	DP3,4を修得するために重要な科目
授業の概要	専門看護師に必要な看護サービス管理を学び、多職種協働（IPW）によるケアシステム開発のための知識、技術を習得する。看護管理者と看護サービスの質向上に向けて、目標を共有し、専門看護師としての役割を発展させていく能力を身につける
達成目標（達成水 準）	1.専門看護師として求められる役割、機能を多角的な視点で説明できる。 2.専門看護師として、組織を理解し、変革していくために必要な理論や具体的な方略を説明できる。 3.システム思考を活用し、具体的なケアシステム開発の提案ができる。 4.立場や職種を超えて目標を共有するシステム構築を通して、バイオニアとしての自己の役割と今後の課題を説明できる。 5.看護サービス管理に必要な知識・技術を統合し、看護活動を創造的に変革する方略が提案できる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	イントロダクション、管理とは サービス、マネジメントとは	久保田
第2回	組織デザインと看護管理システム（組織分析）	久保田
第3回	経営理念と戦略	久保田
第4回	リーダーシップとチームワーク	久保田
第5回	アサーティブネス	久保田
第6回	コンフリクトマネジメント、協調的交渉	久保田
第7回	組織変革	久保田
第8回	品質管理とTQM：質と品質とは、品質管理とは	久保田
第9回	システム思考 アウトカム志向のパス	久保田
第10回	リスクマネジメントシステム	久保田
第11回	専門職連携（IPW）	
第12回	専門職連携、多職種協働におけるコーディネート機能	久保田他

第13回	組織の質と医療の質	久保田他
第14回	ケアの質保証と改善活動 【プレゼン】	久保田他
第15回	組織分析に基づくプレゼンとディスカッション～	久保田他

成績評価（基準と方法）	<p>討議への参加度や事前課題、事後演習（リアクション）への取り組み（30%）【目標1、目標2、目標4】</p> <p>ディベートへの取り組みと当日の参加度及び提出物（70%）【目標3、目標5】</p>
教科書・参考書	<p>適宜、参考資料を配布する 【参考図書は以下に示す】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小池智子・松浦正子・中西睦子編集；看護サービス管理 第5版 医学書院 2018</li> <li>・井部俊子 監修；看護管理学習テキスト 第3版 日本看護協会出版会</li> <li>①ヘルスケアシステム論 ②看護サービスの質管理 ③人材管理論 ④組織管理論 ⑤経済資源管理論 別巻 看護管理基本資料集</li> <li>・細田満和子著：「チーム医療」の理念と現実、日本看護協会出版会、2009</li> <li>・看護管理用語集第2版、日本看護管理学会学術活動推進委員会編、2016</li> </ul>
授業外学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療、看護におけるサービス、管理、とは何か考察する</li> <li>2 組織デザインと看護管理システムについて考察する</li> <li>3 自分のめざすリーダーシップ、理想的なチームワークとは何か考察する</li> <li>4 コンフリクトマネジメント、協調的交渉について、具体的な場面を振り返る</li> <li>5 組織変革の方略について考察する</li> <li>6 経営理念と戦略の意義について考察する</li> <li>7 自分が所属した組織分析を前半の学びを通して、分析する</li> <li>8 自分自身のキャリアデザインを考察する</li> <li>9 具体的な事例を通して品質管理手法の本質は何かを考察する</li> <li>10 アウトカム志向のパスとシステム思考の関係性を考察する</li> <li>11 ケアの質の管理とリスクマネジメントの関係を考察する</li> <li>12 多職種協働とTQMの本質は何かを考察する</li> <li>13 専門看護師に求められるコーディネート機能とは？</li> <li>14 組織の質と医療の質を評価する視点について探求する</li> <li>15 看護サービスを管理して行く上での影響要因や経営資源を整理し、看護活動を創造的に変革する方略とパイオニアとしての自己の役割、今後の課題を考察する</li> </ol>
オフィスアワー	授業終了後、研究室にて待機しています。
備考	関連するSDGs：8・10

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200015
講義名称	看護コンサルテーション論
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	オムニバス
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
畠山 卓也	看護学科
◎ 有田 直子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2,3を修得するために重要な科目
授業の概要	専門看護師の重要な機能であるコンサルテーションに関して、理論や技術を学び、専門看護師の役割を発展させていくための基本的能力を修得する。コンサルテーションの概念および実践モデル、コンサルタントの役割、個人を対象としたコンサルテーションのプロセスを学習し、コンサルテーションの実際を、ロールプレイング・分析を通して学ぶ。組織やグループのコンサルテーションのプロセスを学び、組織の問題を解決していくための考え方や方法を学ぶ。
達成目標（達成水準）	1. 専門看護師のコンサルテーションに関する理論について説明することができる。 2. 個人を対象としたコンサルテーションのプロセスについて説明することができる。 3. コンサルテーションに必要な技術について説明し、ロールプレイを通してコンサルテーションにおける自己の課題について評価することができる。 4. 事例を読み解き、状況に応じたコンサルテーションを計画することができる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	コンサルテーションの概論	有田
第2回	コンサルテーションの理論	有田
第3回	コンサルテーションに使える技術	畠山
第4回	コンサルテーションの実際：ロールプレイ	畠山
第5回	コンサルテーションの実際：振り返り	畠山
第6回	コンサルテーションの展開：事例の分析から専門看護師の相談機能について考える(講義)	有田
第7回	コンサルテーションの展開：事例の分析から専門看護師の相談機能について考える(演習)	有田
第8回	振り返り・まとめ	有田

成績評価（基準と方法）	クラス討議への参加(30%)・演習への参加(30%)・レポート(40%)により総合的に評価する。
	資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。 【参考文献】

<b>教科書・参考書</b>	<p>①野末聖香編著（2004）；リエゾン精神看護，医歯薬出版株式会社</p> <p>②ドガー・H.シャイン（1988）／－稲葉元吉翻訳（2002）：プロセス・コンサルテーション-援助関係を築くこと-，白桃書房</p> <p>③Underwood PA：組織の変化促進者としてのコンサルタント，インターナースィングレビュー20(2)，31-37，1997</p> <p>④佐藤直子（1999）：専門看護制度-理論と実践-，医学書院</p> <p>⑤Clara E. Hill：Helping Skills: Facilitating Exploration, Insight, and Action（2nd Ed），藤生英行監訳（2014）：ヘルピングスキル第二版－探求・洞察・行動のためのこころの援助方法，金子書房</p> <p>⑥Tracy M.F., O'Grady E.T.(2018): Hamric and Hanson's Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach (6th Ed),中村美鈴・江川幸二監訳(2021),高度実践看護－統合的アプローチ第2版,へるす出版</p>
<b>授業外学習課題</b>	<p>1・2回 配布資料や関連文献を読み、事前・事後学習を行う。</p> <p>3・4・5回 ロールプレイやその後の振り返りを通して考えられた自己の課題と、今後の取り組みについてレポートする。</p> <p>6・7・8回 グループワークでの検討を振り返り、コンサルテーションプロセスに沿った分析をレポートする。</p>
<b>オフィスアワー</b>	<p>授業終了後、研究室にて待機しています</p>

更新日時	2026/04/13 8:51:04
年度	2026
講義コード	62200016
講義名称	フィジカルアセスメント特論
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 島本 亮	看護学科

資格・区分等	CNSコース共通科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4,5を修得するために重要な科目
授業の概要	複雑な健康問題をもつ対象者に対して、高度なフィジカルアセスメントが実践できるように、診察および診断法を系統的かつ総合的に修得する。 事例を用いて、複雑な健康問題をもつ対象者の身体状況の診断過程を具体的に学ぶ。
達成目標（達成水準）	高度実践看護師として、より高度なフィジカルアセスメントの実践ができることを到達目標とする。 本コースで学んだフィジカルアセスメントを臨床症例の診断に応用できることを評価の基準とする。

## 授業計画表

回	内容
第1回	アセスメントの基礎技術：基本的技法、病歴聴取と身体診察の基礎、診察の基本、視診、触診、打診、聴診、血圧測定。
第2回	頭頸部、鼻腔、口腔、咽喉頭、視覚、聴覚器のアセスメント：頭部・顔面の診察、眼・耳・鼻の診察、口腔・咽喉頭の診察、頭頸部リンパ節の触診、頸部の診察法。
第3回	脳神経、四肢の感覚運動機能のアセスメント：体位と姿勢、歩行、四肢の視診、深部反射、病的反射、クローヌスの診察法。
第4回	胸郭・肺呼吸器系のアセスメント：視診、触診、打診、肺の聴診、心臓の聴診。
第5回	呼吸器のアセスメント：呼吸器と循環器の関係（問診、視診）、呼吸器のアセスメント（触診、打診）。
第6回	循環器のアセスメント：血圧・脈拍測定、四肢の視診・触診、頸部の視診・触診・聴診、胸部の視診・触診・打診、心音の聴取。
第7回	消化器系（腹部）のアセスメント：問診、腹部のアセスメントの留意点、腹部の視診・聴診・打診・触診、腹水の評価、女性患者の腹部の見方。
第8回	肛門、直腸、泌尿器、男性性器のアセスメント：肛門・直腸の診察法、肛門部病変、泌尿器科学的診察法。
第9回	女性性器および乳房のアセスメント：産婦人科診察法、乳房の診察法。
第10回	急性損傷のアセスメントおよび対処。
第11回	心電図の読み方。
第12回	褥瘡・慢性潰瘍・陥入爪のアセスメント。

第13回	臨床検査から分かる疾患（症例検討）。
第14回	臨床検査から分かる疾患（症例検討）。
第15回	臨床検査から分かる疾患（症例検討）。

<b>成績評価（基準と方法）</b>	試験は実施しないが、看護学研究科CPにあげた複数の観点から、講義中の質疑の状態で評価する（100%）。
<b>教科書・参考書</b>	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント』（メディックメディア）</li> </ul> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて講義資料を配布する</li> </ul>
<b>オフィスアワー</b>	<p>C104（内線3104）          jj6jdv@cc.u-kochi.ac.jp          在室時は適宜対応致します。          事前にメール等でappointmentを取得して頂く方がbetterです。</p>

更新日時	2026/04/13 8:52:05
年度	2026
講義コード	62200017
講義名称	病態生理学
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 島本 亮	看護学科

資格・区分等	CNSコース共通科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4,5を修得するために重要な科目
授業の概要	症状や徴候、所見からそれらの基になる病態生理を推論し、その推移を予測するとともに、エビデンスに基づいて必要な看護を組み立てる能力を習得するために、主要な疾患について、疾患概念、その原因および症状・徴候を病態生理学の知識に基づいて系統的に理解する。
達成目標（達成水準）	高度実践看護師としてケアとキュアを臨床の場で実践するために必要な「病態生理学」に基づいた疾患知識の獲得を達成目標とする。高度な看護実践に応用できる知識の習得を評価の基準とする。

## 授業計画表

回	内容
第1回	循環器系：高血圧症/高脂血症/冠動脈疾患などの循環器系疾患について病態生理を学ぶ。
第2回	循環器系：心室中隔欠損症/ファロー四徴症などの循環器系疾患について病態生理を学ぶ。
第3回	呼吸器系：上気道感染症/重症急性呼吸器症候群（SARS）/肺炎などの呼吸器系疾患について病態生理を学ぶ。
第4回	神経・感覚器系：片頭痛/脳卒中/頭蓋内出血などの神経・感覚器疾患について病態生理を学ぶ。
第5回	神経・感覚器系：水頭症/アルツハイマー病/てんかんなどの神経・感覚器系疾患について病態生理を学ぶ。
第6回	消化器系：食道裂孔ヘルニア/胃食道逆流症/食道がんなどの消化器系疾患について病態生理を学ぶ。
第7回	筋骨格系：筋ジストロフィー/挫傷/腱炎などの筋骨格系疾患について病態生理を学ぶ。
第8回	造血器系：真性多血症/鉄欠乏性貧血/悪性貧血などの造血器系疾患について病態生理を学ぶ。
第9回	免疫系：アナフィラキシー/アレルギー性鼻炎/後天性免疫不全症候群などの免疫系疾患について病態生理を学ぶ。
第10回	内分泌系：甲状腺機能亢進症/甲状腺機能低下症/甲状腺がんなどの内分泌系疾患について病態生理を学ぶ。
第11回	泌尿器系：糸球体腎炎/腎盂腎炎/腎血管性高血圧などの泌尿器系疾患について病態生理を学ぶ。
第12回	皮膚：接触性皮膚炎/アトピー性皮膚炎/蕁麻疹などの皮膚疾患について病態生理を学ぶ。
第13回	生殖器系：前立腺炎/前立腺肥大症/前立腺がんなどの生殖器系疾患について病態生理を学ぶ。
第14回	遺伝子疾患：ダウン症候群/鎌状赤血球貧血/のう胞性線維症などの遺伝子疾患について病態生理を学ぶ。

第15回	まとめ：病態生理学のまとめを行う。
------	-------------------

成績評価（基準と方法）	試験は実施しないが、看護学研究科CPにあげた複数の観点から、講義中の質疑の状態の評価する（100%）。
教科書・参考書	【教科書】 ・『病気がみえる』シリーズ（メディックメディア） 【参考書】 ・必要に応じて講義資料を配布する
オフィスアワー	C104（内線3104） jj6jdv@cc.u-kochi.ac.jp 在室時は適宜対応致します。 事前にメール等でappointmentを取得して頂く方がbetterです。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200018
講義名称	臨床薬理学
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	オムニバス
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 常風 興平	非常勤講師

資格・区分等	専門看護師資格取得のための必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3を修得するために重要な科目
授業の概要	薬物療法が必要な対象者に対して、生活調整や回復力の促進、対象者自身の服薬管理能力向上のためのケア、薬剤使用に関わる判断、投与後のモニタリングなどを実践する能力を習得するために、臨床の場でよく用いられる薬剤（緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理のための薬剤など）を中心として、薬理学の基礎知識と看護技術を学ぶ。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>臨床薬理の基礎知識を説明できる。</li><li>薬物の動態、作用・副作用・相互作用について説明できる。</li><li>臨床でよく用いられる薬剤について、その投与方法や、投与後のモニタリングについて説明できる。</li><li>薬物療法を受ける対象者への看護ケアの意義とその方法を考察できる。</li></ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	臨床薬理学に関する基本的理解について
第2回	薬物の動態と作用・副作用・相互作用
第3回	対象者の特性（高齢者、妊婦、小児）に応じた薬物療法
第4回	緊急応急処置に用いられる薬剤とその管理、循環改善のために使用される薬剤、ステロイド剤、輸液製剤・血液製剤
第5回	疼痛緩和を目的として用いられる薬剤とその管理、がん性疼痛、頭痛、腹痛など
第6回	精神の安定をはかることを目的として用いられる薬剤とその管理
第7回	排泄のコントロールを目的として用いられる薬剤とその管理
第8回	呼吸器系疾患に対して用いられる薬剤とその管理
第9回	消化器系疾患に対して用いられる薬剤とその管理
第10回	循環器系疾患に対して用いられる薬剤とその管理
第11回	内分泌系疾患に対して用いられる薬剤とその管理
第12回	脳・中枢神経系疾患に対して用いられる薬剤とその管理

第13回	感染症に対して用いられる薬剤とその管理
第14回	薬剤の安全適正使用と問題点
第15回	薬理と看護の役割（総括）

<b>成績評価（基準と方法）</b>	クラスにおける質疑応答（30%）、レポート（70%）により評価する
<b>教科書・参考書</b>	<p>テキスト：臨床薬理学 第7版 メディカ出版</p> <p>参考図書：臨床薬理学 第4版 医学書院</p> <p>病気がみえる①～⑤ メディックメディア</p> <p>薬が見える①～③ メディックメディア</p> <p>その他必要に応じ、提示します。</p>
<b>授業外学習課題</b>	自分の専門領域で用いられる代表的薬物を選択し、薬理や臨床での適用についてまとめたうえで、看護ケアにおける留意点とケアの実際について考察する。
<b>オフィスアワー</b>	メールで問い合わせてください。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200019
講義名称	こころの発達
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
畦地 博子	看護学科
◎ 高谷 恭子	看護学科

資格・区分等	小児看護専攻教育課程 専攻分野専門科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2を修得するために重要な科目
授業の概要	自我発達・認知発達・道徳観の発達など基本的な理論について学ぶとともに、これらの理論を活用して子どものこころの発達を包括的に査定する能力、発達を考慮した高度な実践能力を養う。発達障がいや思春期に問題となっている2つの精神疾患を取り上げ、発達理論に基づき病理性を理解し、対象者の状況を包括的に査定する能力、問題解決する能力を修得する。また、危機的な状況に陥った折に生じやすい精神状態について理解し、対象者の状況を包括的に査定する能力、問題解決する能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1.自我発達理論・認知発達理論・道徳観の発達について理解し、各発達段階の事例を用いた査定、および発達を考慮したアプローチの提案ができる。 2.子どもの死の概念の発達について理解し、研究成果の看護実践への活用について提案できる。 3.危機的状況にある人のこころの状態を、脳の反応や理論からアセスメントし、包括的に捉えることができる。 4.発達障がいのある子どものこころの発達を理解し、事例を用いて援助方法について検討できる。 5.思春期の子どもに見られる精神疾患について理解し、事例を用いて援助方法について検討できる。 6.闘病中の子ども・家族に見られるうつ状態を理解し、事例を用いて援助方法について検討できる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	イントロダクション/子どもの健康レベルと自我発達<乳児期>	畦地・高谷
第2回	子どもの健康レベルと自我発達<幼児期>	畦地・高谷
第3回	子どもの健康レベルと自我発達<学童期>	畦地・高谷
第4回	子どもの健康レベルと自我発達<思春期>	畦地・高谷
第5回	子どもの健康・病気の理解<乳児期・幼児期>	畦地・高谷
第6回	子どもの健康・病気の理解<学童期・思春期>	畦地・高谷
第7回	子どもの死の概念の発達	畦地・高谷
第8回	子どもの道徳観の発達	畦地・高谷

第9回	こころの発達と脳の発達(1)	畦地・高谷
第10回	こころの発達と脳の発達(2)	畦地・高谷
第11回	長期の経過をたどる健康問題を持つ子どものこころの発達の包括的査定	畦地・高谷
第12回	発達障がいのある子どものこころの発達の包括的査定	畦地・高谷
第13回	思春期に問題となる精神疾患 -境界型人格障害-	畦地・高谷
第14回	思春期に問題となる精神疾患 -摂食障害-	畦地・高谷
第15回	闘病中の子どもに生じる精神症状 -うつ状態-	畦地・高谷
第16回	闘病中の子どもの家族に生じる精神症状 -うつ状態-	畦地・高谷

成績評価（基準と方法）	クラス討議への参加度および貢献度（30%）、プレゼンテーション（50%）、レポート（20%）
教科書・参考書	<p>■講義の中で資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。</p> <p>①H・M・メイヤー著（1965）/大西誠一郎監訳（1986）：児童心理学3つ目の理論・エリクソン、ピアジェ、シアーズ,黎明書房、②ロバート・コールズ著（1970）/鎌幹太郎監訳（1980）：エリク・H・エリクソンの研究（上）,ペリかん社、③E・H・エリクソン（1950）/仁科弥生訳（1984）：幼児期と社会Ⅰ・Ⅱ,みすず書房、④マーガレット・S・（1975）/高橋雅士他訳（1990）：乳幼児の心理的誕生,黎明書房 他</p>
授業外学習課題	各クラスの事前課題については、別途、説明する。
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。
備考	畦地博子（高知県立大学大学院看護学研究科） 高谷恭子（高知県立大学大学院看護学研究科）

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200020
講義名称	データ分析方法論Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 小林 秀行	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2,3,5を修得するために重要な科目。
授業の概要	<p>社会を構成する個人の誰もが善き生を享受できることは、看護専門職の使命の一つです。個人の状態、そして、個人を取り巻く社会の状況をデータに基づいて判断することは、専門職の活動の基礎となるもので、また、根拠に基づく実践や研究活動を展開するために必要とされるものです。</p> <p>この科目では、高度な看護実践や研究に携わる皆さんが、個人の状態や社会の様相をデータに基づいて捉える観察力・判断力、ひいては看護の観点を陶冶することを目指しています。観察と判断はデータを適切に扱って、集計結果を的確に読み取ることから可能となります。それができるとさらなる分析につながり、個人や社会の背景にある問題点が発見され、解決や新しい政策提言に結びつけることができます。それが専門職の実践や研究活動のおもしろく、やりがいのあるところ、醍醐味です。</p> <p>研究や高度な実践に向け、データの扱い方の基礎的知識を講義を通じて考えて、演習時間には基礎的手法を体験してみてください。データを通じて個人や集団の状態を評価してみましょう。すると、健康課題とその解決を発見し、ひいては健康問題を抱える個人と社会の背景との関連も見出して、考察が深まる過程も分かると思います</p>
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>1 個人や社会を捉える上での基礎的なデータの扱い方について理解できる。</li><li>2 関連要因を論理的に説明するための基本的な統計手法を身につけることができる。</li><li>3 データに基づいて分析を展開させることができる。</li><li>4 データ分析に基づいて高度な実践や研究活動を展開することを知らることができる。</li></ol>

## 授業計画表

回	担当教員フリーテキスト
第1回	データ。尺度
第2回	データ収集
第3回	変数の要約・記述統計量 1
第4回	変数の要約・記述統計量 2
第5回	母集団と標本
第6回	仮説検定
第7回	クロス集計表の検定 1
第8回	クロス集計表の検定 2

第9回	平均の差の検定
第10回	多群の比較
第11回	相関分析
第12回	回帰分析 1
第13回	回帰分析 2
第14回	関連要因の検討
第15回	まとめ

<b>成績評価（基準と方法）</b>	授業への参加状況から総合的に評価（100%）
<b>教科書・参考書</b>	教科書 特に指定しない 参考書 福富和夫・橋本修二（2023）保健統計・疫学（改訂7版） 南山堂
<b>授業外学習課題</b>	予習・復習内容は授業時にその都度連絡します。 授業時にお手持ちのノートPCを持参して下さい。
<b>オフィスアワー</b>	授業日の昼休み
<b>備考</b>	授業の展開によって内容を変更することがあります。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200021
講義名称	看護教育論Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 柳林 信彦	非常勤講師

履修における注意点	集中講義
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2,4,5を修得するために重要な科目
授業の概要	めまぐるしく変化する現代社会の健康問題に対応する看護専門職の役割と教育体制について考え、将来に向けての看護基礎教育、卒後教育、継続教育のあるべき姿と、社会のニーズに適合した看護教育カリキュラムの構造と運営について学ぶ。
達成目標（達成水準）	教育理念にもとづき倫理的に教育内容を組み立てていく一連のプロセスであるカリキュラム開発の視点、鉄則、カリキュラム評価と運営について理解し、学習者のニーズに基盤をおくカリキュラム開発について考察し意見を述べることができる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	専門職の職能成長 教師と教員制度
第2回	保護者と教育 保護者の変化から教員が直面している課題
第3回	高知の教育の現状
第4回	教員の仕事の実態
第5回	少子高齢化と学校 働き方改革と学校・教師
第6回	判例検討①
第7回	判例事例②
第8回	専門職の職能成長 学校こそが、教員の成長の場

成績評価（基準と方法）	クラスへの参加度・貢献度、課題レポートから総合的に評価する。
教科書・参考書	<p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>山口透編 : 人生社会学、高文堂出版社、1992</li> <li>柴野昌山編 : 教育現実の社会的構成、高文堂出版社、1990</li> <li>田中統治著 : カリキュラムの社会学的研究、東洋出版社、1996</li> <li>安彦忠彦編 : 新版カリキュラム研究入門、頤草書房、1999</li> <li>佐藤 学 : 教育の方法、放送大学教育振興会、2004</li> <li>田中統治編 : カリキュラム評価の考え方・進め方、教育開発研究所、2006</li> </ol>

授業外学習課題	1 専門職の職能成長のために必要なものは何かについて、講義の内容や自身の経験をもとに考察する。
オフィスアワー	メールで問い合わせてください。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200022
講義名称	看護教育論II
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	オムニバス
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 未定	指定なし

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3,DP5,DP6を修得するために重要な科目。
授業の概要	めまぐるしく変化する現代社会の健康問題に対応する看護専門職の役割と教育体制について考え、将来に向けて看護の質を高めるために必要な看護基礎教育、卒後教育、継続教育のあるべき姿と、社会のニーズに適合した看護教育カリキュラムの構造と運営について学ぶ。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>我が国の看護教育の歴史の変遷、教育制度、および看護教育に関連のある法律や施策の目的や主旨について学習し、今日の看護教育の問題点と課題を明らかにすることができる。</li><li>看護基礎教育および卒業後の教育を、専門職としての生涯教育体系の中に位置づけながら、現行の基礎教育と継続教育並びに卒後教育の問題点と課題を考察することができる。</li><li>人々の健康問題の多様化とめまぐるしく変化する保健医療制度改革に対応した看護専門職の役割について考察し、看護の質を高めるために必要な看護教育のあるべき方向性について探求することができる。</li><li>看護実践や看護学の発展に寄与する人材を生涯にわたりキャリアとして発展させていくための方策について考えを述べるることができる。</li></ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	看護の役割の変化と看護教育制度の歴史の変遷、看護教育に関連する教育制度と関連法規（佐々木幾美先生）
第2回	基礎教育と継続教育並びに卒後教育の問題点と課題（佐々木幾美先生）
第3回	急激に変化する時代に適用できる資質・能力の育成、学修者本位の教育の実践を目指した教育の改革（佐々木幾美先生）
第4回	科学的根拠に基づく学習支援（1）（西田朋子先生）
第5回	科学的根拠に基づく学習支援（2）（西田朋子先生）
第6回	教育プログラム・教育計画の立案（1）（青木早苗先生）
第7回	教育プログラム・教育計画の立案と展開（2）（青木早苗先生）
第8回	看護教育者の能力開発、看護実践や看護学の発展に寄与する人材を生涯にわたりキャリアとして発展させていくための方策（青木早苗先生）

成績評価（基準と方法）	<ol style="list-style-type: none"><li>事前学習課題のプレゼンテーションの内容とディスカッション結果(40%)</li><li>課題レポート(40%)</li><li>クラスの参加度・貢献度より総合的に評価する。(20%)</li></ol>
教科書・参考書	<教科書> ①グレッグ美鈴,池西悦子 編集：看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う（改訂第2版）,南江堂,2018. <参考書> ①高橋 みや子（監修）,日本看護歴史学会（編集）,川島 みどり 氏家 幸子 草刈 淳子：日本の看護120年―歴史をつくるあなたへ,日本看護協会出版会,2008.

	<p>②田村やよひ 山田百合子 石井邦子 編集：看護教員必携資料集（第4版）,メヂカルフレンド社,2020.          その他の資料は、授業シラバスに掲載するほか、適宜、テーマに応じてクラスで提示する。</p>
授業外学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の基礎教育及び卒業後の学習について、成人学習の視点から説明する</li> <li>2. 看護のラダーシステムについて、「看護師のクリニカルラダー」を例に説明する</li> <li>3. 看護基礎教育の卒業時に求められる看護実践能力のモデルを用いて、卒業までに獲得する看護実践能力について説明する</li> <li>4. 看護管理者のコンピテンシー・モデルについて説明する</li> <li>5. 看護教育の展開：教育プログラム・教育計画を立案する</li> </ol>
オフィスアワー	<p>メールまたは電話で問い合わせてください。</p>
備考	<p>関連するSDGs：3、4</p>

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200023
講義名称	疫学研究方法論
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 立木 隆広	看護学科

履修における注意点	授業形式は、受講生の人数によって講義形式またはゼミナール形式のどちらかを予定しています。また、開講前に講義に関する注意事項などの連絡をする予定です。本講義では、主に疫学研究の方法について学びます。事前学習として疫学の基礎を復習しておいてください。
授業の概要	人を対象とする研究の質を高めるためには、疫学的アプローチを用いることが有効となる。このため、研究を計画し遂行するためには、もちろん疫学の知識は必要であるが、疫学研究を実施するための方法を知識として持ち、これを活用できなくてはならない。本講義では、疫学研究を行うときに必要となる基本的な方法について学ぶ。
達成目標（達成水準）	①基本的な疫学の知識を身に着けるようにする。 ②基本的な研究デザインを説明できるようにする。 ③疫学研究の質を高めるときに必要な事項を述べられるようにする。 ④リサーチクエストionsに対して適切な疫学研究の方法を立案できるようにする。

## 授業計画表

回	内容
第1回	疫学研究の立ち位置/疫学研究の構造と機能/リサーチクエストions
第2回	研究デザインの種類/研究対象者の選定/測定方法の計画
第3回	サンプルサイズと統計学的パワー
第4回	研究をデザインする①（横断研究/コホート研究/ケースコントロール研究）
第5回	観察研究における因果推論を強めるために必要なこと
第6回	研究をデザインする②（盲検的ランダム化比較試験）
第7回	研究をデザインする③（ランダム化比較試験の変法/非ランダム化デザイン）
第8回	研究をデザインする④（診断検査に関する研究/質的アプローチ/まとめ）

成績評価（基準と方法）	参加度40%、発表・レポート等60%を基準として総合的に評価する。
教科書・参考書	医学的研究のデザイン 第5版 - 研究の質を高める疫学的アプローチ - (著) Stephen B Hulley, et.al (訳) 木原雅子 他 メディカル・サイエンス・インターナショナル 疫学 医学的研究と実践のサイエンス (著) Leon Gordis (訳) 木原正博 他 メディカル・サイエンス・インターナショナル
授業外学習課題	事前学習として疫学の復習をすること。 発表を行う場合は、資料作成をすること。 発表担当以外の単元も予習・復習をすること。 レポートが課せられた場合、作成し提出すること。



更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200024
講義名称	保健医療政策と経済Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 尾形 裕也	非常勤講師

履修における注意点	集中講義
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2,3,6を修得するために重要な科目
授業の概要	現行の保健医療政策について、我が国の保健医療経済の現状を踏まえて、保健医療財政に関する政策と保健医療施設・従事者等の保健医療供給政策の二面から概観し、我が国の保健医療システムの特徴や問題点を理解する。また、保健医療サービスの需要と供給の決定、保健医療支出の適切性、保健医療に関する公共政策の意義とその効果など、現在の保健医療が抱える課題と望ましいサービスのあり方と政策的改善の方向性を学ぶ。
達成目標（達成水準）	1. 我が国の保健医療システムの特徴や問題点について述べることができる。 2. 現在の保健医療が抱える課題と望ましいサービスのあり方と政策的改善の方向性について意見をまとめることができる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	医療経営・経済入門：看護管理者と経営管理
第2回	経営組織論概論
第3回	医療経営組織論
第4回	リーダーシップ論
第5回	経営戦略論概論
第6回	医療機関の経営戦略
第7回	優れた医療機関経営の事例
第8回	その他トピックス

成績評価（基準と方法）	クラス参加状況、プレゼンテーション（30%）、レポート(70%)によって総合的に評価する。
教科書・参考書	①尾形裕也（2021）『看護管理者のための医療経営学：第3版』日本看護協会出版会 ②尾形裕也（2017）『志なき医療者は去れ！：岩永勝義、病院経営を語る』MASブレーン ③尾形裕也（2022）『この国の医療のかたち：医療政策の動向と課題』日本看護協会出版会 随時資料を提示する。

授業外学習課題	1 マグネットホスピタルの「磁力」に従って、自分が勤務している施設の状況を評価する。 2 あなたの勤務する機関（病院など）の今後10年間を見通した基本的な経営戦略について考察するとともに、その中で看護師が果たす役割について焦点をあてて整理する。
オフィスアワー	メールで問い合わせてください。
備考	関連するSDGs：3

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200025
講義名称	保健医療政策と経済Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 瀬戸 奈津子	非常勤講師

履修における注意点	集中講義
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2,3,6を修得するために重要な科目
授業の概要	現行の保健医療政策の変化をふまえ、我が国の保健医療システムの特徴や問題点を理解する。また、保健医療政策と医療経済が、それぞれの専攻領域にどのように影響をおよぼしているかを分析し、望ましいサービスのあり方を考える。 さらに、我が国の保健医療政策が抱える課題を概観した上で、看護政策の課題と今後の改善の方向性について学ぶ。
達成目標（達成水準）	1. 我が国の保健医療システムの特徴や問題点について述べるができる。 2. 保健医療政策と医療経済が、それぞれの専攻領域にどのように影響をおよぼしているかを分析し、望ましいサービスのあり方を提案できる 3. 保健医療に関する公共政策の意義とその効果、看護政策の課題と今後の改善の方向性について考えたことを述べるができる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	我が国における保健医療福祉政策・施策の動向
第2回	保健医療福祉政策・施策の現状分析の視点と課題の抽出方法
第3回	医療制度改革の中での看護の課題－安全で安心できる看護の提供
第4回	診療報酬の仕組みと看護の評価①
第5回	診療報酬の仕組みと看護の評価②
第6回	診療報酬の仕組みと看護の評価③
第7回	各領域における保健医療福祉政策・施策の現状分析と課題の抽出
第8回	各領域における保健医療福祉政策・施策の動向と課題、その解決策について

成績評価（基準と方法）	クラス参加状況(20%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(50%)によって総合的に評価する。
教科書・参考書	随時、資料を提示する。
授業外学習課題	本講義の全てを受講した後、自分が一番関心をもったことについて調べたうえで、自分の考えについて述べる。
オフィスアワー	メールで問い合わせてください。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200026
講義名称	看護学の動向と展望
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	オムニバス
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
任 和子	非常勤講師
◎川原 由佳里	非常勤講師

履修における注意点	集中講義 本科目は、川原由佳里先生と任和子先生が担当します。
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2,3,6を修得するために重要な科目
授業の概要	看護を取り巻く急激な変化の中で、看護は専門職としてどのような役割を担い、どのようなケアシステムを開発していくのか、また人々の多様化・複雑化する健康ニーズやそこに内在する問題にどう対処すればよいのかなど、看護にとって重要と思われる動向や課題に関して、わが国の文化的特性とケアに対する考え方や国際社会の動向をふまえて分析し、全体状況を把握する。
達成目標（達成水準）	1. 社会とともに変動する看護の動きやその変遷、専門職業団体としての活動、看護と政策のかかわりを分析できる。 2. 多様化する人々の健康ニーズに対して専門看護師のあり方と今後の方向性について検討できる。 3. 看護学の発展について、科学や医学の発展やその背景にある哲学的基盤をふまえて分析でき、看護現象を捉える方法について検討できる。 4. 看護の専門性について検討し、社会のニーズに対応した看護ケアの開発を追求する視点を養うことができる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	社会の動向と看護政策①
第2回	社会の動向と看護政策②
第3回	チーム医療と他職種との連携
第4回	高齢社会に求められる看護師の実践能力
第5回	看護現象と研究デザイン
第6回	新しい看護研究方法の開発
第7回	看護研究の動向への考察に基づく今後の課題
第8回	グローバル化と看護の展望
第9回	諸外国の保健医療福祉
第10回	看護の専門分化
第11回	専門分化の起点の背景、ICNの専門分化に関する活動
第12回	NP/ANPの定義と実践

第13回	日本における臨床分野の専門分化、日本におけるCNS制度を支える組織
第14回	日本における高度実践看護師制度への挑戦の背景、高度看護実践化への動き
第15回	専門看護師・高度実践看護師の役割、裁量権の拡大

<b>成績評価（基準と方法）</b>	クラス参加状況(30%)、プレゼンテーション(35%)、レポート(35%)によって総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	授業に応じて資料・参考文献を提示する。
<b>授業外学習課題</b>	配布された資料に目を通してから授業に臨むこと。 また、授業の時に話題となったトピックスについての追加資料は、授業終了後、必要に応じて配信または配布するので、復習したり、自己学習を行うこと。
<b>オフィスアワー</b>	メールによる質問・連絡等は、適宜、受け付ける。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200027
講義名称	看護情報学Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
講義開講時期	前期前半
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 小林 秀行	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,5,6を修得するために重要な科目
授業の概要	<p>療養者個人の状態と状況をとらえることは、あらゆる看護実践を展開する第一歩です。専門職により捉えられた個人のデータは情報として、専門職の判断とケア・サービスの提供に活かされ、専門職間で共有され、社会において政策提言を生み出す基盤となり、蓄積されてより良い看護を探究する研究の分析対象となります。</p> <p>本講義では、看護においてどのように情報を扱い、どのようにアセスメントに活かすかを整理した後で、何気なく扱っているデータの特徴と療養者に適応する際の留意点を整理します。次いで、個人や社会の状態評価に情報がどのように使われるか、個人や社会の「よさ」は情報を用いてどのように表現されるのか、経済学理論も適用して理解を深めます。最後に、健康課題の解決に向けて生じやすい倫理的問題として、情報の非対称性、透明性についても論じます。全体を通じて、看護情報学の知見が根拠に基づくケア・サービスの提供や意思決定に貢献していることについて議論したいと思います。</p>
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>療養者の健康問題の解決に向け、扱われる情報とその流れについて理解する。</li><li>個人の嗜好や判断が情報の影響を受けることを理解する。</li><li>個人の自由意思を尊重する観点から情報の非対称性や情報提供をめぐる倫理的問題を理解する。</li><li>看護情報学の知見が療養者個人の状態と状況を評価し、根拠に基づくケア・サービスの提供や療養者の主体的な意思決定に貢献していることについて議論する。</li></ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	看護が扱う情報とその流れ
第2回	帰結的データと非帰結的データ
第3回	個人の状態評価、嗜好
第4回	情報の選択肢と嗜好・嗜好
第5回	情報が個人の判断におよぼす影響
第6回	情報の非対称性への配慮、情報提供の留意点
第7回	まとめ

成績評価（基準と方法）	授業への参加状況から総合的に評価
教科書・参考書	指定しない。

授業外学習課題	講義時に説明します。
オフィスアワー	講義後

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200028
講義名称	看護情報学Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
講義開講時期	前期後半
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 小林 秀行	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,5,6を修得するために重要な科目
授業の概要	医療情報学と看護実践を融合させた看護情報学の知見をもとに、看護学の一領域として看護サービスの質の向上や、保健医療の制度の設計・運用、社会の変革・向上に対してどのように貢献できるのかを議論します。療養者個人へのケアの提供と質の向上、集団・地域における計画・評価、疾病とリスク要因の評価指標、関係者（療養者個人、市民、臨床実践家、行政職員等）の状況や意見は計画・実施段階でどのように情報的基盤に反映され、関係者はどのように意思決定に参加できるか、等の観点で議論を展開します。
達成目標（達成水準）	1. 看護情報学の知見を看護サービスの質の向上のために適用する実際を概観し、留意点を理解できる。 2. 看護実践の効果を経済学的に評価する上での看護情報学の有用性を理解できる。 3. 看護情報学の知見を制度や社会の改善に活かす方策を理解できる。 4. 看護情報の扱いにより個人や社会の状況の改善を成功させている取り組みの実際を見学し、看護情報学の知見が実社会に貢献していることを理解できる。 5. 医療情報学の適用の限界と、看護における人間性の回復の方策について理解できる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	患者中心ケアへの適用
第2回	看護サービスの質の向上への適用
第3回	保健医療システムへの適用
第4回	個人の選好の評価
第5回	実社会への貢献（演習）
第6回	実社会への貢献（演習）
第7回	まとめ

成績評価（基準と方法）	授業への参加状況から総合的に評価
教科書・参考書	指定しない。
授業外学習課題	講義時に説明します。



更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200029
講義名称	最新専門看護実践講座Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	オムニバス
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 藤田 冬子	非常勤講師

授業の概要	高度化・複雑化する医療の中で看護ケアの質を補償するために、エビデンスにもとづいた看護実践は高度看護実践看護師の役割とされている。しかし、いまだに看護ケアの効果を立証するエビデンスが不十分とされるなか、実際にはどのような取り組みが行われているのかを学ぶことによって、エビデンスにもとづいた高度看護実践についての示唆を得る。今回は、「エビデンスにもとづいた高度看護実践」というテーマから検討する。
達成目標（達成水準）	1. さまざまな学問領域において、社会のニーズに即した研究や実践がどのように展開されているか理解する。 2. さまざまな学問領域における研究や実践の成果を自らの高度実践看護師としての実践に生かす方略を検討する。

## 授業計画表

回	内容
第1回	実践と研究の融合① 老人看護専門看護師としての試み（藤田冬子先生）
第2回	実践と研究の融合② 老人看護専門看護師としての試み（藤田冬子先生）
第3回	実践と研究の融合③ 老人看護専門看護師としての試み（藤田冬子先生）
第4回	実践と研究の融合① 急性・重症患者看護専門看護師としての試み（大江理英先生）
第5回	実践と研究の融合② 急性・重症患者看護専門看護師としての試み（大江理英先生）
第6回	実践と研究の融合① エビデンスを見出すための学際的取り組み（石松一真先生）
第7回	実践と研究の融合② エビデンスを見出すための学際的取り組み（石松一真先生）
第8回	実践と研究の融合③ エビデンスを見出すための学際的取り組み（石松一真先生）

成績評価（基準と方法）	ディスカッションへの貢献、レポート等を総合的に評価する レポート等の課題は、それぞれの講師の授業時に説明する
教科書・参考書	授業に応じて資料・参考文献を提示する
授業外学習課題	適宜進捗状況を鑑み、補完的に必要に応じ提示する 講師の都合により講義の順番は変わる可能性がある
オフィスアワー	メールなどで問い合わせてください

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200030
講義名称	最新専門看護実践講座Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	オムニバス
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 森下 安子	看護学科

授業の概要	2020年日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会において、『「地元創成」の実現に向けた看護学と社会との協働の推進』が提言されている。これは、複雑化する保健・福祉・医療の課題は地方、地域、地元で異なっており、全国で一律化された教育や発想ではとても対応しきれない、今こそ地元の生活に根ざした看護を、地元のニーズに応じて自ら作っていく看護学を展開することの提案である。この講義では、「地元創成看護学」の目指すところを確認し、そこに向かうための具体策について考える。今回は、「地元創成」というテーマから検討する。
達成目標（達成水準）	達成目標 1. 地元創成看護学の概要、ならびに、地元のニーズに即した研究や実践がどのように展開されているかを理解する。 2. 地元創成に寄与するための看護実践・看護研究について考察できる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	「地元創成看護学」の概要①(吉澤豊子先生)
第2回	「地元創成看護学」の概要②(吉澤豊子先生)
第3回	「地元創成看護学」の活動：高知県における退院支援事業①（森下安子先生）
第4回	「地元創成看護学」の活動：高知県における退院支援事業②（森下安子先生）
第5回	「地元創成看護学」の活動：高知県における退院支援事業③（森下安子先生）
第6回	エスノグラフィーによる地域へのアプローチ①（川本美香先生）
第7回	エスノグラフィーによる地域へのアプローチ②（川本美香先生）
第8回	エスノグラフィーによる地域へのアプローチ③（川本美香先生）

成績評価（基準と方法）	ディスカッションへの貢献、レポート等を総合的に評価する。 レポート等の課題は、授業時に説明する。
教科書・参考書	授業に応じて資料・参考文献を提示する。
授業外学習課題	適宜進捗状況を鑑み、授業の補完的に、必要に応じ提示する 講師の都合により講義の順番は変わる可能性がある
オフィスアワー	メールなどで問い合わせてください

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200031
講義名称	インディペンデントスタディ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 畦地 博子	看護学科
木下 真里	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3,6を修得するために重要な科目
授業の概要	学生が、自らの関心領域の看護現象に関して、文献検討、フィールドワーク等の方法を用いて情報を収集、分析することを通して、その領域について理解を深めるとともに、看護学の課題を見出すことを目的とする。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>取りあげた自己の関心領域における既存の知識を系統的に探究することができる。 (文献検索、文献クリティークなど)</li><li>取りあげた自己の関心領域における看護の現状と課題について、さまざまな方法を用いて情報収集を行い、それらを分析し統合することができる。</li><li>自己の関心領域における看護の現状と課題を整理し、その中から看護学の課題を見出すことができる。</li></ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	教員と相談しながら、学生の関心領域を明らかにし、科目の展開方法を計画する
第2回	取りあげた領域に関する情報収集 文献検討により、課題を明確にする
第3回	課題に関する情報収集と分析のための方法論を検討し、今後の進め方についての計画を立案する
第4回	計画に基づき、課題に関する情報収集を行う
第5回	収集した情報の一次分析を行い、さらに情報収集が必要な内容を明らかにする
第6回	課題に関連する文献等と比較検討しながら、収集した情報を分析する
第7回	収集した情報について、分析を深め、まとめる
第8回	まとめ 他の学生と共有し、ディスカッションする 事後の課題として、まとめのレポートを提出する * 探究する課題の設定、そのための方法論の検討について、教員と適宜ディスカッションしながら進めていく。 * 4～7回の展開方法については、フィールドワークや課題に関連する専門職等へのインタビューなど、学生が自ら計画を立て、実施する。

成績評価（基準と方法）	全過程における課題への取り組み（30%）、プレゼンテーション（40%）、レポートの内容（30%）に基づき、総合的に評価する。
教科書・参考書	文献の紹介、必要資料の配布は、適宜行う

<b>授業外学習課題</b>	事前学習課題は、講義進行に合わせ、講義中に適宜提示する 事後の課題として、まとめのレポートを提出する
<b>オフィスアワー</b>	随時。できるだけ事前にメールでアポイントメントを取ってください。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200032
講義名称	看護理論と研究Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
池添 志乃	看護学科
◎ 畦地 博子	看護学科
島本 亮	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5を修得するために重要な科目
授業の概要	本授業では、看護研究の基盤となる科学的・哲学的視点を概観し、看護学における理論の役割と意義を理解することを目指す。まず、看護現象を説明する看護理論や中範囲理論について、その成り立ちや構造を学び、各理論の特徴や限界を分析する。次に、研究において理論や概念を用いる意義を考察し、研究全体の理論的な一貫性をどのように確保するかを検討する。さらに、専門領域で広く活用されている学際的アプローチについて学び、看護学をより広い視野から発展させるための思考力を育成する。
達成目標（達成水準）	1. 看護研究の基盤となる科学と哲学について説明することができる。 2. 取り上げた看護理論、概念について、特徴や限界を分析することができる。 3. 研究における理論的な一貫性について評価することができる。 4. 専門領域の研究を読みクリティークすることができる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	コースオリエンテーション	畦地
第2回	看護理論の基本的な成り立ちや構造	池添
第3回	概念と概念分析 1	池添
第4回	概念と概念分析 2	池添
第5回	概念の実践への適応	池添
第6回	概念分析	池添
第7回	概念分析の実際	池添
第8回	理論的整合性とは何か：研究計画書を通して検討する	畦地
第9回	研究デザインと理論の関係	畦地

第10回	理論的整合性の評価	畦地
第11回	実際の研究論文を用いたクリティーク演習	畦地
第12回	専門領域の研究論文のクリティーク 1	
第13回	専門領域の研究論文のクリティーク 2	
第14回	専門領域の研究論文のクリティーク 3	
第15回	専門領域の研究論文のクリティーク 4	

<b>成績評価（基準と方法）</b>	ディスカッション（50%）、プレゼンテーション（50%）によって総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	講義の中で、資料の配付および重要な文献の紹介を適宜行う。
<b>授業外学習課題</b>	別途資料を配付し説明する。
<b>オフィスアワー</b>	適宜学生と時間調整して対応する。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200033
講義名称	看護理論と研究II
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
池添 志乃	看護学科
◎ 畦地 博子	看護学科
高谷 恭子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5を修得するために重要な科目
授業の概要	本授業では、専門領域における既存研究を批判的に分析し、自ら研究を計画・実施するための基礎的な能力を養う。質的研究デザインと量的研究デザインの特徴を理解したうえで、演習を通してそれぞれの研究手法を実践的に学ぶ。これらの学習を通じて、専門領域に適した研究方法を発展させていく力を育成する。
達成目標（達成水準）	1. 質的研究デザイン、量的研究デザインを用いた既存の研究を取り上げ、その妥当性や限界を批判的に分析することができる。 2. 質的研究デザイン、量的研究デザインの特徴と適用場面を説明することができる。 3. 専門領域の研究方法を発展させていく方策について検討できる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	コースオリエンテーション	畦地
第2回	理論分析①	池添
第3回	理論の研究への活用と理論的整合性	池添
第4回	質的研究デザインの基礎（アプローチと理論の位置づけ）	池添
第5回	質的研究デザインの基礎（分析方法と理論の関係）	池添
第6回	質的研究論文のクリティーク	池添
第7回	量的研究デザインの基礎（目的・構造・理論との関係）	畦地
第8回	量的研究デザインの基礎（測定・妥当性・理論的整合性）	畦地
第9回	既存研究の批判的分析①	畦地
第10回	既存研究の批判的分析②	畦地
第11回	既存研究の批判的分析③	畦地
第12回	専門領域で用いられる研究方法 1	

第13回	専門領域で用いられる研究方法 2	
第14回	専門領域で用いられる研究方法 3	
第15回	専門領域で用いられる研究方法 4	

成績評価（基準と方法）	ディスカッション（50%）、プレゼンテーション（50%）によって総合的に評価する。
教科書・参考書	講義の中で、資料の配布および重要な文献の紹介を適宜行う。
授業外学習課題	別途、資料を配布し、説明します。
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200034
講義名称	学際的研究方法
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	木曜日
代表時限	2 時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
飯高 伸五	文化学科
◎ 畦地 博子	看護学科
島本 亮	看護学科
熊田 孝恒	非常勤講師

履修における注意点	基本的には、前期木曜日2時限に開講。 学部外講師の都合で別の時間帯になる可能性がある。
資格・区分等	共創看護学前期1年生が受講。
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4,6を修得するために重要な科目
授業の概要	本授業では、さまざまな学問分野の研究者を招き、それぞれの分野で用いられている研究の視点・理論・方法論について学ぶ。異分野の研究アプローチに触れることで、学際的研究の多様性と可能性を理解するとともに、研究の前提や問いの立て方が分野によってどのように異なるのかを考察する。また、他分野の研究を看護学の視点からどのように読み解き、活用しうるのかについて検討する。最終的には、学際的な知見を看護研究へとつなげるための視点を養い、研究の発展に向けた新たな着想を得ることを目指す。
達成目標（達成水準）	1. 異なる学問分野における研究の目的・視点・方法論の特徴を説明できる。 2. 他分野の研究内容を理解し、その前提や理論的背景を整理できる。 3. 学際的研究の視点を踏まえ、他分野の知見を看護学の視点から批判的に検討できる。 4. 他分野の研究を看護研究へ応用する可能性や課題について考察できる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	コースオリエンテーション	畦地博子
第2回	実験心理学研究の概要	熊田孝恒
第3回	実験心理学研究の実際1	熊田孝恒
第4回	実験心理学研究の実際2	熊田孝恒
第5回	実験心理学研究の実際3	熊田孝恒

第6回	文化人類学的研究の概要	飯高伸五
第7回	文化人類学的研究の実際 1	飯高伸五
第8回	文化人類学的研究の実際 2	飯高慎吾
第9回	文化人類学的研究の実際 3	飯高慎吾
第10回	医学的研究の概要	島本亮
第11回	医学的研究の実際 1	島本亮
第12回	医学的研究の実際 2	島本亮
第13回	医学的研究の実際 3	島本亮
第14回	まとめ：看護と他分野の研究の違い	畦地博子
第15回	まとめ：学際的研究方法の看護への活用	畦地博子

<b>成績評価（基準と方法）</b>	試験は実施しないが、看護学研究科CPにあげた複数の観点から、講義の中での課題の提出（50%）およびディスカッションへの参加（50%）によって評価する。
<b>教科書・参考書</b>	講義の中で資料の配付及び重要な文献の紹介を適宜行う。UOKLMUSに参考文献や参考資料を提示する。
<b>授業外学習課題</b>	配布資料を復習する。
<b>オフィスアワー</b>	教員が在室時は何時でも可。

更新日時	2026/04/05 4:30:00
年度	2026
講義コード	62200035
講義名称	データ分析方法論II
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 島本 亮	看護学科

資格・区分等	共創看護学1年生が対象。
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2,5を修得するために重要な科目
授業の概要	生体から得られたデータを分析する方法を修得する。
達成目標（達成水準）	<ul style="list-style-type: none"><li>・練習事例（例題）を分析できる</li><li>・看護学における研究者として、生体から得られたデータを分析できる</li><li>・データ分析に耐えうる実験系を構築できる</li></ul>

## 授業計画表

回	内容
第1回	コースオリエンテーション
第2回	生体から得られるデータの特徴
第3回	標本の測定値からの種々の統計量（一変量の場合）
第4回	標本の測定値からの種々の統計量（二変量の場合）
第5回	分布関数について
第6回	平均値に関する検定
第7回	分布に関する検定
第8回	2つの母比率の検定
第9回	相関係数に関する検定
第10回	SPSSを用いたデータ分析演習1
第11回	SPSSを用いたデータ分析演習2
第12回	SPSSを用いたデータ分析演習3
第13回	SPSSを用いたデータ分析演習4
第14回	SPSSを用いたデータ分析演習5
第15回	まとめ

成績評価（基準と方法）	試験は実施しないが、看護学研究科CPにあげた複数の観点から、講義中の質疑の状態の評価する（100%）。
教科書・参考書	コースの中で提示する。
授業外学習課題	与えられた課題を解く。
オフィスアワー	C104（内線3104） jj6jdv@cc.u-kochi.ac.jp 在室時は適宜対応致します。 事前にメール等でappointmentを取得して頂く方がbetterです。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200036
講義名称	看護学英語
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 畦地 博子	看護学科
島本 亮	看護学科

授業の概要	本授業では、受講者が自分の関心領域に関連する英文献を主体的に読み、研究の目的・理論・方法・結果・議論を批判的に分析する力を育成する。質的・量的研究の基本的な読み方を踏まえ、理論的整合性、方法論的妥当性、倫理性、研究の限界など、多角的な視点から文献を評価するスキルを身につける。また、クリティークの枠組みを用いて、自身の研究テーマに関連する文献を深く読み解き、研究の発展につながる洞察を得ることを目指す。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>英文献の研究目的・理論・方法・結果を正確に把握し、要約できる。</li><li>質的・量的研究の特徴を踏まえて、英文献を批判的に分析できる。</li><li>理論的整合性、方法論的妥当性、倫理性などの観点から文献を評価できる。</li><li>自身の研究テーマに関連する英文献をクリティークし、研究の発展につながる示唆を導き出せる。</li></ol>

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	オリエンテーション	畦地
第2回	英文献の構造を理解する	畦地
第3回	クリティークの枠組み：質的研究	畦地
第4回	質的研究のクリティーク（アプローチとデータ収集）	畦地
第5回	質的研究のクリティーク（分析と解釈）	畦地
第6回	質的研究のクリティーク（倫理的観点から）	畦地
第7回	質的研究のクリティーク（研究の限界と示唆）	畦地
第8回	クリティークの枠組み：量的研究	島本
第9回	量的研究のクリティーク（デザインと測定）	島本
第10回	量的研究のクリティーク（統計と解釈）	島本
第11回	量的研究のクリティーク（倫理的観点から）	島本
第12回	量的研究のクリティーク（研究の限界と示唆）	島本
第13回	学生の関心領域の英文献についてのクリティーク1	島本
第14回	学生の関心領域の英文献についてのクリティーク2	島本

第15回	まとめ	畦地・島本
------	-----	-------

成績評価（基準と方法）	各回の課題50% ディスカッションなどへの参加50%
教科書・参考書	教科書していない 適宜参考となる文献などを提供する
授業外学習課題	適宜指示する
オフィスアワー	講義修了後 メール等でアポをとってください

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200037
講義名称	共創看護学セミナー
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 畦地 博子	看護学科

授業の概要	本授業では、学生が関心を持つ看護の現象について、学際的・国際的な理論や既存研究を参照しながら批判的に検討し、議論を深める。異なる分野の視点や理論を取り入れることで、対象とする現象を多角的に理解し、その背景にある構造や課題を明らかにすることを目指す。さらに、議論を通して、看護の課題解決に向けてどのような共創（co-creation）が可能かを考察し、新たな研究の方向性や実践への応用を探求する。
達成目標（達成水準）	1. 関心のある看護の現象について、学際的・国際的な理論や既存研究を収集し、その特徴を整理できる。 2. 異なる分野の視点や理論を用いて、看護の現象を批判的に分析し、多角的に理解できる。 3. 学際的な議論を通して、看護の現象に関する課題や背景構造を明確に説明できる。 4. 看護の課題解決に向けて、どのような共創（co-creation）が可能かを検討し、具体的な方向性を提案できる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	コースオリエンテーション	畦地
第2回	関心ある看護減少と研究疑問	畦地
第3回	関心ある看護減少と研究疑問	畦地
第4回	関連する理論（1）	畦地
第5回	関連する理論（2）	畦地
第6回	関連する理論（3）	畦地
第7回	関連する理論（4）	畦地
第8回	関連する理論（5）	畦地
第9回	関連する研究（1）	畦地
第10回	関連する研究（2）	畦地
第11回	関連する研究（3）	畦地
第12回	関連する研究（4）	畦地
第13回	関連する研究（5）	畦地
第14回	研究課題の明確化	畦地
第15回	まとめ	畦地

成績評価（基準と方法）	課題の達成度50%と講義への参加度50%
教科書・参考書	教科書なし 必要な資料は適宜提供する
授業外学習課題	必要に応じ指示する
オフィスアワー	講義修了後 メール等でアポをとってください。

更新日時	2026/04/04 23:49:03
年度	2026
講義コード	62200038
講義名称	バイオメトリクス看護学演習
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 島本 亮	看護学科

資格・区分等	共創看護学1年生が対象。
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5を修得するために重要な科目
授業の概要	実験研究の現場（医学系研究室）で実際の実験研究を見学する。 数日間は、実際に簡単な分子生物学実験を行う。
達成目標（達成水準）	<ul style="list-style-type: none"> <li>分子生物学実験で何が行われているか理解できる</li> <li>簡単な分子生物学実験を補助できる</li> <li>自身の研究に応用可能な研究方法かどうかを吟味できる</li> </ul>

## 授業計画表

回	内容
第1回	コースオリエンテーション
第2回	分子生物学実験 1
第3回	分子生物学実験 2
第4回	分子生物学実験 3
第5回	分子生物学実験 4
第6回	分子生物学実験 5
第7回	分子生物学実験 6
第8回	分子生物学実験 7
第9回	分子生物学実験 8
第10回	分子生物学実験 9
第11回	分子生物学実験 1 0
第12回	分子生物学実験 1 1
第13回	分子生物学実験 1 2
第14回	分子生物学実験 1 3
第15回	まとめ

成績評価（基準と方法）	試験は実施しないが、看護学研究科CPにあげた複数の観点から、講義中の質疑の状態の評価する（100%）。
教科書・参考書	コースの中で提示する。
授業外学習課題	基本的な実験方法を実地に行う。 医学研究の現場に参加する。
オフィスアワー	C104（内線3104） jj6jdv@cc.u-kochi.ac.jp 在室時は適宜対応致します。 事前にメール等でappointmentを取得して頂く方がbetterです。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200042
講義名称	がん看護方法論II
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	ゼミ形式
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 青木 早苗	看護学科
高山 良子	看護学科

履修における注意点	各回の授業は事前課題を前提として進めるため、既習内容を踏まえて事例を理解するとともに、事例に関連する新たな知識やエビデンスを文献検索により整理し、発表準備を行ったうえで授業に参加すること。 また、授業では討議を通して理解を深めることを重視するため、主体的に発言し議論に参加すること。
資格・区分等	がん高度実践看護師教育課程：専攻分野専門科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,DP4,DP5を修得するために重要な科目
授業の概要	がん患者の緩和治療や緩和ケアに必要な看護介入技術についての理解を深め、事例を通して、がんの治療・療養に必要な看護介入が提供できる能力や、事例を通してエビデンス検索する能力を修得する。 また、事例を通して、薬物療法による症状緩和が必要な患者に、ケア(care)とキュア(cure)を統合させた高度な知識と技術を用いて、疼痛マネジメントを図る看護介入モデルを開発する。
達成目標(達成水準)	1. がん患者の緩和治療や緩和ケアに必要な看護介入技術が修得できる 2. 緩和治療やケアについて理解し、エビデンスに基づく症状緩和のための援助方法を考案できる

## 授業計画表

回	内容
第1回	がん患者教育・相談 ・事例を用いて、がん療養に関する援助技術(がん相談支援技術、がん患者教育方法、看護カウンセリング、意思決定支等)を演習する
第2回	がん患者教育・相談 ・事例を用いて、がん療養に関する援助技術(がん相談支援技術、がん患者教育方法、看護カウンセリング、意思決定支等)を演習する
第3回	がん療養に伴う理学的介入方法 ・リンパ浮腫のある患者の事例を用いて、リンパ浮腫に対する予防的介入方法から、リンパ浮腫のアセスメント、弾性包帯・複合的ドレナージの適用判断やドレナージ技術を演習する
第4回	がん療養に伴う理学的介入方法 ・リンパ浮腫のある患者の事例を用いて、リンパ浮腫に対する予防的介入方法から、リンパ浮腫のアセスメント、弾性包帯・複合的ドレナージの適用判断やドレナージ技術を演習する
第5回	薬物療法による症状緩和 ・疼痛(症状は学生の関心のある症状を選択しても良い)マネジメントを行うに当たって、看護ケアに医療処置を統合して患者の疼痛緩和全体をマネジメントし、患者の疼痛緩和を図る看護介入モデルを考案する

第6回	薬物療法による症状緩和 ・疼痛（症状は学生の関心のある症状を選択しても良い）マネジメントを行うに当たって、看護ケアに医療処置を統合して患者の疼痛緩和全体をマネジメントし、患者の疼痛緩和を図る看護介入モデルを考案する
第7回	エビデンス検索演習 ・学生の関心領域（サブスペシャリティ領域）の看護実践（事例）を選択し、治療や看護介入についてエビデンス検索を行う <課題> ・事例を活用して、看護学、看護学に関連する学問領域で既知のエビデンスを調べ、看護理論や看護モデルを活用して論理的に看護実践を組み立てる
第8回	エビデンス検索演習 ・学生の関心領域（サブスペシャリティ領域）の看護実践（事例）を選択し、治療や看護介入についてエビデンス検索を行う <課題> ・事例を活用して、看護学、看護学に関連する学問領域で既知のエビデンスを調べ、看護理論や看護モデルを活用して論理的に看護実践を組み立てる

<b>成績評価（基準と方法）</b>	目標1, 目標2について、クラス討議への貢献（20%）、プレゼンテーション（30%）、学修課題（50%）などによって総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	教科書：特になし。 参考図書：日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ(著)：がん看護 コアカリキュラム, 医学書院, 2017. その他：講義の中で、資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。
<b>授業外学習課題</b>	各回の授業に向けて、既習内容を踏まえて事例を理解し、関連する文献を検索してエビデンスを整理する。 また、事例に基づいて患者のアセスメント、看護介入、症状緩和の方法について検討し、プレゼンテーションの準備を行う。 授業後は討議内容を踏まえて理解を整理し、自身の関心課題について看護介入モデルや課題をまとめる。
<b>オフィスアワー</b>	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200043
講義名称	がん看護方法論III
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
代表曜日	木曜日
代表時限	2 時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 青木 早苗	看護学科
高山 良子	看護学科

履修における注意点	各回の授業は事前学修を前提として進めるため、既習内容を踏まえて事例を理解するとともに、関連する文献やガイドラインを検索し、エビデンスに基づいた看護援助について整理したうえで授業に参加すること。 授業では討議を通して臨床判断過程や看護介入の妥当性を検討するため、主体的に発言し議論に参加すること。 また、授業での検討を踏まえ、看護介入モデルやプロトコル作成を通して実践への応用を検討すること。
資格・区分等	がん高度実践看護師教育課程：専攻分野共通科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,DP2,DP3を修得するために重要な科目
授業の概要	手術療法・薬物療法・放射線療法・骨髄移植など様々ながん治療を受けている患者を、治療効果や患者を取り巻く保健医療システムを含めて包括的にアセスメントする知識や技術を修得する。 その上で、事例を通して具体的なアセスメントの方法を学び、背景となる理論を適用して治療支援ができる能力を修得する。 また、学生の関心領域において、がん治療を受けている患者に対して、ケア(care)とキュア (cure) の統合による高度な知識と技術を用いてがん患者の療養過程全般を管理し、ケア提供ができる看護介入モデルを開発する。
達成目標（達成水準）	1. 治療的介入の研究方法やエビデンスについて文献検討し、がん看護実践に適用することができる。 2. がんの診断・治療について理解し、治療期にある患者・家族への援助方法を考案することができる。 3. がん治療を行っている患者の有害事象のマネジメントに有用な看護介入モデルを考案する。

## 授業計画表

回	内容
第1回	コースオリエンテーション 治療期にあるがん患者や家族のもつ問題やニーズのアセスメントと看護援助 1) 診断期, 治療期, 維持期, 再発期, 終末期にある患者と家族の理解と看護援助 2) 治療期にある患者・家族への看護実践の課題
第2回	がん看護介入モデル ・ケア(care)とキュア (cure) を統合させた高度な知識と技術を用いてがん患者の療養過程全般を管理し、ケア提供ができる看護介入モデルの探求
第3回	がん薬物療法を受ける患者への援助 ・患者・家族のアセスメント（事例展開） ・患者の有害事象に対する援助の分析・評価 ・患者・家族のもつ心理・社会的問題への援助の分析・評価 *実践に関する事項はエビデンスを検索する *臨床判断過程がどのようになっているのかを理解する

第4回	<p>がん薬物療法中の有害事象のマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん化学療法の有害事象の的確なアセスメントと重症化の予防ならびに支持療法のための薬剤の選択・使用を通して、患者のQOL向上を図る看護介入モデルを考案する</li> </ul>
第5回	<p>がん放射線療法を受ける患者への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者・家族のアセスメント（事例展開）</li> <li>・患者の有害事象に対する援助の分析・評価</li> <li>・患者・家族のもつ心理・社会的問題への援助の分析・評価</li> </ul> <p>* 実践に関する事項はエビデンスを検索する</p> <p>* 臨床判断過程がどのようになっているのかを理解する</p>
第6回	<p>がん放射線療法中の有害事象のマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放射線の量・照射方法などから起きてくる有害事象を予測し、有害事象を最小限に食い止め治療に伴う症状の予防と緩和を図って重症化を防ぎ、治療の完遂を支援する看護介入モデルを考案する</li> </ul>
第7回	<p>手術療法を受けるがん患者への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者・家族のアセスメント（事例展開）</li> <li>・患者の身体的援助の分析・評価</li> <li>・患者・家族の心理・社会的問題への援助の分析・評価</li> </ul> <p>* 実践に関する事項はエビデンスを検索する</p> <p>* 臨床判断過程がどのようになっているのかを理解する</p>
第8回	<p>骨髄移植を受けるがん患者への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者・家族のアセスメント（事例展開）</li> <li>・患者の身体的援助の分析・評価</li> <li>・患者・家族の心理・社会的問題への援助の分析・評価</li> </ul> <p>* 実践に関する事項はエビデンスを検索する</p> <p>* 臨床判断過程がどのようになっているのかを理解する</p>

<b>成績評価（基準と方法）</b>	目標1、目標2、目標3について、クラス討議への貢献（20%）、プレゼンテーション（30%）、学修課題（50%）などによって総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	<p>参考図書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ(著)：がん看護コアカリキュラム，医学書院，2017.</li> <li>・Oncology Nursing Society (ed). Core Curriculum for Oncology Nursing, 7th ed., Elsevier, 2023.</li> </ul> <p>その他適宜授業で紹介する。</p>
<b>授業外学習課題</b>	事例に関する文献・ガイドラインを検索し、エビデンスに基づいた看護援助について整理してプレゼンテーションの準備を行う。授業後は討議内容を踏まえて理解を整理し、自身の関心課題に関する看護介入モデルやプロトコル作成を行う。
<b>オフィスアワー</b>	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200045
講義名称	がん診断治療学
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	講義・ゼミ形式
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 青木 早苗	看護学科

履修における注意点	隔年開講科目
資格・区分等	がん高度実践看護師教育課程：専攻分野専門科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,DP4,DP5を修得するために重要な科目
授業の概要	がんの症状と徴候の出現をどのように診断し確定していくかの診断プロセスとがん治療の実際について理解し、高度実践看護師として、エビデンスに基づいてケアとキュアを統合して、積極的治療から緩和治療における看護のアプローチを提供する能力を身につける。
達成目標（達成水準）	1. がん診断・治療のプロセスについて説明できる。 2. がんの発見から診断、治療、治療後など、様々な目的で行われる検査と結果について説明できる。 3. がんの代表的な治療法とそれに伴う患者の反応について説明できる。 4. がん患者の診断治療過程における看護援助方法を検討する。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	がんの診断・治療のプロセス 代表的な検査の実際 がんに伴う症状の臨床推論、臨床判断過程	佐竹
第2回	がん薬物療法における診断・治療の知識Ⅰ 診断・治療における臨床判断過程と治療の実際	佐竹
第3回	がん薬物療法における診断・治療の知識Ⅰ 診断・治療における臨床判断過程と治療の実際	根来
第4回	がん薬物療法における診断・治療の知識Ⅱ 治療および治療遂行における身体管理方法	根来
第5回	がん放射線療法における診断・治療の知識Ⅰ 診断・治療における臨床判断過程と治療の実際	西岡
第6回	がん放射線療法における診断・治療の知識Ⅱ 治療および治療遂行における身体管理方法	西岡
第7回	がんゲノム医療Ⅰ がんゲノム医療とは	杉本
第8回	がんゲノム医療Ⅱ がん遺伝子パネル検査、診断、治療の現状と課題	杉本

成績評価（基準と方法）	目標1,目標2,目標3,目標4について、クラス討議（50%）、授業外学修課題の提出物（50%）などで総合的に評価する。
教科書・参考書	国内外の重要図書・文献の紹介などを行う。
授業外学習課題	各回の講義内容について、事前事後の自己学習をすること 治療に関わる身体管理または、治療遂行を支援するために必要なケアとケアを統合した看護援助について考案する。
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。
備考	<p>集中講義:9月</p> <p>佐竹悠良（高知大学医学部腫瘍内科学講座 教授）  西岡明人（高知医療センター 副院長 がんセンター長）  根来裕二（高知医療センター 医療局 集学診療部 腫瘍内科科長）  杉本健樹（近森病院 乳腺センター センター長）</p>

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200048
講義名称	がん看護学実践演習Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	実習
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 青木 早苗	看護学科
高山 良子	看護学科

資格・区分等	がん高度実践看護師教育課程：実習科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3,DP4,DP6を修得するために重要な科目
授業の概要	がん看護専門看護師の指導のもとに、実際のがん看護専門看護師の活動を体験し、高度実践看護師としての役割（実践、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究）を探究する。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>がん看護専門看護師のもつ高度な専門的知識と技術が、実際の場面でどのように実践されているかを説明できる。</li><li>がん看護専門看護師の実践、および活動の体験を通して、高度実践看護師としての役割について洞察を深める。</li><li>高度実践看護師としての役割開発やその戦略について学ぶ。</li><li>がん看護の質向上のために、組織の中でどのような活動を行ってきたか、行っているかについて学ぶ。</li></ol>

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	実習要項：がん看護学実践演習Ⅱを参照	青木・高山

成績評価（基準と方法）	目標1、目標2、目標3、目標4について、 ・達成目標と評価の基準に沿って、到達度の評価を行う。 ・実習内容（実習記録、実習課題レポート、個人カンファレンスなど、（80％））および自己評価（20％）を通して、総合的に評価を行う。
教科書・参考書	実習の中で適宜、紹介する。 ・中村美鈴，法橋 尚宏監訳：高度実践看護：統合的アプローチ 第3版，へるす出版，2025。 ・井部俊子：専門看護師の思考と実践，医学書院，2015。
授業外学習課題	実習オリエンテーション時に説明。実習要項に記載
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。
備考	*実習施設（四国がんセンター、高知大学医学部附属病院）は学生の臨床経験、関心領域をふまえ、相談のうえ決定する。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200049
講義名称	がん看護学実践演習Ⅲ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 青木 早苗	看護学科
高山 良子	看護学科

資格・区分等	がん高度実践看護師教育課程：実習科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2,DP3,DP4を修得するために重要な科目
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"><li>複雑で対応困難な問題をもつがん患者や家族に対して、高度な専門知識や技術を用いて、エビデンスに基づく個別的なケア計画を立て看護を実践する。</li><li>がん看護学領域の専任教員、がん看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら、コンサルテーション、他職種との調整、倫理的問題の調整、院内教育や病棟看護師への教育、臨床研究の指導について、介入計画を立案し、実施、評価する。</li><li>がん医療における地域連携について、実習施設における具体的な支援内容や看護職の活動について学ぶ。</li></ol>
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>がん患者とその家族のおかれている状況を包括的にアセスメントし、患者や家族に対して卓越した看護を実践する。</li><li>がん患者や家族に関わる看護職者を含む医療者に対してコンサルテーションを行う。</li><li>がん患者や家族に必要なケアが円滑に提供されるために、地域連携を含めた他職種との調整をはかり、ケアをコーディネートする。</li><li>がん患者や家族特有の倫理的問題や葛藤について、関係する人々の間での倫理的調整を行う。</li><li>がん患者や家族への看護の質向上を図るための教育活動を実施する。</li><li>がん看護領域において、専門的知識や技術の向上を目指して実践の場における研究支援を行う。</li></ol>

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	実習要項：がん看護学実践演習Ⅲを参照	青木・高山

成績評価（基準と方法）	達成目標と評価の基準に沿って、到達度の評価を行う。 目標1,目標2, 目標3について、実習内容（実記録、実習課題レポート、個人カンファレンスなど、（80%））および自己評価（20%）を通して、総合的に評価を行う。
教科書・参考書	実習の中で適宜、紹介する。
授業外学習課題	実習オリエンテーション時に説明。実習要項に記載 実習施設で行われるがん関連のセミナーやカンファレンスへの参加
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。
備考	* 実習施設は学生の臨床経験をふまえ、相談のうえ高知県内のがん診療連携拠点病院で行う。 実習場所：高知医療センター、高知大学医学部附属病院 病棟、外来化学療法室、外科外来、セカンドオピニオン相談外来、がん相談窓口、緩和ケア内科、緩和ケアチーム、地域医療連携室、がん患者サロンほか関連する部署

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200050
講義名称	がん看護学実践演習Ⅳ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	実習
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 青木 早苗	看護学科
高山 良子	看護学科

資格・区分等	がん高度実践看護師教育課程：実習科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,DP3,DP4を修得するために重要な科目
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"><li>がんの診断・治療過程を理解し、がん薬物療法に関わる身体管理と治療の遂行に必要な看護援助を行うために卓越した判断能力や直接ケアを行う能力を修得する。また、緩和目的の薬物療法を受けている患者の治療・療養過程全般を管理し、卓越したケアを行う能力を修得する。</li><li>臨床実習指導医のもとで、がん薬物療法を受ける患者の身体管理方法や有害事象のアセスメント能力を修得し、医師と協働して患者に必要な緩和治療・緩和ケアを高度実践看護師として実施する。</li></ol>
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>アドバンストなフィジカルアセスメント、がん病態生理学、がん診断治療学、がん薬理学を学び、看護の視点からがん薬物療法を受ける患者の身体管理と治療遂行支援に必要な臨床判断過程を学ぶ。</li><li>緩和目的で薬物療法を受ける患者の身体管理と症状緩和に必要な技術を臨床実習指導医の指導のもと実施する。</li><li>患者の包括的アセスメントに基づきケア(care)とキュア(cure)を統合させた症状緩和のためのケアをエビデンスに基づき立案し、患者の治療・療養過程全般を管理し、卓越したケアを提供する。</li><li>身体管理と治療・療養支援に有用なプロトコルの開発を行うことができる。</li><li>ケア(care)とキュア(cure)の統合による卓越した看護実践を行う専門職者としての役割を開発する。</li></ol>

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	実習要項：がん看護学実践演習Ⅳを参照	青木・高山

成績評価（基準と方法）	<ul style="list-style-type: none"><li>達成目標と評価基準に沿って、到達度の評価を行う。</li><li>実習内容（実習記録、実習課題レポート、個人カンファレンスなど、(80%)）および自己評価（20%）を通して、総合的に行う。</li></ul>
教科書・参考書	<p>〈参考図書〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ(著)：がん看護 コアカリキュラム，医学書院，2017.</li><li>佐藤禮子（監訳）日本がん看護学会翻訳ワーキンググループ（訳）：がん化学療法・バイオセラピー看護実践ガイドライン，医学書院，2009.</li><li>日本がん看護学会（監修）：がん看護実践ガイド がん患者へのシームレスな療養支援，医学書院，2015.</li><li>佐藤隆美他：がん治療エッセンシャルガイド改訂第4版，南山堂，2019.</li></ul>
授業外学習課題	実習オリエンテーション時に説明。実習要項に記載 実習施設で行われるがん関連のセミナーやカンファレンスへの参加
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。
備考	実習日時：臨床実習指導医と相談のうえ、実習期間内に90時間の実習を組み立てる。 実習場所：高知医療センター，高知大学医学部附属病院

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200051
講義名称	がん看護学実践演習V
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	実習
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 青木 早苗	看護学科
高山 良子	看護学科

資格・区分等	がん高度実践看護師教育課程：実習科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,DP3,DP4を修得するために重要な科目
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"><li>がんの診断・治療過程を理解し、がん放射線療法に関わる身体管理と治療の遂行に必要な看護援助を行うために、卓越した判断能力や直接ケアを行う能力を修得する。また、緩和目的の放射線療法を受けている患者の治療・療養過程全般を管理し、卓越したケアを行う能力を修得する。</li><li>臨床実習指導医のもとで、放射線療法を受ける患者の身体管理方法や有害事象のアセスメント能力を身につけ、医師と協働して患者に必要な緩和治療・緩和ケアを高度実践看護師として実施する。</li><li>在宅療養支援診療所および連携している訪問看護ステーションでの実習を通して、がん患者の在宅での身体管理や緩和ケアについて学ぶ。</li></ol>
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>アドバンストなフィジカルアセスメント、がん病態生理学、がん診断治療学、がん薬理学を学び、看護の視点からがん放射線療法を受ける患者の身体管理と治療遂行支援に必要な臨床判断過程を学ぶ。</li><li>緩和目的でがん放射線療法を受ける患者の身体管理と治療遂行に必要な技術を臨床実習指導医の指導のもと実施する。</li><li>在宅療養支援診療所および連携している訪問看護ステーションでの実習を通して、がん患者の在宅での身体管理や緩和ケアの実際を学ぶ。</li><li>患者の包括的アセスメントに基づきケア(care)とキュア(cure)を統合させた症状緩和のためのケアをエビデンスに基づき立案し、患者の治療・療養過程全般を管理し、卓越したケアを提供する。</li><li>身体管理と治療・療養支援に有用なプロトコルの開発を行うことができる。</li><li>ケア(care)とキュア(cure)の統合による卓越した看護実践を行う専門職者としての役割を開発する。</li></ol>

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	実習要項：がん看護学実践演習Vを参照	青木・高山

成績評価（基準と方法）	<ul style="list-style-type: none"><li>達成目標と評価の基準に沿って、到達度の評価を行う。</li><li>実習内容（実習記録、実習課題レポート、個人カンファレンスなど）（80%）および自己評価（20%）を通して、総合的に行う。</li></ul>
教科書・参考書	<p>〈参考図書〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ(著)：がん看護 コアカリキュラム, 医学書院, 2017.</li><li>唐澤久美子, 藤本美生(編集)：がん放射線治療 パーフェクトブック, 学研メディカル秀潤社, 2016</li><li>東原正明, 近藤まゆみ(編集)：看護QOL BOOKS 緩和ケア, 医学書院, 2000.</li><li>日本緩和医療学会(編集)：専門家をめざす人のための緩和医療学(改訂第2版), 南江堂, 2019.</li><li>日本がん看護学会(監修)：がん看護実践ガイド がん患者へのシームレスな療養支援, 医学書院, 2015.</li></ul>
授業外学習課題	実習オリエンテーション時に説明。実習要項に記載 実習施設で行われるがん関連のセミナーやカンファレンスへの参加
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。

備考

実習日時：実習指導医・CNSと相談のうえ、実習期間内に90時間の実習を組み立てる。

実習場所：高知医療センター、在宅療養支援診療所（おおぞら診療所高知潮江・かもだの診療所のいずれか）、訪問看護ステーション（高知中央訪問看護ステーション・こうち看護協会訪問看護ステーションのいずれか）

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200054
講義名称	慢性看護方法論Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	ゼミ形式
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 青木 早苗	看護学科
高山 良子	看護学科

履修における注意点	事前に指定した文献・資料を予習したうえで、授業に参加してください。
資格・区分等	慢性疾患看護専門看護師必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,6を修得するために重要な科目
授業の概要	<p>慢性疾患診断治療学Ⅱで学修した医学的診断や治療に関する知識・技術、及び理論や研究知見を活用し、慢性病者と家族の発病前から現在に至る様々な変化や将来に起こりうる変化を理解する。</p> <p>慢性看護対象論で学修した包括的アセスメント方法に基づいて、慢性病者と家族のもつ力を維持・拡大し生活・人生の質の向上に有用な援助を探求し、高度な看護実践を展開する能力を修得する。</p> <p>さらに、研究知見や実践報告、及び学生の実践経験を活用し、慢性病者と家族への援助方法における現状と課題、及び将来展望を批判的に検討し、慢性看護の実践モデルと技術を開拓するための能力を修得する。</p>
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>慢性病の発症前期から臨死期までの各病期に応じた看護援助の特徴と技術について説明できる。</li><li>慢性病者と家族の慢性病に伴う複雑な課題への対処力を向上させる支援方法について説明できる。</li><li>慢性病者と家族への教育的アプローチの理念・原理・方法を理解し、実践への適用と評価方法について説明できる。</li><li>慢性病者の行動変容を促すアプローチを探究し、実践への適用と評価方法について説明できる。</li><li>慢性病者と家族の生活・人生の質の向上に有用な看護援助を探究し、新たな看護実践モデルや技術を見出せる。</li></ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション ・第1～3世代看護過程論の視座の変化、中範囲理論とエビデンスの実践への適用
第2回	慢性病者-医療者関係の構築Ⅰ ・パターンリズムとパートナーシップ、パーソンセンタードケアとピープルセンタードケアの理解と比較検討
第3回	慢性病者-医療者関係の構築Ⅱ ・患者中心アプローチ・モデルと意思決定の共有モデル（Shared Decision Making; SDM）、及びコミュニケーションスキルの理解
第4回	慢性病者-医療者関係の構築Ⅲ ・患者中心アプローチ・モデルと意思決定の共有モデル（Shared Decision Making; SDM）、及びコミュニケーションスキルの理解
第5回	慢性病者-医療者関係の構築Ⅳ ・学生の関心領域におけるケーススタディ1

第6回	複雑な課題対処への支援Ⅰ ・病みの軌跡に基づく看護モデルと目標志向アプローチの理解
第7回	複雑な課題対処への支援Ⅱ ・危機的人生移行モデルとリスクコミュニケーション方略の理解
第8回	複雑な課題対処への支援Ⅲ ・学生の関心領域におけるケーススタディ2
第9回	教育的アプローチⅠ ・アンドラゴジー・モデル、ピア教育等の理論・概念を活用した集団教育とグループワーク支援スキルの理解、及び評価方法
第10回	教育的アプローチⅡ ・エンパワメント・エデュケーション、自己効力感等の理論・概念を活用した個人教育とアクションプラン支援スキルの理解、及び評価方法
第11回	教育的アプローチⅡ ・学生の関心領域におけるケーススタディ3
第12回	行動変容アプローチⅠ ・動機づけ理論、行動変容を促すコミュニケーションスキルの理解、及び評価方法
第13回	行動変容アプローチⅡ ・認知行動療法、オンライン（遠隔）支援方法の理解、及び評価方法
第14回	エンド・オブ・ライフケア ・慢性病者と家族のAdvance Care Planningの理解
第15回	オンライン（遠隔）による看護支援 ・学生の関心領域におけるケーススタディ5

成績評価（基準と方法）	達成目標に沿って、クラス参加状況（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）で総合的に評価する。
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本保健医療行動科学会編：講義と演習で学ぶ保健医療行動科学。日本保健医療行動科学会雑誌，第31巻別冊，2017。 <a href="https://www.jahbs.info/TB2017.html#Anchor111988">https://www.jahbs.info/TB2017.html#Anchor111988</a></li> <li>・石川ひろの：保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門。大修館書店，2020。</li> <li>・Woog, P.(Ed.) 編/黒江ゆり子他訳：慢性疾患の病みの軌跡 コービンとストラウスによる看護モデル。医学書院，1995。</li> <li>・黒田裕子監修：看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第2版。学研メディカル秀潤社，2015。</li> <li>・野川道子編：看護実践に活かす中範囲理論第2版。メヂカルフレンド社，2016。</li> <li>・Tracy, M. F., et al. (Eds.) 中村美鈴・江川幸二監訳：高度実践看護統合的アプローチ第2版。へるす出版，2020。</li> </ul> その他、適宜、資料配付や文献を紹介する。
授業外学習課題	第4回 学生の実践事例へ理論・概念や研究知見を活用し、包括的アセスメントに基づく複雑な課題への対処力向上への支援方法を批判的に検討する。事例のQOLとWell-beingに有効な実践モデルや技術を探求するケーススタディを段階的に発表する。 第7回 学生の実践事例へ理論・概念や研究知見を活用し、包括的アセスメントに基づく複雑な課題への対処力向上への支援方法を批判的に検討する。事例のQOLとWell-beingに有効な実践モデルや技術を探求するケーススタディを段階的に発表する。 第10回 学生の実践事例へ理論・概念や研究知見を活用し、包括的アセスメントに基づく複雑な課題への対処力向上への支援方法を批判的に検討する。事例のQOLとWell-beingに有効な実践モデルや技術を探求するケーススタディを段階的に発表する。 第13回 学生の実践事例へ理論・概念や研究知見を活用し、包括的アセスメントに基づく複雑な課題への対処力向上への支援方法を批判的に検討する。事例のQOLとWell-beingに有効な実践モデルや技術を探求するケーススタディを段階的に発表する。 第15回 学生の実践事例へ理論・概念や研究知見を活用し、包括的アセスメントに基づく複雑な課題への対処力向上への支援方法を批判的に検討する。事例のQOLとWell-beingに有効な実践モデルや技術を探求するケーススタディを段階的に発表する。
オフィスアワー	随時、対応しますが、事前にアポイントメントをとって下さい。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200056
講義名称	慢性疾患診断治療学 II
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
代表曜日	
代表時限	
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 未定	指定なし

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200080
講義名称	小児看護論
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 高谷 恭子	看護学科

資格・区分等	小児看護専攻教育課程 専攻分野専門科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,5,6を修得するために重要な科目。
授業の概要	この科目は、小児看護学において基盤となる理論や概念（セルフケア看護論、ストレス・コーピング理論、ファミリーセンタードケア、親子関係論）を学びます。また、小児を取り巻く社会・保健・福祉に関する政策や機構・小児看護の今日的課題を理解し、今後の取組の方向性や政策提言につなぐための方略を検討します。また、これらを踏まえて、高度実践看護師の役割を開拓していく能力を養います。
達成目標（達成水準）	1. 小児看護実践において基盤となる主要な理論・概念、および活用方法について理解できる。 2. 子どもの権利擁護の視点から小児看護の現状を分析し、小児看護の倫理的課題について自らの考えを述べることができる。 3. 小児を取り巻く社会・医療を分析し、小児看護の今日的課題および今後の展望について説明することができる。 4. 高度実践看護師として、現状を変革するための政策提言につなぐための方略や方向性について提案できる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	セルフケア看護論の小児看護への活用(1): 乳児期・幼児期の子どもの看護への活用
第2回	セルフケア看護論の小児看護への活用(2): 学童期・思春期の子どもの看護への活用
第3回	子どものストレス・コーピング(1): 乳児期・幼児期の子どもの看護への活用
第4回	子どものストレス・コーピング(2): 学童期・思春期の子どもの看護への活用
第5回	ファミリーセンタードケアの小児看護への活用
第6回	親子関係の発達過程(1):ボルビィの愛着理論
第7回	親子関係の発達過程(2):鯨岡の関係発達理論
第8回	小児看護学領域の倫理的課題
第9回	小児の健康とヘルスプロモーション
第10回	小児看護の今日的課題(1): 児童虐待に関する課題
第11回	小児看護の今日的課題(2): 慢性的な健康障害のある子どもの看護に関する課題

第12回	小児看護の今日的課題(3)：医療的ケアを必要とする子どもの看護に関する課題
第13回	小児看護の今日的課題(4)：子どもの臓器移植に関する課題
第14回	小児看護の今日的課題(5)：エンド オブ ライフ期にある子どもと家族に関する課題
第15回	小児看護の政策提言につなぐための方略(1)：子どもに関わる施策や知見の分析と課題の明確化
第16回	小児看護の政策提言につなぐための方略(2)：チームアプローチや高度実践看護師の役割

成績評価(基準と方法)	クラス討議への参加度および貢献度(30%)、プレゼンテーション(50%)、レポート(20%)
教科書・参考書	<p>■講義の中で資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。</p> <p>①ドロセアE.オレム(1991)著/小野寺杜紀(2002)：オレム看護論,医学書院、②片田範子編集(2019)：こどもセルフケア看護理論,医学書院、③George,B.J(4thEd)/南裕子監訳(2013)：看護理論集,日本看護協会出版会、④林峻一郎、R.S.ラザルス著(1999)：ストレスとコーピングラザルス理論への招待,星和書店、⑤小嶋謙四郎(1984)：乳児期の母子関係 アタッチメントの発達第2版,医学書院、⑥J・ボウルビィ著(1979)/作田勉(1981)：ボウルビィ母子関係入門,星和書店、⑦鯨岡峻(1999)：関係発達論の展開、ミネルヴァ書房、⑧unicef(2019)/世界子ども白書 特別版2010「子どもの権利条約」採択20周年記念、⑨玉井真理子他(2012)：子どもの医療と生命倫理-、⑩小児保健協会(2011)/小児保健研究第70巻記念号、⑪船戸正久編集(2010)/小児在宅医療の現状と将来 医療従事者と家族のための小児在宅支援マニュアル、メディカ出版、⑫国民衛生の動向(2023/2024)/(財団法人)厚生統計協会、⑬日本看護協会/小児慢疾患患者の退院調整に関する指針、⑭日本小児看護学会(2013)：改正臓器移植法の施行に向けた日本小児看護学会の見解、⑮日本救急医学会(2011)：臓器提供時の家族対応の在り方、へるす出版、⑯松下正明(2008)：チームで行う退院支援、中央法規、⑰井部俊子(2015)：専門看護師の思考と実践,医学書院、⑱長江弘子(2018)：看護実践にいかすエンド・オブ・ライフケア,日本看護協会出版会、⑲日本小児看護学会(2015)：子どもを対象とする看護研究に関する倫理指針、⑳日本小児看護学会(2019)：子どものエンド オブ ライフケア指針その他</p>
授業外学習課題	各クラスの事前課題については、別途、説明する。
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。
備考	高谷 恭子(高知県立大学大学院看護学研究科)

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200081
講義名称	小児看護対象論
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	オムニバス
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 高谷 恭子	看護学科
有田 直子	看護学科

資格・区分等	小児看護専攻教育課程 専攻分野専門科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2を修得するために重要な科目。
授業の概要	この科目は、高度実践看護師として必要な子どもに特徴的な身体アセスメント、発達アセスメントの知識・技術を修得すること、さらに、子どもを育む家族をアセスメントする知識と技術を修得することを目的としています。健康問題のある子どもと家族の特徴を理解し、最新の知見を活用して、包括的にアセスメントする知識と技術を強化します。
達成目標（達成水準）	1. 子どもの身体アセスメントの知識と技術を修得することができる。 2. 子どもの発達アセスメントの知識と技術を修得することができる。 3. 子どものセルフケア能力をアセスメントする知識と技術を修得することができる。 4. 子どもを育む家族をアセスメントする知識と技術を修得することができる。 5. 健康問題のある子どもと家族の特徴を理解し、最新の知見を活用して、包括的にアセスメントする知識と技術を修得することができる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	イントロダクション：子どもの身体・発達のアセスメント	高谷
第2回	臓器のアセスメント(1)：頭部・頸部・鼻腔・口腔・視聴覚のアセスメント	高谷
第3回	臓器のアセスメント(2)：循環器系のアセスメント	高谷
第4回	臓器のアセスメント(3)：胸郭・肺・呼吸器系のアセスメント	高谷
第5回	臓器のアセスメント(4)：消化器系（腹部）、栄養のアセスメント	有田
第6回	臓器のアセスメント(5)：神経、皮膚のアセスメント	有田
第7回	子どものフィジカルアセスメントの実際(1)：乳児期・幼児期	高谷
第8回	子どものフィジカルアセスメントの実際(2)：学童期・思春期	有田
第9回	子どもの発達・セルフケア能力のアセスメント（乳児期・幼児期）	高谷

第10回	子どもの発達・セルフケア能力のアセスメント(学童期・思春期)	有田
第11回	家族アセスメント(1): 家族理論の活用	高谷
第12回	家族アセスメント(2): 家族看護エンパワーメントモデルの活用	高谷
第13回	事例を用いた包括的アセスメント(1): 循環器系	高谷
第14回	事例を用いた包括的アセスメント(2): 呼吸器系	高谷
第15回	事例を用いた包括的アセスメント(3): 消化器系	高谷

成績評価 (基準と方法)	<p>クラス討議への参加度および貢献度(50%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(20%)</p>
教科書・参考書	<p>■講義の中で資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。</p> <p>①Karen G.Duderstadt(2018):Pediatric Physical Examination、Mosby Inc、②Karen G.Duderstadt著/松島崇浩他翻訳(2020):健診も深まる!小児の身体診察と情報収集、東京医学社、③小野田千枝子他(2004):こどものフィジカルアセスメント、金原出版、④及川郁子監修(2014):フィジカルアセスメントと救急対応、中山書店、⑤森川昭廣(2013):標準小児科学第8版、医学書院、⑥高松英夫著(2017):標準小児外科学第7版、医学書院、⑦五十嵐隆他(2019):小児科診療ガイドライン-最新の診療指針-第4版、総合医学社、⑧衛藤義勝監修(2015):ネルソン小児科学原著第19版、エルゼビア・ジャパン、⑨片田範子他(2012):小児医療における病院/在宅/地域をつなぐ高度実践看護師クリニックの構築平成20~23年度科学研究費補助金作成、DVD vol1~10、⑩桃井眞里子他編集(2017):ベッドサイドの小児神経・発達の診かた改訂4版、南山堂、⑪藤井克則編集(2020):動画でわかる小児神経の診かた、羊土社、⑫野嶋佐由美:家族の合意形成を支えるケアガイドライン、⑬野嶋佐由美監修:家族エンパワーメントをもたらす看護実践(2005)、へるす出版、⑭日本小児循環器学会編集(2018):小児・成育循環器学、診断と治療社、⑮山岸敬幸他(2021):新先天性心疾患を理解するための臨床心臓発生学、メジカルビュー社、その他</p>
授業外学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 DVDによる事前学習</li> <li>2 DVDによる事前学習</li> <li>3 DVDによる事前学習</li> <li>4 DVDによる事前学習</li> <li>5 DVDによる事前学習</li> <li>6 DVDによる事前学習</li> <li>7 DVDによる事前学習</li> <li>8 DVDによる事前学習</li> <li>9 事例を用いたアセスメント</li> <li>10 事例を用いたアセスメント</li> <li>11 事例を用いた家族アセスメント</li> <li>12 事例を用いた家族アセスメント</li> <li>13 第1回~第12回のクラスを統合して、包括的なアセスメントを行う</li> <li>14 第1回~第12回のクラスを統合して、包括的なアセスメントを行う</li> <li>15 第1回~第12回のクラスを統合して、包括的なアセスメントを行う</li> </ol>
オフィスアワー	<p>適宜、学生と時間調整して対応する。</p>
備考	<p>高谷 恭子(高知県立大学大学院看護学研究科) 有田 直子(高知県立大学大学院看護学研究科)</p>

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200082
講義名称	小児看護方法論Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	オムニバス
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 高谷 恭子	看護学科
有田 直子	看護学科

資格・区分等	小児看護専攻教育課程 専攻分野専門科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,4を修得するために重要な科目。
授業の概要	この科目は、既存の理論や研究成果を活用して、複雑な健康問題を持つ子どもや家族を包括的にアセスメントするとともに、倫理的な視点から分析し、倫理的判断に基づいて、子どもおよび家族に適した援助方法について探求します。また、小児医療における高度実践看護師の役割を理解するとともにチームアプローチを展開することができる能力を修得すること、高度実践看護師の6つの機能を駆使してチェンジエージェントとして貢献することができる基礎的能力を修得します。
達成目標（達成水準）	1. 理論や先行研究によるエビデンスを活用して、様々な健康レベルの子どもと家族をアセスメントする方法について説明できる。 2. 臨床判断と倫理的判断に基づいて専門的知識や研究成果を活用して、看護援助方法を提案できる。 3. 高度実践看護師の役割を理解し、どのようにチームアプローチを行うかについて説明できる。 4. 高度実践看護師の6つの機能を理解し、チェンジエージェントとして現状を変革する方策を検討することができる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	イントロダクション/高度実践看護師の役割と必要な能力	高谷
第2回	実践機能(1)：急性期の子どものセルフケアの発達を支援する看護介入	高谷
第3回	実践機能(2)：慢性期の子どものセルフケアの発達を支援する看護介入	高谷
第4回	実践機能(3)：子どもとの援助関係を形成するアプローチ	高谷
第5回	実践機能(4)：子どもの対処能力を高める看護介入	高谷
第6回	実践機能(5)：子どもの意思決定を支援する看護介入	有田
第7回	実践機能(6)：子どもの家族をエンパワーメントする看護介入	高谷
第8回	相談機能(1)：子どもの事例中心のコンサルテーション	有田
第9回	相談機能(2)：小児看護師のコンサルティ中心のコンサルテーション	有田

第10回	調整機能	高谷
第11回	小児看護におけるチームアプローチ	有田
第12回	倫理調整機能(1)：日常的な倫理的課題	高谷
第13回	倫理調整機能(2)：救命限界にある子どもの深刻な倫理的課題	有田
第14回	教育機能	高谷
第15回	研究機能	高谷

成績評価 (基準と方法)	<p>クラス討議への参加度および貢献度 (40%)、プレゼンテーション (40%)、レポート (20%)</p>
教科書・参考書	<p>■資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。</p> <p>①日本看護系大学協議会(2008)/看護学教育Ⅲ 看護実践能力の育成、日本看護協会出版会、②太田喜久子他 (2009) /医師と看護師との役割分担と連携の推進に関する研究 平成20年度総括研究報告書、厚生労働科学特別研究事業、③日本学術会議 (2011) 高度実践看護師制度の確立に向けてーグローバルスタンダードからの提言ー、④アイリーン・T.オグラディ/中村美鈴他翻訳 (2021) :高度実践看護師-統合的アプローチ,へるす出版、⑤ドロセアE.オレム (1991) 著/小野寺杜紀 (2002) :オレム看護論,医学書院、⑥片田範子編集 (2019) :こどもセルフケア看護理論,医学書院、⑦野嶋佐由美:家族の合意形成を支えるケアガイドライン、⑧野嶋佐由美監修:家族エンパワーメントをもたらす看護実践(2005)、へるす出版、⑨日本小児看護学会(2022)/小児看護の日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針、⑩細谷亮太他 (2008) :小児がん チーム医療とトータルケア、中央公論社、⑪水本清久他(2011):実践チーム医療論ー実際と教育プログラム、医歯薬出版、⑫及川郁子他 (2008) :気管切開を行って在宅療養する子どもと家族のケアマニュアル、日本小児看護学会ホームページ、⑬奈良間美保他 (2011) /「親子の相互作用に着目した家族主体の小児在宅ケアガイドラインの有用性の検証と活用」小児在宅ケアガイドライン (初版)、平成22~24年度科学研究費 基盤研究 (B) 報告書、⑭及川郁子他 (2005) :小児慢性疾患患者の退院調整に関する指針、日本看護協会、⑮工藤充子他 (2003) :看護職のための子どもの虐待予防&amp;ケアハンドブック、日本看護協会、⑯井部俊子 (2015) :専門看護師の思考と実践,医学書院、⑰井部俊子他(2019) :現象学でよみとく専門看護師のコンピテンシー、医学書院、⑱日本小児看護学会(2015)/子どもを対象とする看護研究に関する倫理指針、⑲日本小児看護学会(2019)/子どものエンド オブ ライフケア指針、その他</p>
授業外学習課題	<p>各クラスの事前課題については、別途、説明する。</p>
オフィスアワー	<p>適宜、学生と時間調整して対応する。</p>
備考	<p>高谷恭子(高知県立大学大学院看護学研究科) 有田直子(高知県立大学大学院看護学研究科)</p>

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200083
講義名称	小児看護方法論II
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	
代表時限	
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 高谷 恭子	看護学科

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200084
講義名称	小児診断治療学Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
高谷 恭子	看護学科
◎ 西内 律雄	非常勤講師

資格・区分等	小児看護専攻教育課程 専攻分野専門科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2を修得するために重要な科目
授業の概要	小児によく見られる代表的な疾患（呼吸器疾患・循環器疾患・脳神経疾患・感染症・新生児疾患・小児がん・皮膚疾患など）と治療を理解する。病態生理、症状と徴候を診断して確定する検査・診断のプロセス、治療(薬物療法・栄養療法等)、症状マネジメントについて学ぶ。高度実践看護師として、エビデンスに基づいてケア（care）とキュア(cure)を統合して、看護を実践する能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1. 小児に見られる代表的な疾患について病態を理解し、診断法・治療法を理解する。 2. 小児によく見られる症状と徴候について理解し、診断法・治療法・症状マネジメントを理解する。 3. 小児に対する薬物療法の原則を修得する。 4. 本科目で学習した知識を、小児看護実践に応用できる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	小児期にみられる代表的な疾患の診断治療のプロセス(1)：呼吸器系	藤原
第2回	小児期にみられる代表的な疾患の診断治療のプロセス(2)：循環器疾患	栗田
第3回	小児期にみられる代表的な疾患の診断治療のプロセス(3)：消化器・泌尿器系	佐々木
第4回	小児期にみられる代表的な疾患の診断治療のプロセス(4)：脳・神経疾患	浦田
第5回	小児期にみられる代表的な疾患の診断治療のプロセス(5)：内分泌疾患	未定
第6回	小児期にみられる代表的な疾患の診断治療のプロセス(6)：感染症	金澤
第7回	小児期にみられる代表的な疾患の診断治療のプロセス(7)：小児がん	西内
第8回	小児期にみられる代表的な疾患の診断治療のプロセス(8)：皮膚疾患	未定

成績評価（基準と方法）	講義中の質疑応答（70％）、レポート（30％）
教科書・参考書	■講義の中で資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。 ①森川昭廣（2013）：標準小児科学第8版、医学書院、②足立雄一他（2020）：小児気管支喘息治療・管理ハンドブック2020、協和企画、他

<b>授業外学習課題</b>	第1回～8回 各講義の事前課題として、小児期に見られる疾患別に関する書籍や専門雑誌を各自で検索して読み、講義中のディスカッションに活かすことができるように整理しておく。
<b>オフィスアワー</b>	高谷恭子（C306研究室）学生と適宜相談の上、調整する。
<b>備考</b>	西内律雄(高知医療センター)・金澤亜錦(高知医療センター)・佐々木潔（高知医療センター） 宮澤真理(高知医療センター)・浦田奈生子(高知医療センター)・未定(高知医療センター) 未定(高知医療センター)・高谷恭子(高知県立大学大学院看護学研究科)

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200086
講義名称	小児看護学実践演習Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	オムニパス
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 高谷 恭子	看護学科
有田 直子	看護学科

資格・区分等	小児看護専攻教育課程 専攻分野専門科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2,3を修得するために重要な科目
授業の概要	<p>実践演習Ⅰでは、高度な看護実践の基礎となる子ども、家族、および集団に対する直接ケアを実践する能力の向上に焦点をあてます。様々な健康問題を持つ子どもを受け持ち、子ども、および家族、臨床状況を統合的にアセスメントし、適切な看護介入を実践することにより、高度実践看護師としての基礎的な態度や判断能力、実践能力を修得します。コンサルテーション、教育、倫理調整、調整、研究機能に関しては、ニーズを把握し、倫理的側面に関しては、常に含まれます。実践演習は、小児看護学領域の専任教員のスーパービジョンを受けながら行い、高度実践看護師に必要な卓越した実践能力やケア開発能力を培います。実践演習Ⅰを通して、実践研究課題を追求し、研究につなげます。</p>
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>様々な健康問題を持つ子どもを受け持ち、小児看護の基盤となる理論やエビデンスに基づき、子ども、家族、臨床状況を包括的にアセスメントする能力を修得できる。</li><li>診断治療過程を理解し、子どもの病状をアセスメントする能力を養うことができる。</li><li>子どもや家族が直面する問題を理解できる。</li><li>子どもや家族に対して、エビデンスに基づく卓越した看護援助方法を実践できる。</li><li>ケアを提供する場（病棟や外来、在宅等）を捉え、組織分析を行い組織の特徴を把握できる。</li><li>教育、研究、調整、コンサルテーション等の側面については、どのようなニーズがあるのかを把握できる。</li><li>看護者の倫理的ジレンマについて把握し、共に考える能力を養うことができる。</li></ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	小児看護学実践演習Ⅰ要項 参照

成績評価（基準と方法）	達成目標と評価の基準に沿って、到達度の評価を行う。 実習内容・実習記録・個人カンファレンス・自己評価等（85%）、実習課題レポート（15%）
教科書・参考書	実践演習の中で適宜、紹介する。
授業外学習課題	別途、説明する。
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して、対応する。
備考	高谷 恭子(高知県立大学大学院看護学研究科) 有田 直子(高知県立大学大学院看護学研究科)

\*実習病院は学生の臨床経験をふまえ、相談のうえ決定する。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200089
講義名称	小児看護学実践演習Ⅳ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 高谷 恭子	看護学科
有田 直子	看護学科

資格・区分等	小児看護専攻教育課程 専攻分野専門科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3を修得するために重要な科目
授業の概要	実践演習Ⅳでは、子どもによく見られる疾患の理解、および診断・治療の判断過程の理解に基づき、子どもの治療・療養過程全般を管理し、卓越したケアを提供する能力を修得することを目的としています。また、小児科医の指導のもとに、病気の子どものアドバンスドな身体症状を査定する能力を修得し、身体管理の方法、および治療による有害事象のアセスメント能力を修得し、医師と協働して、ケア（care）とキュア(cure)を統合させて、症状マネジメントの統合的アプローチを検討し、展開する能力を養います。
達成目標（達成水準）	1.子どもによく見られる代表的な疾患や症状について、専門的なケアを提供するために、病態生理、検査およびその結果の解釈をする能力を養うことができる。 2.小児科専門医の指導のもとに、病気の子どものアドバンストな身体症状の査定を行うことができる。 3.必要な治療法（薬物療法・栄養療法など）について理解できる。 4.介入事例の包括的なアセスメントに基づき、ケア（care）とキュア(cure)を統合させ症状マネジメントの方法を提案し、実践・評価することができる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	小児看護学実践演習Ⅳ要項 参照

成績評価（基準と方法）	達成目標と評価の基準に沿って、到達度の評価を行う。 実習内容・実習記録・個人カンファレンス・自己評価等（85%）、実習課題レポート（15%）を通して、総合的に評価を行う。
教科書・参考書	必要に応じて、適宜紹介する。
授業外学習課題	別途、説明する。
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。
備考	高谷恭子(高知県立大学大学院看護学研究科) 有田直子(高知県立大学大学院看護学研究科)  *高知医療センターで開催される、小児科ドクターカンファレンスに、在学期間継続して参加する。（木曜日開催）。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200106
講義名称	精神看護方法論Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
代表曜日	火曜日
代表時限	4 時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 田井 雅子	看護学科

資格・区分等	精神看護専門看護師必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2,3を修得するために重要な科目
授業の概要	個人と療養環境に焦点を当て、精神看護の介入方法、ケアのマネジメント方法、チーム医療促進方法について学ぶ。入院から退院まで、さらに退院後、地域においても必要な精神科のケースマネジメントやそのなかでのチーム医療の展開について学ぶ。事例を通して、その知識・技術の臨床への適応を具体的に考察することを通して、個人およびグループに対する精神看護の高度な実践能力を養う。
達成目標（達成水準）	1.診断治療のプロセスを理解し、臨床判断に基づきケアとキューを融合し、ケアの質の向上をはかることについて説明できる。 2.ケアマネジメント、ケースマネジメント、チーム医療を促進する能力を修得する。

## 授業計画表

回	内容
第1回	症状マネジメント：診断・治療のプロセスとケアの融合① ・精神診断治療学で学んだことを基盤に、事例を用いて薬物療法や身体療法が必要な対象への治療の説明（必要性、作用・有害反応、生活上の注意点）、薬剤の管理方法、効果のモニタリングの方法など、症状マネジメントの支援方法の技法を発展させる。高度実践看護師として、臨床判断に基づき、事例に必要なケアとキューを融合し、より質の高い看護ケアの実践について検討する。
第2回	生活支援：セルフケア、生活モデルによる看護支援と精神治療の融合② ・看護の主要な看護介入論であるセルフケアや生活モデルを基盤とし、精神診断治療学Ⅰ、Ⅱで学んだことを活用して、事例を用いて生活支援法を発展させる。高度実践看護師として、臨床判断に基づき、事例に必要なケアとキューを融合し、より質の高い看護ケアの実践について検討する。
第3回	自我、対人関係支援：精神力動による看護支援と精神治療の融合③ ・精神看護の主要な概念である自我、対人関係論を基盤とし、精神診断治療学Ⅰ、Ⅱで学んだことを活用して、事例を用いて対人関係支援を発展させる。高度実践看護師として、臨床判断に基づき、事例に必要なケアとキューを融合し、より質の高い看護ケアの実践について検討する。
第4回	ケアマネジメント ・高度実践看護師による、複雑な問題を持つ患者を例にケアマネジメントを実施する。ここでは生活環境や生活行動のアセスメントをもとにケアプランを作成し、他職種と共同して展開するケアマネジメントを行う専門的能力を修得する。
第5回	ケースマネジメント ・高度実践看護師による、複雑な問題を持つ患者を例にケースマネジメントを実施する。ここではひとりひとりのケースに沿ったケース中心のケアプランの立案、そしてケースマネジメントを行う専門的能力を修得する。

第6回	<p>チーム医療促進方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者、家族を中心とした関係職種との協働体制、連携・調整方法について計画、サービス担当者会議開催方法の計画をするとともに、社会資源の改善・開発方法を考案するなどし、ケアを推進する専門的能力を修得する。</li> </ul>
第7回	<p>地域-病院への移行、地域生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者、家族、専門職者からの支援、インフォーマルな支援、社会資源などを調整し、当事者がその人らしく地域で生活できるよう支援を計画する。高度実践看護師として、臨床判断に基づき、事例に必要なケアとキュアを融合し、より質の高い看護ケアの実践について検討する。</li> </ul>
第8回	<p>新たな精神看護ケア方法の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が関心を持っている精神看護実践の分析、及び既存の文献の分析から、援助方法の開発が必要なケアユニットを抽出し、研究成果などを活用してエビデンスに基づく精神看護ケア方法を開発する。</li> </ul>

<b>成績評価（基準と方法）</b>	プレゼンテーションの内容（70%）、クラス討議への貢献度（30%）などによって、総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 坂田三允総編集：精神看護エキスパート13 精神看護と関連技法、中山書店</li> <li>2. 宇佐美しおり、野末聖香：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会</li> <li>3. 坂田三允他：精神看護エキスパート9 ケアの評価とナースサポート、中山書店</li> <li>4. チャールズ・A・ラップ（著）、江畑敬介（監訳）：精神障害者のためのケースマネジメント、金剛出版</li> <li>5. U・トレンクマン他：早期症状マネジメント精神分裂病再発予防のために 治療者用ハンドブック、星和書店</li> <li>6. 山本賢司：精神科領域のチーム医療実践マニュアル、新興医学出版社</li> <li>7. 井上新平、安西信雄、池淵恵美：精神科退院支援ハンドブック ガイドラインと実践的アプローチ、医学書院</li> <li>8. 小林（清重）知子（著）：WRAP(元気回復プラン)のプログラム評価研究 リカバリーを促進するセルフヘルプツールの包括的検証 ※他適宜紹介する。</li> </ol>
<b>授業外学習課題</b>	各講義内容に関する文献検討および資料作成－資料は講義前日までに教員および講義参加者に配布のこと
<b>オフィスアワー</b>	学生と時間調整し適宜対応する

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200107
講義名称	精神看護展開論Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	オムニバス
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 田井 雅子	看護学科
畠山 卓也	看護学科

資格・区分等	精神看護専攻教育課程 専攻分野専門科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,4を修得するために重要な科目
授業の概要	精神看護専門看護師の専攻分野専門科目として、救急・急性期精神看護領域における高度な看護実践の能力を育成する。救急・急性期精神看護領域における理論と、エビデンスに基づいた看護実践、アセスメント、看護介入について学ぶ。そのうえで、救急・急性期精神看護領域での、相談、調整、倫理調整、教育の機能を果たすために必要となる理論と技術を学ぶ。この領域の問題解決に向けた看護援助を展開する能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1.救急・急性期精神看護専門看護師としての役割・機能を社会的文脈の中で捉えるとともに、現状と将来のあるべき方向性を論じることができる。 2.救急・急性期精神看護領域での主要な治療等を学び、臨床的推論を学び、具体の事例に活用できる。 3.救急・急性期精神看護専門看護師として、対象のアセスメント及び看護介入、援助技術を学び、事例・状況に適応することができる。 4.救急・急性期精神看護専門看護師として、相談、調整、倫理調整、教育機能を担うことのできる知識と技術を学び、事例・状況に適応することができる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	救急・急性期精神看護領域の発展の歴史と現状 ・救急・急性期精神医療の変遷、それを取り巻く社会の動向や法制度の制定などについて学ぶとともに、文献や統計的な資料等を概観し、その発展と歴史について学ぶ。そのうえで、現状について考察し、救急・急性期精神看護が抱える課題について検討する。	田井
第2回	救急・急性期精神看護における法の運用 ・救急・急性期精神看護で必要不可欠な法の運用について確認し、間違いなく必要な法的運用が行えるシステムを立案する。	田井
第3回	救急・急性期精神看護の機能と役割 ・救急・急性期精神看護領域における精神看護専門看護師の機能、役割について学び、その課題について検討する。	田井
第4回	救急・急性期精神看護で遭遇する状態像の査定と対応 ・救急や急性期精神看護の場面で査定に必要な状態像について、鑑別の要点を整理し、査定や対応について学ぶ。事例を展開し、問題状況の査定を行う。	畠山
第5回	救急・急性期精神看護で遭遇する状態像の査定と対応 ・第4回の事例について看護介入を立案する。その看護介入を基に、具体的な場面を設定し、ロールプレイなどを通して演習を行う。	畠山

第6回	救急・急性期精神看護におけるフィジカルアセスメント ・救急・急性期精神看護で必要不可欠なフィジカルアセスメントについて演習を行う。	田井
第7回	救急・急性期精神看護領域での援助関係の構築の課題と対応 ・事例等を用いて、医療拒否、暴力、操作性のある事例など、救急・急性期精神看護の実践でよく見る、援助関係の構築が困難な事例について、援助関係の構築における問題状況を査定し、ロールプレイなどを通して具体的な対応策について演習する。	田井
第8回	救急・急性期精神看護における対応困難事例の看護介入 ・事例などを用いて、救急・急性期精神看護においてよく見る対応困難事例への危機介入、例えば、行動化や衝動性のコントロールが難しい事例などの問題状況を査定し、具体的な看護介入を立案する。具体的な場面を設定し、対応についてロールプレイなどを通して演習を行う。	畠山
第9回	救急・急性期精神看護における対応困難事例の看護介入 ・事例などを用いて、救急・急性期精神看護においてよく見る対応困難事例への危機介入、例えば、急性期症状が改善しない事例などの問題状況を査定し、具体的な看護介入を立案する。具体的な場面を設定し、対応についてロールプレイなどを通して演習を行う。	畠山
第10回	救急・急性期精神看護における対応困難事例の看護介入 ・事例などを用いて、救急・急性期精神看護においてよく見る対応困難事例、例えば、再発・再入院を繰り返す事例などの問題状況を査定し、具体的な看護介入を立案する。具体的な場面を設定し、対応についてロールプレイなどを通して演習を行う。	田井
第11回	救急・急性期精神看護で生じる倫理的葛藤とその対応 ・救急・急性期精神看護の実践で生じる倫理的葛藤とその対応を概観し、その中から一つを取り上げ、倫理的調整の方法についてロールプレイなどで演習する。	田井
第12回	救急・急性期精神看護における調整 ・入院時など他職種との協働が必要な場面を概観し、その中から一つを取り上げ、協働のために必要な調整についてロールプレイなどで演習を行う。	畠山
第13回	救急・急性期精神看護における家族への看護介入 ・救急・急性期精神看護の実践で看護介入する家族（家族看護方法論Ⅱで家族アセスメント・援助計画立案を行った家族）について、具体的な介入場面を設定し、ロールプレイなどで演習する。	田井
第14回	ケアプロトコルの作成 ・教育的な視点から、ケアプロトコルの必要な救急・急性期精神看護のケアを検討する。	田井
第15回	ケアプロトコルの作成 ・第14回で検討した救急・急性期精神看護のケアからひとつとりあげ、そのケアプロトコルを作成する。	田井

<b>成績評価（基準と方法）</b>	演習の参加状況（50%）、クラス討議への貢献度（30%）、プレゼンテーション（20%）などによって、総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 阿保順子：回復のプロセスに沿った精神科救急・急性期ケア、精神看護復版</li> <li>2. 「精神科治療学」編集委員会編：精神科救急ガイドライン、星和書店</li> <li>3. 精神科救急医療ガイドライン2015年版、へるす出版</li> <li>4. 田中美恵子（編著）：自殺の看護、えびか書房</li> <li>5. David A. Jobes（著）、高橋祥友（訳）：CAMS自殺の危険のマネジメント 治療者と患者の協働、金鋼出版</li> <li>6. 岡田実：暴力と攻撃への対処—精神科看護の経験と実践知、すびか書房</li> <li>7. 坂田三允総編集：精神看護エクスペール6 救急・急性期Ⅰ 統合失調症、中山書店</li> <li>8. 坂田三允総編集：精神看護エクスペール7 救急・急性期Ⅱ 気分障害・神経症性障害・PTSD・せん妄、中山書店</li> <li>9. 坂田三允総編集：精神看護エクスペール11 精神看護と家族ケア、中山書店</li> <li>10. 坂田三允総編集：精神看護エクスペール17 精神看護と法・倫理、中山書店</li> <li>11. 坂田三允総編集：精神看護エクスペール19 患者の安全を守る看護技術、中山書店</li> </ol> ※他適宜紹介する。
<b>授業外学習課題</b>	課題文献に関する事前学習、プレゼンテーションの資料の作成 レポート（全講義終了後）
<b>オフィスアワー</b>	学生と時間調整し適宜対応する
<b>備考</b>	・第13回は、「家族看護方法論Ⅱ」のクラスで家族アセスメント・援助計画の立案を行った救急・急性期精神看護の実践で介入する家族の事例について、ロールプレイなどを行う。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200108
講義名称	精神看護展開論II
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	オムニバス
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 田井 雅子	看護学科
畠山 卓也	看護学科

資格・区分等	精神看護専攻教育課程 専攻分野専門科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,4を修得するために重要な科目
授業の概要	精神看護専門看護師の専攻分野専門科目として、慢性期精神看護領域における高度な看護実践の能力を育成する。慢性期看護領域における理論と、エビデンスに基づいた看護実践、アセスメント、看護介入について学ぶ。そのうえで、慢性期看護領域での、相談、調整、倫理調整、教育の機能を果たすために必要となる理論と技術を学ぶ。この領域の問題解決に向けた看護援助を展開する能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1. 慢性期精神看護領域における精神看護専門看護師としての役割・機能を社会的文脈の中で捉えるとともに、現状と将来のあるべき方向性を論じることができる。 2. 慢性期精神看護領域での主要な治療等を学び、臨床的推論を学び、具体の事例に活用できる。 3. 慢性期精神看護領域における精神看護専門看護師として、対象のアセスメント及び看護介入、援助技術を学び、事例・状況に適應することができる。 4. 慢性期精神看護領域における精神看護専門看護師として、相談、調整、倫理調整、教育機能を担うことのできる知識と技術を学び、事例・状況に適應することができる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	慢性期精神看護領域の発展の歴史と現状 ・慢性期精神医療の変換、それを取り巻く社会の動向や法制度の制定、地域包括ケアシステムなどについて学ぶとともに、文献や統計的な資料等を概観し、その発展と歴史について学ぶ。そのうえで、現状について考察し、慢性期精神看護が抱える課題について検討する。	田井
第2回	慢性期精神看護の機能と役割 ・慢性期精神看護領域における精神看護専門看護師の機能、役割について学び、その課題について検討する。	田井
第3回	慢性期精神看護における対応困難な事例についての査定とその対応 ・慢性期精神看護領域における対応困難な事例、例えば、受け入れ体制が整えられず退院できない事例、退院の意欲が乏しい事例など、精神看護専門看護師の介入が必要な事例についてアセスメントし、その対応について検討する。	畠山
第4回	慢性期精神看護における対応困難な事例についての査定とその対応 ・慢性期精神看護領域における対応困難な事例、例えば、身体的な疾患を抱える事例など、精神看護専門看護師の介入が必要な事例についてアセスメントし、その対応について検討する。	畠山

第5回	慢性期精神看護における対応困難な事例についての査定とその対応 ・慢性期精神看護領域における対応困難な事例、例えば、重度の障害を慢性的に抱えている難治事例など、精神看護専門看護師の介入が必要な事例についてアセスメントし、その対応について検討する。	田井
第6回	慢性期精神看護領域での援助関係の構築の課題と対応 ・事例等を用いて、言語的コミュニケーションがとりにくい事例、不安が強く脅かされやすい事例など、慢性期精神看護の実践でよく見る、援助関係の構築が困難な事例について、援助関係の構築における問題状況を査定し、ロールプレイなどを通して具体的な対応策について演習する。	畠山
第7回	慢性期精神看護で必要な援助技術 ・回復期とプレリハビリテーション時の看護展開について学び、事例を用いて、この時期に課題を抱えるケースに対する具体的な看護展開を立案する。	畠山
第8回	慢性期精神看護で必要な援助技術 ・リハビリテーションにおける看護展開について学び、事例を用いて、この時期に課題を抱えるケースに対する具体的な看護展開を立案する。	田井
第9回	慢性期精神看護で必要な援助技術 ・リハビリテーションからハビリテーションアプローチへの看護展開について学び、事例を用いて、この時期に課題を抱えるケースに対する具体的な看護展開を立案する。	田井
第10回	慢性期精神看護に関連する施策や取り組み ・慢性期精神看護に関連する施策や取り組みについて現状を明らかにし、課題解決に向けた方策を立案する。	田井
第11回	慢性期精神看護の実践で生じる倫理的葛藤とその対応 ・慢性期精神看護の実践で生じる倫理的課題を概観し、その中から一つを取り上げ、倫理的調整の方法についてロールプレイなどで演習を行う。	田井
第12回	慢性期精神看護での調整 ・慢性期精神看護で施設を越えて他職種の協働が必要な退院調整などの場面を想定し、調整に必要なスキルについてロールプレイなどで演習を行う。	畠山
第13回	慢性期精神看護における家族への看護介入 ・慢性期精神看護の実践で看護介入する家族（家族看護方法論IIで家族アセスメント・援助計画立案を行った家族）について、具体的な介入場面を設定し、ロールプレイなどで演習する。	田井
第14回	ケアプロトコルの作成 ・教育的な視点から、ケアプロトコルの必要な慢性期精神看護のケアを検討する。	田井
第15回	ケアプロトコルの作成 ・第14回で検討した慢性期精神看護のケアからひとつとりあげ、そのケアプロトコルを作成する。	田井

成績評価（基準と方法）	演習の参加状況（50%）、クラス討議への貢献度（30%）、プレゼンテーション（20%）などによって、総合的に評価する。
教科書・参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 坂田三允総編集：精神看護エキスパート4 長期在院患者の社会参加とアセスメントツール、中山書店</li> <li>2. 坂田三允総編集：精神看護エキスパート5 精神リハビリテーション看護、中山書店</li> <li>3. 坂田三允総編集：精神看護エキスパート11 精神看護と家族ケア、中山書店</li> <li>4. 坂田三允総編集：精神看護エキスパート17 精神看護と法・倫理、中山書店</li> <li>5. カタナ・ブラウン他（著）、坂本明子（訳）：リカバリー 希望をもたらすエンパワーメントモデル、金剛出版</li> <li>6. 野中猛：精神障害リハビリテーション論、岩崎学術出版社</li> <li>7. 池淵恵美：精神障害リハビリテーション こころの回復を支える、医学書院</li> </ol> ※他適宜紹介する。
授業外学習課題	<p>課題文献に関する事前学習、プレゼンテーションの資料の作成</p> <p>レポート（全講義終了後）</p>
オフィスアワー	学生と時間調整し適宜対応する
備考	・第13回は、「家族看護方法論II」のクラスで家族アセスメント・援助計画の立案を行った慢性期精神看護の実践で介入する家族の事例について、ロールプレイなどを行う。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200109
講義名称	精神看護展開論III
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	オムニバス
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 田井 雅子	看護学科
畠山 卓也	看護学科

資格・区分等	精神看護専攻教育課程 専攻分野専門科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,4を修得するために重要な科目
授業の概要	精神看護高度実践看護師の専攻分野専門科目として、地域精神看護領域における高度な看護実践の能力を育成する。地域精神看護領域における理論と、エビデンスに基づいた看護実践、アセスメント、看護介入について学ぶ。そのうえで、地域精神看護領域での、相談、調整、倫理調整、教育の機能を果たすために必要となる理論と技術を学ぶ。この領域の問題解決に向けた看護援助を展開する能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1. 地域精神看護領域における精神看護専門看護師としての役割・機能を社会的文脈の中で捉えるとともに、現状と将来のあるべき方向性を論じることができる。 2. 地域精神看護領域での主要な治療等を学び、臨床的推論を学び、具体の事例に活用できる。 3. 地域精神看護領域における精神看護専門看護師として、対象のアセスメント及び看護介入、援助技術を学び、事例・状況に適應することができる。 4. 地域精神看護領域における精神看護専門看護師として、相談、調整、倫理調整、教育機能を担うことのできる知識と技術を学び、事例・状況に適應することができる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	地域精神看護領域の発展の歴史と現状 ・地域精神医療の変遷、それを取り巻く社会の動向や法制度の制定、地域包括ケアシステムなどについて学ぶとともに、文献や統計的な資料等を概観し、その発展と歴史について学ぶ。そのうえで、現状について考察し、地域精神看護が抱える課題について検討する。	田井
第2回	地域精神看護の機能と役割 ・地域精神看護領域における精神看護専門看護師の機能、役割について学び、その課題について検討する。	田井
第3回	地域精神看護における対応困難な事例についての査定とその対応 ・地域精神看護領域における対応困難な事例、例えば、ひきこもりの事例など、精神看護専門看護師の介入が必要な事例についてアセスメントし、その対応について検討する。	畠山
第4回	地域精神看護における対応困難な事例についての査定とその対応 ・地域精神看護領域における対応困難な事例、例えば、地域住民や家族との折り合いが難しい事例など、精神看護専門看護師の介入が必要な事例についてアセスメントし、その対応について検討する。	畠山

第5回	地域精神看護における対応困難な事例についての査定とその対応 ・地域精神看護領域における対応困難な事例、例えば、治療の継続が困難な事例など、精神看護専門看護師の介入が必要な事例についてアセスメントし、その対応について検討する。	畠山
第6回	地域精神看護領域での援助関係の構築の課題と対応 ・事例等を用いて、医療拒否など、地域精神看護の実践でよく見る、援助関係の構築が困難な事例について、援助関係の構築における問題状況を査定し、ロールプレイなどを通して具体的な対応策について演習する。	田井
第7回	地域精神看護で必要な援助技術 ・地域で行うリハビリテーションからハビリテーションアプローチへの看護展開について学び、事例を用いて、この時期に課題を抱えるケースに対する具体的な看護展開を立案する。	田井
第8回	地域精神看護で必要な援助技術 ・訪問看護、外来などの場で提供される地域精神看護における看護展開について学び、事例を用いて、それぞれの場で課題を抱えるケースに対する具体的な看護展開を立案する。	畠山
第9回	地域精神看護で必要な援助技術 ・デイケア、産業保健などの場で提供される地域精神看護における看護展開について学び、事例を用いて、それぞれの場で課題を抱えるケースに対する具体的な看護展開を立案する。	田井
第10回	地域精神看護の実践で生じる倫理的葛藤とその対応 ・地域精神看護の実践で生じる倫理的課題を概観し、その中から一つを取り上げ、倫理的調整の方法についてロールプレイなどで演習を行う。	畠山
第11回	地域精神看護での調整 ・地域精神看護で施設を超え、他職種の協働が必要な退院調整などの場面を想定し、調整に必要なスキルについてロールプレイなどで演習を行う。	田井
第12回	地域精神看護に関連する施策や取り組み ・地域精神医療に関連する施策や取り組みについて現状を明らかにし、課題解決に向けた方策を立案する。	田井
第13回	地域精神看護における家族への看護介入 ・地域精神看護の実践で看護介入する家族に（家族看護方法論IIで家族アセスメント・援助計画立案を行った家族）について、具体的な介入場面を設定し、ロールプレイなどで演習する。	田井
第14回	ケアプロトコルの作成 ・教育的な視点から、ケアプロトコルの必要な地域精神看護のケアを検討する。	田井
第15回	ケアプロトコルの作成 ・第14回で取り上げた地域精神看護のケアからひとつとりあげ、そのケアプロトコルを作成する。	田井

<b>成績評価（基準と方法）</b>	演習の参加状況（50%）、クラス討議への貢献度（30%）、プレゼンテーション（20%）などによって、総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 田中美恵子：精神障害者の地域支援ネットワークと看護援助—退院計画から地域支援まで、医歯薬出版</li> <li>2. 大島巖：ACTケアマネジメントホームヘルプサービス—精神障害者地域生活支援の新デザイン、精神看護出版</li> <li>3. 谷中輝雄、松田正己、宮本真巳、岩田泰夫：障害者・精神保健地域看護活動（地域看護学講座）、医学書院</li> <li>4. チャールズ・A・ラップ、リチャード・J・ゴスチャ、田中英樹（監訳）：ストレングスモデル—精神障害者のためのケースマネジメント第2版、金剛出版</li> <li>5. 田中英樹：精神障害者の地域生活支援—統合的生活モデルとコミュニティソーシャルワーク、中央法規出版</li> <li>6. 坂田三允総編集：精神看護エクスペール11 精神看護と家族ケア、中山書店</li> <li>7. 坂田三允総編集：精神看護エクスペール17 精神看護と法・倫理、中山書店</li> </ol> ※他適宜紹介する。
<b>授業外学習課題</b>	<p>専攻分野専門科目（サブスペシャリティ）領域における文献等の検討 プレゼンテーション資料の作成</p> <p>レポート（全講義終了後）</p>
<b>オフィスアワー</b>	学生と時間調整し適宜対応する
<b>備考</b>	・第13回は、「家族看護方法論II」のクラスで家族アセスメント・援助計画の立案を行った地域精神看護の実践で介入する家族の事例について、ロールプレイなどを行う。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200110
講義名称	精神看護展開論Ⅳ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	オムニバス
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 田井 雅子	看護学科
畠山 卓也	看護学科

資格・区分等	精神看護専攻教育課程 専攻分野専門科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,4を修得するために重要な科目
授業の概要	精神看護専門看護師の専攻分野専門科目として、リエゾン精神看護領域における高度な看護実践の能力を育成する。リエゾン精神看護領域における理論と、エビデンスに基づいた看護実践、アセスメント、看護介入について学ぶ。そのうえで、リエゾン精神看護領域での、相談、調整、倫理調整、教育の機能を果たすために必要となる理論と技術を学ぶ。この領域の問題解決に向けた看護援助を展開する能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1. リエゾン精神看護領域における精神看護専門看護師としての役割・機能を社会的文脈の中で捉えるとともに、現状と将来のあるべき方向性を論じることができる。 2. リエゾン精神看護領域での主要な治療等を選び、臨床的推論を選び、具体の事例に活用できる。 3. リエゾン精神看護領域における精神看護専門看護師として、対象のアセスメント及び看護介入、援助技術を学び、事例・状況に適応することができる。 4. リエゾン精神看護領域における精神看護専門看護師として、相談、調整、倫理調整、教育機能を担うことのできる知識と技術を学び、事例・状況に適応することができる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	リエゾン精神看護領域の発展の歴史と現状 ・リエゾン精神医療の変遷、それを取り巻く社会の動向や法制度の制定などについて学ぶとともに、文献や統計的な資料等を概観し、その発展と歴史について学ぶ。その上で、現状について考察し、リエゾン精神看護が抱える課題について検討する。	田井
第2回	リエゾン精神看護の機能と役割 ・リエゾン精神看護領域における精神看護専門看護師の機能、役割について学び、その課題について検討する。	田井
第3回	リエゾン精神看護領域でよく見る精神症状の査定とその対応 ・診断過程、主要な治療について学び、事例・状況の理解・アセスメントに知識を活用できる。認知症様症状、せん妄などリエゾン精神看護の実践でよく見る精神症状の査定とその対応について学ぶ。事例を展開し、問題状況を査定し、看護介入を立案する。具体的な場面を設定し、ロールプレイなどを通して演習を行う。	畠山

第4回	リエゾン精神看護領域でよく見る精神症状の査定とその対応 ・診断過程、主要な治療について学び、事例・状況の理解・アセスメントに知識を活用できる。幻覚妄想、躁状態などリエゾン精神看護の実践でよく見る精神症状の査定とその対応について学ぶ。事例を展開し、問題状況を査定し、看護介入を立案する。具体的な場面を設定し、ロールプレイなどを通して演習を行う。	畠山
第5回	リエゾン精神看護領域でよく見る精神症状の査定とその対応 ・診断過程、主要な治療について学び、事例・状況の理解・アセスメントに知識を活用できる。依存、不安、抑うつ状態などリエゾン精神看護の実践でよく見る精神症状の査定とその対応について学ぶ。事例を展開し、問題状況を査定し、看護介入を立案する。具体的な場面を設定し、ロールプレイなどを通して演習を行う。	畠山
第6回	リエゾン精神看護領域での援助関係の構築の課題と対応 ・事例等を用いて、医療拒否、患者-医療者間のトラブルなどリエゾン精神看護の実践でよく見る、援助関係の構築が困難な事例について、援助関係の構築における問題状況を査定し、ロールプレイなどを通して具体的な対応策について演習する。	田井
第7回	リエゾン精神看護領域での看護介入 ・リエゾン精神看護領域での直接ケアの場を設定し、必要な看護介入、援助技術である、支持的精神療法などのカウンセリング技術の適応について検討し、ロールプレイなどを通して演習を行う。	畠山
第8回	リエゾン精神看護領域での看護介入 ・リエゾン精神看護領域での直接ケアの場を設定し、必要な看護介入、援助技術である、認知行動療法、リラクゼーション法の適応について検討し、ロールプレイなどを通して演習を行う。	田井
第9回	リエゾン精神看護におけるコンサルテーションの課題と対応 ・リエゾン精神看護での相談、コンサルテーションに関する課題を特定化し、具体的な事例へ知識・技術を適用し、展開方法を学ぶ。自分の課題を明らかにした上で、ロールプレイなどを用いて演習を行う。	田井
第10回	リエゾン精神看護におけるチーム医療の課題と対応 ・リエゾン精神看護での調整に関する課題を特定化し、具体的な事例へ知識・技術を適用し、展開方法を学ぶ。	田井
第11回	リエゾン精神看護における倫理調整の課題と対応 ・リエゾン精神看護での倫理調整に関する課題を特定化し、具体的な事例へ知識・技術を適用し、展開方法を学ぶ。精神看護専門看護師が対応する倫理的課題を概観し、その中から一つを取り上げ、倫理的調整の方法をロールプレイなどで演習する。	畠山
第12回	リエゾンカンファレンス ・他領域、他職種と協働するためのリエゾンカンファレンスのタイプと特性などを明らかにする。具体的な事例を展開し、状況に応じた運営のあり方を検討し、ロールプレイ等で演習する。	田井
第13回	リエゾン精神看護における家族への看護介入 ・リエゾン精神看護の実践で看護介入する家族に（家族看護方法論IIで家族アセスメント・援助計画立案を行った家族）について、具体的な介入場面を設定し、ロールプレイなどで演習する。	田井
第14回	ケアプロトコルの作成 ・教育的な視点から、せん妄や抑うつなど、病棟で働く看護師に必要なケアを検討する。	田井
第15回	ケアプロトコルの作成 ・第14回で取り上げた病棟で働く看護師に必要なケアからひとつとりあげ、そのケアプロトコルを作成する。	田井

成績評価（基準と方法）	演習の参加状況（50％）、クラス討議への貢献度（30％）、プレゼンテーション（20％）などによって、総合的に評価する。
教科書・参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>野末聖香、片平好重、住吉亜矢子、樋山光教、早川昌子、宇佐美しおり：リエゾン精神看護-患者ケアとナース支援のために、医歯薬出版</li> <li>James R. Rundell, Michael G. Wise(著)、松浦雅人、松島英介(翻訳)：コンサルテーション・リエゾン精神医学ガイド、メディカルサイエンスインターナショナル</li> <li>精神科リエゾンチーム活動指針、星和書店</li> <li>坂田三允総編集：精神看護エクスペール16 リエゾン精神看護、中山書店</li> <li>坂田三允総編集：精神看護エクスペール11 精神看護と家族ケア、中山書店</li> <li>坂田三允総編集：精神看護エクスペール17 精神看護と法・倫理、中山書店</li> <li>日本総合病院精神医学会治療指針1：せん妄の臨床指針-せん妄の治療指針第2版、星和書店</li> <li>DELTAプログラムによるせん妄対策：多職種で取り組む予防,対応,情報共有、医学書院</li> </ol> ※他適宜指定する。
授業外学習課題	課題文献に関する事前学習、プレゼンテーション資料の作成 レポート（全講義終了後）
オフィスアワー	学生と時間調整し適宜対応する
備考	・第13回は、「家族看護方法論II」のクラスで家族アセスメント・援助計画の立案を行ったリエゾン精神看護の実践で介入する家族の事例について、ロールプレイなどを行う。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200112
講義名称	精神診断治療学 II
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必修区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 田井 雅子	看護学科

授業の概要	精神医療領域におけるひとつの治療技法である薬物療法、身体治療について学び、高度実践看護師として、エビデンスに基づいてケアとキュアを統合して、看護を実践する能力を身につける。中枢神経系に作用して臨床効果を発揮する薬剤について、生体内での薬物動態、臨床効果と有害作用についての評価を行い、そのプロフィールをもとに、より適切な精神疾患の治療法について検討するプロセスを学ぶ。修正型電気けいれん療法や反復経頭蓋磁気刺激療法について、作用機序、臨床効果、有害作用について評価を行い、より適切な精神疾患の治療法について検討するプロセスを学ぶ。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 向精神薬の種類と、生体内での薬物動態の基礎を説明できる。</li><li>2. 向精神薬の臨床効果と有害作用について説明できる。</li><li>3. 修正型電気けいれん療法と反復経頭蓋磁気刺激療法の機序を説明できる。</li><li>4. 修正型電気けいれん療法と反復経頭蓋磁気刺激療法の臨床効果と有害作用について説明できる。</li><li>5. 薬物療法を受ける患者に対して高度実践看護師が実践する服薬支援について検討できる。</li></ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	薬物療法：抗精神病薬 抗精神病薬の生体内での薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）を理解し、臨床効果と有害作用の評価を行い、そのプロフィールをもとに、より優れた精神疾患の治療法を検討する。 臨床薬理学の知識をもとに、精神科領域での治療技法のひとつである薬物療法を具体的な事例に適用するうえでの臨床推論を学ぶ。
第2回	薬物療法：抗うつ薬 抗うつ薬の生体内での薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）を理解し、臨床効果と有害作用の評価を行い、そのプロフィールをもとに、より優れた精神疾患の治療法を検討する。 臨床薬理学の知識をもとに、精神科領域での治療技法のひとつである薬物療法を具体的な事例に適用するうえでの臨床推論を学ぶ。
第3回	薬物療法：気分安定薬 気分安定薬の生体内での薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）を理解し、臨床効果と有害作用の評価を行い、そのプロフィールをもとに、より優れた精神疾患の治療法を検討する。 臨床薬理学の知識をもとに、精神科領域での治療技法のひとつである薬物療法を具体的な事例に適用するうえでの臨床推論を学ぶ。
第4回	薬物療法：抗不安薬 抗不安薬の生体内での薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）を理解し、臨床効果と有害作用の評価を行い、そのプロフィールをもとに、より優れた精神疾患の治療法を検討する。 臨床薬理学の知識をもとに、精神科領域での治療技法のひとつである薬物療法を具体的な事例に適用するうえでの臨床推論を学ぶ。
第5回	薬物療法：抗てんかん薬 抗てんかん薬の生体内での薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）を理解し、臨床効果と有害作用の評価を行い、そのプロフィールをもとに、より優れた精神疾患の治療法を検討する。 臨床薬理学の知識をもとに、精神科領域での治療技法のひとつである薬物療法を具体的な事例に適用するうえでの臨床推論を学ぶ。

第6回	<p>薬物療法：睡眠薬</p> <p>睡眠薬の生体内での薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）を理解し、臨床効果と有害作用の評価を行い、そのプロフィールをもとに、より優れた精神疾患の治療法を検討する。</p> <p>臨床薬理学の知識をもとに、精神科領域での治療技法のひとつである薬物療法を具体的な事例に適用するうえでの臨床推論を学ぶ。</p>
第7回	<p>身体療法</p> <p>修正型電気けいれん療法（m-ECT）と反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）の作用機序を理解し、臨床効果と有害作用の評価を行い、そのプロフィールをもとに、より優れた精神疾患の治療法を検討する。</p>
第8回	<p>薬物療法・身体療法を受ける患者への看護</p> <p>薬物療法・身体療法を受ける患者の具体事例を用いて、高度実践看護師が実践する内容、方法、実践上での課題について検討する。</p>

成績評価（基準と方法）	<p>講義への参加状況（ディスカッションへの参加・配付資料の内容など） 70%</p> <p>レポート 30%</p>
教科書・参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>山田和男、黒木俊秀、神庭重信(翻訳)：カプラン精神科薬物ハンドブック 第5版 エビデンスに基づく向精神薬療法、メディカルサイエンスインターナショナル、2015.</li> <li>Stephan M. Stahl (著)、仙波純一、松浦雅人、太田克也（監訳）：ストール精神薬理学エッセンシャルズ 神経科学的基礎と応用 第4版、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2015.</li> <li>姫井照男：精神科の薬がわかる本 第4版、医学書院</li> <li>長嶺敬彦：抗精神病薬の「身体副作用」がわかる、医学書院</li> <li>長嶺敬彦：予測して防ぐ抗精神病薬の「身体副作用」、医学書院</li> <li>日本精神神経学会ECT・rTMS等検討委員会：ECTグッドプラクティス 安全で効果的な治療を目指して、新興医学出版社、2020.</li> <li>メユール・V.マンカッドら：パルス波ECTハンドブック、医学書院、2012.</li> </ol> <p>※他適宜紹介する。</p>
授業外学習課題	各講義内容に関する文献に目を通しておくこと。
オフィスアワー	メールで問い合わせること。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200115
講義名称	精神看護学実践演習Ⅲ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	チームティーチング
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 田井 雅子	看護学科
畠山 卓也	看護学科
池内 香	看護学科

資格・区分等	精神看護専門看護師必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,4を修得するために重要な科目
授業の概要	実践演習Ⅲでは、専攻分野専門科目（サブスペシャリティ）領域における直接ケア、およびケースマネジメントを実践する能力の向上に重点をおく。まず、専攻分野専門科目（サブスペシャリティ）領域（救急・急性期精神看護、慢性期精神看護、地域精神看護、リエゾン精神看護のいずれか）における精神看護専門看護師の活動の実際を体験することを通して、精神看護高度実践看護師としての役割（実践、教育、相談、調整、研究、倫理調整）を学ぶ。そして、選択する専攻分野専門科目（サブスペシャリティ）領域に特有の臨床上の問題をもつ対応困難な患者を受け持ち、直接ケア、およびケースマネジメントを実施することを通して、アセスメント能力・介入技法の向上・開発を目指す。同時に、ケースのケアのために必要な教育、相談、調整、倫理調整を実施していく。学生の専攻に応じて、4つのサブスペシャリティ領域（救急・急性期精神看護、慢性期精神看護、地域精神看護、リエゾン精神看護）から1領域を選択し履修する。
達成目標（達成水準）	精神看護学実践演習Ⅲは、実習を通して、精神看護高度実践看護師に必要とされる、専攻分野専門科目（サブスペシャリティ）領域における、直接ケア、およびケースマネジメントを実践する能力の基礎を修得する。 1.専攻分野専門科目（サブスペシャリティ）領域における精神看護専門看護師の活動の体験を通して、専門看護師の組織における位置付け・役割について理解したことを説明できる。 2.専攻分野専門科目（サブスペシャリティ）領域に特有の臨床上の問題をもつ対応困難な患者とその家族に対する包括的なアセスメントができる。 3.包括的なアセスメントを踏まえて、対応困難な患者とその家族に対する直接ケア、ケースマネジメントを実践できる。 4.受け持ったケースのケアのために必要な教育、相談、調整、倫理調整を実践できる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	第1週 1)専攻分野専門科目（サブスペシャリティ）領域における精神看護高度実践看護師の位置づけや活動内容について、精神看護CNSの活動に同行し参加観察することを通して理解する。 2)実際の精神看護専門看護師の活動の体験を通して、精神看護高度実践看護師としての役割を学ぶ。 3)実習の振り返りを通して、精神看護専門看護師からの助言を得る。

第2回	<p>第2週</p> <p>1)専攻分野専門科目（サブスペシャリティ）領域における直接ケアに焦点をあて、実際の精神看護CNSの直接ケアに参加し、高度実践看護師としての介入方法を学ぶとともに、精神看護CNSの指導のもと直接ケアを実践する。</p> <p>2) 実践した直接ケアについて振り返り、精神看護CNSからの助言を得る。</p>
第3回	<p>第3～4週</p> <p>1)学生は対応困難な患者を受け持ち、アセスメントを行い、介入を計画する。受け持ち患者に対して、スタッフと連携をもちながら、直接ケア、ケースマネージメントを展開する。</p> <p>2) 学生は精神看護CNS および教員のスーパーバイズを受けて、ケースの分析・精神療法的介入等を行う。</p> <p>3) 学生は受け持ったケースの必要に応じて、教育、相談、調整、倫理調整を実施する。</p>

成績評価（基準と方法）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習目的に沿って、到達度の評価を行う。</li> <li>・実習内容（実習記録、ケース記録、ケースレポートなど）（80%）および自己評価（20%）を通して、総合的に評価を行う。</li> </ul>
教科書・参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本専門看護師協議会監修、宇佐美しおり・野末聖香編集（2009）：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会</li> <li>2. 南裕子・稲岡文昭監修、粕田孝行編集（1987）：セルフケア概念と看護実践、へるす出版</li> <li>3. 南裕子編著（2005）：アクティブ・ナーシング 実践オレム-アンダーウッド理論 ころを癒やす、講談社</li> <li>4. G.O.ギャバード著、奥寺崇ら監訳（2019）：精神力動的精神医学 第5版 その臨床実践、岩崎学術出版</li> <li>5. E. H.シャイン著、稲葉元吉・尾川丈一訳（2002）：プロセス・コンサルテーション-援助関係を築くこと、白桃書房</li> <li>6. サラ T.フライ、メガン-ジェーン・ジョンストン著、片田範子・山本あい子訳（2010）：看護実践の倫理 倫理的意志決定のためのガイド（第3版）、日本看護協会出版会</li> </ol> <p>※実習深度に応じて、適宜参考文献は紹介する。</p>
授業外学習課題	<p>定期的に実習内容の記録を提出し、指導を受ける。最低でも週1回は提出を行う</p>
オフィスアワー	<p>実習の進行に応じて適宜決める</p>

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200116
講義名称	精神看護学実践演習Ⅳ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	チームティーチング
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 田井 雅子	看護学科
畠山 卓也	看護学科
池内 香	看護学科

資格・区分等	精神看護専攻教育課程 実習科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2,3を修得するために重要な科目
授業の概要	<p>精神科専門医、精神看護専門看護師の指導のもとに、精神疾患の診断・治療過程を理解し、アドバンストな精神状態を査定する能力、ケア(care)とキュア(cure)を統合させた高度な知識と技術を用いて、精神疾患を有する人とその家族が症状をコントロールしながら生活できるように支援する能力を修得する。</p> <p>精神看護学領域の専任教員のスーパービジョンのみならず、精神科専門医の指導をうけて、精神疾患の診断・治療過程を理解し、臨床的推論能力を修得する。精神疾患を有する人とその家族が症状をコントロールしながら生活できるように、疾患管理・症状マネジメントに関する能力を修得する。</p>
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>精神科によくみられる代表的な疾患をもつ患者に専門的なケアを提供するために、病態生理、検査とその解釈、治療法(薬物療法・栄養療法など)、症状マネジメントなどを含む治療過程を学び、理解したことを説明できる。</li><li>看護の視点から精神疾患の治療遂行支援に必要な医療処置を精神科医の包括的指示に基づいて実践する。</li><li>精神疾患を有する人とその家族が症状をコントロールしながら生活できるように、疾患管理・症状マネジメントについて具体的な方策を提案できる。</li><li>治療遂行支援に有用なプロトコルの開発を行うことができる。</li><li>ケア(care)とキュア(cure)を統合させた高度な実践を行う精神看護高度実践看護師としての役割を開発する。</li></ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	<p>第1～2週</p> <ol style="list-style-type: none"><li>精神科によくみられる代表的な疾患をもつ患者の診察場面に立ち会い、精神科専門医の指導の基に、精神疾患の診断・治療過程を理解し、アドバンストなアセスメントを学ぶ。</li><li>精神疾患の症状緩和において必要な専門的知識を理解する。</li><li>精神疾患の治療遂行支援に必要な包括的指示について理解する。</li><li>精神疾患の包括的アセスメントに基づきケア(care)とキュア(cure)を融合させたケア内容を立案し、実施、評価できる。</li><li>介入事例についての記録・討議を通して、臨床判断能力を高めることができる。</li><li>実習の振り返りを通して、精神科専門医、精神看護専門看護師からの助言を得る。</li></ol>

第2回	<p>第3～4週</p> <p>1) 介入事例が、症状をコントロールしながら生活できるように、疾患管理・症状マネジメントについて、事例、もしくはその家族に具体的な方策を提案する。</p> <p>2) 介入事例から、高度実践看護師が活用できるプロトコルを作成する。</p> <p>3) 実習の振り返りを通して、精神科専門医、精神看護専門看護師からの助言を得る。</p> <p>4) 精神看護実践演習Ⅳの評価会を開催し、精神科専門医、精神看護専門看護師、教員の評価、学生の自己評価をもとに、目標の到達度についてカンファレンスを行う。</p> <p>5) 高度な実践を行う精神看護専門看護師としての自己の課題を明確にし、精神看護実践演習Ⅴに反映させる。</p> <p>6) 介入事例については、実習指導者と相談して選定を行い、担当医の許可を得る。その後、実習生より患者に対して実習について説明し、介入への同意を得たうえで実習を行う。介入事例の状態により本人から同意を得ることや本人が判断・決定することが困難な場合は、家族に対して実習で受け持つことの説明を行い、家族の同意が得られた場合に介入を行う。</p>
-----	--

<b>成績評価（基準と方法）</b>	実習内容（実習記録、ケース記録、ケースレポートなど）（80%）および自己評価（20%）を通して、総合的に評価を行う
<b>教科書・参考書</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ベンジャミン・J. サドック、バージニア・A. サドック（編著）、岩脇淳、仙波純一（監訳）：カプラン臨床精神医学ハンドブック DSM-5診断基準による診療の手引、メディカルサイエンスインターナショナル</li> <li>2. 融道男、小見山実、大久保善朗、中根允文、岡崎祐士（翻訳）：ICD-10 精神および行動の障害-臨床記述と診断ガイドライン、医学書院</li> <li>3. 臨床精神医学 特集／精神科臨床評価検査法マニュアル、アークメディア</li> <li>4. 尾崎紀夫三村将、水野雅文村井俊哉（編集）：標準精神医学 第8版、医学書院</li> <li>5. 山田和男、黒木俊秀、神庭重信（翻訳）：カプラン精神科薬物ハンドブック 第45版、メディカルサイエンスインターナショナル</li> <li>6. 姫井照男：精神科の薬がわかる本 第4版、医学書院</li> </ol> <p>※実践の深度に応じて適宜参考文献は紹介する。</p>
<b>授業外学習課題</b>	<p>介入事例について記録をまとめる</p> <p>介入事例から、高度実践看護師が活用できるプロトコルを作成する</p>
<b>オフィスアワー</b>	実習の進行に応じて適宜決める

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200117
講義名称	精神看護学実践演習 V
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	チームティーチング
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 田井 雅子	看護学科
畠山 卓也	看護学科
池内 香	看護学科

資格・区分等	精神看護専攻教育課程 実習科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,4,6を修得するために重要な科目
授業の概要	<p>実践演習 V では、実践演習 I ～IVまでの内容をふまえ、精神看護高度実践看護師に必要とされる実践能力の統合を目指す。特にチーム医療の中での、コンサルテーション・コーディネーションに関する能力を修得する。</p> <p>具体的には、精神看護高度実践看護師として実習施設のニーズを査定し、ケアとキュアの統合に基づいた高度実践の内容（直接ケア・相談・調整・教育・研究・倫理調整）を用いて、実習施設のケアの質の向上を意識した活動を実践し、高度実践看護師としての役割の開発を行う（1単位分）。特に、受け持ち患者のケア提供者に対するコンサルテーションと、受け持ち患者のケアに携わる人々の間のコーディネーションを行い、相談・調整に関する能力を修得する（1単位分）。</p>
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>対応困難な患者とその家族について、包括的アセスメントを行い、治療とケアを統合した高度な看護ケアの実践ができる（直接ケア）</li><li>実習施設の看護の質を向上する上での課題を把握し、看護職者に対してケアを向上させるための教育を行うことができる（教育）</li><li>看護職者を含むケア提供者が抱えている課題を把握し、コンサルテーションを行うことができる（相談）</li><li>必要なケアが円滑に提供されるよう、保健医療福祉に携わる人々の間のコーディネーションを行うことができる（調整）</li><li>実践の場の研究活動を把握し、専門知識・技術の向上や開発を図るための研究活動を支援することができる（研究）</li><li>倫理的葛藤が生じた場合に、関係者間での倫理的調整を行うことができる（倫理調整）</li><li>高度実践看護師としての役割開発や戦略について意見を述べるができる</li></ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	<p>第1週</p> <p>1)これまでの実践演習をふまえ、Mental Status Examinationおよびオレム-アンダーウッド理論、精神力動的視点などを用いて受け持ち患者についてアセスメントを行ないながら、直接ケアを提供する。</p> <p>2)ケアに参加しながら、実習ノートを作成し、専任教員のスーパーバイズを受けながら分析し、理解を深める。</p> <p>3)対象者のアセスメントやケアの結果、及び実習ノートの内容を統合的に分析して、対象者の入院する病棟のニーズに応じた高度実践内容（直接ケア、教育、相談、調整、研究、倫理調整）を用いて介入するための方略を特定する。特に、チーム医療の中での、コンサルテーション・コーディネーションについては、必ず実施する。</p>
第2回	<p>第2～4週</p> <p>1) チーム医療の中での、コンサルテーション・コーディネーションに焦点をあてて、具体的な方略を立て、精神看護CNSと相談しながら介入を行う。</p> <p>2) 第1週で特定した相談、調整以外の高度実践内容について1つ以上あげ、具体的な方略を立て、精神看護CNSと相談しながら介入を行う。</p>

第3回	<p>題4週</p> <p>1) 実施した高度実践の内容の振り返りを通して、精神看護CNSと役割開発について意見交換する。</p> <p>2) 実践した高度実践内容（直接ケア、教育、相談、調整、研究、倫理調整）をまとめ、学内においてその成果を報告（実践報告の形式）し、フィードバックを受ける。</p>
-----	--

成績評価（基準と方法）	実習内容（実習記録、ケース記録、ケースレポートなど）（80%）および自己評価（20%）を通して、総合的に評価を行う。
教科書・参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本専門看護師協議会監修、宇佐美しおり・野末聖香編集（2009）：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会</li> <li>2. 南裕子・稲岡文昭監修、粕田孝行編集（1987）：セルフケア概念と看護実践、へるす出版</li> <li>3. 南裕子編著（2005）：アクティブ・ナーシング 実践オレム-アンダーウッド理論 ころろを癒やす、講談社</li> <li>4. G.O.ギャバード著、奥寺崇ら監訳（2019）：精神力動的精神医学 第5版 その臨床実践、岩崎学術出版</li> <li>5. E. H.シャイン著、稲葉元吉・尾川丈一訳（2002）：プロセス・コンサルテーション-援助関係を築くこと、白桃書房</li> <li>6. サラT.フライ、メガン-ジェーン・ジョンストン著、片田範子・山本あい子訳（2010）：看護実践の倫理 倫理的意志決定のためのガイド（第3版）、日本看護協会出版会</li> </ol> <p>※実習深度に応じて、適宜参考文献は紹介する。</p>
授業外学習課題	<p>週に1回以上、実習内容に関する記録を提出し、指導を受ける。</p> <p>実践した高度実践内容（教育、相談、調整、倫理調整）を資料としてまとめる</p>
オフィスアワー	実習の進行に応じて適宜決める
備考	実習施設および実習病棟の選択については、学生の臨床経験・学習状況の他、学生のサブスペシャリティを考慮して、統合的に判断して決定する

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200120
講義名称	家族看護方法論Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 瓜生 浩子	看護学科
岩崎 順子	看護学科
源田 美香	看護学科

資格・区分等	家族支援専門看護師必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,5を修得するために重要な科目
授業の概要	<p>家族看護学の基本的な考え方を学び、家族ケアの動向と課題を分析する。また、家族看護実践の基盤となる理論や概念、看護モデルを理解し、それらを家族看護に適用する際の有用性と限界について検討する。それらを踏まえ、理論や概念、看護モデルを用いて、それぞれの専門領域における高度実践看護師として、健康問題が個々の家族員や家族全体に及ぼす影響についてアセスメントする能力を修得する。また、高度実践看護師として果たすべき役割、機能について、さまざまな状況にある病者とその家族の現象を通して分析し、洞察する。</p> <p>家族看護学領域のCNSコースを専攻する学生は、さらに家族支援専門看護師の役割、機能に関する演習を行う。</p>
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 家族看護学の基盤となる理論や概念、それらを家族看護に適用する際の有用性と限界について理解する。</li> <li>2) 健康問題が家族に及ぼす影響について、家族看護学の基盤となる理論や概念を用いてアセスメントする能力を修得する。</li> <li>3) いくつかの家族看護モデルについて、それぞれの成り立ちや特徴を理解し、実践への適用について検討する。</li> <li>4) 各専門領域における家族看護に関する現状と課題を明らかにする。</li> </ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション クラスの進め方について 家族看護学の考え方、家族看護学の動向、家族看護学における理論や研究の動向、家族ケアの動向
第2回	システム理論：理論の成り立ちと構造を理解し、家族看護への適用について、その有用性と限界について検討する
第3回	構造機能理論：理論の成り立ちと構造を理解し、家族看護への適用について、その有用性と限界について検討する
第4回	家族周期論：理論の成り立ちと構造を理解し、家族看護への適用について、その有用性と限界について検討する
第5回	役割理論：理論の成り立ちと構造を理解し、家族看護への適用について、その有用性と限界について検討する
第6回	象徴的相互作用理論：理論の成り立ちと構造を理解し、家族看護への適用について、その有用性と限界について検討する
第7回	ストレス対処理論：理論の成り立ちと構造を理解し、家族看護への適用について、その有用性と限界について検討する

第8回	ヘルスプロモーション：理論の成り立ちと構造を理解し、家族看護への適用について、その有用性と限界について検討する
第9回	セルフケア理論：理論の成り立ちと構造を理解し、家族看護への適用について、その有用性と限界について検討する
第10回	家族看護モデル①：家族看護エンパワーメントモデルの特徴を理解した上で家族アセスメント、家族看護介入への適用について、その有用性と限界を検討する
第11回	家族看護モデル②：カルガリー式家族アセスメント/介入モデルの特徴を理解した上で家族アセスメント、家族看護介入への適用について、その有用性と限界を検討する
第12回	家族看護モデル③：渡辺式家族看護モデルの特徴を理解した上で家族アセスメント、家族看護介入への適用について、その有用性と限界を検討する
第13回	課題2の発表とディスカッション①：各学生が取り上げた事例について、これまでに学んだ理論やモデルを用いて、家族看護の視点から分析したものを題材として、ディスカッションを行う
第14回	課題2の発表とディスカッション②：前回に引き続いて、取り上げた事例について、アセスメントに基づき、専門看護師として解決に向けた方略を提案し、ディスカッションを行う
第15回	各専門領域における家族看護の現状と課題：各学生の専門領域における家族看護の現状を分析し、課題を明確化するとともに、それぞれが専門看護師としてどのように解決に向けて取り組むか、検討する

成績評価（基準と方法）	プレゼンテーションへの取り組み（40%）、課題レポート（30%）、ディスカッションへの参加度・貢献度（30%）などから総合的に評価する。
教科書・参考書	<p>1)～4)は、必ずしも購入する必要はありませんが、家族看護学の全体像や基本的な理論、考え方を理解する上で役立ちます。  5)～9)は、家族看護学の基盤となっている理論や概念を学ぶために参考にしていただきたい書籍です。  10)以下は、参考図書です。  その他、授業の進捗に合わせて、必要なものを提示します。</p> <p>1) 野嶋佐由美・中野綾美(編); 家族エンパワーメントをもたらす看護実践, へるす出版, 2005.  2) 鈴木和子・渡辺裕子; 家族看護学 理論と実践 第5版, 日本看護協会出版会, 2019.  3) M. M. Friedman, V. R. Bowden, E. G. Jones; Family Nursing Research, Theory, and Practice, 5th ed., Pearson Education, 2003.  4) 中野綾美, 瓜生浩子; 家族看護学 家族のエンパワーメントを支えるケア, メディカ出版, 2020.  5) フォン・ベルタランフィ(著), 長野敬, 太田邦昌(訳); 一般システム理論 その基礎・発展・応用, みすず書房, 1973  6) 森岡清美, 望月嵩著; 新しい家族社会学. 培風館, 1997.  7) 岡堂哲雄(編); 家族心理学入門 補訂版; 家族心理学入門. 培風館, 1999.  8) 佐藤悦子; 家族内コミュニケーション, 勁草書房, 1986.  9) 石原邦雄; 家族生活とストレス, 垣内出版株式会社, 1985.  10) 森山美知子; 家族看護モデル アセスメントと援助の手引き, 医学書院, 1995.  11) 野嶋佐由美, 渡辺裕子(編), 家族看護04 家族アセスメントに基づいた家族像の形成, 日本看護協会出版会, 2004.  12) 渡辺裕子; 渡辺式家族アセスメントモデルで事例を解く(家族ケアの技を学ぶ), 医学書院, 2007.  13) 柳原清子; 渡辺式家族アセスメント/支援モデルによる困った場面課題解決シート, 医学書院, 2012.  14) 家族ケア研究会; 家族生活力量モデル アセスメントスケールの活用法, 医学書院, 2002.  15) 法橋尚宏; 家族機能のアセスメント法—FFFS日本語版1の手引き, EDITEX, 2008.  16) 小林奈美; グループワークで学ぶ家族看護論第2版カルガリー式家族看護モデル実践へのファーストステップ, 医歯薬出版株式会社, 2011.</p>
授業外学習課題	<p>第3～9回 課題1：取り上げた理論を家族看護に適用する上での有用性と限界について自己の意見を述べる。また、それらの理論を用いて、1つの家族の事例を分析し、その家族の特徴をとらえる。  第13,14回 課題2：「対応困難だった家族」について、自己の臨床経験の中からまとめ、プレゼンテーションとディスカッションを行う。  課題3 各学生は、システム理論と課題1で取り上げた理論の中から2つを選択し、それぞれの専門領域の患者・家族（入院中の患者、在宅療養者、病気の子ども、高齢の患者、慢性疾患患者、がん患者、緩和ケアの必要な患者、終末期患者、周産期にある女性とその家族など）についてのアセスメントを行うとともに、各理論の視点から捉えた家族の特徴をまとめる。また、様々な理論を用いて家族を分析することの有用性と限界、学んだ理論を自分の専門領域でどのように活用できるかについて述べる。</p>
オフィスアワー	随時 事前にアポイントメントを取ってください
備考	瓜生・岩崎・源田の2名で担当する。 瓜生：088-847-8748、uryu@cc.u-kochi.ac.jp 岩崎：088-847-8615、jiwasaki@cc.u-kochi.ac.jp 源田：088-847-8719、genda_mika@cc.u-kochi.ac.jp

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200121
講義名称	家族看護方法論II
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 瓜生 浩子	看護学科
源田 美香	看護学科

資格・区分等	家族支援専門看護師必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2を修得するために重要な科目
授業の概要	家族の理解を基盤に、さまざまな場や状況にある家族を対象として、健康問題によって家族システムに生じる課題を理解し、家族看護学の知識を活用してアセスメントを行い、それに基づく具体的な家族への看護介入方法を修得する。すなわち、さまざまな状況にある家族を事例として用い、既習の理論等を活用しながら、家族との援助関係の形成、家族像の形成を行い、家族カウンセリングや家族教育、問題解決能力や対処能力の育成・強化、家族関係の調整、役割調整、ソーシャルサポートの活用、発達課題達成への働きかけ、危機への働きかけ、意思決定支援、家族のセルフケア強化などの看護介入方法を用い、家族の個性に合わせた具体的な家族への看護援助を修得する。また、これらの状況にある家族への看護に関する現状を分析し、既存の研究結果などを活用して家族への看護援助方法のあり方を検討する。さらに、家族への看護過程の展開、家族との援助関係形成の方法、看護介入の基盤となる看護者としての姿勢、高度実践看護師に求められるコンサルテーション技術について実践事例を通して修得する。
達成目標（達成水準）	1) 個人-家族-地域-保健医療福祉制度の力動的な関係をふまえて、家族の経験を理解し、家族ケアの視点を抽出することができる。 2) 個人と家族のダイナミズムを理解し、家族との援助関係形成のための方略を提示することができる。 3) 各専門領域において、家族の健康を促進するためのアプローチ方法を提案することができる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	家族の病気体験の理解、家族アセスメント（事例1）
第2回	家族像の形成、家族看護介入の検討（事例1）
第3回	事例の分析と看護介入の検討（事例2）① 家族の病気体験の理解、家族アセスメント、その結果を踏まえた家族像の形成

第4回	事例の分析と看護介入の検討（事例2）② 家族の役割調整への働きかけ、家族のコミュニケーション活性化への働きかけ
第5回	事例の分析と看護介入の検討（事例3）① 家族の病気体験の理解、家族アセスメント、その結果を踏まえた家族像の形成
第6回	事例の分析と看護介入の検討（事例3）② 家族教育、家族関係の調整への働きかけ
第7回	事例の分析と看護介入の検討（事例4）① 家族の病気体験の理解、家族アセスメント、その結果を踏まえた家族像の形成
第8回	事例の分析と看護介入の検討（事例4）② 家族のセルフケア強化、家族の発達課題達成への働きかけ
第9回	事例の分析と看護介入の検討（事例5）① 家族の病気体験の理解、家族アセスメント、その結果を踏まえた家族像の形成
第10回	事例の分析と看護介入の検討（事例5）② ソーシャルサポート活用への働きかけ、家族対処能力の育成・強化、家族危機への働きかけ
第11回	事例の分析と看護介入の検討（事例6）① 家族の病気体験の理解、家族アセスメント、その結果を踏まえた家族像の形成
第12回	事例の分析と看護介入の検討（事例6）② 家族の意思決定支援（合意形成）
第13回	家族看護実践の実際 実践事例を用いた検討① 家族との援助関係の形成：家族との間に協働関係、パートナーシップに基づいた援助関係を形成する方法について、実践事例を用いて検討する
第14回	家族看護実践の実際 実践事例を用いた検討② 家族看護介入方法の検討：家族像に基づいて、その家族にとって効果的な家族看護介入を選択する方法について、実践事例を用いて検討する
第15回	家族看護実践における課題と高度実践看護師としての役割 実践事例を振り返り、臨床において家族看護を実践する上での課題、高度実践看護師に期待される役割について検討する

成績評価（基準と方法）	クラス討議への参加度（40％）、各回の課題（30％）、事後課題・レポート（30％）から総合的に評価する。
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野嶋佐由美, 中野綾美編；家族エンパワーメントをもたらす看護実践, へるす出版, 2005.</li> <li>・野嶋佐由美, 渡辺裕子(編)；家族看護04 家族アセスメントに基づいた家族像の形成, 日本看護協会出版会, 2004.</li> <li>・M.M.Friedman, V.R.Bowden, E.G.Jones; Family Nursing Research, Theory, and Practice, 5th ed., Pearson Education, 2003.</li> <li>・Joanna Rowe kaakinen, Deborah Padgett Coehlo; Family Health Care Nursing Theory:Practice, and Research, 5th ed., F.A.Davis, 2015.</li> <li>・Bengtso Vern L, Acock Alan C, Klein David M, et al; Sourcebook of Family Theory and Research, Sage Pubns, 2005.</li> <li>・井部俊子, 大生定義(監修); 専門看護師の思考と実践, 医学書院, 2015.</li> <li>・井部俊子, 村上靖彦編; 現象学でよみとく 専門看護師のコンピテンシー, 医学書院, 2019.</li> </ul> その他必要に応じて提示する。
授業外学習課題	第1～12回 検討する事例は事前に目を通し、各回の事前課題として、家族の病気体験、家族アセスメント、家族看護介入について自分なりに考えてくる 第1～12回 家族の病気体験の理解、家族アセスメント、家族像の検討を行った回は、事後課題として、自分なりに家族像をまとめ、提出する 第15回 臨床において家族看護を実践する上での課題、高度実践看護師に期待される役割について、自分の考えをまとめる 事後課題 「家族看護エンパワーメントモデル」を用いて、これまでに出会った患者・家族（家族看護方法論Ⅰの課題2で取り上げた事例でもよい）のアセスメントを行い、家族像を形成し、家族への看護介入方法を提案する。
オフィスアワー	随時
備考	* クラスは瓜生と源田の2名で担当する。 瓜生：088-847-8748、uryu@cc.u-kochi.ac.jp 源田：088-847-8719、genda_mika@cc.u-kochi.ac.jp * 第1回～12回：事例の分析と看護介入の検討は、様々な家族の事例を取り上げ、家族看護エンパワーメントモデルを用いて家族の病気体験の理解を深め家族アセスメントを行い、形成した家族像に基づき、家族カウンセリングや家族教育、問題解決能力や対処能力の育成・強化、家族関係の調整、役割調整、ソーシャルサポートの活用、発達課題達成への働きかけ、危機への働きかけ、意思決定支援、家族のセルフケア強化などの看護介入方法を用いた具体的な援助方法を検討する。基本的には、一つの事例について、1回目は病気体験の理解とアセスメント、2回目は家族像の形成と看護介入の検討を行う（グループ討議）。 * さらに、がん看護学領域の学生は、緩和ケア特論のクラスでレポートを作成すること。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200122
講義名称	家族看護実践論Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	火曜日
代表時限	2時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 瓜生 浩子	看護学科
源田 美香	看護学科

資格・区分等	家族支援専門看護師選択科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2を修得するために重要な科目
授業の概要	診断・治療に関する既習の科目および家族看護対象論で学んだ知識体系を用いて、複雑な健康問題や多重課題を抱えた脆弱な状態にある家族に対して、ケアとケアの統合に基づく看護介入を行うためのアセスメントの方法と看護介入方法を探求する。脆弱な状態にある家族を統合的にアセスメントし、家族の情緒的支援、家族カウンセリング、家族の合意形成、家族内の倫理調整、家族と医療者間の倫理調整などを実践する方略と技術を修得する。
達成目標（達成水準）	1) 複雑な健康問題や多重課題を抱えた脆弱な状態にある家族の特徴、家族の脆弱性をもたらす要因とその関連性について説明できる。 2) 複雑な健康問題や多重課題を抱えた家族のアセスメント、家族の構造・機能的な脆弱性の診断、家族の脆弱性をもたらしている健康問題の診断・治療に関するアセスメントの視点を提示できる。 3) 脆弱な状態にある家族への支援における課題を理解し、具体的な支援方法や介入の方略を修得する。

## 授業計画表

回	内容
第1回	家族の脆弱性とは、家族の脆弱性をもたらす要因、複雑な健康問題や多重課題を抱えた家族の特徴
第2回	脆弱な家族の理解・支援に関する概念・理論：エンパワメント、レジリエンス、ストレングスモデル
第3回	脆弱な家族への支援方法と支援における課題
第4回	家族のアセスメント・脆弱性の診断：複数の家族員が健康問題をもつ家族
第5回	家族への支援方法：複数の家族員が健康問題をもち脆弱な状態にある家族
第6回	家族への介入技術：複数の家族員が健康問題をもち脆弱な状態にある家族
第7回	家族のアセスメント・脆弱性の診断：マンパワーが少なく脆弱な状態にある家族
第8回	家族への支援方法：マンパワーが少なく脆弱な状態にある家族
第9回	家族への介入技術：マンパワーが少なく脆弱な状態にある家族
第10回	家族のアセスメント・脆弱性の診断：家族員の健康問題に巻き込まれ脆弱な状態にある家族

第11回	家族への支援方法：家族員の健康問題に巻き込まれ脆弱な状態にある家族
第12回	家族への介入技術：家族員の健康問題に巻き込まれ脆弱な状態にある家族
第13回	家族のアセスメント・脆弱性の診断：被災により脆弱な状態にある家族
第14回	家族への支援方法：被災により脆弱な状態にある家族
第15回	家族への介入技術：被災により脆弱な状態にある家族

成績評価（基準と方法）	課題への取り組み・プレゼンテーション（50%）、ディスカッションへの参加度・貢献度（50%）などから総合的に評価する。
教科書・参考書	必要に応じて提示する。
授業外学習課題	第4, 7, 10, 13回 提示する家族の事例について、アセスメントを行った上で臨むこと 第5, 8, 11, 14回 提示する事例について、前の回のアセスメント結果を踏まえ、家族へのケア計画を立案した上で臨むこと 第6, 9, 12, 15回 前の回に立案したケア計画の一部を取り上げ、具体的な介入方法をイメージした上で臨むこと
オフィスアワー	随時
備考	・瓜生と源田の2名で担当する。 瓜生：088-847-8748、uryu@cc.u-kochi.ac.jp 源田：088-847-8719、genda_mika@cc.u-kochi.ac.jp ・第6, 9, 12, 15回については、シミュレーション演習やロールプレイにより、介入方法を実践的に学ぶとともに、その振り返りを通して、効果的な介入のための方略や介入の技術を明確化し、実践における課題や留意点について考察する。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200123
講義名称	家族看護実践論II
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
大川 宣容	看護学科
◎ 瓜生 浩子	看護学科

資格・区分等	家族支援専門看護師必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2を修得するために重要な科目
授業の概要	診断・治療に関する既習の科目および家族看護対象論で学んだ知識体系を用いて、クリティカルな状況にある人とその家族に対して、ケアとキュアの統合に基づく看護介入を行うためのアセスメントの方法と看護介入方法を探求する。クリティカルな状況にある人とその家族を統合的にアセスメントし、家族の情緒的支援、家族カウンセリング、家族の合意形成、家族内の倫理調整、家族と医療者間の倫理調整などを実践する方略と技術を修得する。
達成目標（達成水準）	1. クリティカルな状況にある人とその家族の回復や状態の安定に向けて看護過程を展開することができる。 2. クリティカルな状況にある人と家族に合わせた治療環境の管理と調整ができる。 3. クリティカルな状況における家族看護の展開について、家族アセスメントに基づく家族への援助方法を修得する。

## 授業計画表

回	内容
第1回	クリティカルケア看護における臨床判断と問題解決 ；ケアとキュアの統合に必要な臨床判断の内容とその手がかり、臨床判断への影響要因、クリティカルケア看護における問題解決のプロセスと必要な能力
第2回	クリティカルケア看護における援助的人間関係とその形成プロセス ；クリティカルな状況にある患者および家族との援助的人間関係の特徴、その形成プロセス、関係形成の重要性と困難性、援助者に必要な姿勢
第3回	クリティカルケア看護におけるコミュニケーションの特徴とその技術 ；クリティカルな状況における患者・家族・医療者間のコミュニケーションの特徴、その中で生じやすい問題とその背景、効果的なコミュニケーション技法
第4回	クリティカルな状況での家族看護エンパワーメントモデルの活用(1) ；クリティカルな状況にある患者と家族の事例について、家族看護エンパワーメントモデルを活用し、家族の病気体験の理解、家族アセスメント、家族像の形成
第5回	クリティカルな状況での家族看護エンパワーメントモデルの活用(2) ；クリティカルな状況にある患者と家族の事例について、家族看護エンパワーメントモデルを活用し、家族看護介入の検討
第6回	クリティカルな状況での家族への看護介入－家族の合意形成 ；クリティカルな状況における意思決定の特徴、家族の意思決定・代理意思決定のプロセス、その中で生じやすい倫理的課題、家族の合意形成を支える看護介入

第7回	クリティカルな状況での家族の分析と看護介入 (1) ; 治療に関する代理意思決定を求められている家族のアセスメントと看護介入の検討
第8回	クリティカルな状況にある家族の分析と看護介入 (2) ; 「救う医療」から「看取る医療」への転換過程にある家族のアセスメントと看護介入の検討
第9回	クリティカルな状況にある人と家族に対する看護援助 (1) ; 呼吸に問題を持つ患者と家族のアセスメントと看護介入
第10回	クリティカルな状況にある人と家族に対する看護援助 (2) ; 循環に問題を持つ患者と家族のアセスメントと看護介入
第11回	クリティカルな状況にある人と家族に対する看護援助 (3) ; 中枢神経系に問題を持つ患者と家族のアセスメントと看護介入
第12回	クリティカルな状況にある人と家族に対する看護援助 (4) ; 多発外傷患者と家族のアセスメントと看護介入
第13回	クリティカルな状況にある人と家族に対する看護援助 (5) ; 敗血症患者と家族のアセスメントと看護介入
第14回	クリティカルな状況にある人と家族の心理社会的側面に対する看護援助 ; 生命の危機的状況に突然直面した患者と家族の心理社会的側面のアセスメントと看護介入
第15回	まとめ ; 第14回までの学習内容をふまえ、クリティカルな状況にある人と家族に対する看護のポイントと課題、専門看護師の役割について検討

<b>成績評価 (基準と方法)</b>	課題への取り組み (40%)、プレゼンテーション (30%)、ディスカッションへの参加度・貢献度 (30%) などから総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	講義の中で資料の配布、及び国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・野嶋佐由美監修：家族エンパワーメントをもたらす看護実践，へるす出版，2005.</li> <li>・中野綾美，瓜生浩子：家族看護学 家族のエンパワーメントを支えるケア，メディカ出版，2020.</li> <li>・日本クリティカルケア看護学会監修：看護のためのクリティカルケア場面の問題解決ガイド 基礎からわかる臨床に活かす倫理調整，三輪書店，2013.</li> <li>・ボブ・ライト著/若林正訳：突然の死 そのとき医療スタッフは，医歯薬出版，2002.</li> <li>・ポーリン・ボス著/南山浩二訳：「さよなら」のない別れ 別れのない「さよなら」-あいまいな喪失-，学文社，2005.</li> <li>・A・デーケン，柳田邦男編：〈突然の死〉とグリーフケア，春秋社，1997.</li> <li>・小島操子著：看護における危機理論・危機介入 改訂第2版 フィンク/コーン/アグイレラ/ムース/家族の危機モデルから学ぶ，金芳堂，2008.</li> <li>・野嶋佐由美，渡辺裕子編集：生命の危機状態にある患者の家族への看護，家族看護，3 (2)，2005.</li> <li>・山勢博彰，藤野崇，能芝範子編集：クリティカルケア領域での家族看護，家族看護，10 (2)，2012.</li> <li>・Carlson KK: AACN Advanced Critical Care Nursing, Saunders, 2008</li> </ul>
<b>授業外学習課題</b>	第9～14回 各回で取り上げる状況にある人と家族の事例について、各自アセスメントを行い、家族へのケア計画を立案した上で授業に参加すること
<b>オフィスアワー</b>	随時
<b>備考</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瓜生と大川が担当する。大川：088-847-3102、okawa@cc.u-kochi.ac.jp</li> <li>・第9回～第14回については、シミュレーション演習により、介入方法を実践的に学ぶとともに、その振り返りを通して、効果的な介入のための方略や介入の技術を明確化し、実践における課題や留意点について考察する。</li> </ul>

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200124
講義名称	家族療法
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必修区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 瓜生 浩子	看護学科

授業の概要	家族療法の基本的技法の修得を目的として講義・演習を行う。家族の健康を家族のダイナミクスの視点からとらえて分析する。家族療法の代表的学派を学び、演習を通して基本的技法を修得し、さらに専門看護師として、家族に対するセラピーを行う能力を育成する。ビデオや家族教室への参加を通じた体験学習を行い、セラピストとしての振り返りや技術の習得をし、事例検討や家族療法設備を活用したロールプレイを行い家族療法技術の看護場面への応用を検討する。精神看護CNSコース専攻の学生は、特にセラピストとしての技術の習得と技術を発展させる能力を養う。
達成目標（達成水準）	1) 家族の健康を家族ダイナミクスの視点から捉え、家族を治療する基本的な能力を育成する。 2) 家族療法の代表的な学派について学び、演習を通してその基本的な技術を修得する。 3) 専門看護師として、1つの単位としての家族への看護介入法を発展させていく能力を養う。 4) 家族に対してセラピーを行っていくことができる能力を育成する。特に精神看護CNS専攻の学生は演習（ビデオやロールプレイ、ロールプレイの分析）や実習を通して、セラピストとしての技能と能力を発展させていく。

## 授業計画表

回	内容
第1回	家族療法とシステム論
第2回	家族療法の諸学派
第3回	ジェノグラム
第4回	家族の発達
第5回	自分の家族（演習）
第6回	ヘルピングスキル
第7回	無知の姿勢と明確化（演習）
第8回	解決志向アプローチとリフレイン
第9回	リフレイン（演習）
第10回	ソリューショントーク（演習）
第11回	ナラティブアプローチと複数面接
第12回	複数面接（演習）
第13回	実施上の留意点とIPR
第14回	IPR 1（演習）
第15回	IPR 2（演習）

成績評価（基準と方法）	クラスへの参加度及び貢献度、プレゼンテーションや演習への取り組みなどから評価する。
-------------	---

<b>教科書・参考書</b>	<p>&lt;参考文献&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊佐安一郎：家族療法入門－システムズ・アプローチの理論と実際，星和書店，1984.</li> <li>・実践精神科看護テキスト-5：家族関係障害者福祉，精神看護出版，2007.</li> <li>・日本家族研究・家族療法学会編：家族療法テキストブック，金剛出版，2013.</li> <li>・クララ・ヒル著，藤生英行監訳：ヘルピングスキル 探求・洞察・行動（アクション）のためのこころの援助法，第2版，金子書房，2014.</li> <li>・リン・ホフマン著，亀口憲治訳：家族療法の基礎理論－創始者と主要なアプローチ，朝日出版社，2006.</li> <li>・東豊：家族療法のヒント，金剛出版，2006.</li> <li>・中村伸一：家族療法の視点，金剛出版，1997.</li> </ul>
<b>授業外学習課題</b>	<p>&lt;予習する文献&gt;</p> <p>※第1，2，9，13，14章を予習。レポート提出は求めない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中釜洋子，野末武義，布柴靖枝，無藤清子：家族心理学 家族システムの発達と臨床的援助，第2版，有斐閣ブックス，2019.</li> </ul>
<b>オフィスアワー</b>	<p>随時</p>
<b>備考</b>	<p>&lt;演習学習方法&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族療法に関する文献や資料を活用して概念や技法に関するディスカッションを行う。</li> <li>2. ロールプレイやビデオを活用した振り返りなどを通じた体験学習を行い，家族療法の技法と基本姿勢を理解し，修得に努める。</li> <li>3. 家族療法技法の様々な看護場面への応用を検討する。</li> </ol>

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200125
講義名称	家族ケアの開発
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 瓜生 浩子	看護学科
源田 美香	看護学科

資格・区分等	家族支援専門看護師必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2,4を修得するために重要な科目
授業の概要	学生の関心ある家族看護領域のケアに関する現象を取り上げ、国内外の既存の研究成果や実践の動向をふまえ、既習の理論や知識を活用しながら、家族看護介入方法の計画立案や、特定の領域の家族に活用できる家族看護介入のマニュアルやガイドラインの作成に取り組む。これらを通して、家族支援専門看護師として新たな家族ケア方法を開発するための能力を育成する。
達成目標（達成水準）	1) 学生の関心ある領域を取り上げ、その領域における家族ケアの動向や特徴、課題などを説明することができる。 2) 特定の領域における家族看護に関する課題を取り上げ、その背景や家族ケアの動向をふまえた上で、新たな家族ケア方法を考案できる。 3) 考案した家族ケア方法の有用性と意義を考慮し、ケアマニュアルやケアガイドラインなど一般に活用できる形にまとめることができる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	クラスのオリエンテーション、看護におけるケアガイドライン・ケアマニュアル開発の意義、現状と今後の課題・展望、ケアマニュアル・ケアガイドライン開発のプロセス
第2回	学生の関心のある領域を1つ取り上げ、その領域における家族ケアに関する研究や実践の動向、社会制度や保健医療福祉制度、政策などについて分析し、家族ケアに関する課題を抽出する
第3回	第2回で明らかになった課題から1つを取り上げて、それに対する家族看護のケアマニュアルまたはガイドラインを作成するために、作成の目的、家族ケアの意義と方向性を明確にする
第4回	取り上げた課題について、これまでに学習した理論や研究成果を活用して、必要な家族ケアを抽出し、看護計画を立案する
第5回	立案した看護計画と家族ケア方法について、その妥当性と有用性を検討し、修正点や追加すべき事柄を明確にする
第6回	修正した看護計画と家族ケア方法について再検討し、家族ケアのマニュアルまたはガイドラインの構成と含むべき内容を検討する
第7回	既存の研究やケアマニュアル、ケアガイドラインなども参考にしながら、取り上げた課題に対する家族ケアのマニュアルまたはガイドラインを作成する
第8回	取り上げた課題に類似した状況にある家族へのケア経験のある看護師より、作成したマニュアルまたはガイドラインの有用性、実行可能性に関する意見を聴取し、洗練化を行う

成績評価（基準と方法）	クラス討議への参加（40%）、プレゼンテーション（30%）、事後課題・レポート（30%）から総合的に評価する。
教科書・参考書	必要に応じて提示する
授業外学習課題	第2回～第7回 各回の授業計画に従って、事前に必要な準備を行い、プレゼンテーション資料を作成すること
オフィスアワー	随時

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200128
講義名称	家族看護学実践演習Ⅲ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 瓜生 浩子	看護学科
源田 美香	看護学科

資格・区分等	家族支援専門看護師必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,4を修得するために重要な科目
授業の概要	家族支援専門看護師に必要な相談能力、調整能力、倫理的調整能力の修得に焦点をあてる。 臨床看護師が抱える家族看護に関する課題や困難、臨床における家族看護に関する倫理的課題を把握し、家族支援専門看護師の指導のもとで、その解決に向けたコンサルテーション技術、調整技術、倫理調整技術を修得する。また、高度実践看護師（家族支援専門看護師）として、組織やケアシステムにおけるニーズや課題を把握する方略、相談・教育・調整機能などを駆使し変革に取り組む方略について学ぶ。
達成目標（達成水準）	1）家族看護に関して看護職者に対するコンサルテーションを実施し、自己の課題を明確にできる。 2）患者とその家族が抱える複雑な課題について分析し、その解決に向け、保健医療福祉に携わる人々との調整を行うための方略を提案できる。 3）臨床における家族看護に関する倫理的課題について分析し、解決策を検討、提案できる。 4）組織やケアシステムの中での家族支援専門看護師の活動の実際を把握し、組織の変革者としての高度実践看護師（家族支援専門看護師）の役割と方略について考察する。

## 授業計画表

回	内容
第1回	家族看護学実践演習Ⅲ実習要項参照

成績評価（基準と方法）	達成目標と評価の基準に沿って、到達度の評価を行う。 実践演習内容、記録、個人カンファレンス、報告書を通して、総合的に評価を行う。
教科書・参考書	必要に応じて適宜提示する
授業外学習課題	実践演習の進行に合わせ、随時提示する
オフィスアワー	随時
備考	家族支援専門看護師がいる県外の施設で実習を行う。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200129
講義名称	家族看護学実践演習Ⅳ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 瓜生 浩子	看護学科
源田 美香	看護学科

資格・区分等	家族支援専門看護師必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2,3を修得するために重要な科目
授業の概要	<p>複雑で対応困難な問題の解決に向け、多職種との連携を図りながら、家族支援専門看護師として高度な専門的知識と技術を駆使して卓越したケアを提供する能力の修得に焦点をあてる。</p> <p>複雑で対応困難な問題をもつ患者と家族を受け持ち（4例程度）、ケア（care）とキュア（cure）を統合した高度な知識と技術を用いて、多職種からなる医療チームにおいて健康障害の治療・管理に参画しながら、エビデンスに基づく個別的なケア計画を立て看護を実践する。また、家族が抱える課題や困難を解決するために、家族支援専門看護師としてチームにおける調整的役割を遂行する。家族看護学領域の専任教員、専門看護師のスーパービジョンを受けながら行い、専門性を発展させていく。</p>
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>1）複雑で対応困難な問題をもつ患者と家族に対して、家族の置かれている状況を包括的にアセスメントして問題状況を分析し、それに基づいてケア計画を立案、実施、評価できる。</li><li>2）家族員の健康障害の診断・治療過程を理解し、身体状態の把握と管理、必要な療養管理を実施できる。</li><li>3）ケア（care）とキュア（cure）を統合した高度な知識と技術を用いて、家族が健康障害をマネジメントしながら家族生活を送れるように支援できる。</li><li>4）家族が抱える課題や困難を解決するために、あるいは家族に必要なケアが円滑に提供されるように、保健医療福祉に携わる人々間の連携と調整を図ることができる。</li></ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	家族看護学実践演習Ⅳ実習要項参照

成績評価（基準と方法）	達成目標と評価の基準に沿って、到達度の評価を行う。 実践演習内容、記録、個人カンファレンス、報告書を通して、総合的に評価を行う。
教科書・参考書	必要に応じて適宜提示する
授業外学習課題	実践演習の進行に合わせ、随時提示する
オフィスアワー	随時
備考	高知県下の訪問看護ステーションで実習を行う

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200130
講義名称	家族看護学実践演習 V
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 瓜生 浩子	看護学科
源田 美香	看護学科

資格・区分等	家族支援専門看護師必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,4を修得するために重要な科目
授業の概要	家族支援専門看護師に必要とされる、ケア（care）とキュア（cure）の統合に基づく高度な看護実践能力の統合および組織の変革者としての能力の修得に焦点をあてる。 実践演習Ⅰ～Ⅳの内容を活用し、専攻分野専門科目で学んだ知識と技術をさらに発展できるように、学生が専攻分野専門科目で選択した科目に合わせて、在宅療養の場または急性期医療の場において実習を行う。重篤な健康問題や多重課題をもつ家族を受け持ち（2例程度）、家族が抱える課題を総合的に分析し、ケア（care）とキュア（cure）を統合しながら、課題解決に向けた看護介入を行う。また、家族看護学領域の専任教員、専門看護師のスーパービジョンを受けながら、家族支援専門看護師として実習施設のニーズや課題を査定し、実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究の機能を駆使して、実習施設のケアの質の向上を意識した活動を実践する。その活動を通して、組織の変革者としての高度実践看護師（家族支援専門看護師）の役割と方略について考察する。
達成目標（達成水準）	1）重篤な健康問題や多重課題をもつ家族に対し、ケア（care）とキュア（cure）の統合に基づいた高度実践活動を実践できる。 ①家族員または家族集団に対して直接ケアを実践する（実践）。 ②看護者を含むケア提供者が抱えている課題を把握し、コンサルテーションを行う（相談）。 ③保健医療福祉に携わる人々間のコーディネーションを行う（調整）。 ④倫理的な葛藤が生じた場合に関係者間での倫理的調整を行う（倫理調整）。 ⑤看護職者に対してケアを向上させるための教育的機能を果たす（教育）。 ⑥専門知識・技術の向上や開発を図るための実践の場の研究活動を支援する（研究）。 2）実習施設の家族看護に関するケアの現状と課題を査定し、家族看護の質の向上を図るため、実習施設における課題を明確化し、組織変革のための方略を提案できる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	家族看護学実践演習 V 実習要項参照

成績評価（基準と方法）	達成目標と評価の基準に沿って、到達度の評価を行う。 実践演習内容、記録、個人カンファレンス、報告書を通して、総合的に評価を行う。
-------------	---

教科書・参考書	必要に応じて適宜提示する
授業外学習課題	実践演習の進行に合わせて、随時提示する
オフィスアワー	随時
備考	* 実習場所は、学生の関心や修了後の進路をふまえ、相談の上決定する。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200133
講義名称	在宅看護方法論II
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 川上 理子	看護学科

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200134
講義名称	在宅看護方法論III
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	講義・プレゼンテーション・ディスカッション
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 川上 理子	看護学科

資格・区分等	在宅看護専攻教育課程 専攻分野専門科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3・DP4を達成するために必要な科目である。
授業の概要	既存の理論や研究の分析を通して、根拠に基づいたケア効果やケアの質評価の方法、ケアスタッフの人材育成、新たな在宅看護におけるケアの質の評価、質の改善方法について探求する。また、ケアの質管理、経営管理などに関する、卓越した看護実践や相談、教育などの活動を含めた在宅看護領域における高度実践看護師の役割について検討する。
達成目標（達成水準）	1. 既存の理論や研究の手法を用いて、根拠に基づいたケアの効果やケアの質を分析する方法を説明できる。 2. 在宅ケアスタッフの人材育成の課題について分析、説明し、既存の理論や研究成果を用いて新たなケアの質改善の方法について提案できる。 3. ケアの質管理、経営管理などに関する卓越した看護実践や相談、教育などの活動を含めた在宅看護領域における専門看護師の役割とその活動について説明できる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	在宅看護に関するケアの効果と質の評価方法①（講義・ディスカッション） 在宅看護のケアの効果やケアの質評価に関する理論や研究等文献を概観し、在宅看護の根拠に基づいたケアの効果やケアの質評価方法について理解する。	川上理子
第2回	在宅看護に関するケアの効果と質の評価方法②（プレゼンテーション、ディスカッション） 褥瘡ケア、疼痛緩和ケアなどのケアを取り上げて在宅看護の根拠に基づいたケアの効果やケアの質評価指標について考案する。	川上理子
第3回	在宅看護における質改善の方法①（講義、ディスカッション） 看護の質改善に関する文献等を概観し、在宅看護の質改善の方法について理解を深め、在宅における高齢者へのケア（自立支援へのケアなど）の現状と課題を整理する。	川上理子
第4回	在宅看護における質改善の方法②（プレゼンテーション、ディスカッション） 在宅における高齢者へのケア（自立支援へのケアなど）の課題解決に向け、既存の理論や研究成果を活用して、ケアの効果を高める方略、ケアの質改善方法について考案する。	川上理子
第5回	在宅看護における人材育成の方法①（講義、ディスカッション） ケアスタッフの人材育成方法（OJT、OFFJT等）について既存の理論や研究等文献を概観し、理解を深める。	川上理子

第6回	在宅看護における人材育成の方法②（プレゼンテーション、ディスカッション） 訪問看護ステーションのタイプ別に模擬事業所を用いて、職員の資質向上に向けたケアスタッフの人材育成プログラムについて考案する	川上理子
第7回	在宅看護における質改善に向けたCNSの役割と機能①（プレゼンテーション、ディスカッション） 在宅看護の評価方法、ケアの効果や質改善の方法、人材育成方法の現状と課題をふまえ、そのなかでケアの質向上に向けた管理、経営管理などに関する、卓越した看護実践や相談、教育などの活動について考察する。	川上理子
第8回	在宅看護における質改善に向けたCNSの役割と機能②（プレゼンテーション、ディスカッション） 在宅看護における質改善に向けた在宅看護学領域における専門看護師の役割について考察する。	川上理子

<b>成績評価（基準と方法）</b>	クラス討議への参加(40%)、プレゼンテーション(30%)、事後課題・レポート(30%)
<b>教科書・参考書</b>	<p>島内節：現場で使える在宅ケアのアウトカム評価：ケアの質を高めるために、ミネルヴァ書房、2018</p> <p>島内節他編集：これからの高齢者看護学:考える力・臨床力が身につく、ミネルヴァ書房</p> <p>聖路加国際大学テレナーシングSIG編集：テレナーシング実践ガイドライン、ワールドプランニング、2013</p> <p>山本則子、石垣和子著：高齢者訪問看護の質指標、日本看護協会出版会、2008</p> <p>Marilyn D.Harris：Handbook of Home Health Care Administration Sixth Edition、Jones &amp; Bartlett Learning、2015</p> <p>Ora Lea Stricland、Colleen Dilorio著、井部俊子監修、中岡ひさ子訳：看護アウトカムの測定－患者満足とケアの質指標－、エルゼビアジャパン、2006</p> <p>AvedisDonabedian著、東尚弘訳：Explorations in Quality Assessment and Monitoring,Volume I The Definition of Quality and Approaches to its Assessment 医療の質の定義と評価方法、認定NPO法人健康医療評価機構、2007</p> <p>伊藤守：図解コーチングマネジメント,ディスカヴァー・トゥエンティワン、2005</p> <p>ゲイリー・レイサム著、金井 壽宏、依田 卓巳訳：ワークモチベーション、NTT出版、2009</p> <p>上淵寿、大戸治著：新・動機づけ研究の最前線、北大路書房、2019</p> <p>福島正伸：メンタリングマネジメント－共感と信頼の人材育成術、ダイヤモンド社、2005</p> <p>中原 淳他：企業内人材育成入門、ダイヤモンド社、2006</p> <p>シュロモ・ベンハー著、高津尚志訳：企業内学習入門－戦略なき人材育成を超えて、英治出版、2014</p> <p>小池智子・松浦正子・中西睦子編集：看護サービス管理第5版、医学書院、2018</p> <p>手島恵編集：人材管理論 2019年版、日本看護協会出版会、2019</p> <p>* その他、資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。</p>
<b>授業外学習課題</b>	<p>第1～8回：課題に対するプレゼンテーションの準備</p> <p>第8回終了後：高度実践看護師の役割についてレポート提出</p>
<b>オフィスアワー</b>	適宜、学生と時間調整して対応する。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200135
講義名称	在宅ケアシステム論
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 川上 理子	看護学科

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200138
講義名称	在宅療養診断治療学Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 川上 理子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1、DP2 を達成するために必要な科目である。
授業の概要	複雑な問題を持つ医療的ケアが必要な在宅療養者とその家族へのケアのなかで、呼吸機能障害を伴う疾患、神経難病、循環器疾患をもつ療養者へのケアとケアに焦点を当て、医師からの包括的指示、支援のもと展開する、診断治療（検査方法、処置、対症療法、薬物療法等を含む）・療養・生活過程を統合した専門的アセスメント能力とエビデンスに基づいた高度な実践能力を修得する。また、既存の研究成果や実践報告、個々の体験を活用しながら現状の課題を分析し、看護職のみならずケア提供者のケアの質向上に向け、チームケアを展開できる能力を培う。
達成目標（達成水準）	1. 診断治療（検査方法、処置、対症療法、薬物療法等を含む）・療養生活状況を統合した専門的アセスメント方法について説明できる。 また、エビデンスに基づいた看護援助、評価方法が提案できる。 2. 現状のケアの質の課題を分析、説明できる。 3. ケアスタッフの教育や相談、多職種と連携調整のあり方について提案できるとともに、今後の展望について提案できる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	内分泌・代謝障害を伴う疾患に関する診断と治療① ・内分泌・代謝障害を伴う疾患の診断と検査方法、処置、対症療法（薬物療法を含む） ・内分泌・代謝障害療養者に対する治療（適用、内容、効果の判定、療養者への教育） ・日常生活への影響や留意点	池田幸雄
第2回	内分泌・代謝障害を伴う疾患に関する診断と治療② ・内分泌・代謝障害を伴う疾患の診断と治療におけるエビデンスに基づいた看護援助、評価方法を考察する	池田幸雄
第3回	ALSなど医療的ケアが伴う神経難病に関する診断と治療① ・診断基準検査方法 ・基本的な治療法と選択基準 ・重症度の判定基準 ・重症度に応じた治療法、処置方法の選択とインフォームドコンセントの理解	橋本侑
第4回	ALSなど医療的ケアを伴う神経難病に関する診断と治療② ALSなど医療的ケアを伴う神経難病に関する診断と治療におけるエビデンスに基づいた看護援助、評価方法を考察する	橋本侑

第5回	循環器系疾患に関する診断と治療① <ul style="list-style-type: none"> <li>・虚血性心疾患、心不全等における診断、検査方法</li> <li>・基本的な治療法と選択基準</li> <li>・疾患・症状の生活への影響に関する判断（心肺機能と安静度）</li> <li>・虚血性心疾患、心不全等に対する薬物療法</li> <li>・心機能に応じたりハビリテーションプログラム</li> <li>・日常生活への影響や留意点</li> </ul>	尾原義和
第6回	循環器系疾患に関する診断と治療② 循環器系疾患（心機能障害を伴う疾患を中心として）に関する診断と治療におけるエビデンスに基づいた看護援助、評価方法を考察する	尾原義和
第7回	在宅療養者の診断治療過程における看護援助方法の探求① 学生の関心領域の在宅療養者の障害、症状、兆候に対する包括的アセスメントを検討しプロトコールを作成する	プレゼンテーション・ディスカッション
第8回	在宅療養者の診断治療過程における看護援助方法の探求② プロトコールに基づいて看護援助、評価方法を考察する	プレゼンテーション・ディスカッション

成績評価（基準と方法）	クラス討議への参加(20%)、プレゼンテーション(20%)、事後課題・レポート(60%)
教科書・参考書	心疾患、消化器疾患、免疫疾患に関する最新の診療ガイドライン Tracy, M.F., O'Grady, E.T. (Eds.) 中村美鈴・江川幸二監訳：高度実践看護統合的アプローチ第2版、へるす出版、2020。 適宜、資料の配布および国内外の重要図書・文献の紹介などを適宜
授業外学習課題	講義の目的・目標に沿って、自分なりの目的・目標を設定し、自己の知識を体系化するよう予習・復習を進めて下さい。 講義でディスカッションができるように準備しておいて下さい。例えば、科書を批判的に熟読し、ノートに整理しておくなど、それぞれの目標に沿って事前学習を進めておいて下さい。 講義で検討した事項について、十分に理解できたか振り返り、不足する部分を探求し、ノートに整理しておくなど、それぞれの目標に沿って復習をして下さい。
オフィスアワー	講随時、対応しますが、事前にアポイントメントをとって下さい。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200140
講義名称	在宅リエゾン看護論
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	講義・演習
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 川上 理子	看護学科

資格・区分等	在宅看護専攻教育課程 専攻分野専門科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1、DP2、DP3を修得するために重要な科目
授業の概要	様々な疾病や障害を持ちながら在宅へ移行する療養者とその家族を対象に臨床と在宅を繋ぐリエゾン看護の視点と概念（リエゾン、移行、システム分析、ネットワーク構築、チームケア）について理解を深める。これらを基盤に、各領域の対象を倫理的判断・臨床判断にもとづき包括的にアセスメントし、エビデンスに基づいた支援計画を立案するとともに、院内外の臨床と在宅を繋ぐケアシステムの変革、及びケアスタッフの教育や相談、多職種と連携調整する能力を高める。さらに、既存の研究成果や実践報告、個々の体験を活用しながら対象を分析し、現状の課題と今後の展望について洞察する。
達成目標（達成水準）	1. リエゾン看護の視点と概念（リエゾン、移行、システム分析、ネットワーク構築、多職種協働）について説明できる。 2. これらを基盤に、倫理的判断・臨床判断にもとづき各領域における対象を包括的にアセスメントし、エビデンスに基づいた在宅移行支援計画を立案し、包括的なケアの協働体制を提案できる。 3. 院内外のケアシステムを分析し、課題を抽出し、変革案を提案できる。 4. 在宅移行支援の質向上ならびに在宅移行支援に関する院内外のネットワークやケアシステムの改善、強化に向けたケアスタッフの教育や相談、多職種と連携調整する方策を提案できる。 5. 既存の研究成果や実践報告、個々の体験を活用しながら対象を分析し、現状の課題と今後の展望について説明できる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	リエゾン看護が求められる社会的背景 様々な疾病や障害を持ちながら在宅へ移行する療養者とその家族を対象に臨床と在宅を繋ぐリエゾン看護が求められる社会的背景や重要性を理解する。	川上理子
第2回	リエゾン看護の視点と概念 ①リエゾン ②移行	川上理子
第3回	リエゾン看護の視点と概念 ③システム分析	川上理子
第4回	リエゾン看護の視点と概念 ④ネットワーク	川上理子
第5回	リエゾン看護の視点と概念 ⑤多職種協働	川上理子
第6回	在宅移行支援のプロセス ①包括的アセスメントと課題の検討 在宅移行支援のプロセスを理解し、支援が必要な対象者と家族を倫理的判断・臨床判断にもとづき包括的にアセスメントし、課題を検討する。	川上理子
第7回	在宅移行支援のプロセス ②支援計画の立案 在宅移行支援の必要な対象者と家族の包括的にアセスメント、エビデンスに基づいた支援計画を立案する。	川上理子

第8回	在宅移行支援の看護介入 ③意思決定支援 在宅リエゾン看護の実践における患者・家族の意思決定力のアセスメント、希望や価値観など対象の理解、個性、多様性を考慮した意思決定を支える支援方法を検討する。	川上理子
第9回	在宅移行支援の看護介入 ④患者・家族教育 在宅リエゾン看護の実践における患者・家族教育の目的や具体的な支援方法を理解し、在宅移行支援に必要な疾病管理、療養指導、社会資源の調整などを検討する。	川上理子
第10回	在宅移行支援の看護介入 ⑤多職種連携調整とカンファレンス運営 在宅リエゾン看護の実践における多職種連携調整と多職種とのカンファレンス運営について理解し、在宅移行支援に必要な多職種とのケアチーム形成、ネットワーク構築の方法を検討する。	川上理子
第11回	在宅移行支援の看護介入 ⑥スタッフへの相談・教育 在宅移行支援プロセスを通じて必要になるスタッフへの相談、教育の内容と方法を検討する。	川上理子
第12回	各専門領域の在宅移行支援の実践① ※特性の理解 各専門領域の在宅移行支援における包括的アセスメント、課題の検討、支援計画の立案、チーム形成とネットワーク構築の特徴について、在宅移行支援の実践事例を用いて検討する。	川上理子
第13回	各専門領域の在宅移行支援の実践② 各専門領域の在宅移行支援における包括的アセスメント、課題の検討、支援計画の立案、チーム形成とネットワーク構築の特徴について、在宅移行支援の実践事例を用いて検討する。	川上理子
第14回	各専門領域の在宅移行支援の実践③ ※システム 各専門領域の在宅移行支援における医療機関等のシステム、地域のケアシステムの特徴について、在宅移行支援の実践事例を用いて検討し、課題の抽出、変革案を提案する。	川上理子
第15回	各専門領域における在宅リエゾン看護の課題と看護の役割 各領域の実践事例の展開を振り返り、今後の在宅リエゾン看護の課題、質の向上のために期待される看護の役割について検討する。	川上理子

<b>成績評価（基準と方法）</b>	クラス討議への参加(40%)、プレゼンテーション(30%)、事後課題・レポート(30%)から総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野中猛：図説ケアチーム、中央法規出版株式会社、2007</li> <li>・野中猛、野中ケアマネジメント研究会：多職種連携の技術、中央法規出版、2014</li> <li>・野中猛、上原久：ケア会議で学ぶケアマネジメントの本質、中央法規出版、2013</li> <li>・細田満和子「チーム医療」とは何か - 医療とケアに生かす社会学からのアプローチ、日本看護協会出版会、2012</li> <li>・佐々木利廣、大阪NPOセンター：地域協働のマネジメント、中央経済社、2018</li> <li>・篠田道子：多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル、医学書院、2018</li> <li>・田村由美：新しいチーム医療改訂版 - 看護とインタープロフェッショナル・ワーク入門、看護の科学社、2018</li> <li>・長江弘子：生活と医療を統合する継続看護マネジメント 第2版、医歯薬出版、2018</li> <li>・永田智子、田口敦子：外来から始める在宅療養支援、日本看護協会出版会、2021</li> <li>・宇都宮宏子：入院支援パーフェクトガイド看護がつなぐ「在宅ケア移行支援」の実践、メディカ出版、2019</li> </ul>
<b>授業外学習課題</b>	第2～14回 課題に対するプレゼンテーション準備 第15回終了後 各領域（がん看護、小児看護、精神看護、看護管理、災害看護等）におけるリエゾン看護の役割についてレポートを提出する。
<b>オフィスアワー</b>	適宜、学生と時間調整して対応する。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200141
講義名称	在宅リエゾン看護演習
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 川上 理子	看護学科

資格・区分等	在宅看護専攻教育課程 専攻分野専門科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1、DP2、DP3を修得するために重要な科目
授業の概要	各専門領域の退院支援や調整において、病院から在宅、また在宅から病院に移行する患者と家族を取り上げて、必要な院内外の入退院システムの分析を行う。その結果に基づき、入退院システムの改善、ケアチーム構築、チームアプローチの促進に向けた看護実践、教育、相談、多職種多組織の連携・調整方法を考案し、試行する。これらを通して、総合的視点を持って、在宅看護と各専門領域の看護を融合して、在宅医療の専門分化に対応する高度な看護実践能力の開発を行う。
達成目標（達成水準）	1. 各専門領域において複雑で多様な問題を持ち在宅移行支援が必要な入院患者をその家族を対象に専門的かつ包括的なアセスメントを行い、それに基づいて在宅移行支援計画を立案し、評価することができる。 2. 各専門領域において複雑な問題を持つ入院患者とその家族の対象特性やニーズに応じ、在宅移行期に継続して必要なケアが円滑に提供されるよう、保健医療福祉に携わる人々間のケアチームのあり方やコーディネーションについて説明できる。 3. 地域ネットワークを構築するとともに院内の入退院システムや在宅ケアシステムの課題を分析し、社会資源を開発するとともに院内の入退院システムや在宅ケアシステムの改善発展に向けたアプローチについて提案することができる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	達成目標1～3到達のために、以下を実施する。 ・各専門領域における、複雑で多様な問題を持ち在宅移行支援が必要な入院患者と家族を対象とした包括的なアセスメント、在宅移行支援計画、評価方法を考案する。 ・入退院支援に関わる病棟、関係部署やスタッフ、在宅の保健医療福祉に携わる人々間の連携システムを分析する。 ・連携協働におけるチームのあり方や具体的なコーディネーションの方略を立案する。 ・病院	川上理子

成績評価（基準と方法）	プレゼンテーション（30%）、グループ討議（30%）提出物(40%)から総合的に評価する。
教科書・参考書	適宜、紹介する。
授業外学習課題	各回、事前に必要なプレゼン資料を作成の上、演習に参加すること。
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200144
講義名称	在宅看護学実践演習Ⅲ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 川上 理子	看護学科

資格・区分等	在宅看護専門看護師必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,4を修得するために重要な科目
授業の概要	在宅看護専門看護師に相当する訪問看護の卓越した実践経験や訪問看護ステーション所長として看護管理に関する実践経験のある看護師の指導のもとに、在宅看護専門看護師としての役割（卓越した実践、ケアスタッフの教育、相談、連携調整、倫理的問題の調整）を学ぶ。 また、訪問看護ステーションにおける運営やケアの質の管理の現状と課題について分析し、効果・効率的な経営管理、ケアの質改善方法について理解を深める。
達成目標（達成水準）	1. 在宅移行期、在宅継続療養継続期にある療養者とその家族の健康問題や生活上の課題を包括的にアセスメントできる。（卓越した実践） 2. 在宅看護学領域において、看護職者や他領域のケア提供者に対してケアを向上させるための教育的活動を実施できる。（教育） 3. 在宅看護学領域において、看護職者を含むケア提供者に対してのコンサルテーション技術について説明できる。（相談） 4. 在宅看護学領域において、必要なケアが円滑に提供されるために、保健医療福祉に携わる人々間の調整方法、及び技術について説明できる。（連携調整） 5. 在宅ケア特有の倫理的問題の解決方法について提案できる。（倫理的問題の調整）

## 授業計画表

回	内容
第1回	在宅看護学実践演習Ⅲ 要項参照

成績評価（基準と方法）	実践演習の内容、カンファレンス、提出物、実習施設における指導者からの評価、学生の自己評価から総合的に行う。
教科書・参考書	実践演習の中で、適宜紹介する。
授業外学習課題	実践演習要項に示す
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。
備考	実習施設：神戸訪問看護ステーション

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200145
講義名称	在宅看護学実践演習Ⅳ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 川上 理子	看護学科

資格・区分等	在宅看護専門看護師必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1を修得するために重要な科目
授業の概要	在宅診療医師、在宅看護専門看護師に相当する訪問看護ステーション看護師として卓越した実戦経験のある看護師の指導の下に、在宅療養者へのアドバンスな身体状態の査定、疾患の診断や治療過程について理解し、ケア（Care）とキュア（Cure）を融合させた高度な知識と技術を用いて在宅療養者の治療・療養過程を管理しながら、実践できる能力を習得する。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>生活課題や治療によって生じた課題に対し、医師の包括的指示のもと、専門的ケアを提供するために必要な、薬物療法、栄養療法、処置などを含む治療過程を説明できる。</li><li>看護の視点から在宅療養者の身体管理と治療遂行支援に必要な医療処置を在宅診療医師の包括的指示に基づき実践できる。</li><li>在宅療養者に対し、問診とフィジカルイグザミネーションによる身体評価から、包括的指示のもと、必要な検査の選択と正確な身体状態の把握、必要な医療処置・薬剤の投与の実施、実施後のモニタリングを行うという一連の過程を、実践できる。</li><li>身体管理と治療遂行支援に有用なプロトコルの開発を行うことができる。</li><li>ケア(care)とキュア(cure)を融合させた高度な実践を行う在宅看護専門看護師としての役割を説明できる。</li></ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	在宅看護学実践演習Ⅳ要項参照

成績評価（基準と方法）	実践演習の内容、カンファレンス、提出物、実習施設における指導者からの評価、学生の自己評価から総合的に行う。
教科書・参考書	実践演習の中で、適宜紹介する。
授業外学習課題	実践演習要項に示す
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。
備考	実習施設：かもだの診療所

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200146
講義名称	在宅看護学実践演習V
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 川上 理子	看護学科

資格・区分等	在宅看護専門看護師必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,4を修得するために重要な科目
授業の概要	難病など高度な医療的ケアが必要な療養者を受け持ち、アドバンストな身体状態の査定、疾患の診断や治療について修得するとともに、医療機関の医師や薬剤師、介護職等と連携・協働して、ケア（Care）とキュア（Cure）を融合させた高度な知識と技術を用いて在宅療養者の治療・療養過程全般を管理し、実践できる能力を習得する。また、訪問看護ステーション等の事業の管理・運営及び、ケアの改善方法について訪問看護ステーションにおけるケアの運営や質の管理の現状と課題について分析し、効果的・効率的な経営管理、ケアの質改善方法について理解を深める。さらに、ケアの質向上に向け、在宅ケアスタッフへの教育、相談に関わり、在宅看護専門看護師としての基礎的実践能力の開発を行う。高度な医療的対応および処置が必要な療養者とその家族を対象とした在宅看護専門職に必要な高度な実践能力とケア開発能力、倫理的判断能力、教育、相談、多職種多組織との連携・調整に関する能力を高めることを目指して、在宅看護学領域の専任教員のスーパービジョンをうけながら、実践演習を行う。
達成目標（達成水準）	1. 医療的対応及び処置が必要な療養者とその家族を対象として、包括的なアセスメントを行い、それに基づいてケア計画を立案、実施し、評価できる。（卓越した実践） 2. 訪問看護ステーションの管理運営、ケアの質改善に向けた課題を明らかにできる。（卓越した実践） 3. 看護職者を含むケア提供者に対して医療的対応及び処置が必要な利用者とその家族への看護ケアを向上させるための教育的課題を把握し、教育活動を実施できる。（教育） 4. 看護職者を含むケア提供者が抱えている課題を把握し、コンサルテーションを実施できる。（相談） 5. 必要なケアが円滑に提供されるよう、保健医療福祉に携わる人々とのコーディネーションを行うことができる。（連携調整） 6. 地域ネットワークについて分析し、ネットワークを形成発展させるための方策、社会資源の開発について提案できる。（連携調整） 7. 専門知識・技術の向上や開発を図るために実践の場における研究活動を支援できる（研究）。 8. 在宅看護学領域において、倫理的問題・葛藤が生じた場合に関係者間での倫理的調整を実施できる。（倫理的問題の調整）

## 授業計画表

回	内容
第1回	在宅看護学実践演習V要項 参照

成績評価（基準と方法）	実践演習の内容、カンファレンス、提出物、実習施設における指導者からの評価、学生の自己評価から総合的に行う。
教科書・参考書	実践演習の中で、適宜紹介する。

授業外学習課題	実践演習要項に示す
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。
備考	指導教員：川上理子(高知県立大学大学院看護学研究科) 実習施設：高知中央訪問看護ステーション

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200150
講義名称	感染症看護セミナー
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
代表曜日	木曜日
代表時限	5時限
講義開講時期	後期前半
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 木下 真里	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2を修得するために重要な科目
授業の概要	<p>感染症患者は、深刻な人権侵害の被害者になりやすい。また、差別・迫害を恐れて感染を隠避するために、人間関係が破綻したり、意図せず感染を拡大させてしまったり、症状を悪化させてしまったりする場合がある。このため、感染症患者に対する看護ケアは、医療的支援や環境衛生・セルフケアだけでは十分とはいえず、心理、生活、社会的な状況まで幅広くとらえる必要がある。</p> <p>この科目では、三大感染症(HIV/エイズ、結核、マラリア)、新興・再興感染症など主要感染症の診断・治療・予防法および疫学動向についての最新知識を確認した上で、感染症患者の心理・生活、社会環境に注目した看護ケアについて学習する。感染者を取り巻く人間関係・地域社会の現状をもたらず社会的文化的な背景や、公衆衛生的なインパクトについて議論を展開する。さらに、国内外の医療機関、地域、災害現場などにおける看護職の多様な役割を論じる。感染症専門家や当事者の意見を聞く機会を持つ。</p>
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 主要感染症の診断、治療、予防、疫学動向の最新知識を更新する。</li><li>2. 感染症が人々の生活や社会に与える影響を具体的に説明することができる。</li><li>3. 感染症に対する人々や社会（患者自身や医療従事者等を含む）の反応がもたらすインパクトを具体的に説明することができる。</li><li>4. 感染症に対する看護の役割の多様性・広さを理解する。</li></ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	主要感染症アップデート（免疫、診断、治療、予防方法、疫学動向など）
第3回	感染症と社会（原因または結果として）
第4回	感染症と個人（症状、受診や療養など感染症罹患が個人の生活、人間関係にもたらす影響）
第5回	感染症専門家／当事者の話を聞く
第6回	感染症と災害（原因または結果として）
第7回	学習成果の共有とディスカッション
第8回	まとめ

成績評価（基準と方法）	授業参加・貢献Commitment(25%)、発表・発言Presentation(50%)、課題レポート(25%)
-------------	---

教科書・参考書	資料は適宜配布する
授業外学習課題	1-8 事前課題については、別途、説明する。
オフィスアワー	Appointment by email or walk-in. E-mail: kinoshita@cc.u-kochi.ac.jp
備考	災害看護コンソーシアム科目

更新日時	2026/03/31 14:08:05
年度	2026
講義コード	62200151
講義名称	環境衛生看護セミナー
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 中井 寿雄	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2,6を修得するために重要な科目
授業の概要	本講義では、地球規模で進行する気候変動が人々の健康に及ぼす影響を理解し、看護職として何ができるかを考察します。気候変動は、豪雨、熱波、山火事などの極端な気象現象を引き起こし、感染症の媒介範囲を拡大させ、人々の健康に多岐にわたる影響を与えます。環境衛生看護の視点から、これらの健康リスクを評価・管理し、持続可能な社会に貢献するための知識と技術を学習します。特に、地理情報システム（Geographic Information System: GIS）を活用し、気候変動による健康影響の可視化、リスクの高い地域や集団の特定、効果的な対策の立案・評価、情報共有を行う方法を紹介します。
達成目標（達成水準）	1. 気候変動が健康に及ぼす影響を多角的に説明できる。 2. 環境衛生看護の視点から、気候変動による健康リスクを評価・管理するための基本的な知識と技術を習得する。 3. 気候変動時代の看護職の役割を理解し、具体的な行動を提案できる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	環境衛生看護と気候変動：ガイダンス 環境衛生看護とは / 気候変動の現状と将来予測 / 気候変動が健康に及ぼす影響の全体像（直接的影響、間接的影響）、看護職の役割	
第2回	気候変動と健康：主要な健康影響（1）熱中症 熱中症のメカニズム、リスク要因、予防対策 / 熱中症の発生状況（国内・国外） / 高齢者、子ども、屋外労働者など、ハイリスク群への対応 / GISを用いた熱中症リスクの可視化と分析（気温、湿度、人口分布など）	
第3回	豪雨・洪水による健康影響（溺死、外傷、感染症、精神的影響など） / 線状降水帯と避難行動 / 避難所における健康管理 / 災害時のこころのケア / GISを用いたハザードマップの作成と活用 / 浸水リスクと人口分布の重ね合わせ	気候変動と健康：主要な健康影響（2）豪雨・洪水
第4回	山火事による健康影響（呼吸器疾患、心血管疾患、精神的影響など） / 山火事の原因と予防行動 / 大気汚染物質の拡散と健康影響 / 山火事後の健康調査 / GISを用いた山火事リスクの評価と避難計画の策定	気候変動と健康：主要な健康影響（3）山火事
第5回	気候変動による感染症の媒介範囲の変化（デング熱、マラリア、ジカ熱など） / 水媒介性感染症（コレラ、赤痢など） / 感染症の流行予測と対策 / GISを用いた感染症リスクマップの作成と活用	気候変動と健康：主要な健康影響（4）感染症
第6回	食料安全保障への影響 / アレルギー疾患の増加 / 精神的影響 / 環境難民の発生と健康問題	気候変動と健康：その他の健康影響

第7回	気候変動対策と看護職の役割：適応策と緩和策 気候変動対策の2つの柱（適応策、緩和策） / 看護職が貢献できること（健康教育、リスクコミュニケーション、政策提言、研究など） / 持続可能な社会の実現に向けた看護の役割	
第8回	まとめ 気候変動による健康リスク：地域分析と看護への応用	

成績評価（基準と方法）	プレゼンテーション（70%） レポート（30%）
教科書・参考書	資料を配布
授業外学習課題	レポート課題
オフィスアワー	開講期間
備考	中井寿雄（nakai_hisao@cc.u-kochi.ac.jp）

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200153
講義名称	人道支援看護セミナー
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
代表曜日	木曜日
代表時限	5時限
講義開講時期	前期後半
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 木下 真里	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3,6を修得するために重要な科目
授業の概要	病む人の尊厳を維持・回復するのが看護の役割であるとの考えに立ち、とくに各地で頻発する災害、紛争や暴力、貧困や飢餓などの社会的課題に目を向け、看護の役割について考える。国際社会及び日本による難民、避難民、移民の受け入れ、人道支援活動の現状および課題について学習する。さらに国連の提唱する「人間の安全保障」「持続可能な開発目標(SDGs)」の考え方を参考に、人道支援のなかの看護の役割を議論する。文献や資料は原語のまま使用し、ディスカッションは内容に応じて使用言語を使い分ける。
達成目標(達成水準)	1. さまざまな人道問題に興味を持ち、自ら調べて現状と課題を理解できる。 2. 人道問題の現状と課題について自ら調べた結果を他者にわかるように説明できる。 3. 人道問題に対する看護の役割について自らの考えをディスカッションおよびレポートに述べる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション、人道原則、人間の安全保障
第2回	ディスカッション①貧困問題に対する看護
第3回	ディスカッション②マイノリティに対する看護
第4回	ディスカッション③健康格差と看護
第5回	ディスカッション④人の移動(難民、避難民、移民)と看護
第6回	ディスカッション⑤災害、健康危機と看護
第7回	ディスカッション⑥学生による話題提供
第8回	まとめ

成績評価(基準と方法)	授業参加・貢献Commitment(25%)、発表・発言Presentation(50%)、課題レポート(25%)
教科書・参考書	適宜資料を配布する
授業外学習課題	1-8 事前課題については、別途、説明する。



更新日時	2026/03/31 14:10:01
年度	2026
講義コード	62200154
講義名称	災害看護管理セミナー
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
代表曜日	火曜日
代表時限	4 時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 中井 寿雄	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3,4を修得するために重要な科目
授業の概要	<p>本講義では、災害時に円滑に看護活動を実施するために必要な人員、資機材、予算、情報等の資源と、それらを効果的、効率的に活用・管理するための知識や技法を修得します。</p> <p>扱うテーマは、消耗や損失を防ぐ人員管理、人材育成、ローリングストックによる資機材管理、財源の確保とコスト管理、情報管理技術の活用、訓練、事業継続計画（BCP）の策定など多岐にわたります。</p> <p>主に地域や在宅看護における、災害看護管理の従事者として、地域住民の安全を守り、医療・看護提供体制を維持するために必要なリーダーシップとマネジメント能力を養うことを目指します。</p>
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>1) 災害時に必要な人員、資機材、予算、情報などの資源の確保と、消耗や損失を防ぐための管理方法について説明できる。</li><li>2) 実践的な訓練の計画・実施・評価のプロセスを理解し、改善策を立案できる。</li><li>3) 医療機関・看護組織における事業継続計画（BCP）の策定・運用・見直しのプロセスを理解し、自組織のBCPを評価できる。</li></ol>

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	災害看護管理のパラダイムシフト：平時からの備えの重要性 災害看護管理の定義と役割 / 従来の災害対応中心の考え方から、平時からの備えを重視する考え方への転換 / 災害サイクルにおける「予防・準備」フェーズの重要性 / リスクアセスメント、脆弱性評価 / 地域防災計画と看護の役割	中井 寿雄
第2回	医療的ケア児・者とその家族を災害から守る：個別支援計画と連携、テクノロジーの活用 医療的ケア児・者の定義と特性 / 災害時の課題（電源確保、医療物品の確保、避難、情報伝達など） / 個別支援計画の作成と多職種連携（医療機関、訪問看護、行政、福祉、学校など） / 災害時要配慮者支援の実際（事例紹介） / 安否確認システム、情報共有アプリの活用	中井 寿雄
第3回	停電に備える：電源確保と情報伝達、デジタルツールの活用 停電が医療・看護に及ぼす影響 / 電源確保の対策（自家発電、蓄電池、燃料備蓄など） / 医療機器の優先順位付け / 情報伝達手段の確保（衛星電話、衛星回線[例：スターリンク、静止衛星]など） / 停電情報共有アプリ、代替通信手段（例：Low Power Wide Area: LPWA）の活用 / 停電時を想定した訓練の実施	中井 寿雄
第4回	ローリングストックで災害に強い地域づくり：食料・水・生活必需品の備蓄、スマート備蓄の推進 ローリングストックの概念と意義 / 家庭、地域、医療機関における備蓄の推進 / 備蓄品の管理方法（消費期限、保管場所、補充計画など） / 備蓄に関する啓発活動 / 地域住民との連携 / 備蓄管理アプリ、IoTによるスマート備蓄、需要予測AIの活用	中井 寿雄
第5回	実践的な災害訓練：デジタル技術を活用した訓練 災害訓練の目的と種類（机上訓練、実動訓練、図上訓練など） / 訓練計画の策定（シナリオ作成、役割分担、評価指標の設定） / 訓練の実施と評価 / 訓練結果に基づく改善策の立案 / 多職種連携訓練、地域連携訓練 / Virtual Reality: VR/Augmented Reality: ARを活用した災害シミュレーション、SNSを活用した情報伝達訓練	中井 寿雄

第6回	医療機関・看護組織の事業継続計画（Business Continuity Plan: BCP）：事業継続計画で守る命とケア、デジタルBCP BCPの概念と目的 / 医療機関・看護組織におけるBCPの構成要素（優先業務の特定、資源配分、指揮命令系統、情報伝達、安全確保など） / BCPの策定プロセス / BCPの運用と見直し / BCP訓練の実施 / クラウドを活用したBCP文書管理、BCP連携システム	中井 寿雄
第7回	GISを活用した被災評価と避難行動計画：地域のリスクを見える化、デジタル防災マップの活用 Geographic Informatiob System: GISの基礎 / ハザードマップの活用 / 被害想定（建物被害、人的被害、ライフライン被害など） / 避難場所の選定と避難経路の検討 / 要配慮者の避難支援 / 地域防災計画への反映 / リアルタイム被害情報収集・共有システム、AIを活用した避難誘導	中井 寿雄
第8回	まとめと今後の展望、デジタル時代のリーダーシップ 災害看護管理者に求められるリーダーシップ（状況判断、意思決定、指示伝達、モチベーション維持など）	中井 寿雄

成績評価（基準と方法）	プレゼンテーション（70%） レポート（30%）
教科書・参考書	資料配布
授業外学習課題	レポート課題
オフィスアワー	開講期間
備考	実務経験のある教員による授業科目 中井寿雄（nakai_hisao@cc.u-kochi.ac.jp）

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200155
講義名称	災害看護活動論（準備期）
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 木下 真里	看護学科

授業の概要	災害サイクル各期の健康課題に対して、静穏期に看護が行う準備活動を、自助・共助・公助の側面から整理し、平時から災害看護活動体制を構築していく方法を学ぶ。 さらに、災害サイクルの次のフェーズなどに、遅れて顕在化する健康問題を防ぐための予防的看護活動についても考える。
達成目標（達成水準）	1) 災害による人々の生活・健康への影響を各災害サイクル別に、具体的に説明できる。 2) 発災前（準備期）の看護活動について自助・共助・公助で具体策を考え、実行できる。 3) 発災後、静穏期を待たずに実施すべき次フェーズでの健康問題の顕在化を防ぐ予防的な看護活動について、説明し、機会があれば実行できる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション 災害サイクル、災害による生活影響、健康影響
第2回	防災・減災活動と看護の役割
第3回	静穏期における公助 災害対策システムおよび地域、各種施設、行政等との連携の現状と課題
第4回	静穏期における共助
第5回	静穏期における自助 (要配慮者の自助を支援するケア、看護師自身の自助)
第6回	次フェーズの健康問題を防ぐための予防的看護ケアについて
第7回	学習成果の共有・ディスカッション
第8回	学習成果の共有ディスカッション まとめ

成績評価（基準と方法）	最終レポート(80%)、授業へのコミットメント（20%）で評価する。
教科書・参考書	適宜資料を配布する
授業外学習課題	開講前ウェブアンケートへの回答 最終課題については別途指示します。
オフィスアワー	電子メール (kinoshita@cc.u-kochi.ac.jp) に対応
備考	災害看護コンソーシアム科目

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200156
講義名称	環境防災学
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
代表曜日	木曜日
代表時限	4 時限
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 大村 誠	非常勤講師

履修における注意点	授業はすべて、時間割通りの時間に遠隔（Zoom）で行う。 MoodleでPDF資料を提供する。 使用言語：日本語（授業、資料、動画とも） 受講生数：5人程度以下 受講生との質疑を重視して、授業を行う。 災害の事例を学ぶために、視聴覚教材や報道資料を多用するので、Zoomで動画を視聴できる受講環境が必要です。 災害経験者など、災害映像資料の使用について配慮が必要な受講生は事前に必ず申し出ること。
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2,4を修得するために重要な科目。
授業の概要	地球科学に関する幅広い知識を利用して、地域における開発・保全・防災・環境問題に取り組むための学術的基礎素養と、自助・共助・公助など、多様な場における問題解決に応用できる基礎的能力を身につける。
達成目標（達成水準）	各受講生の専門性に関連づけて、自然災害と自然環境・都市環境との関連を理解することができる（50%） 災害対応の流れ「備える」「生き抜く」「立ち直る」を意識した防災を考えることができる（50%）

## 授業計画表

回	内容
第1回	受講生それぞれの興味・関心・目標について意見交換 自然災害の素因と誘因(日本を例に)、ハザードマップほか
第2回	地震と活断層
第3回	南海トラフ地震と関連する現象(津波、火山噴火を含む)
第4回	地震の概要・首都直下地震
第5回	長周期地震動・地盤液状化
第6回	地盤災害・土砂災害・津波（津波火災を含む）
第7回	気象災害、土砂災害、防災情報
第8回	気象災害など補足、まとめ  受講生の理解度、興味・関心、災害の発生など、状況により、授業目的の達成に適するよう各回の授業内容を大幅に変えることがあります。

成績評価（基準と方法）	授業への積極的参加（30%）、毎回の事後課題小レポート（20%）、最終レポート（50%）
教科書・参考書	MoodleでPDFの資料を提供する。 参考書、参考WEBサイトは、授業の中で紹介する。
授業外学習課題	第1回～第8回 必須の事後確認課題（小レポート：必須）を回答する。 第8回 必須の最終レポートを回答する。
オフィスアワー	初回に説明するように、直接メールで相談します。
備考	授業開始の1か月ほど前に、各受講生の研究内容、興味・関心、高校までの理系科目の受講状況などのアンケートを行い、受講生に適した授業を計画します。ご協力をお願いします。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200164
講義名称	精神看護ケア研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 島山 卓也	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,5を修得するために重要な科目
授業の概要	精神看護ケアにかかわる現象を探究している理論や概念を概観する。また、学生の関心のある精神看護領域を選択し、事例や文献を通して、精神看護の介入方法、精神看護ケア研究のあり方を検討する。
達成目標（達成水準）	1. 精神看護ケアに関わる現象を探究している理論や概念を理解する 2. 精神看護ケアの研究に関して分析し評価する。 3. 精神看護領域の事例や文献を通して、看護介入の方法を検討する。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	オリエンテーション 学生が精神看護領域で関心をもっていることについての討議	島山
第2回	精神看護に影響を与えた理論や概念の理解とその活用① 精神力動の理論の理解と活用	島山
第3回	精神看護に影響を与えた理論や概念の理解とその活用② 自我発達理論の理解と活用	島山
第4回	精神看護に影響を与えた理論や概念の理解とその活用③ ストレス・対処理論、危機理論の理解と活用	島山
第5回	精神看護に影響を与えた理論や概念の理解とその活用④ 脳科学の理解と活用	島山
第6回	精神看護に影響を与えた理論や概念の理解とその活用⑤ セルフケア理論の理解と活用	島山
第7回	精神看護に影響を与えた理論や概念の理解とその活用⑥ 行動療法、認知行動療法、マインドフルネスなど	島山
第8回	精神看護に影響を与えた理論や概念の理解とその活用⑦ 精神疾患をもつ人の家族への看護	島山
第9回	精神看護領域における倫理的課題の分析⑧ 倫理的課題の分析と、課題解決に向けた方法を検討する	島山
第10回	精神看護ケアの研究の動向と課題 文献から精神看護の動向を分析し、課題を明らかにする	島山

成績評価（基準と方法）	<p>ディスカッションへの参加（目標1, 2, 3）：60%</p> <p>演習・プレゼンテーションの内容（目標3）：40%</p>
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パトリシア・R・アンダーウッド著：南裕子監修，看護理論の臨床への活用，日本看護協会出版，2003</li> <li>・リチャード.S.ラザルス著，本明寛他監訳，ストレスの心理学，実務教育出版，1991</li> <li>・池谷裕二：大人のための図鑑 脳と心のしくみ（初版），新星出版社，2017.</li> <li>・小椋力：予防精神医学－脆弱要因の軽減とレジリエンスの増強（初版），星和書店，2016.</li> <li>・池淵恵美：こころの回復を支える 精神障害リハビリテーション（第1版），医学書院，2019.</li> <li>・宮坂道夫：医療倫理学の方法 原則・手順・ナラティブ（第2版），医学書院，2011.</li> </ul> <p>その他、適宜参考文献や図書を指定します。</p>
授業外学習課題	<p>毎回 学習した理論や概念などを実際の援助場面で活用する。</p>
オフィスアワー	<p>講義日の18時まで</p>

更新日時	2026/04/05 19:40:01
年度	2026
講義コード	62200165
講義名称	老人看護ケア研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 竹崎 久美子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2,3を修得するために重要な科目
授業の概要	老人看護に関わる理論や概念に対する理解を深め、社会の動向を踏まえて、高齢者とその家族を対象とした看護ケアを向上させるための方略を探究する。 高齢社会の現状や課題、高齢者のケアに関わる既存研究の動向を分析し、倫理的課題分析を踏まえて、看護学における老人看護学領域の意義や研究課題を明らかにする。
達成目標（達成水準）	1. 高齢社会の現状や課題、高齢者のケアにかかわる既存研究の動向を分析し、看護学における老人看護学領域の意義や研究課題を明らかにする。 2. 老人に関わる理論や概念に関する基本的理解を深め、高齢社会において看護の果たすべき役割や他職種との連携・協働について探求する。 3. 基礎的な老人の健康と健康障害（認知症を含む）に関する特徴についての知識を深め、様々な観点から老人の健康生活を捉える理論と、実際の方法論について学ぶ。 4. 高齢社会における倫理的課題分析を踏まえて、高齢者とその家族を対象とした看護ケアを向上させるための方略を探究する。

## 授業計画表

回	内容
第1回	高齢社会の現状と課題(1)：Introduction、高齢社会に至る過程と、我が国の現状について学び、現状と課題を分析する。
第2回	高齢社会の現状と課題(2)：高齢社会において老人ケアにまつわる社会制度の変遷について分析する。
第3回	加齢に関する理論：加齢に関する理論についての理解を深め、それぞれの理論を基にして、人間にとっての「老い」を探究する。
第4回	老人の生活と健康(1)：老人の生活を生涯発達の側面から理解し、老人の健康について、健康生成過程のダイナミックスと生態学的視点から理解を深める。老人にとっての健康観やQOL、幸福感や満足感、生き甲斐、社会関係や環境などの意味や評価方法について検討する。
第5回	老人の生活と健康(2)：老人の生活を生涯発達の側面から理解し、老人の健康について、健康生成過程のダイナミックスと生態学的視点から理解を深める。老人にとっての健康観やQOL、幸福感や満足感、生き甲斐、社会関係や環境などの意味や評価方法について検討する。
第6回	老人と健康のリスク(1)：老人に共通する生活上の困難な体験と加齢との関係について理解する。日常生活活動や身体的機能、心理・社会的活動や環境の評価を通して、老人の健康と支援的環境について検討する。
第7回	老人と健康のリスク(2)：急性期医療機関への入院生活において、老人に共通する困難な体験と加齢との関係について理解する。入院に伴う身体機能の低下や、日常生活の制限、医療的侵襲・ケア不足に伴う影響の評価を通して、老人に対する入院時の支援について検討する。
第8回	認知症老人を取り巻く課題(1)：認知症老人について理解を深め、それを取り巻く課題について、個人、家族、地域、社会、文化、倫理等の視点から分析し、看護の役割について討議する。
第9回	認知症老人を取り巻く課題(2)：認知症老人について理解を深め、それを取り巻く課題について、個人、家族、地域、社会、文化、倫理等の視点から分析し、看護の役割について討議する。

第10回	地域包括ケア時代における老人看護の現状と課題(1)：高齢者ケアに係わる様々な専門職について学び、看護職の役割について分析する。
第11回	地域包括ケア時代における老人看護の現状と課題(2)：高齢者世代の人々の多様性、医療制度・福祉制度・社会制度の多様化について動向を分析し、これからの老人看護学の課題や可能性について分析する。
第12回	高齢社会における倫理的課題(1)：高齢者社会における倫理的課題について分析し、老人看護学の意義や役割について探求する。
第13回	高齢社会における倫理的課題(2)：高齢者社会における倫理的課題について分析し、老人看護学の意義や役割について探求する。
第14回	まとめ：各自が関心を持った課題について、現状と課題を探求し、まとめて発表する。
第15回	まとめ：各自が関心を持った課題について、現状と課題を探求し、まとめて発表する。

<b>成績評価（基準と方法）</b>	クラス討議への参加度および貢献度(40%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(30%)などによって総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	適宜、提示する。
<b>授業外学習課題</b>	各回事前に、担当箇所について文献検討した内容とディスカッションポイントについてまとめ、レポートは事前に、パスワードをかけて教員・受講生全員に配信すること。 講義後は、自身のもつ老年観・老人観、あるいは実践にふりかえって、新たに学んだこと、課題などについてまとめておくこと。
<b>オフィスアワー</b>	講義前後に、適宜学生と時間調整する。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200166
講義名称	がん看護ケア研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	オムニバス
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 田代 真理	看護学科

資格・区分等	選択科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,DP5を修得するために重要な科目
授業の概要	がん患者とその家族、さらには死別後の遺族の特性や、人々を取り巻く環境との相互作用を理解するために活用できる概念や理論について学ぶ。さらにがん患者と家族への看護ケアに関する既存の文献を用いて、がん看護ケアの現状と課題、がん看護ケアにおける倫理的課題を分析し、がん患者や家族に対する看護介入方法について探究する。
達成目標（達成水準）	1. がん患者・家族のケアを行っていく上で、有用な考え方や理論について説明できる。 2. がん患者・家族のケアを行っていく上で、有用な考え方や理論の実践への活用方法が説明できる。 3. がん看護実践における現状の課題を分析し、課題解決のために実現可能な介入方法を考案できる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	授業オリエンテーション
第2回	がん看護領域における課題Ⅰ
第3回	がん看護領域における課題Ⅱ
第4回	がん看護実践に有用な理論と活用方法Ⅰ
第5回	がん看護実践に有用な理論と活用方法Ⅱ
第6回	がん看護における実践・理論・研究Ⅰ
第7回	がん看護における実践・理論・研究Ⅱ
第8回	がん看護のための主要概念や最新トピックⅠ
第9回	がん看護のための主要概念や最新トピックⅡ
第10回	がん看護領域の実践・研究における倫理的課題Ⅰ
第11回	がん看護領域の実践・研究における倫理的課題Ⅱ
第12回	がん看護領域における今後の展望Ⅰ
第13回	がん看護領域における今後の展望Ⅱ
第14回	関心領域の看護ケアの現状と課題を整理し、今後取り組む必要のあるケア研究のテーマや看護ケアの質向上のために必要な看護介入方法の探索
第15回	関心領域の看護ケアの現状と課題を整理し、今後取り組む必要のあるケア研究のテーマや看護ケアの質向上のために必要な看護介入方法の探索 まとめ

成績評価（基準と方法）	目標1、目標2、目標、3について プレゼンテーション（60%）、レポート（30%）、クラス討議への参加度および貢献度（10%）によって総合的に評価する。
教科書・参考書	参考書 ・小島操子，佐藤禮子（監訳），日本がん看護学会教育研究活動委員会コアカリキュラムグループ委員（訳）：がん看護コアカリキュラム，医学書院，2007 ・日本緩和医療学会編：専門家をめざす人のための緩和医療学改訂第3版，南江堂，2024 ・宇野さつき編：病院と地域をつなぐ在宅がん看護事例集，へるす出版，2025 ・資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。
授業外学習課題	各回のテーマについて事前学習した上で授業に出席すること
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200167
講義名称	小児看護ケア研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	オムニパス
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 高谷 恭子	看護学科
有田 直子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,5を修得するために重要な科目
授業の概要	この科目は、様々な健康レベルにある子どもとその家族を理解するために活用できる理論や概念について理解することを目的としています。さらに、学生が感心を持っている小児看護現象に焦点を当て、既存の研究を概観し、小児看護ケアの質の向上のために、今後必要な研究を明らかにするとともに研究方法について理解していきます。
達成目標（達成水準）	①子どもや家族を理解する上で活用できる理論や概念について説明することができる ②小児看護領域における研究を概観し論述することができる ③小児看護領域における研究方法を説明することができる ④小児看護や小児医療の現状を分析し、小児看護の課題を調べることができる ⑤既存の研究成果や諸理論を活用し、小児看護の課題にどのように取り組むべきかを討議することができる

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	オリエンテーション/子どもの権利と小児看護	高谷
第2回	小児看護領域において活用できる理論や概念（1） 小児看護領域に活用できる理論を概観し、理論を用いて事例分析をする。	高谷
第3回	小児看護や小児保健や小児医療の動向と課題（1） 既存の研究より小児保健や小児医療についての動向を分析し、課題を明らかにする。	高谷
第4回	小児看護における看護研究（1） 子どもや家族を対象とした看護研究方法について学ぶ。	高谷
第5回	小児看護領域において活用できる理論や概念（2） 小児看護領域に活用できる概念を概観し、概念を用いて事例分析をする。	有田
第6回	小児看護における看護研究（2） 子どもや家族を対象として看護研究手法について学ぶ。	有田
第7回	小児看護における看護研究（3） 子どもが研究対象となった時の、研究倫理について検討する。	有田
第8回	小児看護や小児保健や小児医療の動向と課題（2） 既存の研究より小児看護の動向を分析し、課題を明らかにする。	高谷
第9回	小児看護や小児保健や小児医療の動向と課題（3） 既存の研究より世界の小児看護の動向を分析し、課題を明らかにする。	高谷

第10回	まとめ 学生が興味関心のある事柄について、既存の研究を用いて課題を明確化し、看護ケアのあり方を検討する。	高谷
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

<b>成績評価（基準と方法）</b>	授業中の活動（ディスカッション・プレゼンテーション）への取り組み（目標1、3、5）80% 課題レポート（字数制限なし）2回（目標2、4）20%
<b>教科書・参考書</b>	①南裕子（2008）：看護における研究，日本看護協会出版会 ②キャロル L,マクニー/小山真理子（2008）：実践に生かす看護研究－量的・質的研究デザインと統計手法を理解する，中山書店 ③鯨岡俊（2005）：エピソード記述入門－実践と質的研究のために，東京大学出版会 ④佐藤郁哉（2002）：フィールドノートの技法，新躍堂 その他、資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。
<b>授業外学習課題</b>	第1・2回 各クラスの事前課題については、別途、説明する。 第3回 各クラスの事前課題については、別途、説明する。 第4回 各クラスの事前課題については、別途、説明する。 第5回 各クラスの事前課題については、別途、説明する。 第6回 各クラスの事前課題については、別途、説明する。 第7・8回 各クラスの事前課題については、別途、説明する。 第9・10回 各クラスの事前課題については、別途、説明する。
<b>オフィスアワー</b>	学生が社会人であるため、学生と時間調整して対応する。基本的にはメールでやり取りを行うが、適宜、土曜、日曜に、C418研究室で行う。
<b>備考</b>	適宜、講義の課題を連絡する。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200168
講義名称	慢性看護ケア研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 内田 雅子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2,5を修得するために重要な科目。
授業の概要	慢性病とともに生きる人々を取り巻く複雑な現象を理解するため、慢性看護ケアに有用な理論・概念を学び看護実践への応用を探究する。また、慢性看護ケアに関する既存の研究論文について、研究者の視点、研究方法、研究結果を批判的に分析する。さらに、慢性病者と家族のQOLを維持・向上させるための看護支援方法について探究する。
達成目標（達成水準）	1. 慢性病者とその家族を看護支援するために有用な理論・概念について説明できる。 2. 自らの専門領域に適用可能な中範囲理論を選択し、看護実践へ理論を適用できる。 3. 慢性看護ケアに関する研究論文の成果を評価できる。 4. 慢性看護ケアにおける現状と課題を明らかにし、理論に基づく看護支援方法を考案できる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	慢性看護領域における看護支援方法の現状と課題：世界と日本における慢性期医療の現状と課題の比較検討
第3回	慢性看護ケアに有用な理論・概念の理解Ⅰ ・病みの軌跡理論・病みの軌跡看護モデル、危機的人生移行理論など
第4回	慢性看護ケアに有用な理論・概念の理解Ⅱ ・ケアリング、成人学習理論、エンパワーメントモデル、症状マネジメントモデル、共同意思決定支援など ・コンプライアンス、アドヒアランス、コンコダンス、セルフモニタリング、セルフマネジメントなど
第5回	慢性看護ケアに有用な理論・概念の理解Ⅲ ・自己効力理論、行動変容理論、健康信念モデルなど ・認知行動療法、ピアラーニング、サポートグループ、セルフヘルプグループなど
第6回	慢性看護領域における看護支援方法の現状と課題：慢性看護ケアにおける倫理的課題
第7回	慢性看護ケアに関する研究論文の批判的分析：文献レビュー ・学生の関心領域における研究論文
第8回	慢性看護ケアに有用な理論・概念の理解と看護実践への適用 ・学生の関心領域におけるケーススタディ

成績評価（基準と方法）	達成目標に沿って、クラス参加状況（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）で総合的に評価する。
	・ Chinn, P. L., & Kramer, M. K. / 川原由佳里監訳：看護学の総合的な知の構築に向けて。エルゼビア・ジャパン。2007。 ・ 黒田裕子監修：看護診断のためのよくわかる中範囲理論。学研。2009。

<b>教科書・参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野川道子編著：看護実践に活かす中範囲理論，メヂカルフレンド社，2010.</li> <li>・Strauss, A. L., et al. / 南裕子監訳：慢性疾患を生きるケアとクオリティライフの接点，医学書院，1987.</li> <li>・Woog, P.(Ed). / 黒江ゆり子他訳：慢性疾患の病みの軌跡，医学書院，1995.</li> </ul>
<b>授業外学習課題</b>	<p>第2～5・8回 講義予定内容について参考文献や配布資料を予習しておくこと。事後の学習課題は、講義中に適宜、提示する。</p> <p>第7回 学生の関心領域の研究論文を検索、批判的分析、及び理論との比較検討を行い、課題を整理する。</p>
<b>オフィスアワー</b>	<p>随時、対応しますが、事前にアポイントメントをとって下さい。</p>

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200169
講義名称	クリティカルケア研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
大川 宣容	看護学科
◎ 村川 由加理	看護学科

履修における注意点	土日開講の科目。
資格・区分等	臨床看護学領域科目。
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,DP5を修得するために重要な科目。
授業の概要	クリティカルな状況にある患者・家族や看護ケアに関わる現象を探究している理論や概念を概観する。また、クリティカルケア看護の研究に関して、そのテーマ、研究方法、研究結果等を批判的に分析し、クリティカルな状況にある患者・家族に対する看護介入方法について探究する。
達成目標（達成水準）	1. クリティカルな状況にある患者・家族へのケアを行う上で、有用な理論や概念について理解し、説明できる。 2. クリティカルケア看護領域における研究を批判的に分析し、説明できる。 3. クリティカルな状況にある患者・家族に対する看護実践に関する研究成果や理論・概念を活用した看護介入方法を考案できる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	Introduction：クリティカルケアにおける現状と課題	村川
第2回	クリティカルケア看護学領域で活用できる理論や概念の概観	村川
第3回	危機理論の理解と実践への活用	村川
第4回	ストレス・コーピング理論の理解と実践への活用	村川
第5回	意思決定理論の理解と実践への活用	村川
第6回	クリニカルジャジメントの理解と実践への活用	村川
第7回	コンフォート理論、コンフォートケアの理解と実践への活用	村川
第8回	クリティカルケア看護領域における倫理的課題	村川
第9回	クリティカルケア看護領域における倫理的課題	村川
第10回	クリティカルケア看護領域における研究の動向と課題：文献からクリティカルケア看護の動向を分析し、課題を明らかにする	村川
第11回	クリティカルケア看護の研究論文のクリティーク（量的研究）	村川
第12回	クリティカルケア看護の研究論文のクリティーク（量的研究）	村川
第13回	クリティカルケア看護の研究論文のクリティーク（質的研究）	村川

第14回	クリティカルケア看護の研究論文のクリティーク（質的研究）	村川
第15回	クリティカルケア看護学領域における課題と看護の展望	村川

<b>成績評価（基準と方法）</b>	・各テーマに関する討議の状況（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）などにより、達成目標1～3について、総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寺町優子，井上智子他編：クリティカルケア看護 理論と臨床への応用，日本看護協会出版会，2007</li> <li>・山勢博彰：救急・重症患者と家族のための心のケア，MCメディカ出版，2011</li> <li>・リチャード.S.ラザルス，スーザン.フォルクマン（本明寛他訳）：ストレスの心理学，実務教育出版，1991</li> <li>・ドナ・C・アギュラ（小松源助他訳）：危機介入の理論と実際，川島書店，1977</li> <li>・キャサリン・コルカバ（太田喜久子監訳）：コルカバ コンフォート理論，医学書院，2008</li> <li>・その他、文献の紹介、資料の配布は適宜行う。</li> </ul>
<b>授業外学習課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回～9回 授業内容について提示した資料や参考図書を用いて、事前学習を行う。テーマとなっている理論や概念を用いて現象を整理し、説明できるようにする。</li> <li>・第10回～14回 題材にしたい研究論文を検索し、論文を精読し、規準に沿って概要を整理し、説明できるようにする。</li> </ul>
<b>オフィスアワー</b>	・講義終了後対応します。できるだけメールでアポイントメントを取ってください。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200170
講義名称	臨床看護管理研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎久保田 聡美	看護学科

履修における注意点	実践リーダーコースの学生向けのコースです 看護管理学領域における学生が興味のある概念や理論を中心に学びます
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4,5を修得するために重要な科目
授業の概要	看護管理を取り巻く社会・経済情勢を多角的な視点より分析し、看護管理の課題を明らかにしそれぞれについて看護の経営戦略のあり方について学び、看護管理者としてのビジョンと介入方法を探求する。また看護管理実践の質的向上を目指すために必要な理論や概念を学び既存の研究の中より看護管理に関連する研究テーマ、研究方法、研究成果等を批判的に分析し、看護管理研究のあり方を検討する。
達成目標（達成水準）	1. 看護管理領域に関する国内外の研究・教育・実践の動向を多角的に分析し、研究課題を見出すことができる。 2. 研究課題として見出した看護管理の現象について、理論や概念を用いて批判的に分析することができる。 3. これらを通して、看護管理研究のあり方について批判的に意見を述べるることができる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	看護管理の課題
第2回	看護管理の概念・構成要素について
第3回	看護管理の機能・役割
第4回	看護管理と組織論
第5回	看護管理に関する研究の動向
第6回	看護管理に関する研究
第7回	変革理論
第8回	理論と実践と研究
第9回	看護管理者と継続教育
第10回	看護管理者と研究

成績評価（基準と方法）	課題レポート、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度(目標1～3) 100%
	①中西睦子編集；看護サービス管理 第5版、医学書院、2018 ②井部俊子 中西睦子監修；看護管理学習テキスト 第3版、日本看護協会出版会、2022

教科書・参考書	<p>③本間道子著、集団行動の心理学 ダイナミックな社会関係のなかで、サイエンス社、2011</p> <p>④山口裕幸、高橋潔、芳賀繁、竹村和久著、産業・組織心理学、有意閣アルマ、2006</p> <p>⑤八代京子監修、鈴木有香著、交渉とメディエーション、三修社、2004</p> <p>⑥ケネス・J・カーゲン著、東村知子訳、あなたへの社会構成主義、ナカニシヤ出版、2004</p> <p>⑦ジョン・P・コッター；ジョン・コッターの企業変革ノート、日経BHP社、2003</p>
授業外学習課題	<p>2～10回 看護管理における主要な概念のうち興味のある現象に関連する概念を選択し、研究の動向、概念の定義、尺度、成果について調べる</p> <p>2～10回 実践現場において課題となる現象を選択し、現象を説明する理論、概念を探るとともに、研究の動向について調べる</p>
オフィスアワー	<p>随時対応します。できるだけ、事前にメールまたは電話でアポイントメントをとってください。</p>
備考	<p>* 授業では、講義・討議及びプレゼンテーション等組み合わせて行う。</p> <p>関連するSDGs：3、8</p>

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200171
講義名称	臨床看護教育研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
大川 宣容	看護学科
◎ 内田 雅子	看護学科
青木 早苗	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,5を修得するために重要な科目
授業の概要	看護教育に関する理論や研究方法について理解を深める。また、看護教育の動向や課題について考察し、看護教育を向上させる方策を探索する。さらに、看護教育における研究課題・研究方法を探索する。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"><li>看護教育を行っていく上で有用な理論・概念について理解できる。</li><li>看護教育に関する理論・概念を活用して、看護教育の方策を説明できる。</li><li>看護教育に関する動向や課題について考察できる。</li><li>看護教育を向上させるために研究を活用できる。</li></ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション：本科目の目的、到達目標、授業の概要等について
第2回	成人学習としての看護教育、学びの主体者としての自己調整学習理論
第3回	経験学習、Pedagogical moment（教育的瞬間）における支援、フィードバック
第4回	メタ認知理論、ディープ・アクティブラーニング
第5回	看護教育の方法：教育プログラムの計画、教育計画の立案
第6回	看護教育に関する文献のクリティーク
第7回	看護教育における課題：看護教育実践上の「問い」の明確化、先行研究の知見の拡張
第8回	看護教育における動向と課題
第9回	看護教育の展開：教育プログラム・教育計画の立案
第10回	まとめ

成績評価（基準と方法）	討議(40%)、プレゼンテーション(30%)、提出物(30%)により総合的に評価する
教科書・参考書	<教科書> グレッグ美鈴、池西悦子編(2018)看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う 第2版、南江堂 <参考書> L・B・ニルソン著、美馬のゆり、伊藤宗達監訳（2017）学生を自己調整学習者に育てるアクティブラーニングのその先へ、北大路書房 ノールズ：堀薫夫他監訳(2002)成人教育の現代的実践ーベタゴジーからアンドラゴジーへ、16、鳳書房

	三宮真知子編著（2008）メタ認知 学習力を支える高次認知機能、北大路書房 深谷達史著（2016）メタ認知の促進と育成 概念的理解のメカニズムと支援、北大路書房 その他、講義中に提示する
授業外学習課題	第6回 （事前課題）看護教育実践上の「問い」に対する先行研究のクリティーク 第9回 教育プログラム、教育計画の立案
オフィスアワー	内容によって、メールで対応します。 面談が必要な場合は、事前にメール等でアポイントメントをとってください。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200172
講義名称	母性・助産看護ケア研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 嶋岡 暢希	看護学科
岩崎 順子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1・5を修得するために重要な科目
授業の概要	周産期の母子の健康や看護ケアにかかわる現象を探求している理論や概念を概観する。また、母性・助産看護領域の研究に関して、テーマ、研究方法、研究結果などを批判的に分析し、母性・助産看護ケア研究のあり方を検討する。さらに、学生の関心のある母性・助産看護領域のテーマを選択し、事例を用いながら、母性・助産看護の介入方法を発展させていく。
達成目標（達成水準）	1. 母性・助産ケアにかかわる現象を探求している理論や概念を理解する。 2. 母性・助産ケアの研究に関して分析し評価する。 3. 母性・助産領域の事例や文献を通して、看護介入の方法を検討する。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	母性・父性・親性の発達①	岩崎
第2回	母性・父性・親性の発達②	岩崎
第3回	アタッチメント理論・ボンディング①	嶋岡
第4回	アタッチメント理論・ボンディング②	嶋岡
第5回	親役割獲得・移行理論①	嶋岡
第6回	親役割獲得・移行理論②	嶋岡
第7回	助産ケアとパートナーシップ①	嶋岡
第8回	助産ケアとパートナーシップ②	嶋岡
第9回	周産期・子育て期にかかわるケアシステム①	嶋岡
第10回	周産期・子育て期にかかわるケアシステム②	嶋岡
第11回	関心領域の研究論文のクリティーク：量的研究①	岩崎
第12回	関心領域の研究論文のクリティーク：量的研究②	嶋岡
第13回	関心領域の研究論文のクリティーク：量的研究③	岩崎
第14回	関心領域の研究論文のクリティーク：質的研究	嶋岡

第15回	母性・助産看護領域における倫理的課題	嶋岡
------	--------------------	----

成績評価（基準と方法）	クラス討議への参加度、プレゼンテーションの取り組み、課題レポートなどから総合的に評価する
教科書・参考書	必要に応じて、資料の配布および国内外の文献の紹介を行う。
授業外学習課題	各クラスの事前課題は、別途説明する。
オフィスアワー	開講期間中は随時可能。原則として要予約。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200173
講義名称	地域ケア研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 小澤 若菜	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DR1,2,5を修得するために重要な科目
授業の概要	地域保健や地域看護に関わる研究や現状を分析し、研究的課題を明らかにする。また、地域看護に関わる理論や概念に対する理解を深め、既存の研究成果を活用し、地域・集団・を対象にした看護ケアや保健ケアを向上させる方策を探求する。
達成目標（達成水準）	1.地域看護に関わる理論や概念に対する理解を深め、実践への活用について考察する 2.地域看護の動向や課題について既存の研究成果を活用して分析する 3.地域・集団・を対象にした看護ケアや保健ケアを向上させる方策を探求する

## 授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション ・地域看護に対する各自の関心、地域看護の捉え方について討議する。
第2回	地域看護に関する理論① ・ヘルスプロモーション理論について学び、地域におけるヘルスプロモーション活動の現状を分析し、コミュニティの概念、コミュニティパートナーズモデルについて学び、地域のアセスメント及び地域看護の展開方法について考察する。
第3回	地域看護に関する理論② ・ヘルスプロモーション理論について学び、地域におけるヘルスプロモーション活動の現状を分析し、コミュニティの概念、コミュニティパートナーズモデルについて学び、地域のアセスメント及び地域看護の展開方法について考察する。
第4回	地域ケアシステム① ・地域ケアシステムの現状と課題について学び、ケアシステムを開発するための看護者の役割について学ぶ。
第5回	地域ケアシステム② ・地域ケアシステムの現状と課題について学び、ケアシステムを開発するための看護者の役割について学ぶ。
第6回	地域看護における介入方法① ・個人・家族・集団を対象にした健康な生活習慣の獲得、保健行動の変容を促進させるための介入について考察する。
第7回	地域看護における介入方法② ・個人・家族・集団を対象にした健康な生活習慣の獲得、保健行動の変容を促進させるための介入について考察する。
第8回	地域看護教育・地域看護管理① ・人材育成に関する現状と課題を把握し、地域看護教育や研修のありかたについて考察する。
第9回	地域看護教育・地域看護管理② ・人材育成に関する現状と課題を把握し、地域看護教育や研修のありかたについて考察する。
第10回	地域看護研究① 地域看護領域における研究方法、動向や重要な課題について概観する。

第11回	地域看護研究② 地域看護領域における研究方法、動向や重要な課題について概観する。
第12回	地域看護研究③ 地域看護領域における研究方法、動向や重要な課題について概観する。
第13回	地域看護研究④ 地域看護領域における研究方法、動向や重要な課題について概観する。

<b>成績評価（基準と方法）</b>	クラス討議への参加(30%)・演習への参加(30%)・レポート(40%)により総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・アズ・パートナー：アンダーソン、マクファーレン著、医学書院</li> <li>・地域看護診断：金川克子他著、東京大学出版会</li> <li>・地域看護学－看護の理論化を目指して：村嶋幸代他著、日本看護協会出版会</li> <li>・健康の謎を解く：アロン・アントノフスキー著、有信堂</li> <li>・行動科学－健康づくりのための理論と応用－：畑栄一、土井由利子編集、南江堂</li> <li>・健康行動理論による研究と実践：一般社団法人日本健康教育学会</li> <li>・チェンジング・フォー・グッド：ジェイムス・プロチャスカ他著、監訳：中村正和、法研</li> <li>・質的研究入門：野口美和子他監訳、医学書院、・看護研究－原理と方法：ポーリット、ハングラマー著、医学書院</li> </ul>
<b>授業外学習課題</b>	講義前及び後に課題の提出あり
<b>オフィスアワー</b>	授業終了後の時間帯

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200174
講義名称	学校保健研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 池添 志乃	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,5を修得するために重要な科目
授業の概要	学校保健領域で開発されているエビデンスに基づく支援方法を分析・考察する。研究の動向、実践の動向について分析し、新たな支援方法を開発する可能性を考察する。また、発達段階に沿って児童生徒やその家族がより健康に生活していくための新たな支援方法を開発する能力を修得する。さまざまな状況にある児童生徒やその家族を取りあげ、既存の研究成果や理論に基づき、健康課題の特性や発達段階をふまえてより健康に生活していくための新たな支援方法を開発する能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1. 学校保健学領域におけるエビデンスに基づく看護介入方法を多角的に分析し、説明できる。 2. 既存の研究成果や理論に基づき、新たな看護介入方法を説明できる

## 授業計画表

回	内容
第1回	学校保健学の関心領域の実践・研究の動向に関する分析
第2回	学校保健学の関心領域の実践・研究の動向に関する分析
第3回	学校保健学領域における諸概念・理論・モデルの多角的分析（1）
第4回	学校保健学領域における諸概念・理論・モデルの多角的分析（2）
第5回	学校保健学領域における諸概念・理論・モデルの多角的分析・考察（1）
第6回	学校保健学領域における諸概念・理論・モデルの多角的分析・考察（2）
第7回	学校保健学領域における看護介入方法のエビデンス検索（1）
第8回	学校保健学領域における看護介入方法のエビデンス検索（2）
第9回	学校保健学領域における看護介入方法のエビデンス構築（1）
第10回	学校保健学領域における看護介入方法のエビデンス構築（2）
第11回	学校保健学領域における看護介入方法の検討（1）
第12回	学校保健学領域における看護介入方法の検討（2）
第13回	学校保健学領域における看護介入方法の検討（2）①
第14回	学校保健学領域における看護介入方法の検討（2）②
第15回	関心領域の看護介入方法の開発

<b>成績評価（基準と方法）</b>	課題レポートとプレゼンテーション（80%）、授業中の活動（ディスカッション）への取り組み（20%）により総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	適宜、資料を配布する。
<b>授業外学習課題</b>	学校保健学の関心領域の実践・研究の動向に関する文献検討・分析 学校保健学領域における諸概念・理論・モデルに関する文献検討・分析 学校保健学領域における看護介入方法に関する文献検討・エビデンスの分析 学校保健学領域における看護介入方法に関する検討 関心領域の看護介入方法の開発
<b>オフィスアワー</b>	適宜、日程調整を行う

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200175
講義名称	家族ケア研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 瓜生 浩子	看護学科
岩崎 順子	看護学科
高山 良子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,5を修得するために重要な科目
授業の概要	家族の健康や看護ケアにかかわる現象を探索している理論や概念を概観する。また家族ケアの研究に関して、そのテーマ、研究方法、研究結果等を批判的に分析し、家族ケア研究のあり方を検討する。また、学生の関心のある領域を選択し、事例を用いながら、家族を対象とする看護ケア方法を発展させていく。
達成目標（達成水準）	1) 家族看護学の基盤となる理論や概念について説明できる。 2) 家族看護ケアにかかわる現象を理論や概念を用いて分析することができる。 3) 家族看護に関する研究を批判的に分析し、新たな研究課題や研究方法を検討することができる。 4) 事例の理解や家族看護研究の分析的な理解を通して、家族看護介入方法を検討する。

## 授業計画表

回	内容
第1回	家族看護学の考え方
第2回	家族看護ケアにかかわる理論：理論の概要、家族看護への活用における有用性と限界①家族システム理論
第3回	家族看護ケアにかかわる理論：理論の概要、家族看護への活用における有用性と限界②家族発達理論
第4回	家族看護ケアにかかわる理論：理論の概要、家族看護への活用における有用性と限界③家族役割理論
第5回	家族看護ケアにかかわる理論：理論の概要、家族看護への活用における有用性と限界④家族ストレス対処理論
第6回	家族看護ケアにかかわる理論：理論の概要、家族看護への活用における有用性と限界⑤家族セルフケア理論
第7回	家族看護エンパワーメントモデルの概要
第8回	家族ケアにおけるEBPの重要性
第9回	家族を対象とした研究の動向
第10回	家族を対象とした研究方法
第11回	量的記述的研究デザインを用いた家族看護研究①学生の関心領域における文献を用いた検討
第12回	量的記述的研究デザインを用いた家族看護研究②量的記述的研究デザインを用いた研究の特徴と今後の課題
第13回	質的研究デザインを用いた家族看護研究①学生の関心領域における文献を用いた検討

第14回	質的研究デザインを用いた家族看護研究②質的研究デザインを用いた研究の特徴と今後の課題
第15回	家族看護エンパワーメントモデルを用いた事例の展開

成績評価（基準と方法）	クラス討議への参加（40%）、プレゼンテーション（30%）、課題レポート（30%）から総合的に評価する。
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ M. M. Friedman, V. R. Bowden, E. G. Jones; Family Nursing Research, Theory, and Practice, 5th ed., Pearson Education, 2003.</li> <li>・ 野嶋佐由美 監修；家族エンパワーメントをもたらす看護実践，へるす出版，2005.</li> <li>・ 中野綾美・瓜生浩子編著：家族看護学 家族のエンパワーメントを支えるケア，メディカ出版，2020.</li> </ul> その他必要に応じて提示する
授業外学習課題	第11-14回 家族ケアに関する文献をひとつ選び、クリティークを行う。その内容について、クラスの中でプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。 第15回 これまでに会った家族の事例について、モデルあるいは理論を用いてアセスメントし、家族像の形成、援助目標の明確化、看護ケア計画を立案する。
オフィスアワー	随時

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200176
講義名称	在宅ケア研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	講義、プレゼンテーション、ディスカッション
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 川上 理子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1、DP2を習得するために重要な科目である。
授業の概要	在宅への移行期ならびに在宅療養継続中の療養者とその家族へのケアに関わる研究や社会の動向を分析し、在宅看護学領域における研究課題を明らかにする。 在宅看護に関わる理論や概念に対する理解を深め、既存の研究経過を活用し、倫理的な判断をふまえて、在宅療養者とその家族を対象とした看護ケアを向上させるための方略を探求する。
達成目標（達成水準）	1. 在宅看護学の基盤となる理論や概念を理解し、説明できる 2. 在宅への移行期ならびに在宅療養継続中の療養者とその家族へのケアに関わる社会の動向を研究等を分析し、在宅看護学領域における研究課題を説明できる。 3. 在宅療養者とその家族を対象とした看護ケアを向上させるための方略を提案できる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	在宅ケアに関する理論や概念の概要1：在宅、生活	川上理子
第2回	在宅ケアに関する理論や概念の概要2：地域包括ケアシステム、地域共生社会	川上理子
第3回	在宅ケアに関する理論や概念の概要3：在宅移行、入退院支援	川上理子
第4回	在宅ケアに関する理論や概念の概要4：連携協働	川上理子
第5回	在宅ケアに関する理論や概念の概要5：ICF	川上理子
第6回	在宅ケアに関する理論や概念の概要6：ICFを用いた事例分析、ケアマネジメント	川上理子
第7回	在宅ケア領域における倫理的課題1	川上理子
第8回	在宅ケア領域における倫理的課題2	川上理子
第9回	在宅ケアで活用される研究方法論とその方法論による研究のクリティーク1 (プレゼンテーション、ディスカッション)	川上理子
第10回	在宅ケアで活用される研究方法論とその方法論による研究のクリティーク2 (プレゼンテーション、ディスカッション)	川上理子
第11回	在宅ケアで活用される研究方法論とその方法論による研究のクリティーク3 (プレゼンテーション、ディスカッション)	川上理子
第12回	在宅ケアで活用される研究方法論とその方法論による研究のクリティーク4 (プレゼンテーション、ディスカッション)	川上理子
第13回	在宅ケアにおける看護の現状・課題と今後の展望1	川上理子

第14回	在宅ケアにおける看護の現状・課題と今後の展望2	川上理子
第15回	まとめ	川上

<b>成績評価（基準と方法）</b>	クラス討議への参加および貢献度（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）によって評価する。
<b>教科書・参考書</b>	資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。
<b>授業外学習課題</b>	地域・在宅領域で活用される理論や研究方法論についてのプレゼンテーション課題、研究のクリティーク課題あり。
<b>オフィスアワー</b>	原則として、授業のある日の9:00～18:00の間。 それ以外は必要時、メールで相談対応する。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200177
講義名称	保健学研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 立木 隆広	看護学科

履修における注意点	授業形式は、受講生の人数によって講義形式またゼミナール形式のどちらかを予定しています。また、開講前に講義に関する注意事項などの連絡をする予定です。
授業の概要	保健学に関する理論や研究方法について理解を深める。また、保健学における動向や課題について調べ、向上させる方策を探求する。
達成目標（達成水準）	1. 保健学に関する理論や研究方法について理解を深め、実践への活用について考察できる 2. 保健学に関する動向や課題について考察できる 3. 保健学を向上させるための方策・研究方法を探求できる

## 授業計画表

回	内容
第1回	ガイダンス/保健学とは何かを考える
第2回	保健学の領域①（衛生保健学）
第3回	保健学の領域②（保健・環境科学）
第4回	保健学の領域②（保健・栄養学）
第5回	保健学研究に必要な学問領域①（公衆衛生学）
第6回	保健学研究に必要な学問領域②（疫学）
第7回	保健学研究に必要な学問領域③（行動科学）
第8回	保健学研究に必要な学問領域④（統計学）

成績評価（基準と方法）	参加度40%、発表・レポート等60%を基準として総合的に評価する。
教科書・参考書	初回講義に示す
授業外学習課題	事前学習として保健学に関して調べておくこと。 発表を行う場合は、資料作成をすること。 発表担当以外の単元も予習・復習をすること。 レポートが課せられた場合、作成し提出すること。
オフィスアワー	基本的にはC308で対応。不在にしている場合もありますので、事前にメールにてアポイントメントをとってください。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200178
講義名称	災害・国際看護ケア研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 木下 真里	看護学科
中井 寿雄	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2を修得するために重要な科目
授業の概要	災害や紛争、感染症などによる健康危機から人々を守るために、どのような看護ケアが必要かを明らかにする能力を習得する。 前半は2名の講師からそれぞれ、災害看護・グローバルヘルスに関する講義等を受けて学習したのち、後半は受講生が自ら選んだテーマについて講師のサポートを受けながら主体的に学習を進める。先行研究を調べ、既に行われている取り組みの効果と倫理的配慮、有害事象についてエビデンスに基づいて検証した上で、その取り組み（研究または活動）の評価と今後必要な取組について短時間のプレゼンテーションにまとめる。得られた学習成果は最終授業の中で提示し、講師らとも討議して学びを深めた上で、最終レポートを作成する。
達成目標（達成水準）	1. 災害や紛争、感染症などの健康危機への現行の対応と課題について理解し、説明できる。 2. 災害看護または国際看護における倫理的課題について理解し、対策を考えることができる。 3. 災害看護および国際看護活動における他職種連携の重要性を理解する。 4. 災害時や異文化の中で人々に対するケアを行う際に根拠となりうる理論や概念を学び、研究に応用することができる。

## 授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	オリエンテーション	木下
第2回	災害看護と国際看護の取組みと課題（総論）	木下
第3回	国際看護（1）	
第4回	国際看護（2）	
第5回	災害看護（1）	
第6回	災害看護（2）	
第7回	災害看護（3）	
第8回	オンデマンド・コンサルテーション	
第9回	オンデマンド・コンサルテーション	
第10回	オンデマンド・コンサルテーション	
第11回	オンデマンド・コンサルテーション	
第12回	オンデマンド・コンサルテーション	

第13回	最終成果発表とディスカッション（1）	
第14回	最終成果発表とディスカッション（2）	
第15回	まとめ	

成績評価（基準と方法）	プレゼンテーションとレポートにて総合的に評価する
教科書・参考書	適宜資料を配布する
授業外学習課題	事前課題については、別途説明する。
オフィスアワー	事前にメールでアポイントメントを取ってください。
備考	実務経験のある教員による授業科目

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200179
講義名称	看護課題研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	
代表時限	
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 未定	指定なし

資格・区分等	高度実践看護師コース必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4,DP5,DP6を修得するために重要な科目
授業の概要	臨床看護実践（既習の講義・演習・実践演習における学びを基盤とし）において見出した特定の課題に関して、研究のプロセス（種々の研究方法のみならず、科学的根拠に基づいた知見や技術の開発などを含む）にそって研究を行い、臨床看護実践に寄与することのできる知見や技術を探求し、論文としてまとめる。課題研究を通して、高度実践看護師として必要な研究能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1. 学生の関心領域における臨床実践に根ざした研究課題を見出すことができる。 2. 研究のプロセスにそって論文をまとめることができる。 3. 研究成果を臨床実践に活用する上での可能性と限界について説明することができる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	データ収集方法
第3回	データ分析方法Ⅰ
第4回	データ分析方法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（データ分析のステップを3回に分けて行う）
第5回	データ分析方法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（データ分析のステップを3回に分けて行う）
第6回	データ分析方法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（データ分析のステップを3回に分けて行う）
第7回	結果のまとめⅠ 各自のResearch Questionにそって分析結果の整理を試みる
第8回	結果のまとめⅡ 分析結果を継続して洗練化する方法を学ぶ
第9回	結果のまとめⅢ データを示して分析結果を論理的に示す方法を学ぶ
第10回	最新の研究動向を探索する

第11回	考察Ⅰ・Ⅱ（考察について2コマ行う）
第12回	考察Ⅰ・Ⅱ（考察について2コマ行う）
第13回	論文としてのまとめⅠ 新たな知見や技術に焦点を当て、一貫性のある論文としてまとめる方法を学ぶ
第14回	論文としてのまとめⅡ 新たな知見や技術に焦点を当て、研究成果を公表する方法について学ぶ
第15回	臨床適応の検討 EBPの重要性を学ぶ 研究を通して得られた新たな知見を実践に活用する可能性と限界について学ぶ

<b>成績評価（基準と方法）</b>	目標1,目標2, 目標3について、クラス討議・プレゼンテーション（30%）、提出物（70%）によって総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ D. F. ポーリット&amp; C. Tベック著、近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法 第2版,医学書院</li> <li>・ ナンシー・バーンズ, スーザン・K・グローブ著, 黒田裕子ほか監訳：バーンズ&amp;グローブ看護研究入門―実施・評価・活用, エルゼビア・ジャパン, 東京, 2015.</li> <li>・ Nicholas H.Steneck著, 山崎茂明訳：ORI 研究倫理入門―責任ある科学者になるために, 丸善, 2005</li> <li>・ 適宜、資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。</li> </ul>
<b>授業外学習課題</b>	各回の講義内容について、事前事後の自己学習をすること
<b>オフィスアワー</b>	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。
<b>備考</b>	* 高度実践看護師コースの学生は、専門領域の科目責任者の看護課題研究を受講すること。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200180
講義名称	看護学研究方法Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	
代表時限	
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 未定	指定なし

履修における注意	* 事前に指定した文献・資料を予習したうえで、授業に参加してください。
資格・区分等	研究コース必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5,6を修得するために重要な科目
授業の概要	特定の分野の看護学の研究の動向、教育の動向を概観し、看護学をさらに発展させていくために必要な研究課題、教育課題について学び、学生自らの研究課題を探究する。また、講義やプレゼンテーションを通して、教育・実践・研究の連関へ学究的に参与する研究能力、教育能力を育成する。
達成目標（達成水準）	特定の分野の看護学の研究の動向を概観し、その課題を分析する。 特定の看護学領域の教育の動向を概観し、その課題を分析する。 研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。

## 授業計画表

回	内容
第1回	コースオリエンテーション
第2回	我が国の看護研究の動向
第3回	諸外国の看護研究の動向
第4回	看護研究の課題
第5回	看護学教育の動向と課題（1）看護基礎教育
第6回	看護学教育の動向と課題（2）大学院教育
第7回	看護学教育の動向と課題（3）臨床における教育
第8回	看護学領域における研究倫理の現状と課題
第9回	研究テーマに関する研究の動向（1）我が国における研究の動向
第10回	研究テーマに関する研究の動向（2）諸外国における研究の動向
第11回	研究テーマに関する研究の動向（3）研究テーマの抽出
第12回	研究計画書の作成（1）研究の背景、研究の意義

第13回	研究計画書の作成 (2) 研究テーマに関する文献検討、研究の枠組みの作成
第14回	研究計画書の作成 (3) 研究方法論の明確化
第15回	まとめ

<b>成績評価（基準と方法）</b>	クラスへの参加度、プレゼンテーション、課題レポート等によって総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	講義の中で、資料の配布および重要な文献の紹介を適宜行う。
<b>授業外学習課題</b>	別途、資料を配布し、説明します。
<b>オフィスアワー</b>	随時、対応しますが、事前にアポイントメントをとって下さい。
<b>備考</b>	*履修に当たっては、シラバスに記載されている科目責任者の教員と協議し、担当教員を決定し、履修登録したうえで研究指導を受ける。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200181
講義名称	看護学研究方法Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	6.0
代表曜日	
代表時限	
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 未定	指定なし

資格・区分等	研究コース必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,5を修得するために重要な科目。
授業の概要	小児看護学の専門性を発展させていく教育方法、研究方法を修得し、学生自らの教育・研究能力を発展させていく。また、講義や演習、研究課程を通して、教育・実践・研究の連関へ学術的に参与する教育遂行能力、研究遂行能力を育成する。
達成目標（達成水準）	1. 小児看護学の教育計画（シラバス、授業計画、看護研究など）を作成する。 2. 効果的な演習／看護研究方法、実習／データ収集・分析方法を組み立てて、展開する。 3. 研究計画書に基づき研究課題を探求し、研究プロセスに沿って進め、研究論文を作成する。 4. 一連の研究課程を通して、特定の分野の看護学の学問体系を発展させていくために必要な研究方法を修得する。

## 授業計画表

回	内容
第1回	コースオリエンテーション
第2回	看護学教育の展開（1）専門領域のシラバスの作成
第3回	看護学教育の展開（2）授業計画の作成/看護学教育の展開、（3）シラバスの作成
第4回	看護学教育の展開（2）授業計画の作成/看護学教育の展開、（3）シラバスの作成
第5回	看護学教育の展開（4）効果的な講義の展開/看護学教育の展開（5）授業計画の作成
第6回	看護学教育の展開（4）効果的な講義の展開/看護学教育の展開（5）授業計画の作成
第7回	看護学教育の展開（6）効果的な演習方法の検討/看護学教育の展開（7）効果的な演習の展開
第8回	看護学教育の展開（6）効果的な演習方法の検討/看護学教育の展開（7）効果的な演習の展開
第9回	看護学教育の展開（8）効果的な実習方法の組み立て/看護学教育の展開（9）効果的な実習方法の展開
第10回	看護学教育の展開（8）効果的な実習方法の組み立て/看護学教育の展開（9）効果的な実習方法の展開
第11回	看護学教育の展開（10）看護実践能力の評価方法/倫理審査申請の準備
第12回	看護学教育の展開（10）看護実践能力の評価方法/倫理審査申請の準備
第13回	倫理審査結果への回答/研究の信頼性と妥当性、信憑性を保証する方法

第14回	倫理審査結果への回答/研究の信頼性と妥当性、信憑性を保証する方法
第15回	データ収集方法/データ収集方法の実際
第16回	データ収集方法/データ収集方法の実際
第17回	データ分析方法
第18回	データ分析方法
第19回	データ分析の実際（1）
第20回	データ分析の実際（2）
第21回	データ分析の実際（3）
第22回	データ分析の実際（4）
第23回	データ分析の洗練化/データ分析の文章化（1）
第24回	データ分析の洗練化/データ分析の文章化（2）
第25回	研究論文における結果の検討/研究論文における考察の検討（1）
第26回	研究論文における結果の検討/研究論文における考察の検討（2）
第27回	研究論文における結果、及び考察の洗練化/研究方法と結果の一般化、適用可能性の保証（1）
第28回	研究論文における結果、及び考察の洗練化/研究方法と結果の一般化、適用可能性の保証（2）
第29回	オーサーシップと研究成果の伝達：多様な対象者と伝達方法：学会発表とアウトリーチ活動の検討、まとめ（1）
第30回	オーサーシップと研究成果の伝達：多様な対象者と伝達方法：学会発表とアウトリーチ活動の検討、まとめ（2）

<b>成績評価（基準と方法）</b>	クラス討議への参加度（15%）、プレゼンテーション（15%）、課題レポート（70%）
<b>教科書・参考書</b>	講義の中で、資料の配布および重要な文献の紹介を適宜行う。
<b>授業外学習課題</b>	別途、資料を配布し、説明する。
<b>オフィスアワー</b>	適宜、学生と時間調整して対応する。
<b>備考</b>	*履修に当たっては、シラバスに記載されている科目責任者の教員と協議し、担当教員を決定し、履修登録したうえで研究指導を受ける。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200185
講義名称	臨床看護学専門演習
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	3.0
代表曜日	
代表時限	
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 未定	指定なし

履修における注意点	※実践リーダーコースの研究計画書作成のためのクラス【学生と協議の上、講義日程は決定する】
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,5を修得するために重要な科目
授業の概要	専門領域の臨床における看護現象を取り上げ、その現象に関連する国内外の文献を概観し、理論・実践・研究の関連性を分析し、専門領域の看護ケアの向上に向けての研究を遂行するための計画を立案する基本的能力を修得する。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題と思われる臨床看護学領域に関する現象を明らかにする。</li> <li>2. 臨床看護学および看護学の最新の動向を概観する。</li> <li>3. 研究を計画および遂行する方法を学ぶ。</li> </ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション、研究テーマの設定/臨床看護学領域の研究、研究計画作成のプロセスについて学ぶ
第2回	オリエンテーション、研究テーマの設定/臨床看護学領域の研究、研究計画作成のプロセスについて学ぶ
第3回	研究課題の見つけ方/関心のある現象の記述
第4回	研究課題の見つけ方/関心のある現象の記述
第5回	取り上げた現象に関する文献の検討①我が国における研究の動向/取り上げた現象に関連する我が国の社会的な動向
第6回	取り上げた現象に関する文献の検討①我が国における研究の動向/取り上げた現象に関連する我が国の社会的な動向
第7回	取り上げた現象に関する文献の検討②海外における研究の概観/取り上げた現象に関連する海外の社会的な動向
第8回	取り上げた現象に関する文献の検討②海外における研究の概観/取り上げた現象に関連する海外の社会的な動向
第9回	国内外の文献検討のまとめ/国内外の社会的な動向と取り上げた現象との関連についてのまとめ
第10回	国内外の文献検討のまとめ/国内外の社会的な動向と取り上げた現象との関連についてのまとめ
第11回	取り上げた現象を研究課題として焦点化することの意義の明確化/研究課題として洗練化を行う
第12回	取り上げた現象を研究課題として焦点化することの意義の明確化/研究課題として洗練化を行う

第13回	さらに文献検討を行い、研究目的を明確にする/取り上げた現象に関する概念を検討し、枠組みを検討する
第14回	さらに文献検討を行い、研究目的を明確にする/取り上げた現象に関する概念を検討し、枠組みを検討する
第15回	研究の枠組みを決定する/研究の枠組みをベースに、目的に対応した研究課題を明らかにする
第16回	研究の枠組みを決定する/研究の枠組みをベースに、目的に対応した研究課題を明らかにする
第17回	研究課題を明らかにするための方法論を検討する/データ収集方法を決定する
第18回	研究課題を明らかにするための方法論を検討する/データ収集方法を決定する
第19回	データ分析方法を決定する/研究の実施にあたり必要な倫理的配慮を検討する
第20回	データ分析方法を決定する/研究の実施にあたり必要な倫理的配慮を検討する
第21回	研究計画書の作成①既存の文献等を用いながら、研究の背景、研究目的、研究の意義を論理的に記述する方法を学ぶ/②既存の文献等を用いながら、論理的に研究課題と研究の枠組みについて記述する方法を学ぶ
第22回	研究計画書の作成①既存の文献等を用いながら、研究の背景、研究目的、研究の意義を論理的に記述する方法を学ぶ/②既存の文献等を用いながら、論理的に研究課題と研究の枠組みについて記述する方法を学ぶ
第23回	研究計画書の作成③研究課題に即した研究方法について適切に記述する方法を学ぶ/④研究の実施に際して必要な倫理的配慮を理解し、適切に記述する方法を学ぶ
第24回	研究計画書の作成③研究課題に即した研究方法について適切に記述する方法を学ぶ/④研究の実施に際して必要な倫理的配慮を理解し、適切に記述する方法を学ぶ

<b>成績評価（基準と方法）</b>	研究計画書作成のプロセスの取り組み（30%）、研究計画書（70%）により評価する
<b>教科書・参考書</b>	文献の紹介、必要資料の配布は、適宜行う
<b>授業外学習課題</b>	事前学習課題、事後学習課題は、講義進行に合わせ、講義中に適宜提示する。
<b>オフィスアワー</b>	随時
<b>備考</b>	担当教員：久保田聡美

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200186
講義名称	臨床看護学研究方法Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	3.0
代表曜日	
代表時限	
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 未定	指定なし

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5,6を修得するために重要な科目
授業の概要	臨床看護学をさらに発展させていく研究方法について学ぶ。臨床看護学演習での学習をふまえて臨床看護学領域における課題を研究のプロセスに沿って進め、研究論文を作成する
達成目標（達成水準）	1. 研究デザインに適したデータ収集方法により、臨床看護学領域の看護職や療養者や家族を対象にデータ収集を行う方法を学ぶ。 2. 臨床看護学の研究方法における倫理的課題、および倫理的配慮について学ぶ。 3. データ分析の方法を学ぶ。

## 授業計画表

回	内容
第1回	履修する回数は24回である。学生がどのようなデザインを選択するかによって、15回以降は、2通りの授業計画を記載している。 オリエンテーション /臨床看護学の研究方法について
第2回	量的研究のプロセス
第3回	研究における倫理 /量的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮
第4回	質的研究のプロセス
第5回	研究における倫理 /質的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮
第6回	研究課題の明確化 /研究方法の選定
第7回	研究課題の明確化 /研究方法の選定
第8回	研究課題の明確化 /研究方法の選定
第9回	研究課題の明確化 /研究方法の選定

第10回	<p>研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成</p>
第11回	<p>研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成</p>
第12回	<p>研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成</p>
第13回	<p>倫理審査申請の準備 /倫理審査結果への回答</p>
第14回	<p>倫理審査申請の準備 /倫理審査結果への回答</p>
第15回	<p>&lt;量的研究&gt; データ収集方法1：調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2：質問紙の洗練化 /データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の再検討</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2：インタビュー方法の検討 /データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討</p>
第16回	<p>&lt;量的研究&gt; データ収集方法1：調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2：質問紙の洗練化 /データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の再検討</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2：インタビュー方法の検討 /データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討</p>
第17回	<p>&lt;量的研究&gt; データ収集方法1：調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2：質問紙の洗練化 /データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の再検討</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2：インタビュー方法の検討 /データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討</p>
第18回	<p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識 /データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集） /データ分析方法3：データの入力</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法1：データの逐語記録についての方法的検討 /データ分析方法2：データの読み込み /データ分析方法3：ケース像の作成</p>
第19回	<p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識 /データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集） /データ分析方法3：データの入力</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法1：データの逐語記録についての方法的検討 /データ分析方法2：データの読み込み /データ分析方法3：ケース像の作成</p>

第20回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識  /データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集）  /データ分析方法3：データの入力</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法1：データの逐語記録についての方法的検討  /データ分析方法2：データの読み込み  /データ分析方法3：ケース像の作成</p>
第21回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法4：データの加工  /データ分析方法5：記述統計分析の実施と読み取り①度数分布  /データ分析方法6：記述統計分析の実施と読み取り②代表値</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法4：一次コーディング  /データ分析方法5：二次コーディング  /データ分析方法6：信頼性・妥当性の検討</p>
第22回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法4：データの加工  /データ分析方法5：記述統計分析の実施と読み取り①度数分布  /データ分析方法6：記述統計分析の実施と読み取り②代表値</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法4：一次コーディング  /データ分析方法5：二次コーディング  /データ分析方法6：信頼性・妥当性の検討</p>
第23回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法4：データの加工  /データ分析方法5：記述統計分析の実施と読み取り①度数分布  /データ分析方法6：記述統計分析の実施と読み取り②代表値</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法4：一次コーディング  /データ分析方法5：二次コーディング  /データ分析方法6：信頼性・妥当性の検討</p>
第24回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法7：記述統計分析の実施と読み取り③変数間の関係の分析（相関）</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法7：各ケースの全体像の検討</p>

<b>成績評価（基準と方法）</b>	研究計画書作成のプロセスの取り組み（30%）研究計画書（70%）により評価する。
<b>教科書・参考書</b>	文献の紹介、必要資料の配布は適宜行う
<b>授業外学習課題</b>	事前課題、事後課題は、授業の進行に合わせ、適宜提示する。
<b>オフィスアワー</b>	随時
<b>備考</b>	担当教員：（がん看護）、（小児看護）、久保田聡美、（慢性期看護）、竹崎久美子、（精神看護）、（クリティカル看護）、嶋岡暢希

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200187
講義名称	臨床看護学研究方法 II
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	3.0
代表曜日	
代表時限	
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 未定	指定なし

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5,6を修得するために重要な科目
授業の概要	臨床看護学をさらに発展させていく研究方法について学ぶ。臨床看護学演習での学習をふまえて臨床看護学領域における課題を研究のプロセスに沿って進め、研究論文を作成する
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データ分析の方法を学ぶ。</li> <li>2. 分析結果を整理し、まとめる方法を学ぶ。</li> <li>3. 結果を既存の研究成果を活用して考察する方法を学ぶ。</li> <li>4. 論文としてまとめる。</li> </ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	<p>履修する回数は24回である。学生がどのようなデザインを選択するかによって、2通りの授業計画を記載している。</p> <p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法：推定統計分析の実施と読み取り①<math>\chi^2</math>検定/：推定統計分析の実施と読み取り②t検定/：推定統計分析の実施と読み取り③F検定</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法：各ケースの分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：各ケースの分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する/：全ケースを含めた分析について検討する</p>
第2回	<p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法：推定統計分析の実施と読み取り①<math>\chi^2</math>検定/：推定統計分析の実施と読み取り②t検定/：推定統計分析の実施と読み取り③F検定</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法：各ケースの分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：各ケースの分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する/：全ケースを含めた分析について検討する</p>
第3回	<p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法：推定統計分析の実施と読み取り①<math>\chi^2</math>検定/：推定統計分析の実施と読み取り②t検定/：推定統計分析の実施と読み取り③F検定</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法：各ケースの分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：各ケースの分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する/：全ケースを含めた分析について検討する</p>

第4回	<p>&lt;量的研究&gt; 推定統計分析の実施と読み取り④分散分析/：多変量解析の方法を学ぶ（重回帰分析）/：多変量解析の実施（重回帰分析）/：多変量解析の読み取り（重回帰分析）/：多変量解析の方法を学ぶ（因子分析）</p> <p>&lt;質的研究&gt; 全ケースを統合して分析する観点を検討する/：全体分析を進める/：全体分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：全体分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する</p>
第5回	<p>&lt;量的研究&gt; 推定統計分析の実施と読み取り④分散分析/：多変量解析の方法を学ぶ（重回帰分析）/：多変量解析の実施（重回帰分析）/：多変量解析の読み取り（重回帰分析）/：多変量解析の方法を学ぶ（因子分析）</p> <p>&lt;質的研究&gt; 全ケースを統合して分析する観点を検討する/：全体分析を進める/：全体分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：全体分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する</p>
第6回	<p>&lt;量的研究&gt; 推定統計分析の実施と読み取り④分散分析/：多変量解析の方法を学ぶ（重回帰分析）/：多変量解析の実施（重回帰分析）/：多変量解析の読み取り（重回帰分析）/：多変量解析の方法を学ぶ（因子分析）</p> <p>&lt;質的研究&gt; 全ケースを統合して分析する観点を検討する/：全体分析を進める/：全体分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：全体分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する</p>
第7回	<p>&lt;量的研究&gt; 推定統計分析の実施と読み取り④分散分析/：多変量解析の方法を学ぶ（重回帰分析）/：多変量解析の実施（重回帰分析）/：多変量解析の読み取り（重回帰分析）/：多変量解析の方法を学ぶ（因子分析）</p> <p>&lt;質的研究&gt; 全ケースを統合して分析する観点を検討する/：全体分析を進める/：全体分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：全体分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する</p>
第8回	<p>&lt;量的研究&gt; 推定統計分析の実施と読み取り④分散分析/：多変量解析の方法を学ぶ（重回帰分析）/：多変量解析の実施（重回帰分析）/：多変量解析の読み取り（重回帰分析）/：多変量解析の方法を学ぶ（因子分析）</p> <p>&lt;質的研究&gt; カテゴリー間の関係性について分析する/：カテゴリー間の構造について分析する/：カテゴリーの全体像を検討する /結果のまとめ：結果の全体像、カテゴリーの定義を示す/：データを示しながら、分析結果を説明する</p>
第9回	<p>&lt;量的研究&gt; 多変量解析の実施（因子分析）/：多変量解析の読み取り（因子分析） /結果のまとめ：データを示しながら、図を用いて整理する/：データを示しながら、表を用いて整理する</p> <p>&lt;質的研究&gt; カテゴリー間の関係性について分析する/：カテゴリー間の構造について分析する/：カテゴリーの全体像を検討する /結果のまとめ：結果の全体像、カテゴリーの定義を示す/：データを示しながら、分析結果を説明する</p>
第10回	<p>&lt;量的研究&gt; 多変量解析の実施（因子分析）/：多変量解析の読み取り（因子分析） /結果のまとめ：データを示しながら、図を用いて整理する/：データを示しながら、表を用いて整理する</p> <p>&lt;質的研究&gt; カテゴリー間の関係性について分析する/：カテゴリー間の構造について分析する/：カテゴリーの全体像を検討する /結果のまとめ：結果の全体像、カテゴリーの定義を示す/：データを示しながら、分析結果を説明する</p>
第11回	<p>&lt;量的研究&gt; 多変量解析の実施（因子分析）/：多変量解析の読み取り（因子分析） /結果のまとめ：データを示しながら、図を用いて整理する/：データを示しながら、表を用いて整理する</p> <p>&lt;質的研究&gt; カテゴリー間の関係性について分析する/：カテゴリー間の構造について分析する/：カテゴリーの全体像を検討する /結果のまとめ：結果の全体像、カテゴリーの定義を示す/：データを示しながら、分析結果を説明する</p>
第12回	<p>&lt;量的研究&gt; 多変量解析の実施（因子分析）/：多変量解析の読み取り（因子分析） /結果のまとめ：データを示しながら、図を用いて整理する/：データを示しながら、表を用いて整理する</p> <p>&lt;質的研究&gt; カテゴリー間の関係性について分析する/：カテゴリー間の構造について分析する/：カテゴリーの全体像を検討する /結果のまとめ：結果の全体像、カテゴリーの定義を示す/：データを示しながら、分析結果を説明する</p>



第22回	<量的研究> 論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化  <質的研究> 論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化
第23回	<量的研究> 論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化  <質的研究> 論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化
第24回	<量的研究> 論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化  <質的研究> 論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化

<b>成績評価（基準と方法）</b>	論文作成のプロセスの取り組み（30%）、論文（70%）により評価する
<b>教科書・参考書</b>	文献の紹介、必要資料の配布は適宜行う
<b>授業外学習課題</b>	事前課題、事後課題は、授業の進行に合わせ、適宜提示する。
<b>オフィスアワー</b>	随時
<b>備考</b>	担当教員：久保田聡美、内田雅子、竹崎久美子、田井雅子、大川宣容、嶋岡暢希

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200188
講義名称	地域保健学専門演習
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	3.0
代表曜日	
代表時限	
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 未定	指定なし

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5を修得するために重要な科目
授業の概要	地域保健活動、学校保健活動、産業保健活動における健康現象・看護現象をとりあげ、その現象に関連する国内外の文献を概観し、理論－実践－研究の関連性を分析し、地域ケアの向上に向けて研究を遂行するための計画を立案する基礎的能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1.研究デザインに適したデータ収集方法により、看護職や療養者や家族を対象にデータ収集を行う方法について理解できる。 2.倫理的課題および倫理的配慮について説明することができる。 3.データ分析の方法を理解できる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	履修する回数は24回である。学生がどのようなデザインを選択するかによって、15回以降は、2通りの授業計画を記載している。 オリエンテーション /臨床看護学の研究方法について /量的研究のプロセス
第2回	オリエンテーション /臨床看護学の研究方法について /量的研究のプロセス
第3回	オリエンテーション /臨床看護学の研究方法について /量的研究のプロセス
第4回	質的研究のプロセス /研究における倫理 /量的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮
第5回	質的研究のプロセス /研究における倫理 /量的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮
第6回	質的研究のプロセス /研究における倫理 /量的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮

第7回	<p>質的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮 /研究課題の明確化 /研究方法の選定</p>
第8回	<p>質的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮 /研究課題の明確化 /研究方法の選定</p>
第9回	<p>質的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮 /研究課題の明確化 /研究方法の選定</p>
第10回	<p>研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成</p>
第11回	<p>研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成</p>
第12回	<p>研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成</p>
第13回	<p>倫理審査申請の準備 /倫理審査結果への回答</p>
第14回	<p>倫理審査申請の準備 /倫理審査結果への回答</p>
第15回	<p>&lt;量的研究&gt; データ収集方法1：調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2：質問紙の洗練化 /データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の再検討</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2：インタビュー方法の検討 /データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討</p>
第16回	<p>&lt;量的研究&gt; データ収集方法1：調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2：質問紙の洗練化 /データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の再検討</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2：インタビュー方法の検討 /データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討</p>
第17回	<p>&lt;量的研究&gt; データ収集方法1：調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2：質問紙の洗練化 /データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の再検討</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2：インタビュー方法の検討 /データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討</p>
第18回	<p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識 /データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集） /データ分析方法3：データの入力</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法1：データの逐語記録についての方法的検討 /データ分析方法2：データの読み込み /データ分析方法3：ケース像の作成</p>

第19回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識  /データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集）  /データ分析方法3：データの入力</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法1：データの逐語記録についての方法的検討  /データ分析方法2：データの読み込み  /データ分析方法3：ケース像の作成</p>
第20回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識  /データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集）  /データ分析方法3：データの入力</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法1：データの逐語記録についての方法的検討  /データ分析方法2：データの読み込み  /データ分析方法3：ケース像の作成</p>
第21回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法4：データの加工  /データ分析方法5：記述統計分析の実施と読み取り①度数分布</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法4：一次コーディング  /データ分析方法5：二次コーディング</p>
第22回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法4：データの加工  /データ分析方法5：記述統計分析の実施と読み取り①度数分布</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法4：一次コーディング  /データ分析方法5：二次コーディング</p>
第23回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法6：記述統計分析の実施と読み取り②代表値  /データ分析方法7：記述統計分析の実施と読み取り③変数間の関係の分析（相関）</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法6：信頼性・妥当性の検討  /データ分析方法7：各ケースの全体像の検討</p>
第24回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法6：記述統計分析の実施と読み取り②代表値  /データ分析方法7：記述統計分析の実施と読み取り③変数間の関係の分析（相関）</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法6：信頼性・妥当性の検討  /データ分析方法7：各ケースの全体像の検討</p>

<b>成績評価（基準と方法）</b>	研究計画書作成のプロセスへの取り組み（30%）と作成された研究計画書（70%）により評価する。
<b>教科書・参考書</b>	文献の紹介、必要資料の配布は適宜行う。
<b>授業外学習課題</b>	その他、各クラスの事前課題については、別途、説明する。
<b>オフィスアワー</b>	適宜、学生と時間調整して対応する。
<b>備考</b>	長戸 和子、池添 志乃

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200189
講義名称	地域保健学研究方法Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	3.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 立木 隆広	看護学科

授業の概要	地域保健活動、学校保健活動、産業保健活動における健康現象・看護現象をとりあげ、その現象に関連する国内外の文献を概観し、理論－実践－研究の関連性を分析し、地域ケアの向上に向けて研究を遂行するための計画を立案する基礎的能力を修得する。
達成目標 (達成水準)	1.研究デザインに適したデータ収集方法により、看護職や療養者や家族を対象にデータ収集を行う方法を学ぶ。 2.倫理的課題および倫理的配慮について学ぶ。 3.データ分析の方法を学ぶ。

## 授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	臨床看護学の研究方法について
第3回	量的研究のプロセス
第4回	質的研究のプロセス
第5回	研究における倫理
第6回	量的研究方法における倫理的課題と倫理的配慮
第7回	質的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮
第8回	研究課題の明確化
第9回	研究方法の選定
第10回	研究課題に関する文献的検討
第11回	研究枠組みの検討
第12回	【量的研究】データ収集方法1：調査のための質問紙作成 【質的研究】データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成
第13回	【量的研究】データ収集方法2：質問紙の洗練化 【質的研究】データ収集方法2：インタビュー方法の検討
第14回	【量的研究】データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の検討 【質的研究】データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討
第15回	【量的研究】データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識 【質的研究】データ分析方法1：データ記録（逐語録等）についての方法的検討
第16回	【量的研究】データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集） 【質的研究】データ分析方法2：データの読み込み

第17回	【量的研究】データ分析方法3：データ入力の試行 【質的研究】データ分析方法3：ケース像の作成について
第18回	【量的研究】データ分析方法4：データの加工 【質的研究】データ分析方法4：一次コーディング
第19回	【量的研究】データ分析方法5：記述統計分析の実施と読み取り①度数分布 【質的研究】データ分析方法5：二次コーディング
第20回	【量的研究】データ分析方法6：記述統計分析の実施と読み取り②代表値 【質的研究】データ分析方法6：信頼性・妥当性の検討
第21回	【量的研究】データ分析方法7：記述統計分析の実施と読み取り②変数間の関係の分析 【質的研究】データ分析方法7：各ケースの全体像の検討
第22回	計画書の作成
第23回	倫理審査申請の準備
第24回	倫理審査結果への回答

成績評価（基準と方法）	研究計画書作成のプロセスへの取り組みと作成された研究計画書により評価する。
教科書・参考書	文献の紹介、必要資料の提示・配布は適宜行う。
授業外学習課題	各クラスの事前課題については、別途、説明する。
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200190
講義名称	地域保健学研究方法Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	3.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 立木 隆広	看護学科

授業の概要	地域保健学をさらに発展させていく研究方法について学ぶ。地域保健学研究演習での学習をふまえて、各自の研究課題を研究のプロセスに沿って推進し、研究論文を作成する。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データ分析の方法を学ぶ。</li> <li>2. 分析結果を整理し、まとめる方法を学ぶ。</li> <li>3. 結果を既存の研究成果を活用して考察する方法を学ぶ。</li> <li>4. 論文としてまとめる。</li> </ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	<p>【量的研究】データ分析方法：推定統計分析の読み取り①X<sup>2</sup>乗検定</p> <p>【質的研究】データ分析方法：各ケースの分析の洗練化－サブカテゴリー、カテゴリーの検討</p>
第2回	<p>【量的研究】データ分析方法：推定統計分析の読み取り②t検定</p> <p>【質的研究】データ分析方法：各ケースの分析の洗練化－カテゴリーの明確化</p>
第3回	<p>【量的研究】データ分析方法：推定統計分析の読み取り③F検定</p> <p>【質的研究】データ分析方法：全ケースを含めた分析についての検討</p>
第4回	<p>【量的研究】データ分析方法：推定統計分析の読み取り④分散分析</p> <p>【質的研究】データ分析方法：全ケースを統合して分析する観点の検討</p>
第5回	<p>【量的研究】データ分析方法：多変量解析の方法論を学ぶ－重回帰分析</p> <p>【質的研究】データ分析方法：全体分析を進める</p>
第6回	<p>【量的研究】データ分析方法：多変量解析の実施－重回帰分析</p> <p>【質的研究】データ分析方法：全体分析の洗練化－サブカテゴリー、カテゴリーの検討</p>
第7回	<p>【量的研究】データ分析方法：多変量解析の読み取り－重回帰分析</p> <p>【質的研究】データ分析方法：全体分析の洗練化－カテゴリーの明確化</p>
第8回	<p>【量的研究】データ分析方法：多変量解析の方法論を学ぶ－因子分析</p> <p>【質的研究】データ分析方法：カテゴリー間の関係性についての分析</p>
第9回	<p>【量的研究】データ分析方法：多変量解析の実施－因子分析</p> <p>【質的研究】データ分析方法：カテゴリーの構造についての分析</p>
第10回	<p>【量的研究】データ分析方法：多変量解析の読み取り－因子分析</p> <p>【質的研究】データ分析方法：カテゴリーの全体像の検討</p>
第11回	<p>【量的研究】結果のまとめ：データを示しながら図を用いて整理する</p> <p>【質的研究】結果のまとめ：結果の全体像、カテゴリーの定義を示す</p>

第12回	【量的研究】結果のまとめ：データを示しながら表を用いて整理する 【質的研究】結果のまとめ：データを示しながら分析結果を説明する
第13回	結果のまとめ：データを示しながら分析結果を論理的に説明する
第14回	研究の動向：テーマに関連した研究の動向、新たな知見を理解する
第15回	考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して考察する－考察の組み立ての検討
第16回	考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して考察する－組み立てに沿った論の展開を検討する
第17回	考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して、文章化する
第18回	考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して、洗練化する
第19回	考察：看護への貢献について検討する
第20回	考察：研究を通して得られた新たな知見を実践に活用する可能性と限界を検討する
第21回	看護におけるEBPの重要性を検討する
第22回	論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化
第23回	論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化
第24回	論文をまとめる3：考察、結論の文章化

成績評価（基準と方法）	論文作成のプロセスへの取り組みと作成された論文により評価する。
教科書・参考書	文献の紹介、必要資料の提示・配布は適宜行う。
授業外学習課題	各クラスの事前課題については、別途、説明する。
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200191
講義名称	看護課題研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	実技
基準単位数	2.0
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 瓜生 浩子	看護学科

資格・区分等	高度実践看護師コース必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4,DP5,DP6を修得するために重要な科目
授業の概要	臨床看護実践（既習の講義・演習・実践演習における学びを基盤とし）において見出した特定の課題に関して、研究のプロセス（種々の研究方法のみならず、科学的根拠に基づいた知見や技術の開発などを含む）にそって研究を行い、臨床看護実践に寄与することのできる知見や技術を探求し、論文としてまとめる。課題研究を通して、高度実践看護師として必要な研究能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1. 学生の関心領域における臨床実践に根ざした研究課題を見出すことができる。 2. 研究のプロセスにそって論文をまとめることができる。 3. 研究成果を臨床実践に活用する上での可能性と限界について説明することができる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	データ収集方法
第3回	データ分析方法Ⅰ
第4回	データ分析方法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（データ分析のステップを3回に分けて行う）
第5回	データ分析方法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（データ分析のステップを3回に分けて行う）
第6回	データ分析方法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（データ分析のステップを3回に分けて行う）
第7回	結果のまとめⅠ 各自のResearch Questionにそって分析結果の整理を試みる
第8回	結果のまとめⅡ 分析結果を継続して洗練化する方法を学ぶ
第9回	結果のまとめⅢ データを示して分析結果を論理的に示す方法を学ぶ
第10回	最新の研究動向を探索する

第11回	考察Ⅰ・Ⅱ（考察について2コマ行う）
第12回	考察Ⅰ・Ⅱ（考察について2コマ行う）
第13回	論文としてのまとめⅠ 新たな知見や技術に焦点を当て、一貫性のある論文としてまとめる方法を学ぶ
第14回	論文としてのまとめⅡ 新たな知見や技術に焦点を当て、研究成果を公表する方法について学ぶ
第15回	臨床適応の検討 EBPの重要性を学ぶ 研究を通して得られた新たな知見を実践に活用する可能性と限界について学ぶ

<b>成績評価（基準と方法）</b>	目標1,目標2, 目標3について、クラス討議・プレゼンテーション（30%）、提出物（70%）によって総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ D. F. ポーリット&amp; C. Tベック著、近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法 第2版,医学書院</li> <li>・ ナンシー・バーンズ, スーザン・K・グローブ著, 黒田裕子ほか監訳：バーンズ&amp;グローブ看護研究入門―実施・評価・活用, エルゼビア・ジャパン, 東京, 2015.</li> <li>・ Nicholas H.Steneck著, 山崎茂明訳：ORI 研究倫理入門―責任ある科学者になるために, 丸善, 2005</li> <li>・ 適宜、資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。</li> </ul>
<b>授業外学習課題</b>	各回の講義内容について、事前事後の自己学習をすること
<b>オフィスアワー</b>	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。
<b>備考</b>	*高度実践看護師コースの学生は、専門領域の科目責任者の看護課題研究を受講すること。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200192
講義名称	看護課題研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	実技
基準単位数	2.0
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 島山 卓也	看護学科

資格・区分等	高度実践看護師コース必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4,DP5,DP6を修得するために重要な科目
授業の概要	臨床看護実践（既習の講義・演習・実践演習における学びを基盤とし）において見出した特定の課題に関して、研究のプロセス（種々の研究方法のみならず、科学的根拠に基づいた知見や技術の開発などを含む）にそって研究を行い、臨床看護実践に寄与することのできる知見や技術を探求し、論文としてまとめる。課題研究を通して、高度実践看護師として必要な研究能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1. 学生の関心領域における臨床実践に根ざした研究課題を見出すことができる。 2. 研究のプロセスにそって論文をまとめることができる。 3. 研究成果を臨床実践に活用する上での可能性と限界について説明することができる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	データ収集方法
第3回	データ分析方法Ⅰ
第4回	データ分析方法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（データ分析のステップを3回に分けて行う）
第5回	データ分析方法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（データ分析のステップを3回に分けて行う）
第6回	データ分析方法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（データ分析のステップを3回に分けて行う）
第7回	結果のまとめⅠ 各自のResearch Questionにそって分析結果の整理を試みる
第8回	結果のまとめⅡ 分析結果を継続して洗練化する方法を学ぶ
第9回	結果のまとめⅢ データを示して分析結果を論理的に示す方法を学ぶ
第10回	最新の研究動向を探索する

第11回	考察Ⅰ・Ⅱ（考察について2コマ行う）
第12回	考察Ⅰ・Ⅱ（考察について2コマ行う）
第13回	論文としてのまとめⅠ 新たな知見や技術に焦点を当て、一貫性のある論文としてまとめる方法を学ぶ
第14回	論文としてのまとめⅡ 新たな知見や技術に焦点を当て、研究成果を公表する方法について学ぶ
第15回	臨床適応の検討 EBPの重要性を学ぶ 研究を通して得られた新たな知見を実践に活用する可能性と限界について学ぶ

<b>成績評価（基準と方法）</b>	目標1,目標2, 目標3について、クラス討議・プレゼンテーション（30%）、提出物（70%）によって総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ D. F. ポーリット&amp; C. Tベック著、近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法 第2版,医学書院</li> <li>・ ナンシー・バーンズ, スーザン・K・グローブ著, 黒田裕子ほか監訳：バーンズ&amp;グローブ看護研究入門―実施・評価・活用, エルゼビア・ジャパン, 東京, 2015.</li> <li>・ Nicholas H.Steneck著, 山崎茂明訳：ORI 研究倫理入門―責任ある科学者になるために, 丸善, 2005</li> <li>・ 適宜、資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。</li> </ul>
<b>授業外学習課題</b>	各回の講義内容について、事前事後の自己学習をすること
<b>オフィスアワー</b>	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。
<b>備考</b>	*高度実践看護師コースの学生は、専門領域の科目責任者の看護課題研究を受講すること。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200193
講義名称	看護課題研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	実技
基準単位数	2.0
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 青木 早苗	看護学科

資格・区分等	高度実践看護師コース必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4,DP5,DP6を修得するために重要な科目
授業の概要	臨床看護実践（既習の講義・演習・実践演習における学びを基盤とし）において見出した特定の課題に関して、研究のプロセス（種々の研究方法のみならず、科学的根拠に基づいた知見や技術の開発などを含む）にそって研究を行い、臨床看護実践に寄与することのできる知見や技術を探求し、論文としてまとめる。課題研究を通して、高度実践看護師として必要な研究能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1. 学生の関心領域における臨床実践に根ざした研究課題を見出すことができる。 2. 研究のプロセスにそって論文をまとめることができる。 3. 研究成果を臨床実践に活用する上での可能性と限界について説明することができる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	データ収集方法
第3回	データ分析方法Ⅰ
第4回	データ分析方法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（データ分析のステップを3回に分けて行う）
第5回	データ分析方法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（データ分析のステップを3回に分けて行う）
第6回	データ分析方法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（データ分析のステップを3回に分けて行う）
第7回	結果のまとめⅠ 各自のResearch Questionにそって分析結果の整理を試みる
第8回	結果のまとめⅡ 分析結果を継続して洗練化する方法を学ぶ
第9回	結果のまとめⅢ データを示して分析結果を論理的に示す方法を学ぶ
第10回	最新の研究動向を探索する

第11回	考察Ⅰ・Ⅱ（考察について2コマ行う）
第12回	考察Ⅰ・Ⅱ（考察について2コマ行う）
第13回	論文としてのまとめⅠ 新たな知見や技術に焦点を当て、一貫性のある論文としてまとめる方法を学ぶ
第14回	論文としてのまとめⅡ 新たな知見や技術に焦点を当て、研究成果を公表する方法について学ぶ
第15回	臨床適応の検討 EBPの重要性を学ぶ 研究を通して得られた新たな知見を実践に活用する可能性と限界について学ぶ

<b>成績評価（基準と方法）</b>	目標1,目標2, 目標3について、クラス討議・プレゼンテーション（30%）、提出物（70%）によって総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ D. F. ポーリット&amp; C. Tベック著、近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法 第2版,医学書院</li> <li>・ ナンシー・バーンズ, スーザン・K・グローブ著, 黒田裕子ほか監訳：バーンズ&amp;グローブ看護研究入門―実施・評価・活用, エルゼビア・ジャパン, 東京, 2015.</li> <li>・ Nicholas H.Steneck著, 山崎茂明訳：ORI 研究倫理入門―責任ある科学者になるために, 丸善, 2005</li> <li>・ 適宜、資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。</li> </ul>
<b>授業外学習課題</b>	各回の講義内容について、事前事後の自己学習をすること
<b>オフィスアワー</b>	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。
<b>備考</b>	*高度実践看護師コースの学生は、専門領域の科目責任者の看護課題研究を受講すること。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200194
講義名称	看護課題研究
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	実技
基準単位数	2.0
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 川上 理子	看護学科

資格・区分等	高度実践看護師コース必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4,DP5,DP6を修得するために重要な科目
授業の概要	臨床看護実践（既習の講義・演習・実践演習における学びを基盤とし）において見出した特定の課題に関して、研究のプロセス（種々の研究方法のみならず、科学的根拠に基づいた知見や技術の開発などを含む）にそって研究を行い、臨床看護実践に寄与することのできる知見や技術を探求し、論文としてまとめる。課題研究を通して、高度実践看護師として必要な研究能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1. 学生の関心領域における臨床実践に根ざした研究課題を見出すことができる。 2. 研究のプロセスにそって論文をまとめることができる。 3. 研究成果を臨床実践に活用する上での可能性と限界について説明することができる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	データ収集方法
第3回	データ分析方法Ⅰ
第4回	データ分析方法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（データ分析のステップを3回に分けて行う）
第5回	データ分析方法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（データ分析のステップを3回に分けて行う）
第6回	データ分析方法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（データ分析のステップを3回に分けて行う）
第7回	結果のまとめⅠ 各自のResearch Questionにそって分析結果の整理を試みる
第8回	結果のまとめⅡ 分析結果を継続して洗練化する方法を学ぶ
第9回	結果のまとめⅢ データを示して分析結果を論理的に示す方法を学ぶ
第10回	最新の研究動向を探索する

第11回	考察Ⅰ・Ⅱ（考察について2コマ行う）
第12回	考察Ⅰ・Ⅱ（考察について2コマ行う）
第13回	論文としてのまとめⅠ 新たな知見や技術に焦点を当て、一貫性のある論文としてまとめる方法を学ぶ
第14回	論文としてのまとめⅡ 新たな知見や技術に焦点を当て、研究成果を公表する方法について学ぶ
第15回	臨床適応の検討 EBPの重要性を学ぶ 研究を通して得られた新たな知見を実践に活用する可能性と限界について学ぶ

<b>成績評価（基準と方法）</b>	目標1,目標2, 目標3について、クラス討議・プレゼンテーション（30%）、提出物（70%）によって総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ D. F. ポーリット&amp; C. Tベック著、近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法 第2版,医学書院</li> <li>・ ナンシー・バーンズ, スーザン・K・グローブ著, 黒田裕子ほか監訳：バーンズ&amp;グローブ看護研究入門―実施・評価・活用, エルゼビア・ジャパン, 東京, 2015.</li> <li>・ Nicholas H.Steneck著, 山崎茂明訳：ORI 研究倫理入門―責任ある科学者になるために, 丸善, 2005</li> <li>・ 適宜、資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。</li> </ul>
<b>授業外学習課題</b>	各回の講義内容について、事前事後の自己学習をすること
<b>オフィスアワー</b>	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。
<b>備考</b>	*高度実践看護師コースの学生は、専門領域の科目責任者の看護課題研究を受講すること。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200195
講義名称	看護学研究方法Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 畦地 博子	看護学科

履修における注意点	* 事前に指定した文献・資料を予習したうえで、授業に参加してください。
資格・区分等	研究コース必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5,6を修得するために重要な科目
授業の概要	特定の分野の看護学の研究の動向、教育の動向を概観し、看護学をさらに発展させていくために必要な研究課題、教育課題について学び、学生自らの研究課題を探究する。また、講義やプレゼンテーションを通して、教育・実践・研究の連関へ学究的に参与する研究能力、教育能力を育成する。
達成目標（達成水準）	特定の分野の看護学の研究の動向を概観し、その課題を分析する。 特定の看護学領域の教育の動向を概観し、その課題を分析する。 研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。

## 授業計画表

回	内容
第1回	コースオリエンテーション
第2回	我が国の看護研究の動向
第3回	諸外国の看護研究の動向
第4回	看護研究の課題
第5回	看護学教育の動向と課題（1）看護基礎教育
第6回	看護学教育の動向と課題（2）大学院教育
第7回	看護学教育の動向と課題（3）臨床における教育
第8回	看護学領域における研究倫理の現状と課題
第9回	研究テーマに関する研究の動向（1）我が国における研究の動向
第10回	研究テーマに関する研究の動向（2）諸外国における研究の動向
第11回	研究テーマに関する研究の動向（3）研究テーマの抽出
第12回	研究計画書の作成（1）研究の背景、研究の意義

第13回	研究計画書の作成 (2) 研究テーマに関する文献検討、研究の枠組みの作成
第14回	研究計画書の作成 (3) 研究方法論の明確化
第15回	まとめ

<b>成績評価（基準と方法）</b>	クラスへの参加度、プレゼンテーション、課題レポート等によって総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	講義の中で、資料の配布および重要な文献の紹介を適宜行う。
<b>授業外学習課題</b>	別途、資料を配布し、説明します。
<b>オフィスアワー</b>	随時、対応しますが、事前にアポイントメントをとって下さい。
<b>備考</b>	*履修に当たっては、シラバスに記載されている科目責任者の教員と協議し、担当教員を決定し、履修登録したうえで研究指導を受ける。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200196
講義名称	看護学研究方法Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 畦地 博子	看護学科

履修における注意点	* 事前に指定した文献・資料を予習したうえで、授業に参加してください。
資格・区分等	研究コース必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5,6を修得するために重要な科目
授業の概要	特定の分野の看護学の研究の動向、教育の動向を概観し、看護学をさらに発展させていくために必要な研究課題、教育課題について学び、学生自らの研究課題を探索する。また、講義やプレゼンテーションを通して、教育・実践・研究の連関へ学究的に参与する研究能力、教育能力を育成する。
達成目標（達成水準）	特定の分野の看護学の研究の動向を概観し、その課題を分析する。 特定の看護学領域の教育の動向を概観し、その課題を分析する。 研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。

## 授業計画表

回	内容
第1回	コースオリエンテーション
第2回	我が国の看護研究の動向
第3回	諸外国の看護研究の動向
第4回	看護研究の課題
第5回	看護学教育の動向と課題（1）看護基礎教育
第6回	看護学教育の動向と課題（2）大学院教育
第7回	看護学教育の動向と課題（3）臨床における教育
第8回	看護学領域における研究倫理の現状と課題
第9回	研究テーマに関する研究の動向（1）我が国における研究の動向
第10回	研究テーマに関する研究の動向（2）諸外国における研究の動向
第11回	研究テーマに関する研究の動向（3）研究テーマの抽出
第12回	研究計画書の作成（1）研究の背景、研究の意義

第13回	研究計画書の作成 (2) 研究テーマに関する文献検討、研究の枠組みの作成
第14回	研究計画書の作成 (3) 研究方法論の明確化
第15回	まとめ

<b>成績評価（基準と方法）</b>	クラスへの参加度、プレゼンテーション、課題レポート等によって総合的に評価する。
<b>教科書・参考書</b>	講義の中で、資料の配布および重要な文献の紹介を適宜行う。
<b>授業外学習課題</b>	別途、資料を配布し、説明します。
<b>オフィスアワー</b>	随時、対応しますが、事前にアポイントメントをとって下さい。
<b>備考</b>	*履修に当たっては、シラバスに記載されている科目責任者の教員と協議し、担当教員を決定し、履修登録したうえで研究指導を受ける。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200197
講義名称	看護学研究方法Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	6.0
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
講義開講時期	通年
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 高谷 恭子	看護学科

資格・区分等	研究コース必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,5を修得するために重要な科目。
授業の概要	小児看護学の専門性を発展させていく教育方法、研究方法を修得し、学生自らの教育・研究能力を発展させていく。また、講義や演習、研究課程を通して、教育・実践・研究の連関へ学究的に参与する教育遂行能力、研究遂行能力を育成する。
達成目標（達成水準）	1. 小児看護学の教育計画（シラバス、授業計画、看護研究など）を作成する。 2. 効果的な演習／看護研究方法、実習／データ収集・分析方法を組み立てて、展開する。 3. 研究計画書に基づき研究課題を探索し、研究プロセスに沿って進め、研究論文を作成する。 4. 一連の研究課程を通して、特定の分野の看護学の学問体系を発展させていくために必要な研究方法を修得する。

## 授業計画表

回	内容
第1回	コースオリエンテーション
第2回	看護学教育の展開（1）専門領域のシラバスの作成
第3回	看護学教育の展開（2）授業計画の作成/看護学教育の展開、（3）シラバスの作成
第4回	看護学教育の展開（2）授業計画の作成/看護学教育の展開、（3）シラバスの作成
第5回	看護学教育の展開（4）効果的な講義の展開/看護学教育の展開（5）授業計画の作成
第6回	看護学教育の展開（4）効果的な講義の展開/看護学教育の展開（5）授業計画の作成
第7回	看護学教育の展開（6）効果的な演習方法の検討/看護学教育の展開（7）効果的な演習の展開
第8回	看護学教育の展開（6）効果的な演習方法の検討/看護学教育の展開（7）効果的な演習の展開
第9回	看護学教育の展開（8）効果的な実習方法の組み立て/看護学教育の展開（9）効果的な実習方法の展開
第10回	看護学教育の展開（8）効果的な実習方法の組み立て/看護学教育の展開（9）効果的な実習方法の展開
第11回	看護学教育の展開（10）看護実践能力の評価方法/倫理審査申請の準備
第12回	看護学教育の展開（10）看護実践能力の評価方法/倫理審査申請の準備
第13回	倫理審査結果への回答/研究の信頼性と妥当性、信憑性を保証する方法

第14回	倫理審査結果への回答/研究の信頼性と妥当性、信憑性を保証する方法
第15回	データ収集方法/データ収集方法の実際
第16回	データ収集方法/データ収集方法の実際
第17回	データ分析方法
第18回	データ分析方法
第19回	データ分析の実際（1）
第20回	データ分析の実際（2）
第21回	データ分析の実際（3）
第22回	データ分析の実際（4）
第23回	データ分析の洗練化/データ分析の文章化（1）
第24回	データ分析の洗練化/データ分析の文章化（2）
第25回	研究論文における結果の検討/研究論文における考察の検討（1）
第26回	研究論文における結果の検討/研究論文における考察の検討（2）
第27回	研究論文における結果、及び考察の洗練化/研究方法と結果の一般化、適用可能性の保証（1）
第28回	研究論文における結果、及び考察の洗練化/研究方法と結果の一般化、適用可能性の保証（2）
第29回	オーサーシップと研究成果の伝達：多様な対象者と伝達方法：学会発表とアウトリーチ活動の検討、まとめ（1）
第30回	オーサーシップと研究成果の伝達：多様な対象者と伝達方法：学会発表とアウトリーチ活動の検討、まとめ（2）

<b>成績評価（基準と方法）</b>	クラス討議への参加度（15%）、プレゼンテーション（15%）、課題レポート（70%）
<b>教科書・参考書</b>	講義の中で、資料の配布および重要な文献の紹介を適宜行う。
<b>授業外学習課題</b>	別途、資料を配布し、説明する。
<b>オフィスアワー</b>	適宜、学生と時間調整して対応する。
<b>備考</b>	*履修に当たっては、シラバスに記載されている科目責任者の教員と協議し、担当教員を決定し、履修登録したうえで研究指導を受ける。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200198
講義名称	臨床看護学専門演習
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	3.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 久保田 聡美	看護学科

履修における注意点	※実践リーダーコースの研究計画書作成のためのクラス【学生と協議の上、講義日程は決定する】
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,5を修得するために重要な科目
授業の概要	専門領域の臨床における看護現象を取り上げ、その現象に関連する国内外の文献を概観し、理論・実践・研究の関連性を分析し、専門領域の看護ケアの向上に向けての研究を遂行するための計画を立案する基本的能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1. 課題と思われる臨床看護学領域に関する現象を明らかにする。 2. 臨床看護学および看護学の最新の動向を概観する。 3. 研究を計画および遂行する方法を学ぶ。

## 授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション、研究テーマの設定/臨床看護学領域の研究、研究計画作成のプロセスについて学ぶ
第2回	オリエンテーション、研究テーマの設定/臨床看護学領域の研究、研究計画作成のプロセスについて学ぶ
第3回	研究課題の見つけ方/関心のある現象の記述
第4回	研究課題の見つけ方/関心のある現象の記述
第5回	取り上げた現象に関する文献の検討①我が国における研究の動向/取り上げた現象に関連する我が国の社会的な動向
第6回	取り上げた現象に関する文献の検討①我が国における研究の動向/取り上げた現象に関連する我が国の社会的な動向
第7回	取り上げた現象に関する文献の検討②海外における研究の概観/取り上げた現象に関連する海外の社会的な動向
第8回	取り上げた現象に関する文献の検討②海外における研究の概観/取り上げた現象に関連する海外の社会的な動向
第9回	国内外の文献検討のまとめ/国内外の社会的な動向と取り上げた現象との関連についてのまとめ
第10回	国内外の文献検討のまとめ/国内外の社会的な動向と取り上げた現象との関連についてのまとめ
第11回	取り上げた現象を研究課題として焦点化することの意義の明確化/研究課題として洗練化を行う
第12回	取り上げた現象を研究課題として焦点化することの意義の明確化/研究課題として洗練化を行う
第13回	さらに文献検討を行い、研究目的を明確にする/取り上げた現象に関する概念を検討し、枠組みを検討する

第14回	さらに文献検討を行い、研究目的を明確にする/取り上げた現象に関する概念を検討し、枠組みを検討する
第15回	研究の枠組みを決定する/研究の枠組みをベースに、目的に対応した研究課題を明らかにする
第16回	研究の枠組みを決定する/研究の枠組みをベースに、目的に対応した研究課題を明らかにする
第17回	研究課題を明らかにするための方法論を検討する/データ収集方法を決定する
第18回	研究課題を明らかにするための方法論を検討する/データ収集方法を決定する
第19回	データ分析方法を決定する/研究の実施にあたり必要な倫理的配慮を検討する
第20回	データ分析方法を決定する/研究の実施にあたり必要な倫理的配慮を検討する
第21回	研究計画書の作成①既存の文献等を用いながら、研究の背景、研究目的、研究の意義を論理的に記述する方法を学ぶ/②既存の文献等を用いながら、論理的に研究課題と研究の枠組みについて記述する方法を学ぶ
第22回	研究計画書の作成①既存の文献等を用いながら、研究の背景、研究目的、研究の意義を論理的に記述する方法を学ぶ/②既存の文献等を用いながら、論理的に研究課題と研究の枠組みについて記述する方法を学ぶ
第23回	研究計画書の作成③研究課題に即した研究方法について適切に記述する方法を学ぶ/④研究の実施に際して必要な倫理的配慮を理解し、適切に記述する方法を学ぶ
第24回	研究計画書の作成③研究課題に即した研究方法について適切に記述する方法を学ぶ/④研究の実施に際して必要な倫理的配慮を理解し、適切に記述する方法を学ぶ

<b>成績評価（基準と方法）</b>	研究計画書作成のプロセスの取り組み（30%）、研究計画書（70%）により評価する
<b>教科書・参考書</b>	文献の紹介、必要資料の配布は、適宜行う
<b>授業外学習課題</b>	事前学習課題、事後学習課題は、講義進行に合わせ、講義中に適宜提示する。
<b>オフィスアワー</b>	随時
<b>備考</b>	担当教員：久保田聡美

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200199
講義名称	臨床看護学専門演習
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	3.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 嶋岡 暢希	看護学科

履修における注意点	※実践リーダーコースの研究計画書作成のためのクラス【学生と協議の上、講義日程は決定する】
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,5を修得するために重要な科目
授業の概要	専門領域の臨床における看護現象を取り上げ、その現象に関連する国内外の文献を概観し、理論・実践・研究の関連性を分析し、専門領域の看護ケアの向上に向けての研究を遂行するための計画を立案する基本的能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1. 課題と思われる臨床看護学領域に関する現象を明らかにする。 2. 臨床看護学および看護学の最新の動向を概観する。 3. 研究を計画および遂行する方法を学ぶ。

## 授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション、研究テーマの設定/臨床看護学領域の研究、研究計画作成のプロセスについて学ぶ
第2回	オリエンテーション、研究テーマの設定/臨床看護学領域の研究、研究計画作成のプロセスについて学ぶ
第3回	研究課題の見つけ方/関心のある現象の記述
第4回	研究課題の見つけ方/関心のある現象の記述
第5回	取り上げた現象に関する文献の検討①我が国における研究の動向/取り上げた現象に関連する我が国の社会的な動向
第6回	取り上げた現象に関する文献の検討①我が国における研究の動向/取り上げた現象に関連する我が国の社会的な動向
第7回	取り上げた現象に関する文献の検討②海外における研究の概観/取り上げた現象に関連する海外の社会的な動向
第8回	取り上げた現象に関する文献の検討②海外における研究の概観/取り上げた現象に関連する海外の社会的な動向
第9回	国内外の文献検討のまとめ/国内外の社会的な動向と取り上げた現象との関連についてのまとめ
第10回	国内外の文献検討のまとめ/国内外の社会的な動向と取り上げた現象との関連についてのまとめ
第11回	取り上げた現象を研究課題として焦点化することの意義の明確化/研究課題として洗練化を行う
第12回	取り上げた現象を研究課題として焦点化することの意義の明確化/研究課題として洗練化を行う
第13回	さらに文献検討を行い、研究目的を明確にする/取り上げた現象に関する概念を検討し、枠組みを検討する

第14回	さらに文献検討を行い、研究目的を明確にする/取り上げた現象に関する概念を検討し、枠組みを検討する
第15回	研究の枠組みを決定する/研究の枠組みをベースに、目的に対応した研究課題を明らかにする
第16回	研究の枠組みを決定する/研究の枠組みをベースに、目的に対応した研究課題を明らかにする
第17回	研究課題を明らかにするための方法論を検討する/データ収集方法を決定する
第18回	研究課題を明らかにするための方法論を検討する/データ収集方法を決定する
第19回	データ分析方法を決定する/研究の実施にあたり必要な倫理的配慮を検討する
第20回	データ分析方法を決定する/研究の実施にあたり必要な倫理的配慮を検討する
第21回	研究計画書の作成①既存の文献等を用いながら、研究の背景、研究目的、研究の意義を論理的に記述する方法を学ぶ/②既存の文献等を用いながら、論理的に研究課題と研究の枠組みについて記述する方法を学ぶ
第22回	研究計画書の作成①既存の文献等を用いながら、研究の背景、研究目的、研究の意義を論理的に記述する方法を学ぶ/②既存の文献等を用いながら、論理的に研究課題と研究の枠組みについて記述する方法を学ぶ
第23回	研究計画書の作成③研究課題に即した研究方法について適切に記述する方法を学ぶ/④研究の実施に際して必要な倫理的配慮を理解し、適切に記述する方法を学ぶ
第24回	研究計画書の作成③研究課題に即した研究方法について適切に記述する方法を学ぶ/④研究の実施に際して必要な倫理的配慮を理解し、適切に記述する方法を学ぶ

<b>成績評価（基準と方法）</b>	研究計画書作成のプロセスの取り組み（30%）、研究計画書（70%）により評価する
<b>教科書・参考書</b>	文献の紹介、必要資料の配布は、適宜行う
<b>授業外学習課題</b>	事前学習課題、事後学習課題は、講義進行に合わせ、講義中に適宜提示する。
<b>オフィスアワー</b>	随時
<b>備考</b>	担当教員：久保田聡美

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200200
講義名称	臨床看護学専門演習
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	3.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 大川 宣容	看護学科

履修における注意点	※実践リーダーコースの研究計画書作成のためのクラス【学生と協議の上、講義日程は決定する】
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,5を修得するために重要な科目
授業の概要	専門領域の臨床における看護現象を取り上げ、その現象に関連する国内外の文献を概観し、理論・実践・研究の関連性を分析し、専門領域の看護ケアの向上に向けての研究を遂行するための計画を立案する基本的能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1. 課題と思われる臨床看護学領域に関する現象を明らかにする。 2. 臨床看護学および看護学の最新の動向を概観する。 3. 研究を計画および遂行する方法を学ぶ。

## 授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション、研究テーマの設定/臨床看護学領域の研究、研究計画作成のプロセスについて学ぶ
第2回	オリエンテーション、研究テーマの設定/臨床看護学領域の研究、研究計画作成のプロセスについて学ぶ
第3回	研究課題の見つけ方/関心のある現象の記述
第4回	研究課題の見つけ方/関心のある現象の記述
第5回	取り上げた現象に関する文献の検討①我が国における研究の動向/取り上げた現象に関連する我が国の社会的な動向
第6回	取り上げた現象に関する文献の検討①我が国における研究の動向/取り上げた現象に関連する我が国の社会的な動向
第7回	取り上げた現象に関する文献の検討②海外における研究の概観/取り上げた現象に関連する海外の社会的な動向
第8回	取り上げた現象に関する文献の検討②海外における研究の概観/取り上げた現象に関連する海外の社会的な動向
第9回	国内外の文献検討のまとめ/国内外の社会的な動向と取り上げた現象との関連についてのまとめ
第10回	国内外の文献検討のまとめ/国内外の社会的な動向と取り上げた現象との関連についてのまとめ
第11回	取り上げた現象を研究課題として焦点化することの意義の明確化/研究課題として洗練化を行う
第12回	取り上げた現象を研究課題として焦点化することの意義の明確化/研究課題として洗練化を行う
第13回	さらに文献検討を行い、研究目的を明確にする/取り上げた現象に関する概念を検討し、枠組みを検討する

第14回	さらに文献検討を行い、研究目的を明確にする/取り上げた現象に関する概念を検討し、枠組みを検討する
第15回	研究の枠組みを決定する/研究の枠組みをベースに、目的に対応した研究課題を明らかにする
第16回	研究の枠組みを決定する/研究の枠組みをベースに、目的に対応した研究課題を明らかにする
第17回	研究課題を明らかにするための方法論を検討する/データ収集方法を決定する
第18回	研究課題を明らかにするための方法論を検討する/データ収集方法を決定する
第19回	データ分析方法を決定する/研究の実施にあたり必要な倫理的配慮を検討する
第20回	データ分析方法を決定する/研究の実施にあたり必要な倫理的配慮を検討する
第21回	研究計画書の作成①既存の文献等を用いながら、研究の背景、研究目的、研究の意義を論理的に記述する方法を学ぶ/②既存の文献等を用いながら、論理的に研究課題と研究の枠組みについて記述する方法を学ぶ
第22回	研究計画書の作成①既存の文献等を用いながら、研究の背景、研究目的、研究の意義を論理的に記述する方法を学ぶ/②既存の文献等を用いながら、論理的に研究課題と研究の枠組みについて記述する方法を学ぶ
第23回	研究計画書の作成③研究課題に即した研究方法について適切に記述する方法を学ぶ/④研究の実施に際して必要な倫理的配慮を理解し、適切に記述する方法を学ぶ
第24回	研究計画書の作成③研究課題に即した研究方法について適切に記述する方法を学ぶ/④研究の実施に際して必要な倫理的配慮を理解し、適切に記述する方法を学ぶ

<b>成績評価（基準と方法）</b>	研究計画書作成のプロセスの取り組み（30%）、研究計画書（70%）により評価する
<b>教科書・参考書</b>	文献の紹介、必要資料の配布は、適宜行う
<b>授業外学習課題</b>	事前学習課題、事後学習課題は、講義進行に合わせ、講義中に適宜提示する。
<b>オフィスアワー</b>	随時
<b>備考</b>	担当教員：久保田聡美

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200201
講義名称	臨床看護学研究方法Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	3.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 久保田 聡美	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5,6を修得するために重要な科目
授業の概要	臨床看護学をさらに発展させていく研究方法について学ぶ。臨床看護学演習での学習をふまえて臨床看護学領域における課題を研究のプロセスに沿って進め、研究論文を作成する
達成目標（達成水準）	1. 研究デザインに適したデータ収集方法により、臨床看護学領域の看護職や療養者や家族を対象にデータ収集を行う方法を学ぶ。 2. 臨床看護学の研究方法における倫理的課題、および倫理的配慮について学ぶ。 3. データ分析の方法を学ぶ。

## 授業計画表

回	内容
第1回	履修する回数は24回である。学生がどのようなデザインを選択するかによって、15回以降は、2通りの授業計画を記載している。 オリエンテーション /臨床看護学の研究方法について
第2回	量的研究のプロセス
第3回	研究における倫理 /量的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮
第4回	質的研究のプロセス
第5回	研究における倫理 /質的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮
第6回	研究課題の明確化 /研究方法の選定
第7回	研究課題の明確化 /研究方法の選定
第8回	研究課題の明確化 /研究方法の選定
第9回	研究課題の明確化 /研究方法の選定
第10回	研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成

第11回	<p>研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成</p>
第12回	<p>研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成</p>
第13回	<p>倫理審査申請の準備 /倫理審査結果への回答</p>
第14回	<p>倫理審査申請の準備 /倫理審査結果への回答</p>
第15回	<p>&lt;量的研究&gt; データ収集方法1：調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2：質問紙の洗練化 /データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の再検討</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2：インタビュー方法の検討 /データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討</p>
第16回	<p>&lt;量的研究&gt; データ収集方法1：調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2：質問紙の洗練化 /データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の再検討</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2：インタビュー方法の検討 /データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討</p>
第17回	<p>&lt;量的研究&gt; データ収集方法1：調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2：質問紙の洗練化 /データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の再検討</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2：インタビュー方法の検討 /データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討</p>
第18回	<p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識 /データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集） /データ分析方法3：データの入力</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法1：データの逐語記録についての方法的検討 /データ分析方法2：データの読み込み /データ分析方法3：ケース像の作成</p>
第19回	<p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識 /データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集） /データ分析方法3：データの入力</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法1：データの逐語記録についての方法的検討 /データ分析方法2：データの読み込み /データ分析方法3：ケース像の作成</p>

第20回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識  /データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集）  /データ分析方法3：データの入力</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法1：データの逐語記録についての方法的検討  /データ分析方法2：データの読み込み  /データ分析方法3：ケース像の作成</p>
第21回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法4：データの加工  /データ分析方法5：記述統計分析の実施と読み取り①度数分布  /データ分析方法6：記述統計分析の実施と読み取り②代表値</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法4：一次コーディング  /データ分析方法5：二次コーディング  /データ分析方法6：信頼性・妥当性の検討</p>
第22回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法4：データの加工  /データ分析方法5：記述統計分析の実施と読み取り①度数分布  /データ分析方法6：記述統計分析の実施と読み取り②代表値</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法4：一次コーディング  /データ分析方法5：二次コーディング  /データ分析方法6：信頼性・妥当性の検討</p>
第23回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法4：データの加工  /データ分析方法5：記述統計分析の実施と読み取り①度数分布  /データ分析方法6：記述統計分析の実施と読み取り②代表値</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法4：一次コーディング  /データ分析方法5：二次コーディング  /データ分析方法6：信頼性・妥当性の検討</p>
第24回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法7：記述統計分析の実施と読み取り③変数間の関係の分析（相関）</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法7：各ケースの全体像の検討</p>

<b>成績評価（基準と方法）</b>	研究計画書作成のプロセスの取り組み（30%）研究計画書（70%）により評価する。
<b>教科書・参考書</b>	文献の紹介、必要資料の配布は適宜行う
<b>授業外学習課題</b>	事前課題、事後課題は、授業の進行に合わせ、適宜提示する。
<b>オフィスアワー</b>	随時
<b>備考</b>	担当教員：（がん看護）、（小児看護）、久保田聡美、（慢性期看護）、竹崎久美子、（精神看護）、（クリティカル看護）、嶋岡暢希

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200202
講義名称	臨床看護学研究方法Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	3.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 嶋岡 暢希	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5,6を修得するために重要な科目
授業の概要	臨床看護学をさらに発展させていく研究方法について学ぶ。臨床看護学演習での学習をふまえて臨床看護学領域における課題を研究のプロセスに沿って進め、研究論文を作成する
達成目標（達成水準）	1. 研究デザインに適したデータ収集方法により、臨床看護学領域の看護職や療養者や家族を対象にデータ収集を行う方法を学ぶ。 2. 臨床看護学の研究方法における倫理的課題、および倫理的配慮について学ぶ。 3. データ分析の方法を学ぶ。

## 授業計画表

回	内容
第1回	履修する回数は24回である。学生がどのようなデザインを選択するかによって、15回以降は、2通りの授業計画を記載している。 オリエンテーション /臨床看護学の研究方法について
第2回	量的研究のプロセス
第3回	研究における倫理 /量的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮
第4回	質的研究のプロセス
第5回	研究における倫理 /質的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮
第6回	研究課題の明確化 /研究方法の選定
第7回	研究課題の明確化 /研究方法の選定
第8回	研究課題の明確化 /研究方法の選定
第9回	研究課題の明確化 /研究方法の選定
第10回	研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成

第11回	<p>研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成</p>
第12回	<p>研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成</p>
第13回	<p>倫理審査申請の準備 /倫理審査結果への回答</p>
第14回	<p>倫理審査申請の準備 /倫理審査結果への回答</p>
第15回	<p>&lt;量的研究&gt; データ収集方法1：調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2：質問紙の洗練化 /データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の再検討</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2：インタビュー方法の検討 /データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討</p>
第16回	<p>&lt;量的研究&gt; データ収集方法1：調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2：質問紙の洗練化 /データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の再検討</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2：インタビュー方法の検討 /データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討</p>
第17回	<p>&lt;量的研究&gt; データ収集方法1：調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2：質問紙の洗練化 /データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の再検討</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2：インタビュー方法の検討 /データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討</p>
第18回	<p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識 /データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集） /データ分析方法3：データの入力</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法1：データの逐語記録についての方法的検討 /データ分析方法2：データの読み込み /データ分析方法3：ケース像の作成</p>
第19回	<p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識 /データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集） /データ分析方法3：データの入力</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法1：データの逐語記録についての方法的検討 /データ分析方法2：データの読み込み /データ分析方法3：ケース像の作成</p>

第20回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識  /データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集）  /データ分析方法3：データの入力</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法1：データの逐語記録についての方法論的検討  /データ分析方法2：データの読み込み  /データ分析方法3：ケース像の作成</p>
第21回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法4：データの加工  /データ分析方法5：記述統計分析の実施と読み取り①度数分布  /データ分析方法6：記述統計分析の実施と読み取り②代表値</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法4：一次コーディング  /データ分析方法5：二次コーディング  /データ分析方法6：信頼性・妥当性の検討</p>
第22回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法4：データの加工  /データ分析方法5：記述統計分析の実施と読み取り①度数分布  /データ分析方法6：記述統計分析の実施と読み取り②代表値</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法4：一次コーディング  /データ分析方法5：二次コーディング  /データ分析方法6：信頼性・妥当性の検討</p>
第23回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法4：データの加工  /データ分析方法5：記述統計分析の実施と読み取り①度数分布  /データ分析方法6：記述統計分析の実施と読み取り②代表値</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法4：一次コーディング  /データ分析方法5：二次コーディング  /データ分析方法6：信頼性・妥当性の検討</p>
第24回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法7：記述統計分析の実施と読み取り③変数間の関係の分析（相関）</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法7：各ケースの全体像の検討</p>

<b>成績評価（基準と方法）</b>	研究計画書作成のプロセスの取り組み（30%）研究計画書（70%）により評価する。
<b>教科書・参考書</b>	文献の紹介、必要資料の配布は適宜行う
<b>授業外学習課題</b>	事前課題、事後課題は、授業の進行に合わせ、適宜提示する。
<b>オフィスアワー</b>	随時
<b>備考</b>	担当教員：（がん看護）、（小児看護）、久保田聡美、（慢性期看護）、竹崎久美子、（精神看護）、（クリティカル看護）、嶋岡暢希

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200203
講義名称	臨床看護学研究方法 II
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	3.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 久保田 聡美	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5,6を修得するために重要な科目
授業の概要	臨床看護学をさらに発展させていく研究方法について学ぶ。臨床看護学演習での学習をふまえて臨床看護学領域における課題を研究のプロセスに沿って進め、研究論文を作成する
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データ分析の方法を学ぶ。</li> <li>2. 分析結果を整理し、まとめる方法を学ぶ。</li> <li>3. 結果を既存の研究成果を活用して考察する方法を学ぶ。</li> <li>4. 論文としてまとめる。</li> </ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	<p>履修する回数は24回である。学生がどのようなデザインを選択するかによって、2通りの授業計画を記載している。</p> <p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法：推定統計分析の実施と読み取り①<math>\chi^2</math>検定/：推定統計分析の実施と読み取り②t検定/：推定統計分析の実施と読み取り③F検定</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法：各ケースの分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：各ケースの分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する/：全ケースを含めた分析について検討する</p>
第2回	<p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法：推定統計分析の実施と読み取り①<math>\chi^2</math>検定/：推定統計分析の実施と読み取り②t検定/：推定統計分析の実施と読み取り③F検定</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法：各ケースの分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：各ケースの分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する/：全ケースを含めた分析について検討する</p>
第3回	<p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法：推定統計分析の実施と読み取り①<math>\chi^2</math>検定/：推定統計分析の実施と読み取り②t検定/：推定統計分析の実施と読み取り③F検定</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法：各ケースの分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：各ケースの分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する/：全ケースを含めた分析について検討する</p>

第4回	<p>&lt;量的研究&gt; 推定統計分析の実施と読み取り④分散分析/：多変量解析の方法を学ぶ（重回帰分析）/：多変量解析の実施（重回帰分析）/：多変量解析の読み取り（重回帰分析）/：多変量解析の方法を学ぶ（因子分析）</p> <p>&lt;質的研究&gt; 全ケースを統合して分析する観点を検討する/：全体分析を進める/：全体分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：全体分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する</p>
第5回	<p>&lt;量的研究&gt; 推定統計分析の実施と読み取り④分散分析/：多変量解析の方法を学ぶ（重回帰分析）/：多変量解析の実施（重回帰分析）/：多変量解析の読み取り（重回帰分析）/：多変量解析の方法を学ぶ（因子分析）</p> <p>&lt;質的研究&gt; 全ケースを統合して分析する観点を検討する/：全体分析を進める/：全体分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：全体分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する</p>
第6回	<p>&lt;量的研究&gt; 推定統計分析の実施と読み取り④分散分析/：多変量解析の方法を学ぶ（重回帰分析）/：多変量解析の実施（重回帰分析）/：多変量解析の読み取り（重回帰分析）/：多変量解析の方法を学ぶ（因子分析）</p> <p>&lt;質的研究&gt; 全ケースを統合して分析する観点を検討する/：全体分析を進める/：全体分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：全体分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する</p>
第7回	<p>&lt;量的研究&gt; 推定統計分析の実施と読み取り④分散分析/：多変量解析の方法を学ぶ（重回帰分析）/：多変量解析の実施（重回帰分析）/：多変量解析の読み取り（重回帰分析）/：多変量解析の方法を学ぶ（因子分析）</p> <p>&lt;質的研究&gt; 全ケースを統合して分析する観点を検討する/：全体分析を進める/：全体分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：全体分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する</p>
第8回	<p>&lt;量的研究&gt; 推定統計分析の実施と読み取り④分散分析/：多変量解析の方法を学ぶ（重回帰分析）/：多変量解析の実施（重回帰分析）/：多変量解析の読み取り（重回帰分析）/：多変量解析の方法を学ぶ（因子分析）</p> <p>&lt;質的研究&gt; カテゴリー間の関係性について分析する/：カテゴリー間の構造について分析する/：カテゴリーの全体像を検討する /結果のまとめ：結果の全体像、カテゴリーの定義を示す/：データを示しながら、分析結果を説明する</p>
第9回	<p>&lt;量的研究&gt; 多変量解析の実施（因子分析）/：多変量解析の読み取り（因子分析） /結果のまとめ：データを示しながら、図を用いて整理する/：データを示しながら、表を用いて整理する</p> <p>&lt;質的研究&gt; カテゴリー間の関係性について分析する/：カテゴリー間の構造について分析する/：カテゴリーの全体像を検討する /結果のまとめ：結果の全体像、カテゴリーの定義を示す/：データを示しながら、分析結果を説明する</p>
第10回	<p>&lt;量的研究&gt; 多変量解析の実施（因子分析）/：多変量解析の読み取り（因子分析） /結果のまとめ：データを示しながら、図を用いて整理する/：データを示しながら、表を用いて整理する</p> <p>&lt;質的研究&gt; カテゴリー間の関係性について分析する/：カテゴリー間の構造について分析する/：カテゴリーの全体像を検討する /結果のまとめ：結果の全体像、カテゴリーの定義を示す/：データを示しながら、分析結果を説明する</p>
第11回	<p>&lt;量的研究&gt; 多変量解析の実施（因子分析）/：多変量解析の読み取り（因子分析） /結果のまとめ：データを示しながら、図を用いて整理する/：データを示しながら、表を用いて整理する</p> <p>&lt;質的研究&gt; カテゴリー間の関係性について分析する/：カテゴリー間の構造について分析する/：カテゴリーの全体像を検討する /結果のまとめ：結果の全体像、カテゴリーの定義を示す/：データを示しながら、分析結果を説明する</p>
第12回	<p>&lt;量的研究&gt; 多変量解析の実施（因子分析）/：多変量解析の読み取り（因子分析） /結果のまとめ：データを示しながら、図を用いて整理する/：データを示しながら、表を用いて整理する</p> <p>&lt;質的研究&gt; カテゴリー間の関係性について分析する/：カテゴリー間の構造について分析する/：カテゴリーの全体像を検討する /結果のまとめ：結果の全体像、カテゴリーの定義を示す/：データを示しながら、分析結果を説明する</p>



第22回	<量的研究> 論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化  <質的研究> 論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化
第23回	<量的研究> 論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化  <質的研究> 論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化
第24回	<量的研究> 論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化  <質的研究> 論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化

<b>成績評価（基準と方法）</b>	論文作成のプロセスの取り組み（30%）、論文（70%）により評価する
<b>教科書・参考書</b>	文献の紹介、必要資料の配布は適宜行う
<b>授業外学習課題</b>	事前課題、事後課題は、授業の進行に合わせ、適宜提示する。
<b>オフィスアワー</b>	随時
<b>備考</b>	担当教員：久保田聡美、内田雅子、竹崎久美子、田井雅子、大川宣容、嶋岡暢希

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200204
講義名称	臨床看護学研究方法Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	3.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	2～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 嶋岡 暢希	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5,6を修得するために重要な科目
授業の概要	臨床看護学をさらに発展させていく研究方法について学ぶ。臨床看護学演習での学習をふまえて臨床看護学領域における課題を研究のプロセスに沿って進め、研究論文を作成する
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データ分析の方法を学ぶ。</li> <li>2. 分析結果を整理し、まとめる方法を学ぶ。</li> <li>3. 結果を既存の研究成果を活用して考察する方法を学ぶ。</li> <li>4. 論文としてまとめる。</li> </ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	<p>履修する回数は24回である。学生がどのようなデザインを選択するかによって、2通りの授業計画を記載している。</p> <p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法：推定統計分析の実施と読み取り①<math>\chi^2</math>検定/：推定統計分析の実施と読み取り②t検定/：推定統計分析の実施と読み取り③F検定</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法：各ケースの分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：各ケースの分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する/：全ケースを含めた分析について検討する</p>
第2回	<p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法：推定統計分析の実施と読み取り①<math>\chi^2</math>検定/：推定統計分析の実施と読み取り②t検定/：推定統計分析の実施と読み取り③F検定</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法：各ケースの分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：各ケースの分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する/：全ケースを含めた分析について検討する</p>
第3回	<p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法：推定統計分析の実施と読み取り①<math>\chi^2</math>検定/：推定統計分析の実施と読み取り②t検定/：推定統計分析の実施と読み取り③F検定</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法：各ケースの分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：各ケースの分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する/：全ケースを含めた分析について検討する</p>

第4回	<p>&lt;量的研究&gt; 推定統計分析の実施と読み取り④分散分析/：多変量解析の方法を学ぶ（重回帰分析）/：多変量解析の実施（重回帰分析）/：多変量解析の読み取り（重回帰分析）/：多変量解析の方法を学ぶ（因子分析）</p> <p>&lt;質的研究&gt; 全ケースを統合して分析する観点を検討する/：全体分析を進める/：全体分析を洗練化する、サブカテゴリ、カテゴリを検討する/：全体分析を洗練化する、カテゴリを明確化する</p>
第5回	<p>&lt;量的研究&gt; 推定統計分析の実施と読み取り④分散分析/：多変量解析の方法を学ぶ（重回帰分析）/：多変量解析の実施（重回帰分析）/：多変量解析の読み取り（重回帰分析）/：多変量解析の方法を学ぶ（因子分析）</p> <p>&lt;質的研究&gt; 全ケースを統合して分析する観点を検討する/：全体分析を進める/：全体分析を洗練化する、サブカテゴリ、カテゴリを検討する/：全体分析を洗練化する、カテゴリを明確化する</p>
第6回	<p>&lt;量的研究&gt; 推定統計分析の実施と読み取り④分散分析/：多変量解析の方法を学ぶ（重回帰分析）/：多変量解析の実施（重回帰分析）/：多変量解析の読み取り（重回帰分析）/：多変量解析の方法を学ぶ（因子分析）</p> <p>&lt;質的研究&gt; 全ケースを統合して分析する観点を検討する/：全体分析を進める/：全体分析を洗練化する、サブカテゴリ、カテゴリを検討する/：全体分析を洗練化する、カテゴリを明確化する</p>
第7回	<p>&lt;量的研究&gt; 推定統計分析の実施と読み取り④分散分析/：多変量解析の方法を学ぶ（重回帰分析）/：多変量解析の実施（重回帰分析）/：多変量解析の読み取り（重回帰分析）/：多変量解析の方法を学ぶ（因子分析）</p> <p>&lt;質的研究&gt; 全ケースを統合して分析する観点を検討する/：全体分析を進める/：全体分析を洗練化する、サブカテゴリ、カテゴリを検討する/：全体分析を洗練化する、カテゴリを明確化する</p>
第8回	<p>&lt;量的研究&gt; 推定統計分析の実施と読み取り④分散分析/：多変量解析の方法を学ぶ（重回帰分析）/：多変量解析の実施（重回帰分析）/：多変量解析の読み取り（重回帰分析）/：多変量解析の方法を学ぶ（因子分析）</p> <p>&lt;質的研究&gt; カテゴリ間の関係性について分析する/：カテゴリ間の構造について分析する/：カテゴリの全体像を検討する /結果のまとめ：結果の全体像、カテゴリの定義を示す/：データを示しながら、分析結果を説明する</p>
第9回	<p>&lt;量的研究&gt; 多変量解析の実施（因子分析）/：多変量解析の読み取り（因子分析） /結果のまとめ：データを示しながら、図を用いて整理する/：データを示しながら、表を用いて整理する</p> <p>&lt;質的研究&gt; カテゴリ間の関係性について分析する/：カテゴリ間の構造について分析する/：カテゴリの全体像を検討する /結果のまとめ：結果の全体像、カテゴリの定義を示す/：データを示しながら、分析結果を説明する</p>
第10回	<p>&lt;量的研究&gt; 多変量解析の実施（因子分析）/：多変量解析の読み取り（因子分析） /結果のまとめ：データを示しながら、図を用いて整理する/：データを示しながら、表を用いて整理する</p> <p>&lt;質的研究&gt; カテゴリ間の関係性について分析する/：カテゴリ間の構造について分析する/：カテゴリの全体像を検討する /結果のまとめ：結果の全体像、カテゴリの定義を示す/：データを示しながら、分析結果を説明する</p>
第11回	<p>&lt;量的研究&gt; 多変量解析の実施（因子分析）/：多変量解析の読み取り（因子分析） /結果のまとめ：データを示しながら、図を用いて整理する/：データを示しながら、表を用いて整理する</p> <p>&lt;質的研究&gt; カテゴリ間の関係性について分析する/：カテゴリ間の構造について分析する/：カテゴリの全体像を検討する /結果のまとめ：結果の全体像、カテゴリの定義を示す/：データを示しながら、分析結果を説明する</p>
第12回	<p>&lt;量的研究&gt; 多変量解析の実施（因子分析）/：多変量解析の読み取り（因子分析） /結果のまとめ：データを示しながら、図を用いて整理する/：データを示しながら、表を用いて整理する</p> <p>&lt;質的研究&gt; カテゴリ間の関係性について分析する/：カテゴリ間の構造について分析する/：カテゴリの全体像を検討する /結果のまとめ：結果の全体像、カテゴリの定義を示す/：データを示しながら、分析結果を説明する</p>



第22回	<p>&lt;量的研究&gt; 論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化</p> <p>&lt;質的研究&gt; 論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化</p>
第23回	<p>&lt;量的研究&gt; 論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化</p> <p>&lt;質的研究&gt; 論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化</p>
第24回	<p>&lt;量的研究&gt; 論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化</p> <p>&lt;質的研究&gt; 論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化</p>

<b>成績評価（基準と方法）</b>	論文作成のプロセスの取り組み（30%）、論文（70%）により評価する
<b>教科書・参考書</b>	文献の紹介、必要資料の配布は適宜行う
<b>授業外学習課題</b>	事前課題、事後課題は、授業の進行に合わせ、適宜提示する。
<b>オフィスアワー</b>	随時
<b>備考</b>	担当教員：久保田聡美、内田雅子、竹崎久美子、田井雅子、大川宣容、嶋岡暢希

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	62200205
講義名称	地域保健学専門演習
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	3.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 立木 隆広	看護学科

授業の概要	地域保健活動、学校保健活動、産業保健活動における健康現象・看護現象をとりあげ、その現象に関連する国内外の文献を概観し、理論－実践－研究の関連性を分析し、地域ケアの向上に向けて研究を遂行するための計画を立案する基礎的能力を修得する。
達成目標 (達成水準)	1.研究デザインに適したデータ収集方法により、看護職や療養者や家族を対象にデータ収集を行う方法について理解できる。 2.倫理的課題および倫理的配慮について説明することができる。 3.データ分析の方法を理解できる。

## 授業計画表

回	内容
	履修する回数は24回である。学生がどのようなデザインを選択するかによって、15回以降は、2通りの授業計画を記載している。
第1回	オリエンテーション /臨床看護学の研究方法について /量的研究のプロセス
第2回	臨床看護学の研究方法について /量的研究のプロセス
第3回	臨床看護学の研究方法について /量的研究のプロセス
第4回	質的研究のプロセス /研究における倫理 /量的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮
第5回	質的研究のプロセス /研究における倫理 /量的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮
第6回	質的研究のプロセス /研究における倫理 /量的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮
第7回	質的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮 /研究課題の明確化 /研究方法の選定
第8回	質的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮 /研究課題の明確化 /研究方法の選定

第9回	<p>質的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮 /研究課題の明確化 /研究方法の選定</p>
第10回	<p>研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成</p>
第11回	<p>研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成</p>
第12回	<p>研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成</p>
第13回	<p>倫理審査申請の準備 /倫理審査結果への回答</p>
第14回	<p>倫理審査申請の準備 /倫理審査結果への回答</p>
第15回	<p>&lt;量的研究&gt; データ収集方法1：調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2：質問紙の洗練化 /データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の再検討</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2：インタビュー方法の検討 /データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討</p>
第16回	<p>&lt;量的研究&gt; データ収集方法1：調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2：質問紙の洗練化 /データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の再検討</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2：インタビュー方法の検討 /データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討</p>
第17回	<p>&lt;量的研究&gt; データ収集方法1：調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2：質問紙の洗練化 /データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の再検討</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2：インタビュー方法の検討 /データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討</p>
第18回	<p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識 /データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集） /データ分析方法3：データの入力</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法1：データの逐語記録についての方法的検討 /データ分析方法2：データの読み込み /データ分析方法3：ケース像の作成</p>
第19回	<p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識 /データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集） /データ分析方法3：データの入力</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法1：データの逐語記録についての方法的検討 /データ分析方法2：データの読み込み /データ分析方法3：ケース像の作成</p>

第20回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識  /データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集）  /データ分析方法3：データの入力</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法1：データの逐語記録についての方法論的検討  /データ分析方法2：データの読み込み  /データ分析方法3：ケース像の作成</p>
第21回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法4：データの加工  /データ分析方法5：記述統計分析の実施と読み取り①度数分布</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法4：一次コーディング  /データ分析方法5：二次コーディング</p>
第22回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法4：データの加工  /データ分析方法5：記述統計分析の実施と読み取り①度数分布</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法4：一次コーディング  /データ分析方法5：二次コーディング</p>
第23回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法6：記述統計分析の実施と読み取り②代表値  /データ分析方法7：記述統計分析の実施と読み取り③変数間の関係の分析（相関）</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法6：信頼性・妥当性の検討  /データ分析方法7：各ケースの全体像の検討</p>
第24回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法6：記述統計分析の実施と読み取り②代表値  /データ分析方法7：記述統計分析の実施と読み取り③変数間の関係の分析（相関）</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法6：信頼性・妥当性の検討  /データ分析方法7：各ケースの全体像の検討</p>

<b>成績評価（基準と方法）</b>	研究計画書作成のプロセスへの取り組み（30%）と作成された研究計画書（70%）により評価する。
<b>教科書・参考書</b>	文献の紹介、必要資料の配布は適宜行う。
<b>授業外学習課題</b>	その他、各クラスの事前課題については、別途、説明する。
<b>オフィスアワー</b>	適宜、学生と時間調整して対応する。

更新日時	2026/04/16 20:13:04
年度	2026
講義コード	62200206
講義名称	地域保健学専門演習
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	3.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	1～
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 石川 麻衣	看護学科

授業の概要	地域保健活動、学校保健活動、産業保健活動における健康現象・看護現象をとりあげ、その現象に関連する国内外の文献を概観し、理論－実践－研究の関連性を分析し、地域ケアの向上に向けて研究を遂行するための計画を立案する基礎的能力を修得する。
達成目標 (達成水準)	1.研究デザインに適したデータ収集方法により、看護職や療養者や家族を対象にデータ収集を行う方法について理解できる。 2.倫理的課題および倫理的配慮について説明することができる。 3.データ分析の方法を理解できる。

## 授業計画表

回	内容
	履修する回数は24回である。学生がどのようなデザインを選択するかによって、15回以降は、2通りの授業計画を記載している。
第1回	オリエンテーション /臨床看護学の研究方法について /量的研究のプロセス
第2回	臨床看護学の研究方法について /量的研究のプロセス
第3回	臨床看護学の研究方法について /量的研究のプロセス
第4回	質的研究のプロセス /研究における倫理 /量的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮
第5回	質的研究のプロセス /研究における倫理 /量的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮
第6回	質的研究のプロセス /研究における倫理 /量的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮
第7回	質的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮 /研究課題の明確化 /研究方法の選定
第8回	質的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮 /研究課題の明確化 /研究方法の選定

第9回	<p>質的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮 /研究課題の明確化 /研究方法の選定</p>
第10回	<p>研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成</p>
第11回	<p>研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成</p>
第12回	<p>研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成</p>
第13回	<p>倫理審査申請の準備 /倫理審査結果への回答</p>
第14回	<p>倫理審査申請の準備 /倫理審査結果への回答</p>
第15回	<p>&lt;量的研究&gt; データ収集方法1：調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2：質問紙の洗練化 /データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の再検討</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2：インタビュー方法の検討 /データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討</p>
第16回	<p>&lt;量的研究&gt; データ収集方法1：調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2：質問紙の洗練化 /データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の再検討</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2：インタビュー方法の検討 /データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討</p>
第17回	<p>&lt;量的研究&gt; データ収集方法1：調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2：質問紙の洗練化 /データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の再検討</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2：インタビュー方法の検討 /データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討</p>
第18回	<p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識 /データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集） /データ分析方法3：データの入力</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法1：データの逐語記録についての方法的検討 /データ分析方法2：データの読み込み /データ分析方法3：ケース像の作成</p>
第19回	<p>&lt;量的研究&gt; データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識 /データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集） /データ分析方法3：データの入力</p> <p>&lt;質的研究&gt; データ分析方法1：データの逐語記録についての方法的検討 /データ分析方法2：データの読み込み /データ分析方法3：ケース像の作成</p>

第20回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識  /データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集）  /データ分析方法3：データの入力</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法1：データの逐語記録についての方法論的検討  /データ分析方法2：データの読み込み  /データ分析方法3：ケース像の作成</p>
第21回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法4：データの加工  /データ分析方法5：記述統計分析の実施と読み取り①度数分布</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法4：一次コーディング  /データ分析方法5：二次コーディング</p>
第22回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法4：データの加工  /データ分析方法5：記述統計分析の実施と読み取り①度数分布</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法4：一次コーディング  /データ分析方法5：二次コーディング</p>
第23回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法6：記述統計分析の実施と読み取り②代表値  /データ分析方法7：記述統計分析の実施と読み取り③変数間の関係の分析（相関）</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法6：信頼性・妥当性の検討  /データ分析方法7：各ケースの全体像の検討</p>
第24回	<p>&lt;量的研究&gt;  データ分析方法6：記述統計分析の実施と読み取り②代表値  /データ分析方法7：記述統計分析の実施と読み取り③変数間の関係の分析（相関）</p> <p>&lt;質的研究&gt;  データ分析方法6：信頼性・妥当性の検討  /データ分析方法7：各ケースの全体像の検討</p>

<b>成績評価（基準と方法）</b>	研究計画書作成のプロセスへの取り組み（30%）と作成された研究計画書（70%）により評価する。
<b>教科書・参考書</b>	文献の紹介、必要資料の配布は適宜行う。
<b>授業外学習課題</b>	その他、各クラスの事前課題については、別途、説明する。
<b>オフィスアワー</b>	適宜、学生と時間調整して対応する。

更新日時	2026/04/16 20:29:02
年度	2026
講義コード	62200207
講義名称	地域保健学研究方法Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	3.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 石川 麻衣	看護学科

授業の概要	地域保健活動、学校保健活動、産業保健活動における健康現象・看護現象をとりあげ、その現象に関連する国内外の文献を概観し、理論－実践－研究の関連性を分析し、地域ケアの向上に向けて研究を遂行するための計画を立案する基礎的能力を修得する。
達成目標 (達成水準)	1.研究デザインに適したデータ収集方法により、看護職や療養者や家族を対象にデータ収集を行う方法を学ぶ。 2.倫理的課題および倫理的配慮について学ぶ。 3.データ分析の方法を学ぶ。

## 授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	臨床看護学の研究方法について
第3回	量的研究のプロセス
第4回	質的研究のプロセス
第5回	研究における倫理
第6回	量的研究方法における倫理的課題と倫理的配慮
第7回	質的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮
第8回	研究課題の明確化
第9回	研究方法の選定
第10回	研究課題に関する文献的検討
第11回	研究枠組みの検討
第12回	【量的研究】データ収集方法1：調査のための質問紙作成 【質的研究】データ収集方法1：半構成的インタビューガイドの作成
第13回	【量的研究】データ収集方法2：質問紙の洗練化 【質的研究】データ収集方法2：インタビュー方法の検討
第14回	【量的研究】データ収集方法3：対象者へのアクセス方法の検討 【質的研究】データ収集方法3：半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討
第15回	【量的研究】データ分析方法1：データの取り扱いに関する基礎知識 【質的研究】データ分析方法1：データ記録（逐語録等）についての方法的検討
第16回	【量的研究】データ分析方法2：データ入力のための準備（データの確認と編集） 【質的研究】データ分析方法2：データの読み込み

第17回	【量的研究】データ分析方法3：データ入力の試行 【質的研究】データ分析方法3：ケース像の作成について
第18回	【量的研究】データ分析方法4：データの加工 【質的研究】データ分析方法4：一次コーディング
第19回	【量的研究】データ分析方法5：記述統計分析の実施と読み取り①度数分布 【質的研究】データ分析方法5：二次コーディング
第20回	【量的研究】データ分析方法6：記述統計分析の実施と読み取り②代表値 【質的研究】データ分析方法6：信頼性・妥当性の検討
第21回	【量的研究】データ分析方法7：記述統計分析の実施と読み取り②変数間の関係の分析 【質的研究】データ分析方法7：各ケースの全体像の検討
第22回	計画書の作成
第23回	倫理審査申請の準備
第24回	倫理審査結果への回答

成績評価（基準と方法）	研究計画書作成のプロセスへの取り組みと作成された研究計画書により評価する。
教科書・参考書	文献の紹介、必要資料の提示・配布は適宜行う。
授業外学習課題	各クラスの事前課題については、別途、説明する。
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。

更新日時	2026/04/16 20:31:01
年度	2026
講義コード	62200208
講義名称	地域保健学研究方法Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士前期課程
講義区分	講義
基準単位数	3.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	
必選区分	

## 担当教員

氏名	所属
◎ 石川 麻衣	看護学科

授業の概要	地域保健学をさらに発展させていく研究方法について学ぶ。地域保健学研究演習での学習をふまえて、各自の研究課題を研究のプロセスに沿って推進し、研究論文を作成する。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データ分析の方法を学ぶ。</li> <li>2. 分析結果を整理し、まとめる方法を学ぶ。</li> <li>3. 結果を既存の研究成果を活用して考察する方法を学ぶ。</li> <li>4. 論文としてまとめる。</li> </ol>

## 授業計画表

回	内容
第1回	<p>【量的研究】データ分析方法：推定統計分析の読み取り①X<sup>2</sup>乗検定</p> <p>【質的研究】データ分析方法：各ケースの分析の洗練化－サブカテゴリー、カテゴリーの検討</p>
第2回	<p>【量的研究】データ分析方法：推定統計分析の読み取り②t検定</p> <p>【質的研究】データ分析方法：各ケースの分析の洗練化－カテゴリーの明確化</p>
第3回	<p>【量的研究】データ分析方法：推定統計分析の読み取り③F検定</p> <p>【質的研究】データ分析方法：全ケースを含めた分析についての検討</p>
第4回	<p>【量的研究】データ分析方法：推定統計分析の読み取り④分散分析</p> <p>【質的研究】データ分析方法：全ケースを統合して分析する観点の検討</p>
第5回	<p>【量的研究】データ分析方法：多変量解析の方法論を学ぶ－重回帰分析</p> <p>【質的研究】データ分析方法：全体分析を進める</p>
第6回	<p>【量的研究】データ分析方法：多変量解析の実施－重回帰分析</p> <p>【質的研究】データ分析方法：全体分析の洗練化－サブカテゴリー、カテゴリーの検討</p>
第7回	<p>【量的研究】データ分析方法：多変量解析の読み取り－重回帰分析</p> <p>【質的研究】データ分析方法：全体分析の洗練化－カテゴリーの明確化</p>
第8回	<p>【量的研究】データ分析方法：多変量解析の方法論を学ぶ－因子分析</p> <p>【質的研究】データ分析方法：カテゴリー間の関係性についての分析</p>
第9回	<p>【量的研究】データ分析方法：多変量解析の実施－因子分析</p> <p>【質的研究】データ分析方法：カテゴリーの構造についての分析</p>
第10回	<p>【量的研究】データ分析方法：多変量解析の読み取り－因子分析</p> <p>【質的研究】データ分析方法：カテゴリーの全体像の検討</p>
第11回	<p>【量的研究】結果のまとめ：データを示しながら図を用いて整理する</p> <p>【質的研究】結果のまとめ：結果の全体像、カテゴリーの定義を示す</p>

第12回	【量的研究】結果のまとめ：データを示しながら表を用いて整理する 【質的研究】結果のまとめ：データを示しながら分析結果を説明する
第13回	結果のまとめ：データを示しながら分析結果を論理的に説明する
第14回	研究の動向：テーマに関連した研究の動向、新たな知見を理解する
第15回	考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して考察する－考察の組み立ての検討
第16回	考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して考察する－組み立てに沿った論の展開を検討する
第17回	考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して、文章化する
第18回	考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して、洗練化する
第19回	考察：看護への貢献について検討する
第20回	考察：研究を通して得られた新たな知見を実践に活用する可能性と限界を検討する
第21回	看護におけるEBPの重要性を検討する
第22回	論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化
第23回	論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化
第24回	論文をまとめる3：考察、結論の文章化

成績評価（基準と方法）	論文作成のプロセスへの取り組みと作成された論文により評価する。
教科書・参考書	文献の紹介、必要資料の提示・配布は適宜行う。
授業外学習課題	各クラスの事前課題については、別途、説明する。
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。